茨城県教育財団文化財調査報告第438集

島名中代遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXVI

平成31年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第438集

島名中代遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXVI

平 成 31 年 3 月

茨　　城　　県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は，国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として，昭和52年に調査課が設置されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度，茨城県による島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴って実施した，茨城県つくば市島名中代遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって，古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが確認でき，当地域の集落の様相が明らかになりました。本書が，歴史研究の学術資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から本書の刊行に至るまで，多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県に対して厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，御指導，御協力をいただきました関係各位に対し，心から感謝申し上げます。

平成31年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長　野　口　　通

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，公益財団法人茨城県教育財団が平成25～27年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市島名字中台1,201番地ほかに所在する島名中代（しまなかだい）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成25年4月1日～10月31日
　　平成27年1月1日～3月31日
　　平成27年4月1日～7月31日

整理　平成30年4月1日～平成31年3月31日

3　発掘調査は，副参事兼調査課長白田正子のもと，以下の者が担当した。

平成25年度

首席調査員兼班長	酒井　雄一	
首席調査員	奥沢　哲也	
調査員	盛野　浩一	

平成26年度

首席調査員兼班長	酒井　雄一	
次席調査員	舟橋　　理	平成27年2月1日～3月31日
次席調査員	長洲　正博	平成27年1月1日～1月31日
調査員	近江屋成陽	

平成27年度

首席調査員兼班長	駒澤　悦郎	
首席調査員	兼子　博史	平成27年4月1日～5月31日
次席調査員	長洲　正博	
調査員	天野　早苗	

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長皆川修のもと，首席調査員塙厚宜が担当した。

5　第41・49号竪穴建物跡から出土した円礫の石材について，産業技術総合研究所地質調査総合センター斎藤眞氏，宮崎一博氏，昆慶明氏にご指導いただいた。

6　第5号竪穴建物跡から出土した金属製品3点（刀子2点，火箸。1点），第6号竪穴建物跡から出土した金属製品1点（刀子），第13号竪穴建物跡から出土した金属製品1点（刀子。），第17号竪穴建物跡から出土した金属製品2点（鏃，鎌。）の保存処理については，パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

7　当遺跡の出土遺物及び実測図・写真等の資料は，一括して茨城県埋蔵文化財センターにて保管している。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋7,160 m，Y＝＋20,080 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　P－ピット　PG－ピット群　SB－掘立柱建物跡　SD－溝跡　SE－井戸跡　SF－道路跡
SI－竪穴建物跡　SK－土坑　TP－陥し穴

遺物　DP－土製品　M－金属製品　Q－石器

土層　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・赤彩・施釉　　炉・火床面

竈部材・粘土範囲・黒色処理　　柱痕跡・柱あたり

●土器　○土製品　□石器　△金属製品　－－－－ 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6　竪穴建物跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　今回の報告分で，整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更　SK429・448・449→SI44　SK345・347・395・397・400・408・414→SB13　SK341・344・346・396・399・401・407・409・411→SB14　SK359・360・370・453→SB15　SK364・372・373・385・387・388・425・427→SB16　SK365・367・368・426・454→SB17　SK390・391・392・393・394→SA 9　SF 1→SD23　SF 2→SD24　SF 3→SD25　SD 5→SF 4　SK44→TP 1

欠番　SI18・23・26・27・29・30・31・36　SK161・215・217・218・413

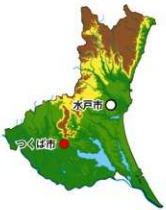
目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
概　要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 3
第２章　位置と環境 …… 4
　第１節　位置と地形 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　調査の成果 …… 11
　第１節　調査の概要 …… 11
　第２節　基本層序 …… 11
　第３節　遺構と遺物 …… 13
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 13
　　陥し穴 …… 13
　　２　古墳時代の遺構と遺物 …… 14
　　竪穴建物跡 …… 14
　　３　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 34
　　(1)　竪穴建物跡 …… 34
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 127
　　(3)　井戸跡 …… 145
　　(4)　土　坑 …… 150
　　４　江戸時代以降の遺構と遺物 …… 154
　　溝　跡 …… 154
　　５　その他の遺構と遺物 …… 158
　　(1)　掘立柱建物跡 …… 159
　　(2)　柱穴列 …… 163
　　(3)　土　坑 …… 168
　　(4)　溝　跡 …… 197
　　(5)　道路跡 …… 200
　　(6)　ピット群 …… 201
　　(7)　遺構外出土遺物 …… 204

第４節　まとめ …… 208
写真図版 …… PL 1 ～ PL44
抄　録
付　図

島名中代遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的



島名中代遺跡は，つくば市の南西部，谷田川右岸の標高約 21 ～ 24 mの台地上に立地しています。島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴い，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，公益財団法人茨城県教育財団が平成 25 ～ 27 年度に 15,734㎡の発掘調査を行いました。

調査の内容

今回の調査では，縄文時代の陥し穴 1 基，古墳時代の竪穴建物跡 7 棟，奈良・平安時代の竪穴建物跡 35 棟，掘立柱建物跡 15 棟，井戸跡 4 基，土坑 4 基，江戸時代の溝跡 4 条などを確認しました。当遺跡の中心となる時期は，奈良・平安時代であることを確認し，社会の変化に伴って集落の様相が移り変わっていくことが明らかになりました。

平成 25 年度調査区全景（南から）

竪穴建物跡から出土した５点の坏

甕が補強材として使われた竈

出土した坏・甕・小形甕

竪穴建物跡（平安時代）の竈の掘り込み作業

調査の成果

調査の結果，竪穴建物跡の多くは，人為的に埋め戻されており，そこからは，食べ物を盛るための坏（つき）や煮炊きするための甕（かめ）などが多く出土しました。平安時代の竪穴建物跡では，竈（かまど）の袖に土師器（はじき）の甕が補強材として使用されているものがあり，当時の人々のくらしぶりや土器を有効に利用する工夫が垣間見られます。また，土師器の坏１点と須恵器（すえき）の坏４点が重なった状態で出土した竪穴建物跡も確認されています。どのような意図があったのかは不明ですが，据えられているような状態で出土していることから，興味深い資料といえます。

今回の調査では，長期間にわたる人々の生活の痕跡を確認しました。特に，奈良・平安時代には，律令制の中で隣接する県内最大級の島名熊の山遺跡と消長を共にすることが明らかになり，島名熊の山遺跡の集落と関連する周辺集落のひとつと考えられます。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成6年8月18日，茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに，鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は平成6年9月19日から27日に現地踏査を，平成22年8月10・11日，9月1日，11月17日，平成25年3月7日，12月13・25日，平成26年1月15日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成22年12月28日，茨城県教育委員会教育長は茨城県つくばまちづくりセンター長あてに，平成25年3月14日，平成26年1月22日，茨城県教育委員会教育長は茨城県土浦土木事務所長あてに，事業地内に鳥名中代遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

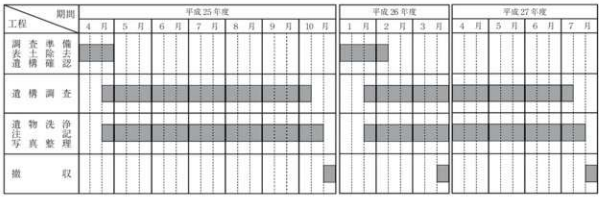
平成23年2月14日，平成25年2月5日，茨城県土浦土木事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに，文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成23年3月1日，平成25年2月19日，茨城県教育委員会教育長は茨城県土浦土木事務所長あてに，現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成25年2月20日，平成26年3月17日，平成27年2月9日，茨城県土浦土木事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに，鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成25年2月20日，平成26年3月18日，平成27年2月13日，茨城県教育委員会教育長は茨城県土浦土木事務所長あてに，鳥名中代遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は，茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成25年4月1日から10月31日まで，平成27年1月1日から3月31日まで，平成27年4月1日から7月31日まで発掘調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

鳥名中代遺跡の調査は，平成25年4月1日から10月31日まで，平成27年1月1日から3月31日まで，同年4月1日から7月31日までの計1年2か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。



第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

鳥名中代遺跡は，茨城県つくば市鳥名字中台 1,201 番地ほかに所在している。

つくば市は筑波山を北端に，その南東へ延びる標高 20 ～ 25 m の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ，東を霞ケ浦へ流入する桜川，西を利根川に流入する小貝川によって区切られている。両河川の間には，東から花室川，蓮沼川，小野川，谷田川，西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れている。そのため，台地は複雑に開析され，谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は，貝化石を含む海成層の成田層を基盤として，その上に黄褐色砂や黄褐色荒砂の砂礫層である竜ケ崎層，さらにその上に灰白色の粘土層である常総粘土層，そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し，最上部は腐食土層となっている[1]。

つくば市南西部の鳥名地区は，谷田川と西谷田川によって開析された，狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は，谷田川右岸の標高 22 ～ 24 m の緩斜面に立地している。台地は，東側に存在する浅い亜支谷に向かって傾斜している。遺跡の範囲は南北 200m，東西 200m である。台地には複数の埋没谷が存在し，起伏に富んだ地形であったようであるが，現在の地表面は平坦である。調査前の現況は，畑地及び山林である。

第2節　歴　史　的　環　境

鳥名中代遺跡周辺の小貝川，谷田川，西谷田川，蓮沼川流域の台地には，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは，主に谷田川と西谷田川流域における遺跡について概観する。

旧石器時代では，平北田遺跡[2]〈37〉，下河原崎谷中台遺跡[3]〈75〉，元宮本前山遺跡[4]〈77〉で石器集中地点が確認され，ナイフ形石器や角錐状石器，掻器，尖頭器をはじめ，石核や剥片などが出土している。また，鳥名前野東遺跡[5]〈7〉，鳥名一町田遺跡[6]〈9〉，鳥名境松遺跡〈10〉，鳥名ツバタ遺跡[7]〈16〉でナイフ形石器や尖頭器，サイドスクレイパー，面野井北ノ前遺跡[8]〈25〉で荒屋型彫器，鳥名熊の山遺跡[9]〈2〉でナイフ形石器や尖頭器，細石刃核などが採集されており，台地縁辺部に旧石器人の活動痕跡がみられる。

縄文時代では，元宮本前山遺跡で早期の炉穴，下河原崎谷中台遺跡で早期の炉穴や中期から晩期にかけての竪穴建物跡，鳥名ツバタ遺跡で早期と中期の竪穴建物跡やフラスコ状土坑，鳥名境松遺跡で中・後期の竪穴建物跡や土器焼成遺構，土坑などがそれぞれ確認されている。これらの遺跡は河川を望む台地の縁辺部に立地し，特に早期の集落が西谷田川左岸で成立する様子がうかがえる。また，鳥名熊の山遺跡では，早期前半の撚糸文，早期後半の条痕文系の土器片が出土している[10]。そのほか，前期から後期にかけての土器片や石鏃，石斧，磨石，石皿などが採集されており，当時の人々の生活の痕跡をうかがうことができる。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく，鳥名熊の山遺跡南部の埋没谷周辺から後期後半の土器片が採集されているだけである。出土した土器片には刻痕が認められ，当遺跡の稲作を考える上で興味深い[11]。

古墳時代前期になると，谷田川沿いに小規模な集落が点在するようになる。鳥名一町田遺跡では，南関東系の土器を伴う初期の集落が出現し，鳥名熊の山遺跡や鳥名前野遺跡[12]〈6〉では，集落跡，鳥名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が確認されている。また，面野井古墳群[13]〈28〉では，方形周溝墓4基

と円墳1基が確認され，周溝からは南関東系の装飾壺，及び底部穿孔壺の土師器が出土しており，谷田川上流域に南関東系の文化をもった集団が移住してきたことが明らかになっている。特に第2号方形周溝墓からは，方台部に木棺直葬の埋葬施設が確認され，副葬品として石製の勾玉と管玉，ガラス製の玉類が出土し，県内でも貴重な調査事例である。

中期になると，集落が西谷田川沿いにも広がりを見せ，前述した遺跡に加えて鳥名ツバタ遺跡や谷田部漆遺跡〈56〉，上萱丸古屋敷遺跡[14]〈57〉，真瀬三度山遺跡〈58〉などで集落跡が確認されている。特に，元宮本前山遺跡では滑石製模造品の製作跡が確認され，下河原崎谷中台遺跡では県内初の琴柱形石製品が出土しており，注目できる。これらの集落は，台地縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており，その立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く考えられる。

後期になると，6世紀後半以降，台地全体に集落域が拡大していく様子が確認できる。当遺跡周辺では鳥名熊の山遺跡，鳥名八幡前遺跡[15]〈4〉，鳥名前野遺跡，鳥名前野東遺跡，平北田遺跡などの集落が継続して営まれており，当遺跡の集落は，近接するこれらの遺跡と補完しあう形をとりながら，古墳時代の終わりまで存続したものと考えられる。また，当該期は古墳が急増し，当遺跡南東部の台地先端部で径約19mと約8mの円墳2基が確認されている。当遺跡周辺では鳥名前野古墳〈8〉，鳥名榎内古墳群〈13〉，鳥名榎内西古墳群〈14〉，鳥名関ノ台古墳群〈18〉，面野井古墳群，下河原崎高山古墳群〈74〉などがあり，いずれも径10～20mの小円墳からなる地域的な群集墳の在り方を示している。中でも，当遺跡の北東側に近接する鳥名関ノ台古墳群は，全長約40mの前方後円墳と円墳27基が存在したといわれ，被葬者は鳥名地区の盟主的存在であった可能性が高い。

奈良時代になると，鳥名地区は急速に集落の再編が進むようになる。その背景には，律令国家の成立と国郡制の整備が考えられ，当地区は河内郡鳥名郷に編入される。鳥名熊の山遺跡や鳥名八幡前遺跡は，大型建物跡とそれに付随する掘立柱建物跡が集落の中心で，いずれも真北を主軸とした配置をとるようになる。さらに，鳥名熊の山遺跡の中央部にL字状に掘立柱建物跡が配置され，郷関連の官衙的施設の可能性も指摘されている。一方，7世紀に一旦集落が途絶えていた鳥名前野遺跡や鳥名前野東遺跡では，8世紀中頃に再び集落が形成される。それは，空閑地となっていた当地が，律令体制の進展とともに再開発の適地となったためと考えられる。しかし，これらの遺跡以外に鳥名地区では集落が認められなくなり，当遺跡周辺だけに遺跡が集中する現象が認められる。

平安時代になると遺跡数はさらに減少し，集落として明確に捉えられるのは当遺跡と鳥名熊の山遺跡，鳥名八幡前遺跡など，限定的である。特に，鳥名熊の山遺跡と鳥名八幡前遺跡，当遺跡南側に隣接する鳥名本田遺跡〈5〉では，鍛冶や紡績などの手工業関連の遺構・遺物が確認できる。その一方で，大規模な集落を残し，8世紀以来の集落が消滅していく状況は，律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。また，鳥名熊の山遺跡の南東部の斜面では湧水点に木枠を設置した水場が構築されており，その周辺からは多量の土器や木製品が出土している。特に「嶋名」と記された墨書土器や人名が記された木簡が注目できる。この水場において，当集落の人々による祭祀行為の可能性が想定されている[16]。さらに，鳥名熊の山遺跡の北西部では，「城内不」と墨書された土師器坏とともに，灰釉陶器椀や腰帯具の鞆方が出土している。このことは，当地区でこれまで中央部に存在していた有力者の分布を再考察することができる資料となったといえる[17]。

9世紀の集落再編も10世紀を迎えると新たな展開を示し，鳥名八幡前遺跡も集落としての終焉を迎えることとなる。一方，鳥名熊の山遺跡ではそれ以降も集落が存続し，11世紀まで継続的に営まれている。その後の集落の様相は不明瞭であるが，墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており，

遺物の面から有力者の存在をうかがうことができる。

平安時代末期には，島名地区周辺は八条院領として立荘された田中荘に組み込まれ，鎌倉時代以降に田中荘は小田氏の支配下となる。当該期の周辺遺跡は，平出氏の居城と伝えられる面野井（おもの い）城跡〈27〉や島名前野東遺跡がある。島名前野東遺跡では，方一町に巡る堀に囲まれた方形居館が確認され，この在地有力者が島名地区一帯を治めていたものと思われる。永仁五年（1297）には，当遺跡の南東側に位置し，島名熊の山遺跡の中央部西寄りに妙徳寺が開山した。島名熊の山遺跡では，梵鐘の乳や鰐口などの鋳型片が出土した鋳造土坑が確認されている。また，15 世紀後半から 17 世紀前半にかけての墓域が確認され，妙徳寺との関連をうかがうことができる。妙徳寺周辺では幅５m，深さ２mの薬研堀が確認され，寺域周辺は防御施設としての機能も果たしていたことが明らかになってきた[18]。

※　本章は，既刊の「島名熊の山遺跡」を参照し，加筆した。文中の〈　〉内の番号は，第１図及び表１の当該番号と同じである。

註

1）日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質３　関東地方』共立出版　1986 年 10 月

2）舟橋理『平北田遺跡　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 336 集　2011 年３月

3）a　高野裕耀『下河原崎谷中台遺跡・島名ツバタ遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３』茨城県教育財団文化財調査報告第 282 集　2007 年３月

b　齋藤真弥『下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書４』茨城県教育財団文化財調査報告第 292 集　2008 年３月

4）高野裕耀『元宮本前山遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２』茨城県教育財団文化財調査報告第 265 集　2006 年３月

5）a　寺門千勝・田原康司・梅澤貴司『島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ』茨城県教育財団文化財調査報告第 191 集　2002 年３月

b　飯泉達司『島名前野東遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第 215 集　2004 年３月

c　小松崎和治『島名境松遺跡・島名前野東遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XⅣ』茨城県教育財団文化財調査報告第 281 集　2007 年３月

6）鹿島直樹『島名一町田遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 230 集　2004 年３月

7）a　佐野正『科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　ツバタ遺跡・高山古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告第 22 集　1983 年３月

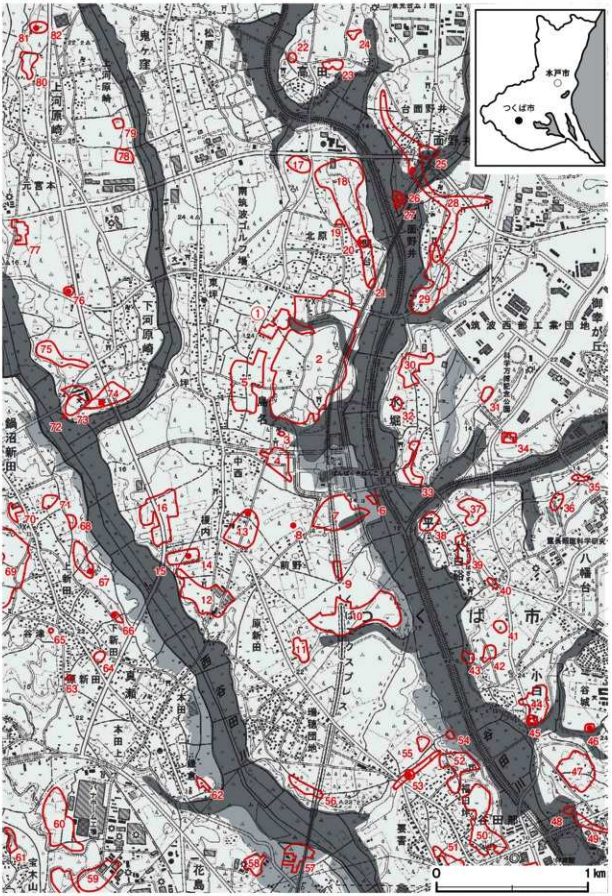
b　皆川修『島名ツバタ遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告第１』茨城県教育財団文化財調査報告第 203 集　2003 年３月

8）鹿島直樹『島名陶ノ台南Ｂ遺跡・面野井北ノ前遺跡　常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書２』茨城県教育財団文化財調査報告第 231 集　2004 年３月

9）酒井雄一・渡邊浩美・齋藤貴史・清水哲『島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XⅢ』茨城県教育財団文化財調査報告第 280 集　2007 年３月

10）小澤重雄『島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XⅦ』茨城県教育財団文化財調査報告第 328 集　2010 年３月

11）稲田義弘・飯泉達司『鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』茨城県教育財団文化財調査報告第 214 集　2004 年 3 月
12）稲田義弘『鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ　鳥名前野遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 175 集　2001 年 3 月
13）小林和彦『面野井古墳群　都市計画道路新都市中央通りバイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 391 集　2014 年 3 月
14）白田正子『（仮称）萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　三度山遺跡・古屋敷遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 132 集　1998 年 3 月
15）a　青木仁昌『鳥名八幡前遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第 201 集　2003 年 3 月
b　菊池直成『鳥名八幡前遺跡　都市計画道路鳥名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 283 集　2007 年 3 月
16）清水哲『鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XX』茨城県教育財団文化財調査報告第 380 集　2013 年 3 月
17）奥沢哲也・大武宣隆『鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXⅢ』茨城県教育財団文化財調査報告第 431 集　2018 年 3 月
18）兼子博史・坂本勝彦・田中万里子・櫻井二郎『鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXⅠ』茨城県教育財団文化財調査報告第 390 集　2014 年 3 月

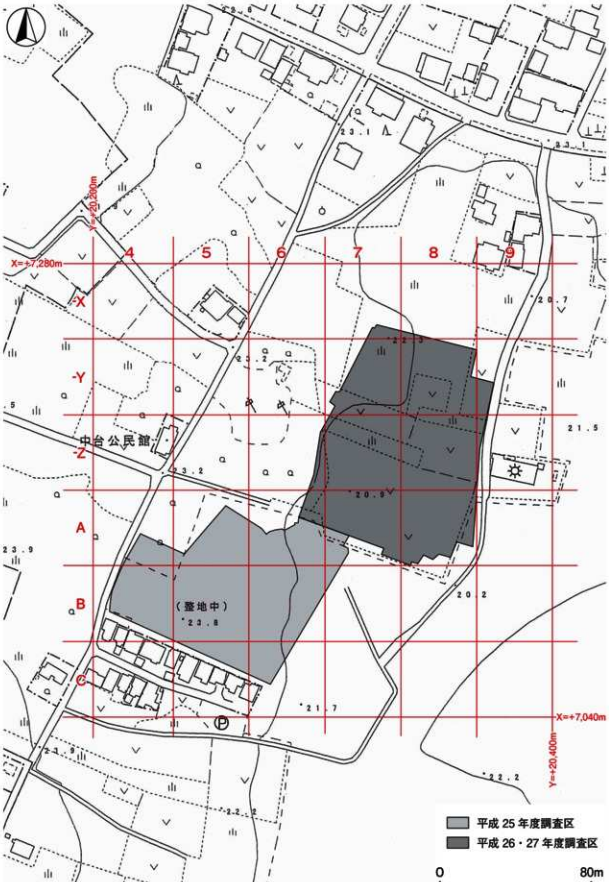


第1図　島名中代遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「谷田部」）

表1　島名中代遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	島名中代遺跡		○		○	○	○	○
2	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○
3	島名薬師遺跡				○			
4	島名八幡前遺跡		○		○	○	○	
5	島名本田遺跡				○	○	○	○
6	島名前野遺跡		○		○	○	○	○
7	島名前野東遺跡	○	○		○	○	○	○
8	島名前野古墳				○			
9	島名一町田遺跡	○	○		○		○	○
10	島名境松遺跡	○	○		○			
11	島名タカドロ遺跡		○		○			
12	島名榎内南遺跡	○			○	○		
13	島名榎内古墳群				○			
14	島名榎内西古墳群				○			
15	島名榎内遺跡				○			
16	島名ツバタ遺跡	○	○		○		○	○
17	島名関の台遺跡				○			
18	島名関ノ台古墳群				○			
19	島名関ノ台塚						○	○
20	島名関ノ台南A遺跡				○	○		
21	島名関ノ台南B遺跡	○	○			○		○
22	高田和田台遺跡				○			
23	高田遺跡					○		○
24	高田原山遺跡				○	○		
25	面野井北ノ前遺跡	○			○	○	○	○
26	面野井西ノ台塚						○	○
27	面野井城跡						○	
28	面野井古墳群				○			
29	面野井南遺跡				○	○	○	○
30	水堀下道遺跡				○	○		
31	水堀遺跡				○			
32	水堀屋敷添遺跡		○		○			
33	水堀道後前遺跡					○		
34	大和田氏屋敷跡						○	○
35	柳橋仲畑遺跡				○		○	○
36	柳橋遺跡				○			○
37	平北田遺跡	○	○		○	○	○	○
38	平後遺跡				○		○	○
39	大白硲西ノ裏遺跡				○			
40	大白硲桜下遺跡				○			
41	大白硲民部山遺跡				○			

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
42	小白硲民部山遺跡				○			
43	小白硲水表遺跡				○			
44	小白硲海道端遺跡		○				○	○
45	小白硲海道端塚群						○	○
46	谷田部カウド屋古墳				○			
47	谷田部台成井遺跡		○					
48	谷田部下成井遺跡		○					○
49	谷田部台町古墳群				○			
50	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
51	谷田部漆出口遺跡		○		○		○	○
52	谷田部福田遺跡		○		○			
53	谷田部大堀遺跡						○	○
54	谷田部山合遺跡		○				○	○
55	谷田部陣馬遺跡		○		○			
56	谷田部漆遺跡		○		○	○		
57	上菅丸古屋敷遺跡				○		○	○
58	真瀬三度山遺跡		○		○			○
59	二本松遺跡		○					
60	西山遺跡		○				○	○
61	苗代山遺跡		○					
62	真瀬戸崎遺跡				○		○	○
63	真瀬西原遺跡						○	○
64	真瀬中畑遺跡		○		○			○
65	真瀬新田谷津遺跡		○					
66	真瀬新田古墳群				○			
67	真瀬堀附南遺跡		○		○			
68	真瀬堀附北遺跡				○			
69	真瀬山田遺跡		○		○	○		
70	真瀬山田北遺跡		○		○			
71	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
72	下河原崎高山窯跡				○			
73	下河原崎高山遺跡			○				
74	下河原崎高山古墳群				○			
75	下河原崎谷中台遺跡	○	○		○	○		
76	下河原崎古墳群				○			
77	元宮本前山遺跡	○	○		○			
78	元中北東藤四郎遺跡				○			
79	元中北鹿島明神古墳				○			
80	上河原崎本田遺跡				○	○		○
81	上河原崎小山台古墳				○			
82	上河原崎八幡脇遺跡				○			



第２図　島名中代遺跡調査区設定図（つくば市都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第3章　調　査　の　成　果

第1節　調　査　の　概　要

鳥名中代遺跡は，つくば市の南西部に位置し，谷田川右岸の標高 20 ～ 24 mの台地上に立地している。この台地は谷田川と西谷田川によって開析された，狭長な台地である。当遺跡は，台地中央部の緩斜面部に南北約 200 m，東西約 200 mの範囲で広がっている。調査前の現況は畑地及び山林である。

調査の結果，竪穴建物跡 42 棟（古墳時代７・奈良・平安時代 35），掘立柱建物跡 19 棟（奈良・平安時代 15・時期不明４），陥し穴１基（縄文時代），井戸跡４基（奈良・平安時代４），土坑 475 基（奈良・平安時代４・時期不明 471），溝跡 24 条（江戸時代４・時期不明 20），道路跡１条（時期不明），柱穴列８条（時期不明），ピット群８か所（時期不明）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に 56 箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢），土師器（坏・高台付坏・皿・坩・器台・高坏・甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・高坏・壺・短頸壺・長頸壺・甕・甑），土師質土器（擂鉢），陶器（椀・皿・擂鉢・甕），土製品（支脚），石器（鏃・砥石），金属製品（刀子・紡錘車・釘・煙管），椀状滓，鉄滓，自然遺物（石英）などである。

第2節　基　本　層　序

調査区西部の台地上の平坦面（A ５d6 区），東部の緩斜面部（C ６b6 区）にテストピットを設定し，基本土層（第３図）の観察を行った。以下，観察結果から層序を説明する。

土層は 12 層に分層でき，第４層～９層が関東ローム層である。

第１層は，黒褐色を呈する表土層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 10 ～ 50cmである。

第２層は，黒色を呈する谷津の埋没土層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 14 ～ 44cmである。

第３層は，黒褐色を呈する谷津の埋没土層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 30 ～ 44cmである。

第４層は，暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性は普通で，締まりは弱く，層厚は８～ 14cmである。

第５層は，褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は４～ 34cmである。

第６層は，暗褐色を呈する第２黒色帯に対比されるハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 12 ～ 50cmである。

第７層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 18 ～ 48cmである。

第８層は，暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は４～ 22cmである。

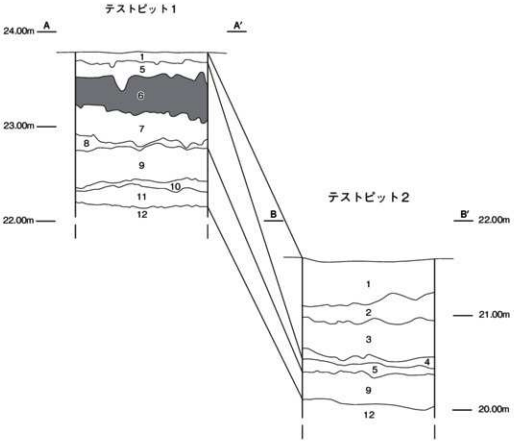
第９層は，黄褐色を呈する粘土層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 32 ～ 40cmである。

第10層は，褐色を呈する常総粘土層への漸移層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は４～ 18cmである。

第11層は，明褐色を呈する砂層である。粘性は弱く，締まりは強く，層厚は 10 ～ 24cmである。

第12層は，褐灰色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに強い。層厚は 12cmまで確認したが，下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

なお，遺構は，第５層の上面で確認した。


テストピット1
24.00m
A
A'
1
5
6
7
8
9
10
11
12
23.00m
22.00m
B
B'
テストピット2
22.00m
1
2
3
4
5
9
12
21.00m
20.00m

第３図　基本土層図

第3節 遺 構 と 遺 物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，陥し穴を1基確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

陥し穴

第1号陥し穴（第4図 PL 2）

調査年度 平成25年度

位置 調査区中央部のA 5g4区，標高23 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.62 m，短径1.44 mの楕円形で，長径方向はN－0°である。深さは166cmで，底面は平坦で，幅40cmほどである。底面にピット1か所が穿たれている。短径方向の断面形はU字状で，壁は外傾している。

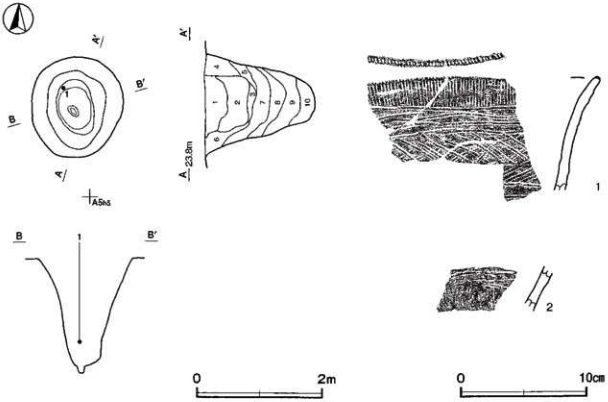
覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子多量
2 暗 褐 色 ロームブロック多量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量
5 黒 褐 色 ロームブロック中量
6 暗 褐 色 ローム粒子多量
7 にぶい黄褐色 ローム粒子多量
8 黒 褐 色 ロームブロック中量
9 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
10 黒 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片5点（深鉢）が出土している。1と2は同一個体の破片で，埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 時期は，出土土器から前期後葉に比定できる。



第4図 第1号陥し穴・出土遺物実測図

第１号陥し穴出土遺物観察表（第４図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口唇部・口縁部半截竹管による刻み　胴部半截竹管による横位平行沈線文→斜格子目文	覆土下層	PL43
2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	半截竹管による横位平行沈線文→半截竹管外面による縦方向のヘラ磨き	覆土中	

２　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡７棟を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第７号竪穴建物跡（第５・６図）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のＣ５b7区，標高22ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第45・117・118号土坑を掘り込み，第14・15号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.66ｍ，短軸3.83ｍの長方形で，主軸方向はＮ－84°－Ｗである。壁は高さ18～26cmで，外傾している。

床　平坦である。硬化面は確認できなかった。壁溝が南壁の壁下にみられる。西壁際及び南壁際から焼土が出土している。

竈　西壁の南寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで88cmで，燃焼部幅は30cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第10～12層を積み上げて構築されている。火床部は床面から８cm掘りくぼめ，第13・14層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ームブロック少量
3　黒　　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ームブロック・炭化物・粘土粒子中量
5　黒　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物・粘土粒子中量，ローム粒子少量
6　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子中量
7　黒　褐　色　焼土粒子多量，ームブロック・炭化粒子中量
8　暗　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子中量
9　黒　褐　色　ームブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量
10　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子・粘土粒子中量
11　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，粘土粒子中量
12　灰黄褐色　粘土粒子多量，ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
13　暗　褐　色　ームブロック・炭化物・粘土粒子中量，焼土ブロック少量
14　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子多量，ローム粒子・粘土粒子中量

ピット　Ｐ１は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１～３層は，柱材を抜き取った後の覆土と考えられる。

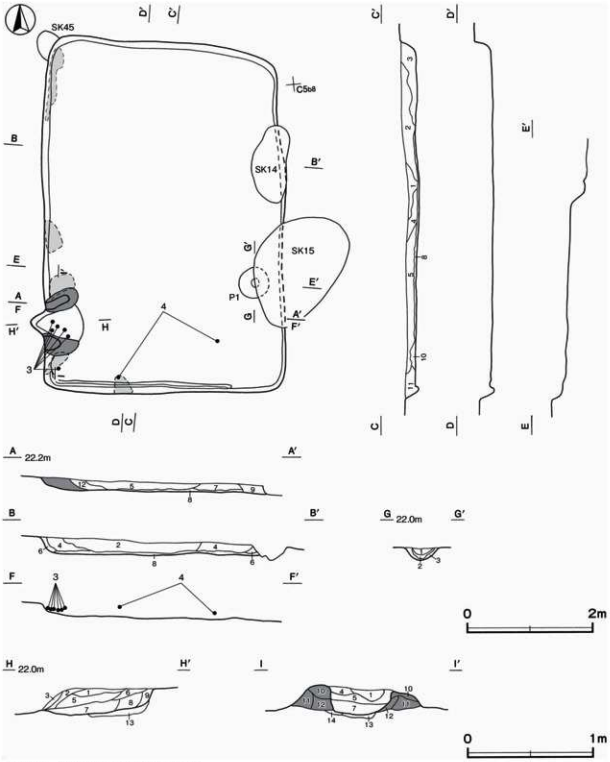
ピット土層解説

1　黒　褐　色　ームブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ームブロック少量
3　暗　褐　色　ームブロック中量

覆土　12層に分層できる。各層にームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれ，不規則に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

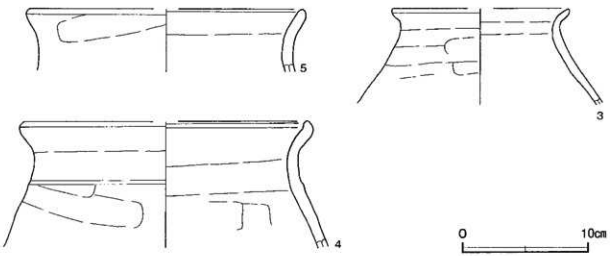
1　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
4　黒　　色　ローム粒子少量
5　黒　　色　ローム粒子少量，炭化物微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
7　黒　　色　ロームブロック微量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量
10　黒　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
12　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第５図　第７号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片15点（坏1，甕類13，甑1），粘土塊1点のほか，縄文土器片2点（深鉢）が覆土中から出土している。3・4はそれぞれ覆土下層から上層にかけてと竈の内外から分散して出土した破片が接合していることから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器と遺構の形状及び周辺の遺構との関係から6世紀代と考えられる。



第6図　第7号竪穴建物跡出土遺物実測図

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
3	土師器	甕	[14.0]	(7.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のナデ	竈覆土中層覆土中層	30%
4	土師器	甕	[22.4]	(10.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面横位のナデ	覆土下～上層	5%
5	土師器	甕	[21.8]	(5.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面横位のナデ	覆土中	10%

第8号竪穴建物跡（第7～9図　PL 2・3）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のB 5 f8区，標高22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第532号土坑を掘り込み，第533号土坑に掘り込まれている。

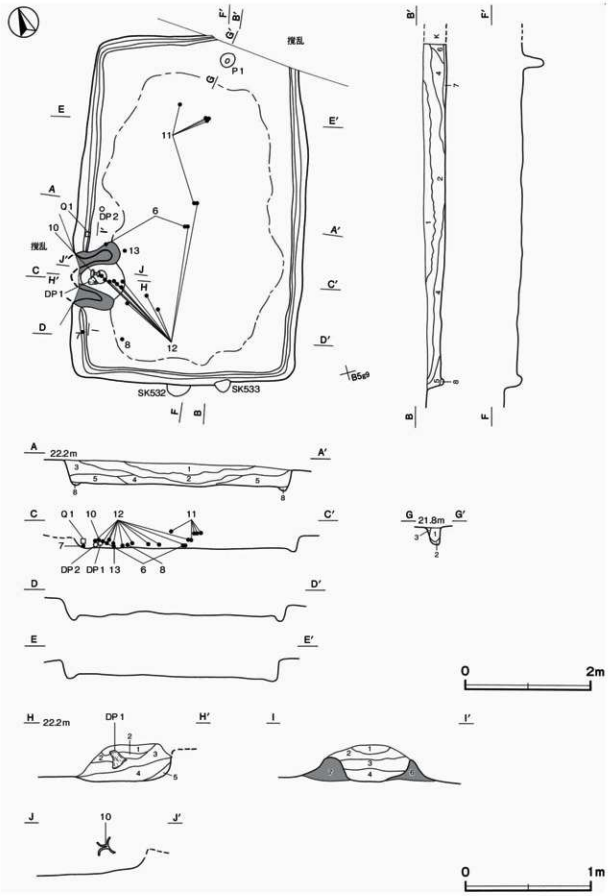
規模と形状　長軸5.58 m，短軸3.56 mの長方形で，主軸方向はN－72°－Wである。壁は高さ18～30cmで，ほぼ直立している。

床　やや凹凸があり，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。

竈　西壁の南寄りに付設されている。焚口から煙道部までの規模は，撹乱を受けているため，75cmしか確認できなかった。燃焼部幅は55cmで，袖部は粘土粒子を主体とする第6・7層を積み上げて構築されている。火床面は床面から8cm掘りくぼめている。明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は撹乱を受けており，詳細は不明である。第3・4層は天井部材や内壁の崩落土で，第5層は煙道部痕跡への流入土と考えられる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子多量，ロームブロック中量
5　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
6　黒　褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック少量
7　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック少量



第７図　第８号竪穴建物跡実測図

ピット　Ｐ１は深さ36㎝で，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１・２層は，柱抜き取り後の堆積層で，第３層は埋土である。

ピット土層解説

1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

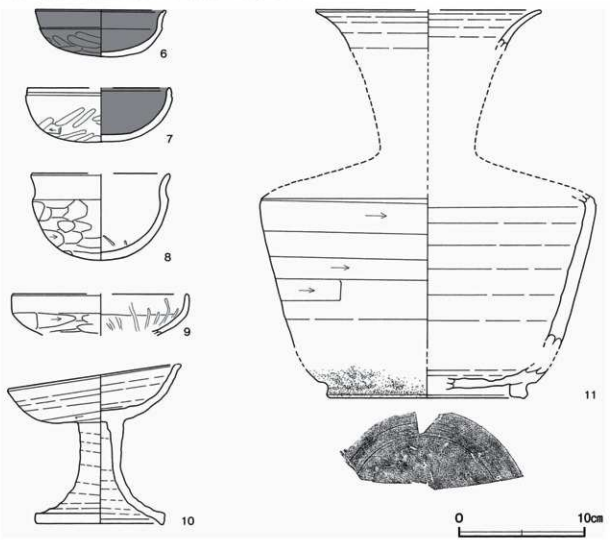
覆土　８層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロック，炭化物が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

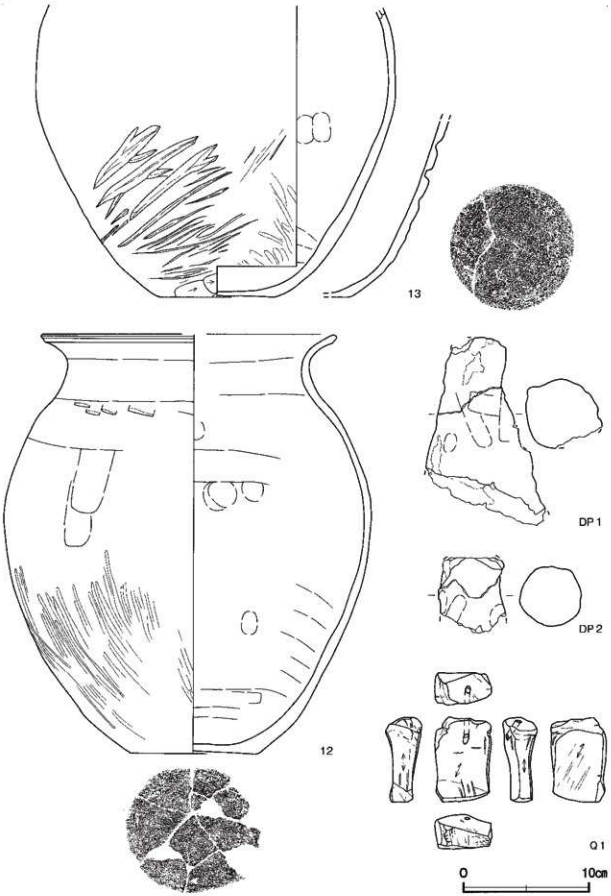
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物多量，ロームブロック少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片121点（坏10，甕類111），須恵器片11点（坏２，高坏１，広口壺１，甕類７），土製品３点（支脚），石器１点（砥石）のほか，縄文土器片２点（深鉢）が覆土中から出土している。10は竈内から横位で，12は竈付近から破損した状態で出土している。また，DP１は竈内の覆土中層から，DP２は北西壁寄りの覆土下層から出土している。これらのことから，竪穴建物の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できる。



第８図　第８号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第9図　第8号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第８号竪穴建物跡出土遺物観察表（第８・９図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
6	土師器	坏	10.3	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ　口縁部内面横ナデ後沈線　底部外面ヘラ磨き　底部内面ナデ	床面 竈覆土中層	90%　PL30
7	土師器	坏	[11.3]	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　底部外面手持ちヘラ削り後ヘラ磨き　底部内面ナデ	覆土下層	50%
8	土師器	坏	[10.9]	6.9	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　底部外面手持ちヘラ削り　底部内面ヘラ圧痕を残すヘラ削り後ナデ	覆土下層	40%
9	土師器	坏	[13.8]	(3.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　底部外面手持ちヘラ削り　底部内面ナデ後放射状の暗文	覆土中	20%
10	須恵器	高坏	13.5	12.7	10.2	長石・石英	灰	普通	坏部外面下端回転ヘラ削り　脚部外・内面ロクロナデ　坏部内面に黒ね焼き痕	竈覆土中層	100%　PL31 搬入産か。
11	須恵器	広口壺	[17.8]	(18.0)	[15.5]	長石・黒色粒子	灰白	良好	体部外面回転ヘラ削り　底部高台貼付け後ナデ	覆土上層	10% 搬入産か。
12	土師器	甕	[23.0]	33.4	9.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位・縦位のヘラナデ　中位以下ヘラ磨き　指頭痕	覆土下層	70%　PL31
13	土師器	甕	－	(23.2)	8.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り，中位以下ヘラ磨き　体部内面横位のヘラナデ　指頭痕	覆土下層	60%　PL31 紙石痕

番号	器 種	長さ	最大径	最小径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 1	支脚	(15.0)	(8.4)	(4.1)	(595.9)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ　指頭痕	竈覆土中層	
DP 2	支脚	(5.9)	(5.2)	(4.8)	(123.1)	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	ナデ　指頭痕	覆土下層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 1	紙石	6.7	4.5	2.8	81.68	凝灰岩	底面５面　孔１か所	覆土中層	PL42

第 10 号竪穴建物跡（第 10・11 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＢ６h6 区，標高 21 ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 146 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.50 ｍ，短軸 5.22 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 18°－ Ｅである。壁は高さ４～ 10cmで，ほぼ直立している。

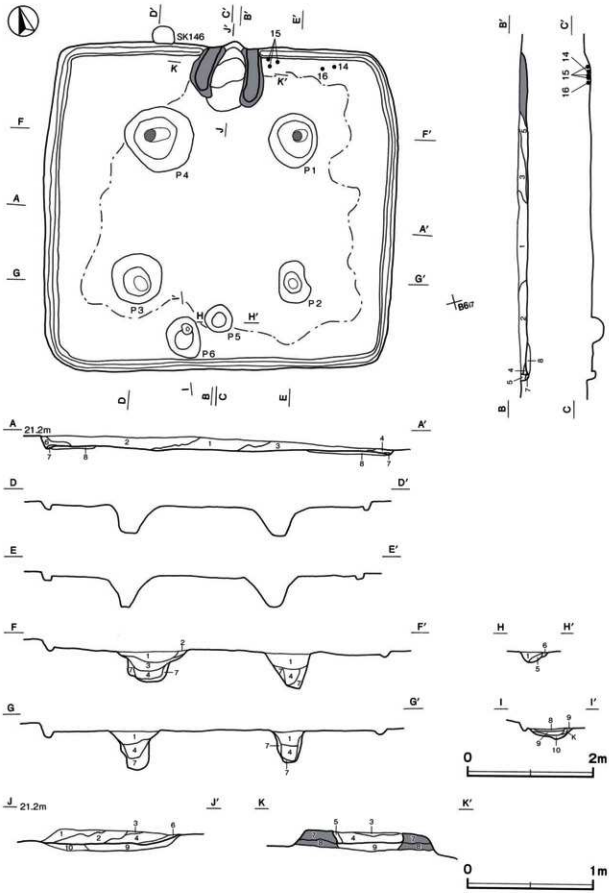
床　平坦で，竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。一部にローム粒子や炭化粒子を含む第８層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 100cmで，燃焼部幅は 48cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第７・８層を積み上げて構築されている。火床部は床面から６cm掘りくぼめ，第９層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に８cm掘り込まれ，火床部から外傾している。第６層は煙道部痕跡への流入土と考えられる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量・
10　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 44 ～ 48cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ１・Ｐ４の底面から，柱のあたりを確認した。Ｐ５は深さ 16cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１～６層は，柱抜き取り後の堆積層で，第７層は埋土である。Ｐ６は深さ 16cmで，性格は不明である。



第 10 図　第 10 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒　　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
2 黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
3 黄 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色　粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5 黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6 黒 褐 色　ローム粒子少量
7 褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量
8 黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
10 黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

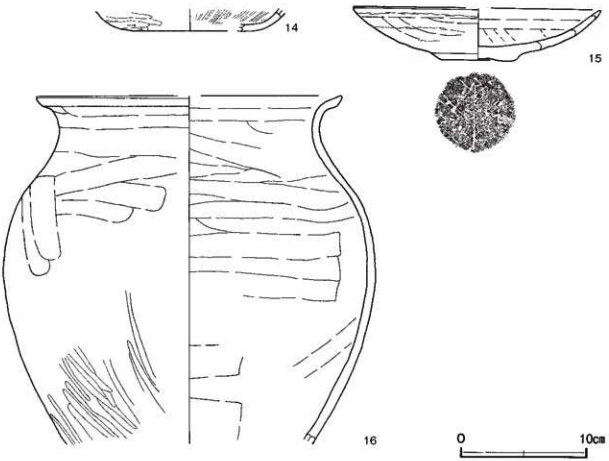
覆土　7層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロック，炭化物が含まれていることから，埋め戻されている。第5層は，焼土ブロックや炭化物，粘土ブロックが含まれ，竈から流れ込むように堆積していることから竈の構築土と考えられる。第7層は壁溝の覆土である。第8層は，壁寄りの掘方部分を埋めた貼り床の構築土と考えられる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2 黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量
3 黒 褐 色　ロームブロック多量，焼土ブロック中量，炭化物少量
4 黄 褐 色　ローム粒子多量
5 にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
6 暗 褐 色　ロームブロック多量
7 暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
8 暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片21点（坏16，甕類5），須恵器片1点（坏）が覆土中から出土している。14～16はいずれも破損した状態で竈東側の壁際から出土している。床面から大形の破片がまとまって出土していることから，遺棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から7世紀後葉に比定できる。



第11図　第10号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 11 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師器	坏	－	(1.8)	[10.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部外面手持ちヘラ削り後ヘラ磨き　底部内面ナデ後放射状の暗文	床面	20%
15	土師器	坏	[19.6]	4.2	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面輪積み痕を残すヘラナデ　体部内面ヘラナデ後横ナデ　底部木葉痕	床面	60%　PL.30
16	土師器	甕	[24.4]	(27.8)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位・縦位のヘラナデ，中位以下ヘラ磨き　体部内面横位のヘラナデ	床面	20%　煤付着

第 37 号竪穴建物跡（第 12 ～ 14 図）

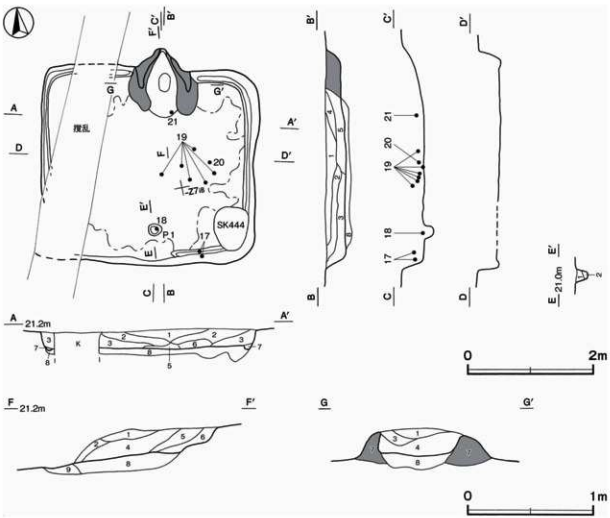
調査年度　平成 27 年度

位置　調査区中央部の－ Z h7 区，標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 443 号土坑を掘り込み，第 444 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.37 m，短軸 3.16 m の隅丸方形で，主軸方向は N － 13° － E である。壁は高さ 26 ～ 34cm で，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から 40 ～ 52cm の深さに掘り込み，第 8 層を埋土して構築されている。壁溝が竈と南壁の一部を除く壁下に巡っている。



第 12 図　第 37 号竪穴建物跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで116cmで，燃焼部幅は48cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cm掘りくぼめ，第8・9層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
4　灰 黄 褐 色　焼土ブロック中量，粘土ブロック微量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
7　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量

ピット　P1は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1・2層は，柱抜き取り後の堆積層である。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子微量

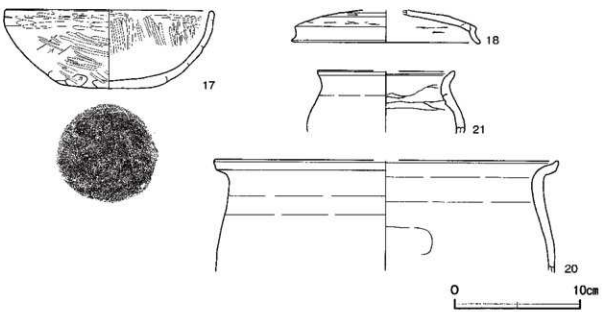
覆土　7層に分層できる。第8層は貼床の構築土である。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

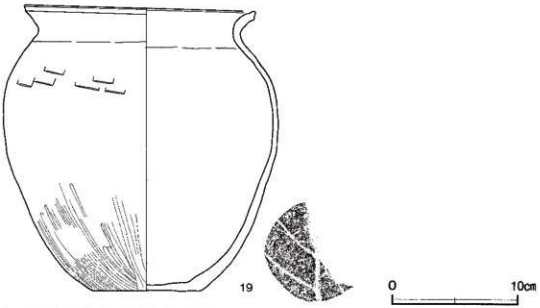
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，粘土ブロック・ローム粒子微量
5　褐　　色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
6　暗　褐　色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量
7　黄　褐　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片114点（坏9，椀1，甕類102，小形甕1，高台付坏1），須恵器片2点（蓋，甕）が，覆土中から出土している。18は出入り口施設に伴うピットと考えられるP1の覆土直上から出土していることから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，19は第6層に相当する焼土ブロックを含む層から，21は竈焚口部からそれぞれ出土している。いずれも破砕された状態で出土していることから，廃絶に伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から7世紀後葉に比定できる。



第13図　第37号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 14 図　第 37 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 37 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 13・14 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　は　か	出土位置	備　考
17	土師器	椀	16.3	6.3	7.9	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き 底部ナデ	覆土中層	50%
18	須恵器	蓋	[14.7]	(2.6)	－	長石・石英・ 黒雲	灰	普通	天井部回転ヘラ削り　輪積み痕	覆土下層	10% 新治窯
19	土師器	甕	18.0	22.9	8.5	長石・石英・ 黒雲・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，中 位以下ヘラ磨き，内面ナデ　底部木葉痕	覆土下層 覆土中層	70%　PL31
20	土師器	甕	[27.4]	(8.8)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部内面ヘラナデ	覆土下層	5%
21	土師器	小形甕	[11.0]	(4.9)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　口縁部内面沈線　輪積 み痕	覆土中層	10%

第 46 号竪穴建物跡（第 15・16 図　PL 3・4）

調査年度　平成 27 年度

位置　調査区中央部のＡ 8f7 区，標高 20 mほどの台地斜面部に位置している。

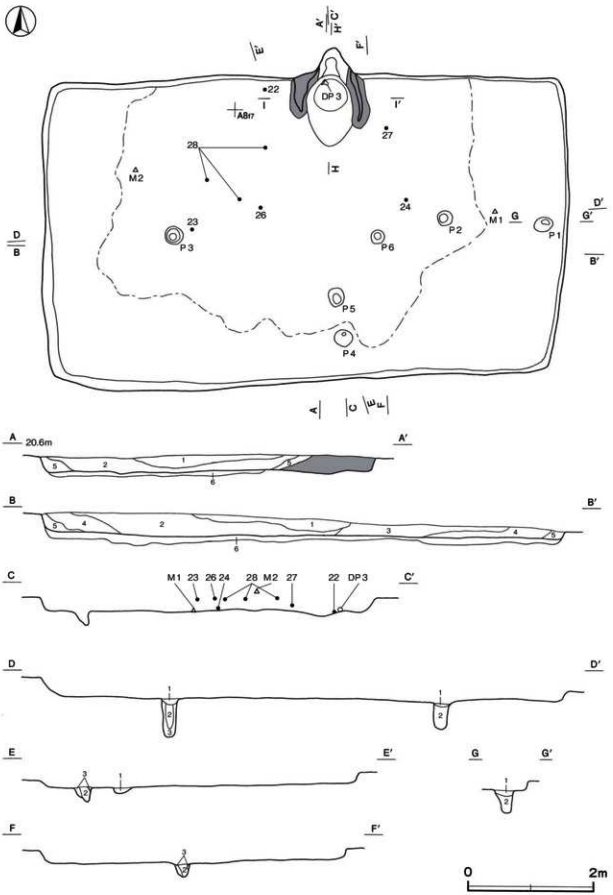
規模と形状　長軸 8.31 m，短軸 5.00 mの長方形で，主軸方向はＮ－1°－Ｅである。壁は高さ 10 ～ 30cmで，外傾している。

床　平坦な貼床で，竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。貼床は，東西の壁際２か所を確認面から 28 ～ 52cmの深さに帯状に掘り込み，第６層を埋土して構築されている。

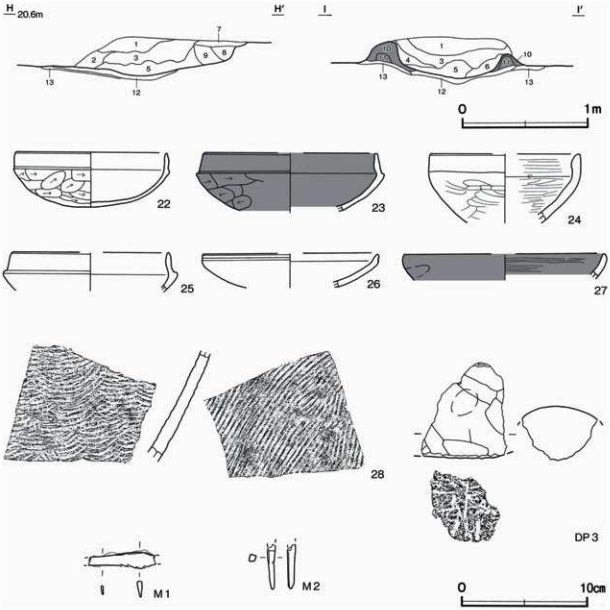
竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 156cmで，燃焼部幅は 72cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第 10・11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 16cm掘りくぼめ，第 12・13 層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に 40cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
4　灰　褐　色　焼土ブロック少量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子中量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量
8　灰　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
10　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
11　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
12　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
13　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量



第 15 図　第 46 号竪穴建物跡実測図



第 16 図　第 46 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット　6か所。P 1 ～ P 3は深さ 40 ～ 64cmで，規模と配置から主柱穴である。P 4は深さ 24cmで，配置から，出入口施設に伴うピットと考えられる。第 1 ・ 2 層は，柱抜き取り後の堆積層で，第 3 層は埋土である。P 5は深さ 12cm，P 6は深さ 20cmで，性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

覆土　5層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第 6 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片142点（坏47，甕92，坩3），須恵器片7点（蓋1，甕6），土製品2点（支脚），金属製品2点（刀子，鏃）のほか，縄文土器片15点（深鉢）が，覆土中から出土している。22は，竈の西側の床面から正位で出土していることから，遺棄されたものと考えられる。23～28はいずれも小片で，覆土下層から上層にかけて出土していることから，埋め戻しに際して投棄されたものと考えられる。

所見　東西に長く大型であることや主柱穴の並び方などから，工房や集落の中心的な竪穴建物であったことなどが想定できるが，性格は不明である。時期は，出土土器から7世紀前葉に比定できる。

第46号竪穴建物跡出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師器	坏	12.0	4.4	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り，内面ナデ	床面	95%　PL30
23	土師器	坏	[13.6]	(4.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り，内面ナデ	覆土上層	20%
24	土師器	坏	[11.8]	(5.5)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラ磨き	覆土下層	10%
25	土師器	坏	[12.4]	(3.1)	－	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部内面ナデ	覆土中	10%
26	土師器	坏	[14.0]	(2.7)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外面横ナデ後沈線，内面横ナデ	覆土上層	5%
27	土師器	坏	[16.0]	(2.1)	－	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き	覆土中層	10%
28	須恵器	甕	－	(8.5)	－	長石・石英	灰	普通	体部外面平行叩き，内面同心円当て具痕	覆土上層	5% 産地不明

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	支脚	(7.6)	(6.7)	－	(178.0)	長石・石英	明褐	ナデ　指頭痕　木葉痕	竈覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(5.3)	(1.3)	(0.3)	(5.79)	鉄	刃部先端・茎部欠損　刃部断面三角	床面	
M 2	鏃	(3.5)	(0.5)	(0.5)	(4.93)	鉄	茎部　断面方形	覆土上層	

第47号竪穴建物跡（第17図）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のＡ８g2区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第48号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.22ｍ，短軸3.32ｍの長方形で，主軸方向はＮ－74°－Ｅである。壁は高さ20～30cmで，外傾している。

床　平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット　4か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ4～32cmで，規模と配置から主柱穴である。第１～３層は，柱抜き取り後の堆積層で，第４層は埋土である。

ピット土層解説（Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

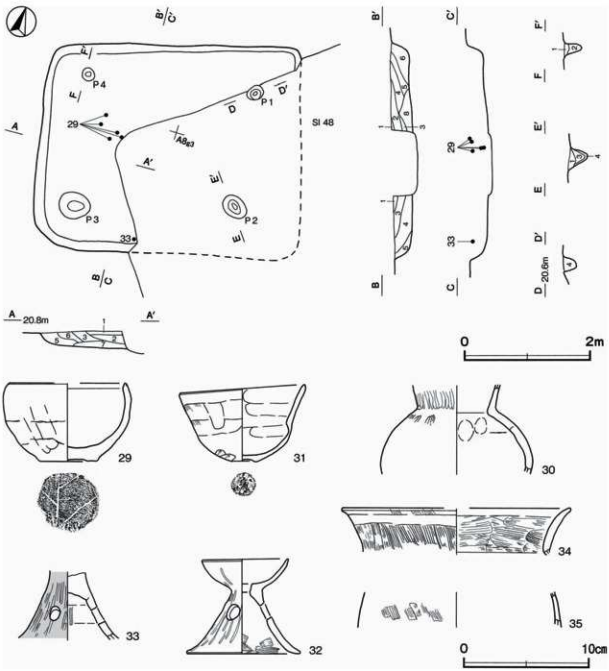
覆土　８層に分層できる。第１～４層は均一な細粒が含まれていることから自然堆積，第５～８層は多くの層にロームブロックや焼土ブロックや粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片229点（坏22，椀1，坩2，小形丸底坩1，器台1，高坏1，甕類197，甑4），須恵器片2点（坏，甕）が覆土中から出土している。29は覆土下層から上層にかけて出土している小片が接合したことから，破損した状態で投棄されたと考えられる。33～35はいずれも小片で，覆土中層と覆土中から出土していることから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器や重複関係から4世紀後葉に比定できる。



第17図　第47号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第47号竪穴建物跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
29	土師器	椀	[9.2]	6.2	4.8	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面輪積み痕を残すナデ　底部木葉痕	覆土下～上層	50%
30	土師器	坩	－	(7.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ　輪積み痕　指頭痕	覆土中	40%
31	土師器	小形丸底壺	9.8	6.1	1.9	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ハケ目調整後横ナデ　体部外面下端ヘラ削り，内面横ナデ	覆土中	80%　PL30
32	土師器	器台	6.6	7.6	8.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚受部外面ハケ目調整後ヘラ磨き，内面ナデ　脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整　脚部1孔　脚部3孔	覆土中	90%　PL30
33	土師器	高坏	－	(5.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ナデ　外側から3か所の焼成前穿孔　孔径0.99cm	覆土中層	30%　PL30
34	土師器	甕	[18.0]	(3.7)	－	長石	橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ	覆土中	5％
35	土師器	小形甕	－	(2.8)	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ，内面ナデ	覆土中	5％

第48号竪穴建物跡（第18～20図　PL 4・5）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のＡ８g3区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第47号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸5.80ｍ，短軸4.72ｍの長方形で，主軸方向はＮ－36゜－Ｗである。壁は高さ16～30cmで，外傾している。

床　平担な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から4～20cmの深さにロの字状に掘り込み，第11・12層を埋土して構築されている。

炉　北壁寄りに位置している。長径44cm，短径40cmの楕円形で，深さ6cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量

ピット　6か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ8～32cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ24cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～3層は，柱抜き取り後の堆積層で，第4層は埋土である。Ｐ６は深さ14cmで，柱痕状の土層が確認されたが性格は不明である。

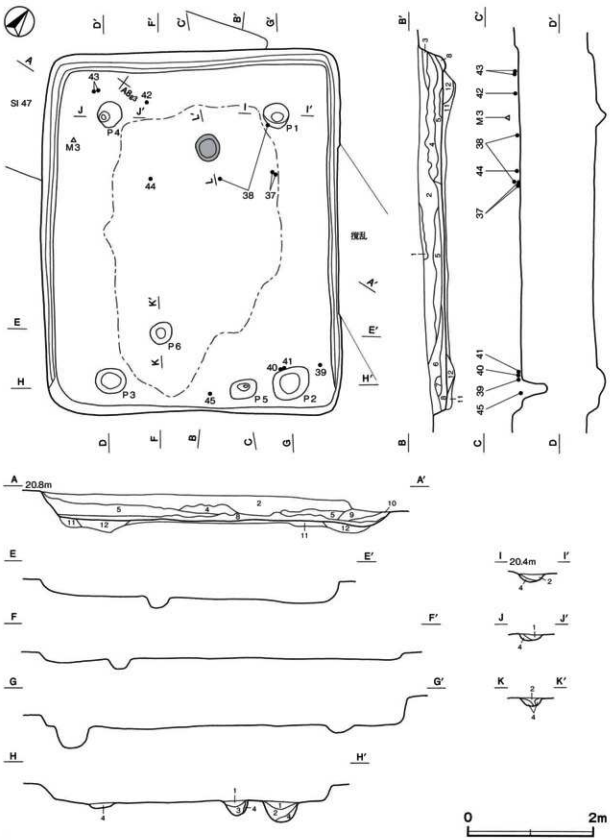
ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量

覆土　10層に分層できる。不規則に堆積していることから埋め戻されている。第11・12層は貼床の構築土である。

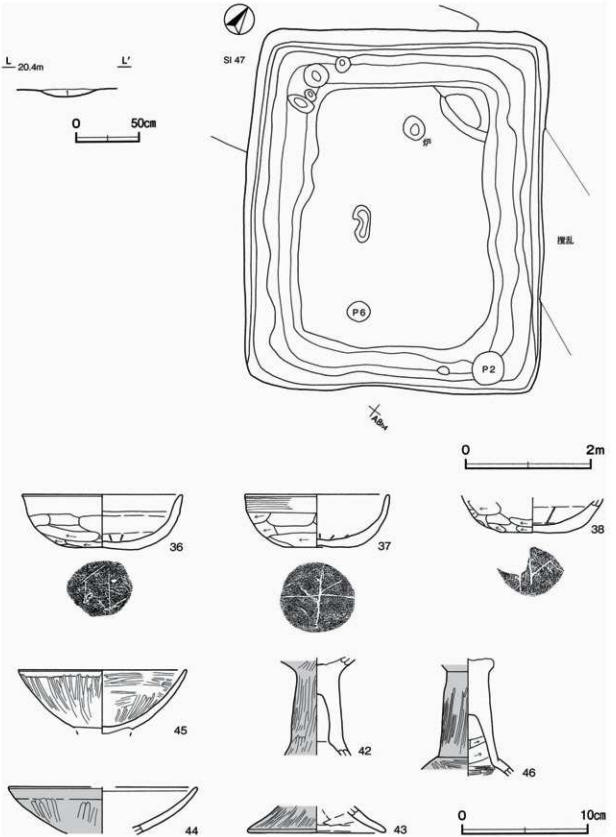
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
7　暗褐色　焼土粒子多量
8　暗褐色　ローム粒子中量
9　褐色　焼土粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子微量
11　暗褐色　ロームブロック中量
12　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片437点（坏25，坩37，高坏5，甕類367，甑3），須恵器片4点（坏2，盤1，甕類1），石器2点（砥石），金属製品2点（鎌）が，覆土中から出土している。39～41･45は東コーナー付近から，43は西コーナー部付近の覆土下層から，37・38・44は中央部から出土している。土器は，いずれも破砕された状態で覆土下層から中層にかけて出土していることから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

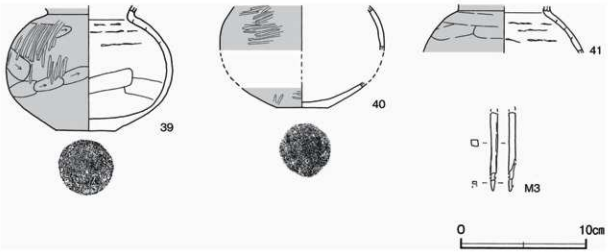
所見　時期は，出土土器や重複関係から５世紀後葉に比定できる。



第 18 図　第 48 号竪穴建物跡実測図



第 19 図　第 48 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 20 図　第 48 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 48 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 19・20 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
36	土師器	坏	12.6	4.4	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　底部外面本葉痕を残すヘラ削り、内面ナデ　ヘラ圧痕	覆土中	90%　PL30
37	土師器	坏	11.3	4.3	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　底部外面本葉痕を残すヘラ削り、内面ナデ　ヘラ圧痕	覆土下層	80%　PL30
38	土師器	坏	－	(2.8)	[5.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	底部外面本葉痕を残すヘラ削り、内面ナデ　ヘラ圧痕	覆土下層	20%	
39	土師器	壺	－	(10.0)	4.5	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラナデ　輪積み痕	覆土下層	80%　PL30
40	土師器	壺	－	(5.7)	4.0	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ナデ	覆土下層	30%	
41	土師器	壺	－	(3.7)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ヘラナデ　輪積み痕	覆土下層	30%	
42	土師器	高坏	－	(7.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き　脚部内面ナデ	床面	40%　PL31	
43	土師器	高坏	－	(2.1)	[11.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土下層	20%	
44	土師器	高坏	[15.0]	(3.7)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ磨き、内面ナデ	覆土中層	20%	
45	土師器	高坏	13.3	(5.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ磨き、内面縦位・横位のヘラ磨き	覆土下層	60%　PL30	
46	土師器	高坏	－	(9.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラ削り　裾部外面ヘラ磨き、内面ハケ目調整	覆土中	30%　PL31	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	鏃	(6.4)	(0.55)	(0.5)	(4.82)	鉄	茎部　断面方形	覆土中層	

表 2　古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
7	C 5 b7	N－84°－W	長方形	5.66 × 3.83	18 ～ 26	平坦	一部	－	1	－	西壁	－	人為	土師器	6 世紀代	SK45・117・118 → 本跡 → SK14・15
8	B 5 d8	N－72°－W	長方形	5.58 × 3.56	18 ～ 30	やや凹凸	全周	－	1	－	西壁	－	人為	土師器、須恵器、土製品、石器	7 世紀後葉	SK532 → 本跡 → SK533
10	B 6 b6	N－18°－E	方形	5.50 × 5.22	4 ～ 10	平坦	全周	4	1	1	北壁	－	人為	土師器	7 世紀後葉	本跡 → SK146
37	Z 7 h7	N－13°－E	隅丸方形	3.37 × 3.16	26 ～ 34	平坦	ほぼ全周	－	1	－	北壁	－	人為	土師器	7 世紀後葉	SK443 → 本跡 → SK444
46	A 8 f7	N－1°－E	長方形	8.31 × 5.00	10 ～ 30	平坦	－	3	1	2	北壁	－	人為	土師器、須恵器、土製品、金属製品	7 世紀前葉	
47	A 8 g2	N－74°－E	長方形	4.22 × 3.32	20 ～ 30	平坦	－	4	－	－	－	－	自然人為	土師器、須恵器	4 世紀後葉	本跡 → SI48
48	A 8 g3	N－36°－W	長方形	5.80 × 4.72	16 ～ 30	平坦	－	4	1	1	炉	－	人為	土師器、須恵器、石器	5 世紀後葉	SI47 → 本跡

3　奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡35棟，掘立柱建物跡15棟，井戸跡4基，土坑4基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第21・22図）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のＢ５i6区，標高22ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第13号土坑を掘り込み，第11号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.63ｍ，短軸4.53ｍの方形で，主軸方向はＮ－27°－Ｅである。壁は高さ25～38cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，南西コーナー部付近及び南東コーナー部付近から竈周辺にかけて踏み固められている。貼床は，ロームブロックを含む第15層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで88cmで，燃焼部幅は60cmである。袖部は，ロームブロックや粘土粒子を含んだ第13･14層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cm掘りくぼめ，第15層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ，火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

1	黒　褐　色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	
3	黒　褐　色	炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	
4	黒　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子微量	
5	暗　褐　色	炭化粒子･粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量	
6	暗　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
7	暗　褐　色	焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量	
8	黄　褐　色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	
9	暗　褐　色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量	
10	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量	
11	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化物少量，焼土ブロック微量	
12	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	
13	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量	
14	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	
15	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ60～72cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ28cm，Ｐ６は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６はＰ５よりも浅く，南壁に対して直列していることから，Ｐ６はＰ５の支柱穴と考えられる。第１層は柱材を抜き取った後の覆土，第２～５層は埋土と考えられる。

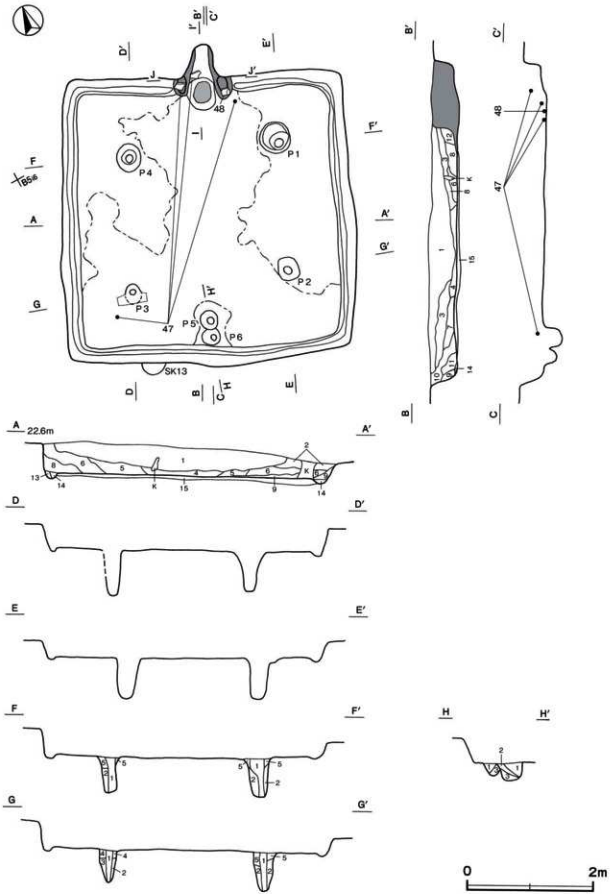
ピット土層解説（各ピット共通）

1	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量	
2	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	
3	褐　　色	ローム粒子中量	
4	明　褐　色	ローム粒子多量	
5	極暗褐色	ロームブロック少量	

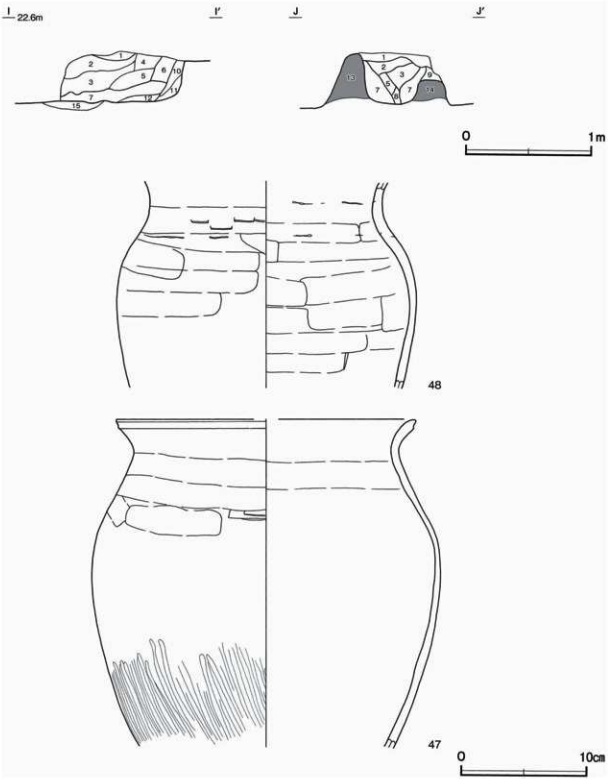
覆土　14層に分層できる。第１～４層は均質な堆積であることから自然堆積，第５～14層は多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第15層は貼床の構築土である。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
2	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子少量	
3	暗　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
4	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量	
5	暗　褐　色	炭化粒子中量，ロームブロック少量	
6	暗　褐　色	炭化粒子中量，ロームブロック微量	
7	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量	
8	暗　褐　色	炭化粒子中量，ロームブロック少量	
9	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量	
10	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量	
11	極暗褐色	ロームブロック少量	
12	暗　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量	
13	暗　褐　色	ローム粒子中量	
14	明　褐　色	ロームブロック少量	
15	褐　　色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量	



第 21 図　第 1 号竪穴建物跡実測図



第22図　第1号竪穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片67点（坏5，甕類62）が，覆土中から出土している。47は，覆土下層から中層にかけてと竈の覆土中層から出土している破片が接合していることから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。48は竈袖部の構築土中から出土していることから，竈の補強材として転用されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀代に比定できる。

第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 22 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	土師器	甕	[23.8]	(26.3)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ヘラナデ	覆土下～中層 竈覆土中層	30%
48	土師器	甕	－	(16.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ圧痕を残す縦・横位のナデ，内面横位のヘラナデ　輪積み痕	竈袖構築土	10%

第２号竪穴建物跡（第 23・24 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＢ５i2 区，標高 23 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.64 m，短軸 3.48 mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｅである。壁は高さ 43 ～ 52cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，東及び南壁際，南西コーナー部付近を除いて踏み固められている。貼床は，中央部を確認面から 44 ～ 58cm掘りくぼめ，第 12 層を埋土して構築されている。部分的に埋土していることや焼土粒子・炭化粒子が含まれることから，補修した可能性が推測できる。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 116cmで，燃焼部幅は 48cmである。袖部は，ロームブロックや粘土ブロックを含んだ第 11 ～ 17 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 10cm掘りくぼめ，第 18 ～ 20 層を埋土して構築されている。火床面は第 20 層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に 56cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・ローム粒子少量
7　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子微量
8　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
10　黒　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
11　灰黄褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量
12　灰黄褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量
13　暗　褐　色　粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック中量
14　黒　褐　色　粘土粒子多量，ロームブロック中量，焼土ブロック少量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
16　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子中量，焼土粒子少量
17　黒　褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック少量
18　黒　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量
19　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子中量
20　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

ピット　Ｐ１は深さ 12cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１・２層は，柱材を抜き取った後の覆土と考えられる。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

覆土　11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則に堆積していることから埋め戻されている。第７層は粘土粒子が多く含まれていることから，竈の崩落土と考えられる。第 12 層は貼床の構築土である。

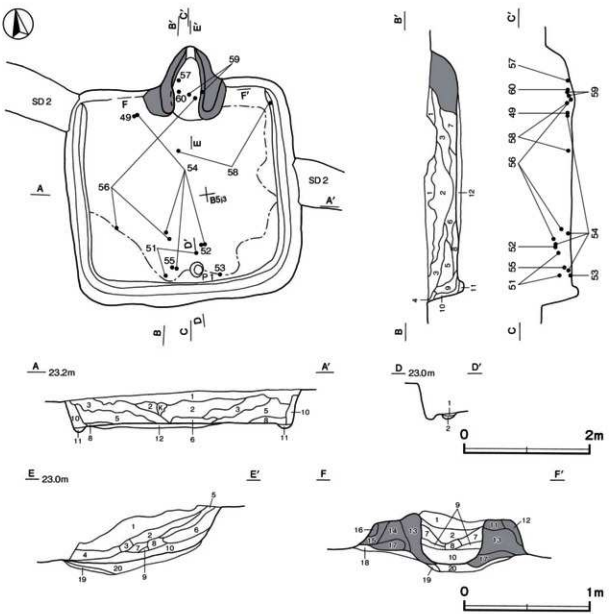
土層解説

1　黒　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量

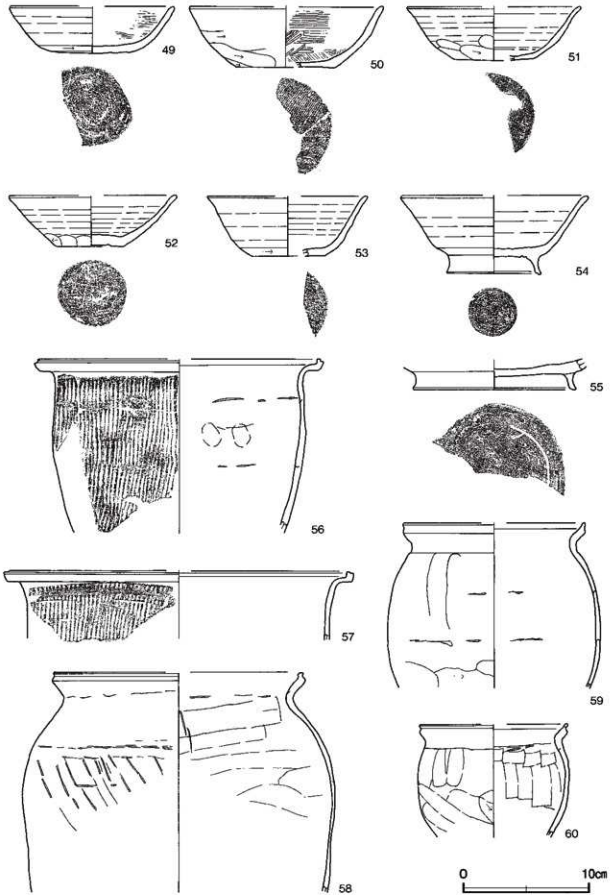
7　黒　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
12　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 193 点（坏 29，甕類 162，小形甕 2），須恵器片 70 点（坏 18，高台付坏 1，鉢 2，甕類 47，瓶 1），金属製品 1 点（不明鉄製品）が，壁際の覆土上層から中央部の覆土下層にかけて，流れ込むような状態で出土している。土器は，いずれも小片で，全体に散在した状態で出土しており，離れた箇所で出土した破片が接合しているものが多い。また，竈内からも小片が出土している。これらのことから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 23 図　第 2 号竪穴建物跡実測図



第 24 図　第２号竪穴建物跡出土遺物実測図

第２号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 24 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	土師器	坏	[13.2]	3.7	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙 黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り，内面横位のヘラ磨き，底部ヘラ削り後ナデ，黒色処理	覆土中層	40%
50	土師器	坏	[15.4]	4.8	[7.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面横位斜位のヘラ磨き，底部ヘラ削り後ナデ，黒色処理	覆土中	30%
51	須恵器	坏	[13.8]	4.3	[6.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部ナデ	覆土中層 覆土中	40% 新治窯
52	須恵器	坏	[13.2]	4.1	5.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り後ナデ	覆土中層	50% 新治窯
53	須恵器	坏	[12.7]	4.8	[5.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	体部下端回転ヘラ削り，底部ヘラ削り後ナデ	覆土下層 覆土中	30% 新治窯
54	須恵器	高台付坏	[15.0]	6.3	[7.6]	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土下～中層	30% PL35 新治窯 板用痕
55	須恵器	甕	－	(2.4)	[13.0]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土下層	30% PL36 新治窯 板用痕
56	須恵器	鉢	[23.0]	(13.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ロクロナデ，体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ，指頭痕，輪積み痕	覆土中～上層 竈覆土下層	10% 新治窯
57	須恵器	鉢	[28.0]	(5.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ロクロナデ，体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ	竈覆土下層	5% 新治窯
58	土師器	甕	[19.6]	(17.5)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ヘラナデ，輪積み痕	覆土下層	10%
59	土師器	小形甕	[14.4]	(13.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ，体部外面ナデ，下端ヘラ削り，内面ナデ，輪積み痕	竈覆土下層	30%
60	土師器	小形甕	[11.7]	(8.9)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ圧痕を残すナデ，輪積み痕	竈覆土下層	20%

第３号竪穴建物跡（第 25・26 図　PL ５）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＣ５a9 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 43 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.50 m，短軸 2.89 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 19°－Ｅである。壁は高さ 19 ～ 20cmで，直立している。

床　平坦な貼床で，明確な硬化面は確認できなかった。壁溝が西側の壁下に巡っている。貼床は，確認面から 24 ～ 28cm掘りくぼめ，第４層を埋土して構築されている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで 80cm で，燃焼部幅は 36cmである。袖部は，粘土ブロックを含んだ第 14 ～ 17 層を積み上げて構築されている。火床面は地山の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に 68cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量
4　黒　　色　炭化物中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック多量，炭化粒子中量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
7　褐　　色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
9　黒　褐　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量
10　暗　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量
11　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
12　暗　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子中量，炭化物少量
13　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
14　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子多量
15　黒　褐　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
16　黒　褐　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化材中量
17　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化材中量

ピット　Ｐ１は，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　３層に分層できる。焼土ブロックや炭化物が含まれていることから，埋め戻されている。第４層は，貼床の構築土である。

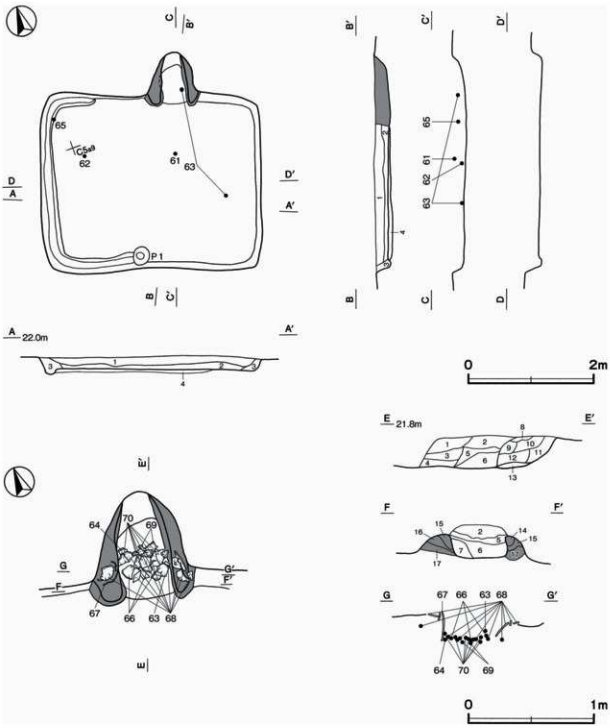
土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
2　黒　　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子中量
4　黒　　色　ロームブロック中量

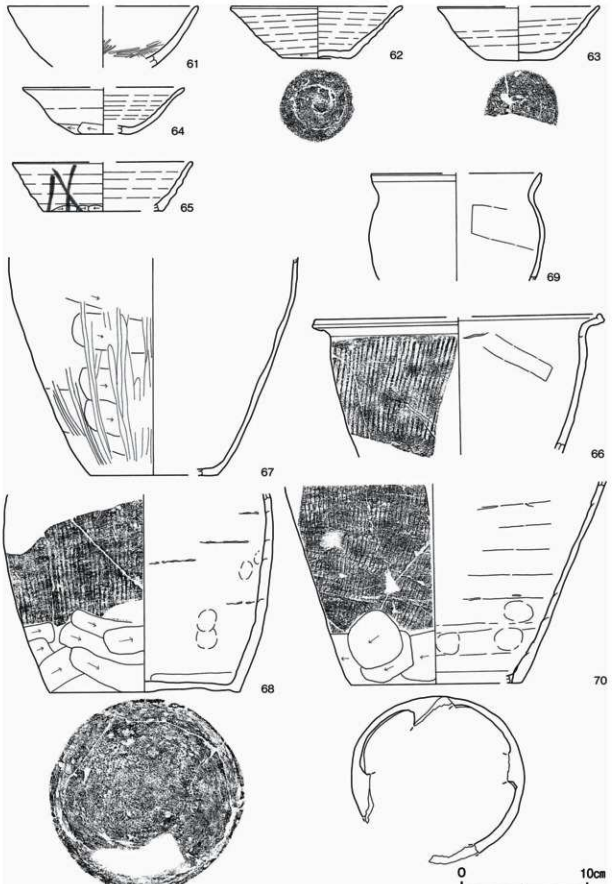
遺物出土状況　土師器片 108 点（坏５，甕類 102，小形甕１），須恵器片 27 点（坏 11，蓋２，鉢１，甕類 11，瓶２）が，覆土中から出土している。63 は，東部の覆土下層と竈の覆土中層から出土した破片が接合してい

ることから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。67・68 は，竈袖構築土中から出土していることから，竈の補強材に用いられている。また，68 は，竈覆土下層から出土した破片が接合していることから，竈が崩落したことが推測できる。64・66・69・70 は，竈内の 68 の破片と同じ層位から出土していることから，補強材の可能性がある。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 25 図　第 3 号竪穴建物跡実測図



第 26 図　第 3 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第３号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 26 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
61	土師器	坏	[15.2]	(4.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面斜位・横位のヘラ磨き　黒色処理	覆土上層	10%
62	須恵器	坏	13.4	4.1	5.4	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土中層	90%　PL.32 新沿廃
63	須恵器	坏	[12.8]	4.3	5.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端・底部ナデ	覆土下層 竈覆土中層	50% 新沿廃
64	須恵器	坏	[12.8]	3.7	[4.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ナデ	竈覆土下層	30% 新沿廃
65	須恵器	坏	[14.4]	3.9	[9.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　火襷	覆土中層	10% 新沿廃
66	須恵器	鉢	[23.2]	(11.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ，輪積み痕	竈覆土下層	10% 新沿廃
67	土師器	甕	－	(17.3)	[10.0]	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面下位下ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ	竈被構築土中 竈覆土下層	20%
68	須恵器	甕	－	(15.8)	15.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位の平行叩き，下端ヘラ削り，内面ナデ　指頭痕　輪積み痕	竈被構築土中 竈覆土下層	40% 新沿廃
69	土師器	小形甕	[13.4]	(8.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	竈覆土下層	30%
70	須恵器	甑	－	(15.9)	13.7	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き，下端ヘラ削り，内面ナデ　指頭痕　輪積み痕	竈覆土下層	30%　PL.41 新沿廃

第４号竪穴建物跡（第 27 ～ 29 図　PL. 6）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＢ５j7 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 119 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.83 m，短軸 3.75 mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 11 °－Ｅである。壁は高さ 24 ～ 31cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで 104cmで，燃焼部幅は 48cmである。袖部は，ロームブロックや粘土粒子を含んだ第 11 ～ 16 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 20cm掘りくぼめ，第 17・18 層を埋土して構築されている。火床面は第 17 層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に 36cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化物・粘土粒子少量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量
9　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
10　褐　　色　ローム粒子多量，炭化物少量，焼土ブロック微量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物中量，粘土粒子少量
13　暗　褐　色　粘土粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
14　褐　　色　粘土粒子多量，ローム粒子中量
15　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
16　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量
17　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物中量
18　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は深さ 12cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は深さ 32cmで，性格は不明である。第１～３層は，柱材を抜き取った後の覆土と考えられる。

ピット土層解説（Ｐ１・Ｐ２共通）

1　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

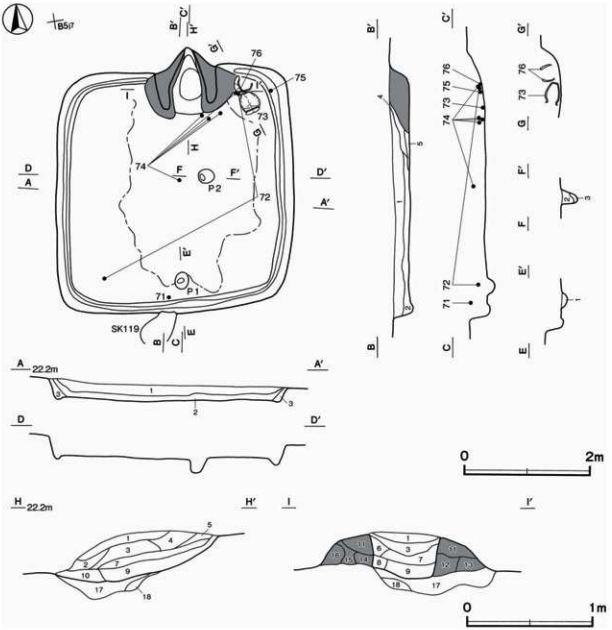
覆土　５層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック，炭化物が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

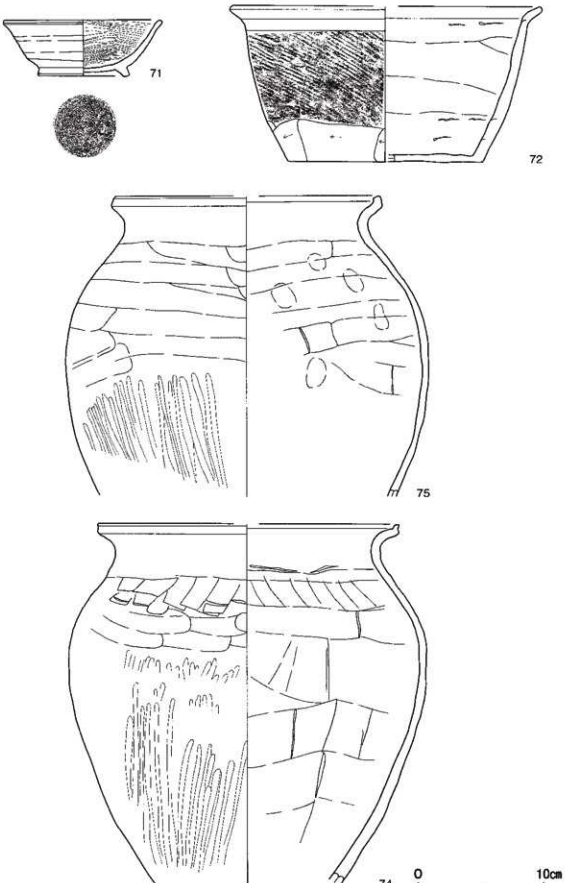
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
3　黒　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子・粘土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック・粘土粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況　土師器片36点（高台付坏1，甕類35），須恵器片11点（坏3，高台付坏1，鉢1，甕類6），灰釉陶器1点（短頸壺），金属製品1点（不明鉄製品）が，覆土中から出土している。74は，竈前の覆土下層と中央部の覆土上層から出土した破片が接合していることから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。71は南壁際の覆土上層から正位で出土している。ある程度埋め戻した後，投棄したものと考えられる。73･75･76は，北東コーナー部からまとまって出土している。75が押しつぶされた状態で出土していることから，埋め戻しの早い段階で投棄されたことが考えられる。

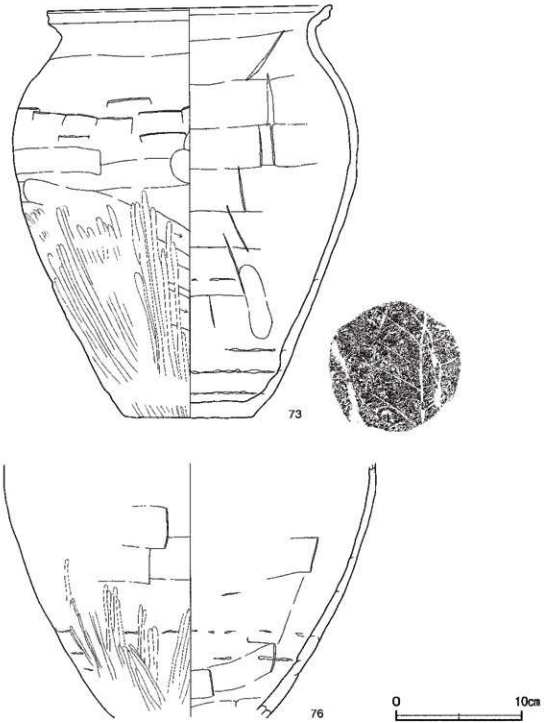
所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第27図　第4号竪穴建物跡実測図



第28図　第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 29 図　第 4 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 4 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 28・29 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
71	土師器	高台付坏	12.4	4.5	7.1	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内面横位のヘラ磨き　高台部貼付後ナデ　黒色処理	覆土上層	100%　PL36
72	須恵器	鉢	[25.0]	12.4	[15.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面斜位の平行叩き，下端ヘラ削り，内面ナデ　輪積み痕	覆土中層	30%　PL37　新治窯
73	土師器	甕	22.3	32.9	10.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ，体部外面ヘラナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ナデ　輪積み痕　底部木葉痕	床面	90%　PL38
74	土師器	甕	[24.0]	(29.0)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ，体部外面ヘラナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ナデ	覆土下～上層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
75	土師器	甕	(21.5)	(25.0)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ，体部外面ナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ヘラナデ，指頭痕		覆土下層	40%
76	土師器	甕	－	(20.2)	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外・内面ヘラナデ，外面中位以下ヘラ磨き，輪積み痕		覆土下層	20%

第５号竪穴建物跡（第30・31図　PL６・７）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のＢ５j5区，標高23ｍほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸3.60ｍ，短軸2.84ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｅである。壁は高さ14～24cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が南壁中央部と北東コーナー部を除いて，壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで116cmで，燃焼部幅は36cmである。袖部は，ロームブロックや粘土粒子を含んだ第７～12層を積み上げて構築されている。火床部は床面から14cm掘りくぼめ，第13～16層を埋土して構築されている。火床面は第13層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化材少量
3　黒　褐　色　焼土ブロック多量，炭化材・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物中量，ローム粒子少量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子多量，ロームブロック中量
7　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　にぶい黄褐色　焼土粒子・粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
10　褐　　色　焼土粒子・粘土粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　褐　　色　ロームブロック中量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
15　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
16　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

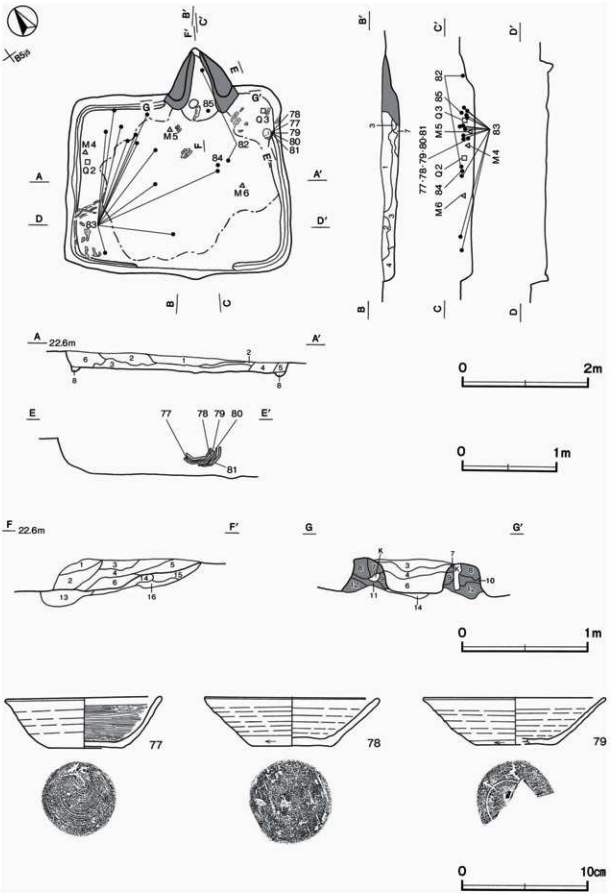
覆土　８層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれ，不規則に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

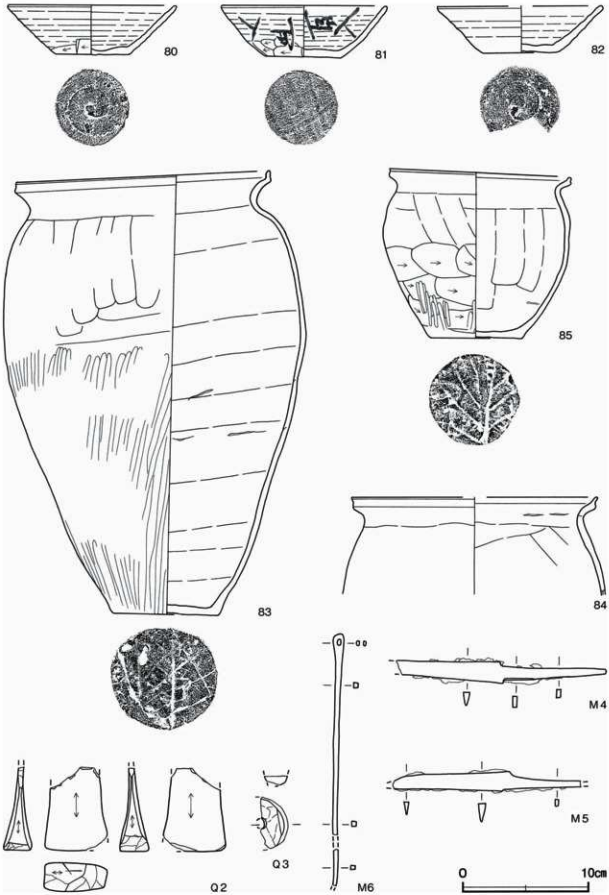
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量
5　黒　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
7　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物中量，焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片48点（坏44，甕類３，小形甕１），須恵器片８点（坏６，蓋１，甕類１），石器２点（砥石，紡錘車），金属製品３点（火箸$_{*}$１，刀子２）が，覆土中から出土している。83は，覆土中層から上層にかけて広範囲に散在する破片が接合していることから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。77～81は，東コーナー部付近の壁際から５枚重なった状態で出土している。炭化物を含む覆土上に据えられた状態で出土していることから，埋め戻しの過程で遺棄されたものと考えられる。

所見　床面直上から出土している炭化材は，西コーナー部と北東壁際に集中することや覆土の堆積状況から，竪穴建物の廃絶に伴って投棄されたものと考えられる。77～81は，意図して遺棄されたことが推測できるが，性格は不明である。時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第 30 図　第５号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 31 図　第５号竪穴建物跡出土遺物実測図

第５号竪穴建物跡出土遺物観察表（第30・31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
77	土師器	坏	12.2	4.2	5.6	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部下端ナデ，内面横位のヘラ磨き　底部回転糸切り　黒色処理	覆土下層	95%　PL32
78	須恵器	坏	14.0	3.9	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	100%　PL32 新治窯
79	須恵器	坏	14.4	3.8	6.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	80%　PL33 新治窯
80	須恵器	坏	13.3	4.0	5.7	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土下層	100%　PL32 新治窯
81	須恵器	坏	12.9	4.2	6.0	長石・石英	にぶい黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	95%　PL32 三和窯（万葉人）重書
82	須恵器	坏	[13.2]	3.7	5.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部下端ナデ　底部回転ヘラ切り	覆土上層 覆土中層 覆土上中層	60%　PL32 新治窯
83	土師器	甕	19.8	35.4	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ，中位以下ヘラ磨き　内面ナデ　輪積み痕　底部木葉痕	覆土中～上層	60%　PL38
84	土師器	甕	[19.6]	(7.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ　輪積み痕	覆土上層	5%　煤付着
85	土師器	小形甕	14.5	13.5	7.3	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，中位以下ヘラ削り後ヘラ磨き　底部木葉痕	覆土下層	100%　PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	砥石	(6.6)	5.0	2.3	(59.04)	凝灰岩	砥面５面　溝状の研磨痕	覆土上層	PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	紡錘車	(4.1)	(0.7)	(0.8)	(6.12)	粘板岩	下面・側面研磨	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 4	刀子	(16.8)	1.8	0.5	(43.74)	鉄	刃部先端欠損　刃部断面三角形　両関	覆土中層	PL44
M 5	刀子	(15.0)	(1.6)	(0.6)	(25.22)	鉄	刃部先端・茎欠損　刃部断面三角形　片関	覆土中層	PL44
M 6	火箸	(20.1)	0.9	0.4	(30.60)	鉄	先端部欠損　一方の端に孔	覆土上層	PL44

第６号竪穴建物跡（第32・33図）

調査年度　平成25年度

位置　調査区中央部のＡ６e7区，標高22ｍほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸3.90ｍ，短軸3.73ｍの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁は高さ３～６cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が壁下に巡っているが，南東コーナー部付近から東壁付近が削平されているため，全体を確認することはできなかった。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで80cmで，燃焼部幅は48cmである。袖部は，ロームブロックを含んだ第７層を積み上げて構築されている。火床部は床面から６cm掘りくぼめ，第８～10層を埋土して構築されている。火床面は第８層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子多量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
4　黒　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子中量
7　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
9　灰　白　色　粘土ブロック多量，炭化粒子少量
10　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

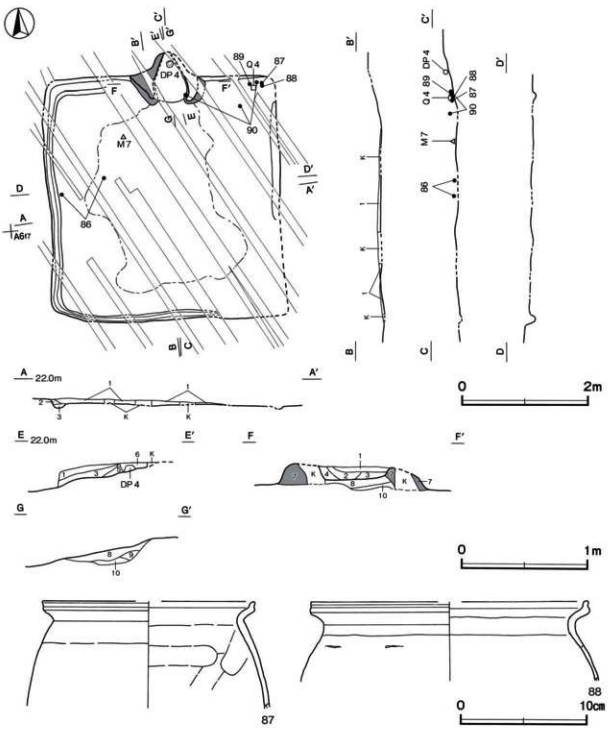
覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

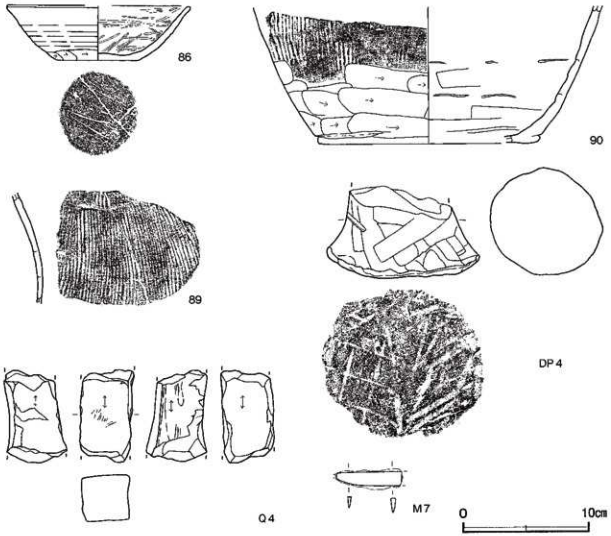
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化材少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片 122 点（坏 3，甕類 119），須恵器片 30 点（坏 4，蓋 2，甕類 24），土製品 1 点（支脚），石器 1 点（砥石），金属製品 1 点（刀子）が，覆土中から出土している。87 ～ 89・Q 4 は，北東コーナー部付近からまとまって出土していることから，埋め戻しに伴って，一括して投棄されたものと考えられる。DP 4 は，竈の中央よりやや奥に位置し，据えられている状態ではないことから，廃絶に伴って動かされたことが想定できる。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 32 図　第 6 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 33 図　第 6 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 6 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 32・33 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	土師器	坏	[14.4]	4.4	6.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面横位・斜位のヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り	覆土中層 覆土中	40%　PL33
87	土師器	甕	[16.8]	(8.2)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土下層	10%
88	土師器	甕	[22.0]	(6.3)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ　輪積み痕	覆土下層	10%
89	須恵器	甕	－	(8.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ　輪積み痕	覆土下層	5% 新治窯
90	須恵器	甕	－	(10.9)	[17.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面斜位の平行叩き，下端ヘラ削り　内面ナデ　輪積み痕	覆土下～上層	10% 新治窯

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 4	支脚	(7.3)	12.1	8.1	(739.90)	長石・石英	明赤褐	ヘラ圧痕を残すヘラナデ　木葉痕	竈覆土下層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	砥石	(7.3)	4.3	4.1	(195.35)	凝灰岩	砥面 4 面　溝状の研磨痕	覆土下層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 7	刀子	(5.3)	(1.1)	0.4	(17.65)	鉄	刃部先端・茎欠損　刃部断面三角形	覆土下層	

第９号竪穴建物跡（第 34 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＡ６f4 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第３・４・22 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区外へ延び，南西部が第３号溝に，東部が第 22 号溝に掘り込まれていることから，北東・南西軸 3.32 m，北西・南東軸 2.44 m しか確認できなかった。他の竪穴建物跡の形状から，方形もしくは長方形と推定できるが，主軸方向や壁の形状は不明である。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

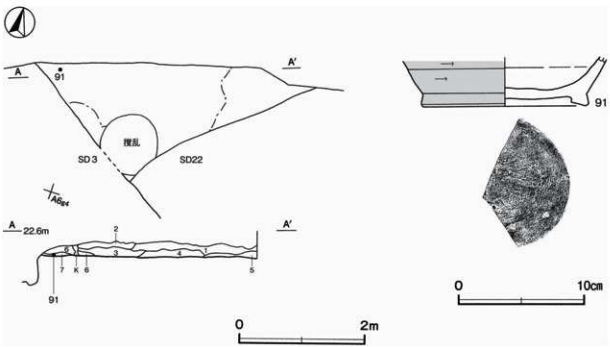
覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれ，不規則に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子・粘土粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片４点（甕類），灰釉陶器片１点（短頸壺）が覆土中から出土している。91 は，破砕された状態で覆土下層から出土していることから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉から９世紀初頭に比定できる。



第 34 図　第９号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第９号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
91	灰釉陶器	短頸壺	－	(3.9)	[13.4]	長石・石英	にぶい黄橙	良好	体部外面回転ヘラ削り，内面ナデ　底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土下層	5％猿投産

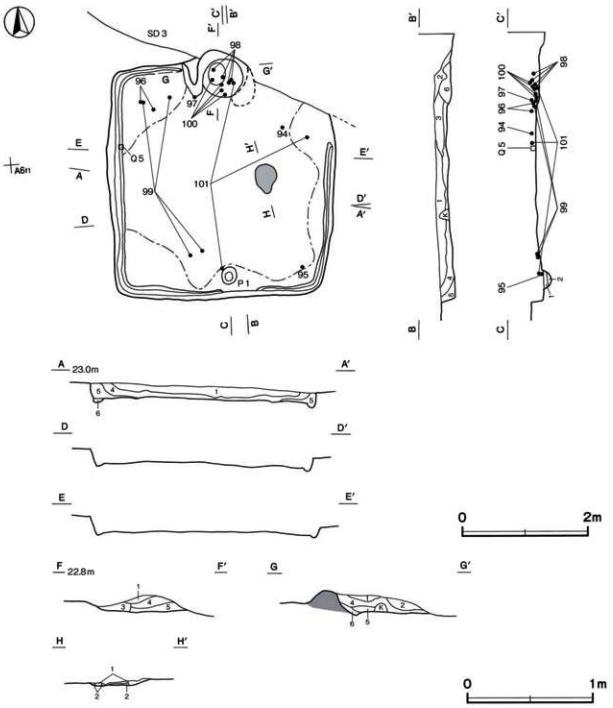
第 11 号竪穴建物跡（第 35 ～ 38 図　PL 7）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区中央部のＡ６f1 区，標高 23 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第３号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.76 m，短軸 3.64 mの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁は高さ８～ 24cmで，ほぼ直立している。



第 35 図　第 11 号竪穴建物跡実測図

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が壁下にほぼ全周している。

竈　北壁の中央部に付設されている。焚口から煙道部までの規模は，第３号溝に掘り込まれているため，不明である。燃焼部幅は64cmである。火床面は地山の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土粒子多量，ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

炉　中央部東寄りに位置している。長径44cm，短径32cmの不整楕円形で，深さ６cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック多量
2　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量

ピット　Ｐ１は深さ12cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１・２層は，柱材を抜き取った後の覆土と考えられる。

ピット土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

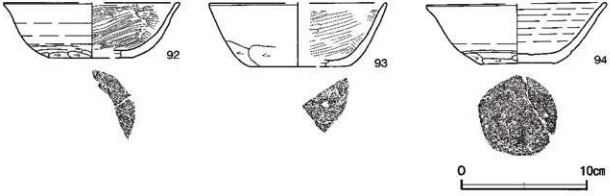
覆土　６層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック，炭化物が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

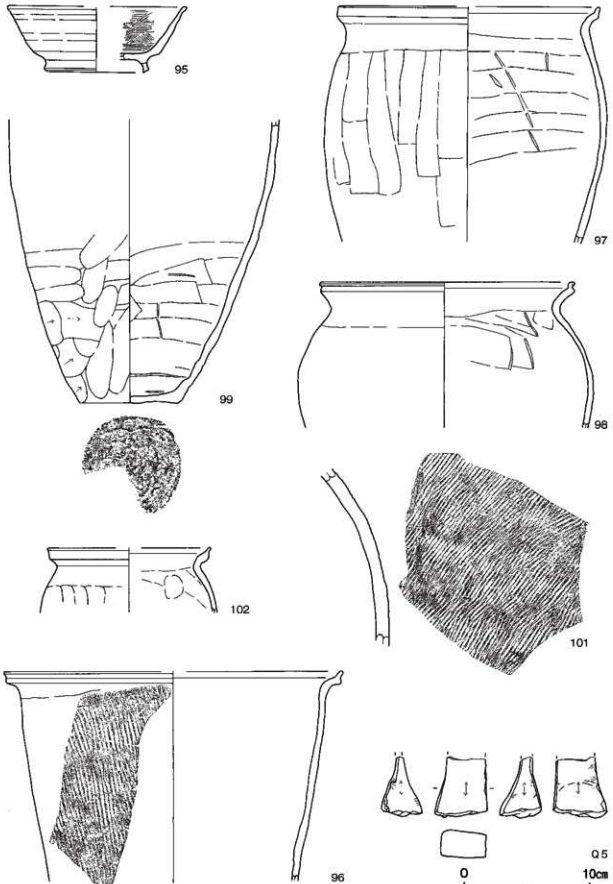
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化材少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量
3　暗　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片204点（坏37，高台付坏１，甕類165，小形甕１），須恵器片48点（坏８，鉢１，甕類39），石器１点（砥石）が，覆土中から出土している。97と小片で図示できない土器片が，竈前の覆土中層からまとまって出土している。99・101は，北部と南部で出土した破片が接合している。これらのことから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

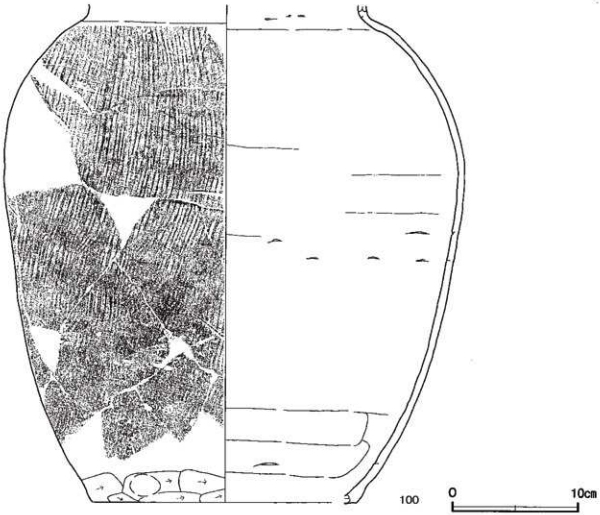
所見　中央部東寄りの炉は，関連する遺物が出土していないことから，性格は不明である。時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第36図　第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第37図　第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第38図　第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表（第36～38図）

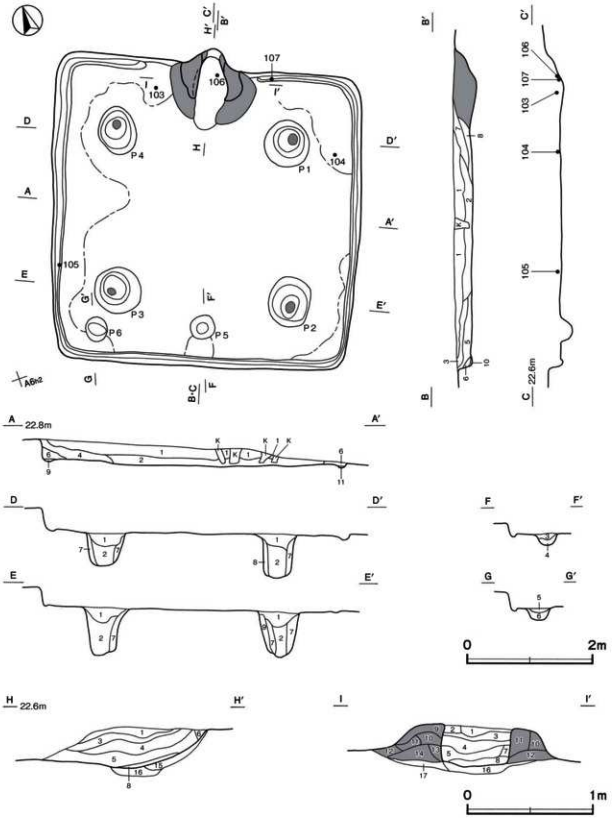
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
92	土師器	坏	[14.0]	4.4	[6.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面横位のヘラ磨き　底部ヘラ削り　黒色処理	覆土中	30%
93	土師器	坏	[14.0]	5.1	[7.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面横位のヘラ磨き　底部ヘラ削り　黒色処理	覆土中	20%
94	須恵器	坏	[14.4]	4.8	6.0	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　黒色処理	覆土下層	60%　PL33 新治窯
95	土師器	高台付坏	[14.0]	5.2	[8.3]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面横位・斜位のヘラ磨き　高台部貼付後ナデ	覆土下層 覆土中	40%　PL36
96	須恵器	鉢	[27.0]	(16.7)	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ	覆土中層	10% 新治窯
97	土師器	甕	[20.8]	(18.8)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ，内面ヘラ圧痕を残すヘラナデ	覆土中層 覆土中	30%　PL38
98	土師器	甕	20.1	(11.6)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ，内面ヘラナデ	覆覆土中層	20%
99	土師器	甕	－	(22.6)	8.0	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ナデ，下端ヘラ削り，内面ナデ　輪積み痕	覆土中層	30%
100	須恵器	甕	－	(39.7)	[21.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面縦位の平行叩き，下端ヘラ削り，内面ナデ　輪積み痕	覆覆土中層 覆土中	60%　PL39 新治窯
101	須恵器	甕	－	(14.2)	－	長石	灰	普通	体部外面横位・斜位の平行叩き，内面ナデ	覆土中層 覆覆土中層	5% 新治窯
102	土師器	小形甕	[12.8]	(5.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ　指頭痕	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	砥石	(4.8)	4.2	3.3	(63.36)	凝灰岩	砥面4面　溝状の研磨痕	覆土下層	PL42

第 12 号竪穴建物跡（第 39 ～ 41 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区中央部の A 6 g2 区，標高 23 m ほどの台地斜面部に位置している。



第 39 図　第 12 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　長軸 4.89 m，短軸 4.82 mの方形で，主軸方向はN－19°－Eである。壁は高さ 20～25cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，各コーナー部付近及び壁際を除いて踏み固められている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 132cmで，燃焼部幅は 72cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第９～ 14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から８cm掘りくぼめ，第 15 ～ 17 層を埋土して構築されている。火床面は第 16 層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に 28cm掘り込まれ，火床部から外傾している。第５～８層は天井部材や内壁の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量	
2	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック・粘土粒子中量，焼土ブロック少量	
4	黒　褐　色	粘土ブロック・粘土粒子中量，炭化物・ローム粒子少量	
5	黒　褐　色	焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物中量	
6	にぶい黄褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	
7	灰　褐　色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量	
8	暗 赤 褐 色	粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量	
9	灰 黄 褐 色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量	
10	褐　灰　色	粘土粒子多量，焼土粒子少量	
11	黒　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子多量	
12	黒　褐　色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量	
13	暗 赤 褐 色	焼土ブロック多量，粘土粒子中量	
14	灰 黄 褐 色	粘土粒子多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量	
15	暗　褐　色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子中量	
16	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物中量，焼土ブロック少量	
17	暗　褐　色	ローム粒子多量，炭化粒子少量	

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 68 ～ 76cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ 20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ 16cmで，性格は不明である。第１～６層は柱抜き取り後の堆積層で，第７～９層は埋土と考えられる。Ｐ１～Ｐ４の底面から，柱のあたりを確認した。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	黒　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	
2	黒　褐　色	ロームブロック多量	
3	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量	
4	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量	
5	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量	
6	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量	
7	暗　褐　色	ロームブロック多量	
8	黒　褐　色	ロームブロック中量	
9	暗　褐　色	ローム粒子中量	

覆土　11 層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

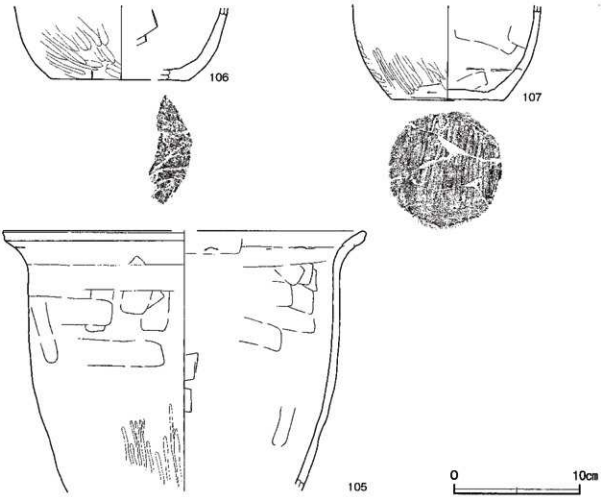
土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量	
2	黒　褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量	
3	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量	
4	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量	
5	黒　　色	ロームロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
6	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	
7	暗　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量	
8	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量	
9	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量	
10	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量	
11	暗　褐　色	ローム粒子多量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片 54 点（坏 10，甕類 43，小形甕１），須恵器片 10 点（坏７，蓋１，甕類２）が，覆土中から出土している。103 ～ 105・107 は，壁際の覆土下層から破砕された状態で出土している。106 は，竈内と南西部の覆土中から出土した破片が接合している。これらのことから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。

第 40 図　第 12 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 41 図　第 12 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 40・41 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	須恵器	坏	16.8	5.2	8.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り	覆土下層	80%　PL33 新治窯
104	須恵器	蓋	17.4	3.5	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り　摘み部貼付	覆土下層	100%　PL36 新治窯
105	土師器	甕	[28.6]	[20.8]	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦・横位のヘラナデ，中位以下ヘラ磨き　体部内面ヘラナデ	覆土下層	30%
106	土師器	甕	－	(5.9)	[11.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ　底部木葉痕を残すヘラ削り	表覆土下層 覆土中	10%
107	土師器	小形甕	－	(7.5)	9.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ　底部二方向のヘラ削り後ヘラ磨き　輪積み痕	覆土下層	30%

第 13 号竪穴建物跡（第 42・43 図）

調査年度　平成 25 年度

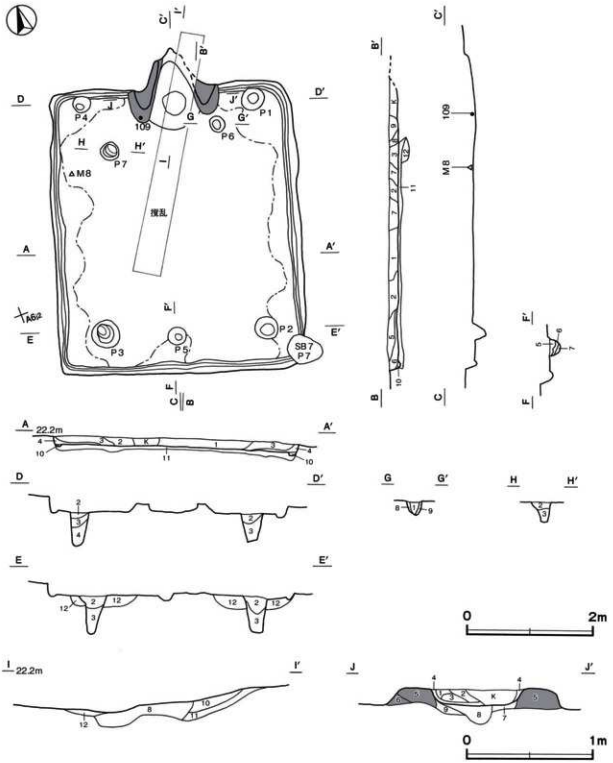
位置　調査区中央部の A 6i2 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 7 号掘立柱建物に掘り込まれている。

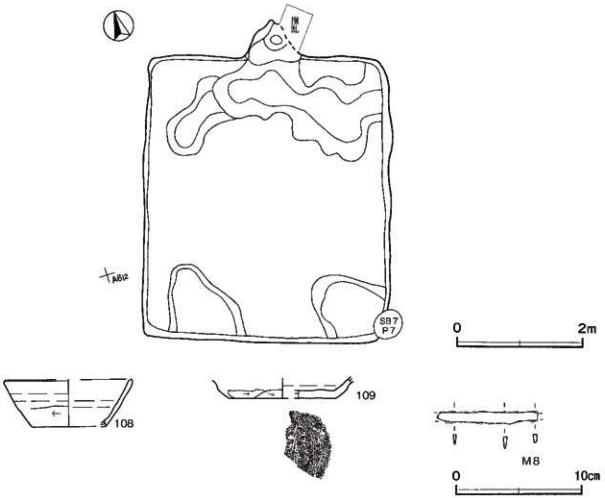
規模と形状　長軸 4.56 m，短軸 3.93 mの長方形で，主軸方向はN－21゜－Eである。壁は高さ 8 ～ 18cmで，直立している。

床　平坦な貼床で，各コーナー部付近及び東西の壁際を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から16～36cmの深さに掘り込み，第11・12層を埋土して構築されている。竈前面から東西のコーナー部付近にかけては，不整形に，南東・南西コーナー部付近は，それぞれ土坑状に掘り込んでいる。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで132cmで，燃焼部幅は48cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第5・6層を積み上げて構築されている。火床部は床面から15cm掘りくぼめ，第7～11層を



第42図　第13号竪穴建物跡実測図



第43図　第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図

埋土して構築されている。火床面は第8層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に60cm三角形状に掘り込まれ，火床部から外傾している。第12層は粘土粒子が多く含まれていることから，天井部材か壁の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
2　黒　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
5　褐　　色　粘土粒子多量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
9　暗　褐　色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量
11　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
12　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　7か所。P1～P4は深さ46～60cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ20cmで，柱痕状の土層が確認された。P7は深さ32cmである。いずれも性格は不明である。第1～7層は柱抜き取り後の堆積層で，第8・9層は埋土と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量

覆土　10層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第11・12層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片26点（坏5，甕類21），須恵器片11点（坏10，甕類1），金属製品1点（刀子）が，覆土中から出土している。109は，覆土下層から破砕された状態で出土している。M8は，覆土下層から破損した状態で出土している。出土した土器はいずれも小片である。これらのことから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀代と考えられる。

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
108	須恵器	坏	[10.2]	3.7	[6.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	5%新治窯
109	須恵器	坏	－	(1.7)	[8.4]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端・底部手持ちヘラ削り	覆土下層	5%新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	刀子	(8.0)	1.2	0.3	(6.92)	鉄	刃部先端・茎部欠損　刃部断面三角形	覆土下層	PL44

第14号竪穴建物跡（第44・45図　PL8）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のB5f0区，標高22mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第130号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.80m，短軸2.55mの隅丸方形で，主軸方向はN－14°－Eである。壁は高さ16～28cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁溝が南と北東コーナー部付近の壁際を除いて，壁よりやや内側に巡っている。

竈　北壁の東寄りに付設されている。焚口から煙道部までの規模は104cmで，燃焼部幅は40cmである。袖部は，ロームブロックや粘土粒子を含んだ第8～11層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cm掘りくぼめ，第12・13層を埋土して構築されている。火床面は第12層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。115が，中央部に逆位で据えられていることから，支脚に転用されたと考えられる。煙道部は壁外に56cm掘り込まれ，火床部から外傾している。第2～5層は天井部材や内壁の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　極暗褐色　粘土ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
3　橙　　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化物微量
5　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6　黒　　色　炭化粒子多量，焼土ブロック少量
7　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
8　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物多量，ロームブロック・粘土粒子中量
9　黒　　色　粘土粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
10　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子中量，ロームブロック少量
11　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
12　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・粘土粒子少量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量

ピット　P１は深さ16cmで，壁溝の状況や配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１～３層は，柱材を抜き取った後の覆土と考えられる。

ピット土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

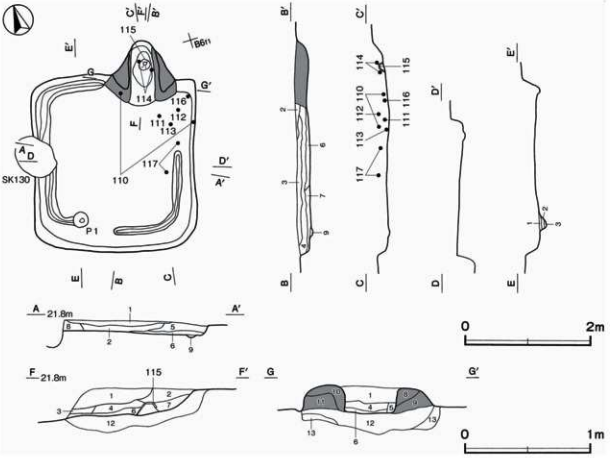
覆土　９層に分層できる。多くの層にロームブロックや炭化物が含まれ，不規則に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

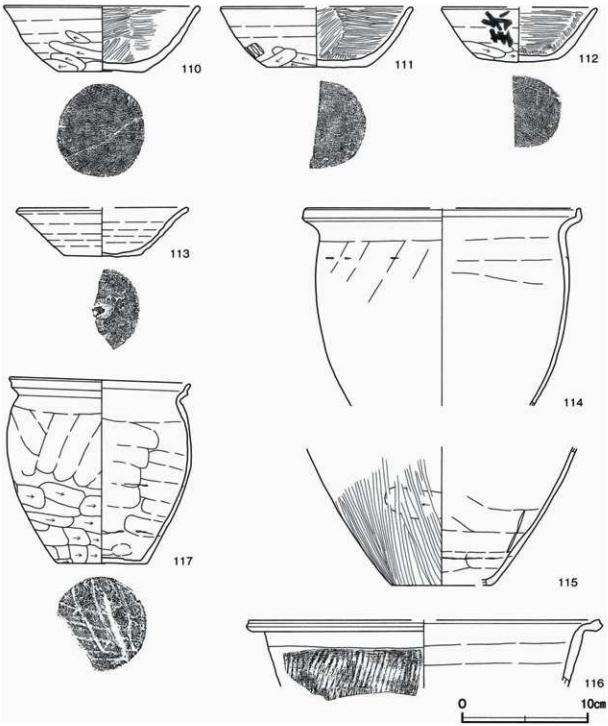
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　黒　　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片51点（坏11，甕類39，小形甕１），須恵器片４点（坏３，甕類１），石器１点（砥石）が，覆土中から出土している。110～113・116は，竈前と北東コーナー部付近の覆土下層から上層にかけて，斜位で出土している。このことから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。114は，竈の第２層に相当する層位から出土していることから，補強材の可能性が考えられる。

所見　東及び南の壁溝が壁よりやや内側に巡っていることから，拡張したことが考えられる。また，竈が作りかえられていないことから，比較的短期間に拡張されたこと，硬化面が確認できなかったことから，拡張から廃絶までの期間が短かったことが想定できる。時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第44図　第14号竪穴建物跡実測図



第 45 図　第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	土師器	坏	15.7	5.2	6.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り，内面横位のヘラ磨き　底部二方向のヘラ削り　黒色処理	覆土中～上層	90%
111	土師器	坏	[15.4]	4.7	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面横・斜位のヘラ磨き　底部内面横位のヘラ磨き　底部ナデ　黒色処理	覆土中層 覆土中	40%
112	土師器	坏	[12.6]	4.4	[6.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面横位のヘラ磨き　底部内面横位のヘラ磨き　底部多方向のナデ　黒色処理	覆土上層	50%　PL.33 「張」墨書
113	須恵器	坏	[13.3]	3.9	[6.0]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残すヘラ削り	覆土下層	40%　PL.33 三和窯

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
114	土師器	甕	[21.8]	(15.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ　輪積み痕	廃覆土中層	5％
115	土師器	甕	－	(11.0)	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面中位以下ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ　輪積み痕，底部わずかに赤変	廃覆土下層	30％ 又類転用
116	須恵器	甕	[27.8]	(5.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面斜位の平行叩き，内面ナデ	覆土中層	10％ 新治窯
117	土師器	小形甕	14.2	14.8	7.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面中位以上ヘラナデ・中位以下ヘラ削り，内面ヘラナデ	覆土中層	70％　PL37

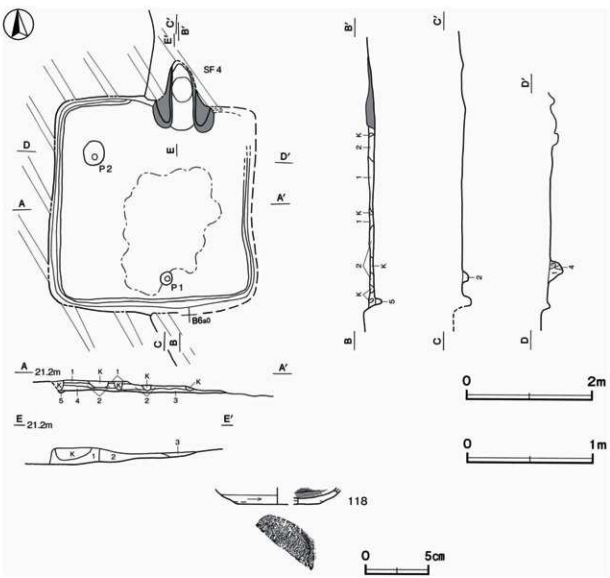
第 15 号竪穴建物跡（第 46 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＡ６j9 区，標高 21 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第４号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.43 m，短軸 3.29 mの方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｅである。壁は高さ８～12cmで，外傾している。



第 46 図　第 15 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が壁下に巡っているが，北東コーナー部付近は第４号道路に掘り込まれていることから確認できなかった。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。第４号道路によって削平されたり，撹乱を受けたりしていることから，遺存している部分が少ない。焚口から煙道部までの規模は 112cm で，燃焼部幅は 32cm である。火床面は地山の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に 60cm 掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は深さ 12cm で，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は深さ 24cm で，柱状の土層が確認できたことから補助柱穴の可能性が考えられるが，性格は不明である。第１・２層は，柱材を抜き取った後の堆積層で，第３・４層は，埋土と考えられる。

ピット土層解説（Ｐ１・Ｐ２共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量

覆土　５層に分層できる。レンズ状の均質な堆積であることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 15 点（坏２，甕類 13），須恵器片４点（坏１，甕類３）が，覆土中から出土している。いずれも小片で図示できるものが少ない。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉から後葉に比定できる。

第 15 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 46 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　は　か	出土位置	備　考
118	土師器	坏	－	(13)	[6.4]	長石	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き　底部ヘラ削り　黒色処理	覆土中	5％

第 16 A 号竪穴建物跡（第 47 ～ 49 図　PL 8・9）

調査年度　平成 25 年度

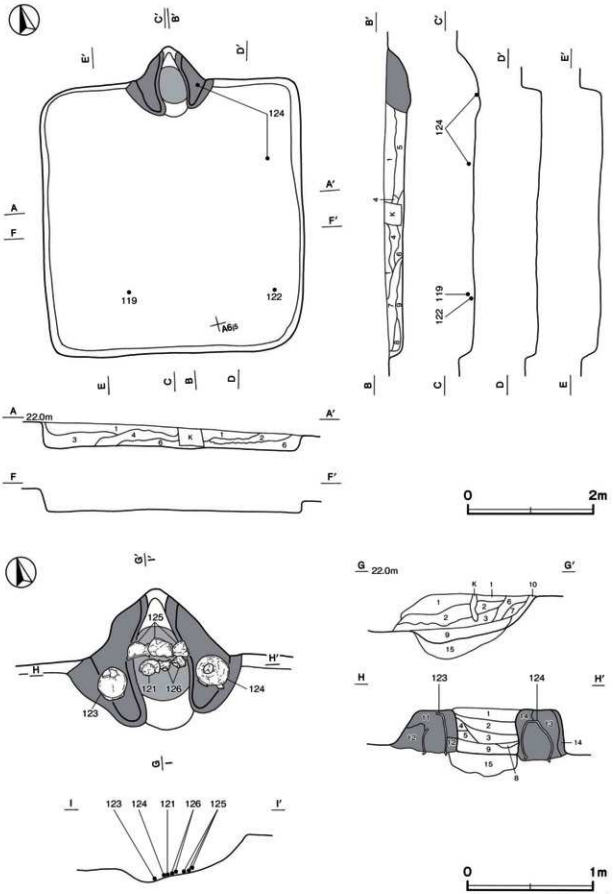
位置　調査区南部のＡ６i4 区，標高 22 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 16 B 号竪穴建物跡の上部に構築されている。

規模と形状　長軸 4.35 m，短軸 4.12 m の隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 13 °－Ｅである。壁は高さ 20 ～ 34cm で，ほぼ直立している。

床　平坦である。

竈　北壁の中央部に付設されている。焚口から煙道部までの規模は 112cm で，燃焼部幅は 40cm である。袖部は，粘土粒子を含んだ第 11 ～ 14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 20cm 掘りくぼめ，第 15 層を埋土して構築されている。火床面は第 15 層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 60cm 掘り込まれ，火床部から外傾している。第２～ 10 層は天井部材や内壁の崩落土と考えられる。



第 47 図　第 16 A 号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

1 暗 褐 色 炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2 暗 褐 色 粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3 暗 褐 色 粘土粒子多量，炭化物・焼土粒子微量
4 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5 暗 褐 色 粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
6 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
8 暗 褐 色 粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗 褐 色 焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
10 暗 褐 色 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
11 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
13 黒 褐 色 粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14 黒 褐 色 炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
15 暗 褐 色 焼土ブロック多量，炭化粒子少量

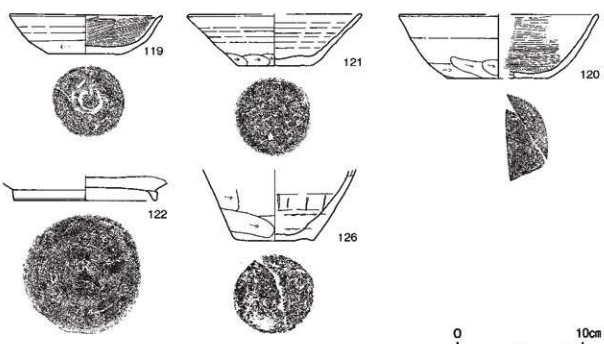
覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物が含まれ，不規則に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

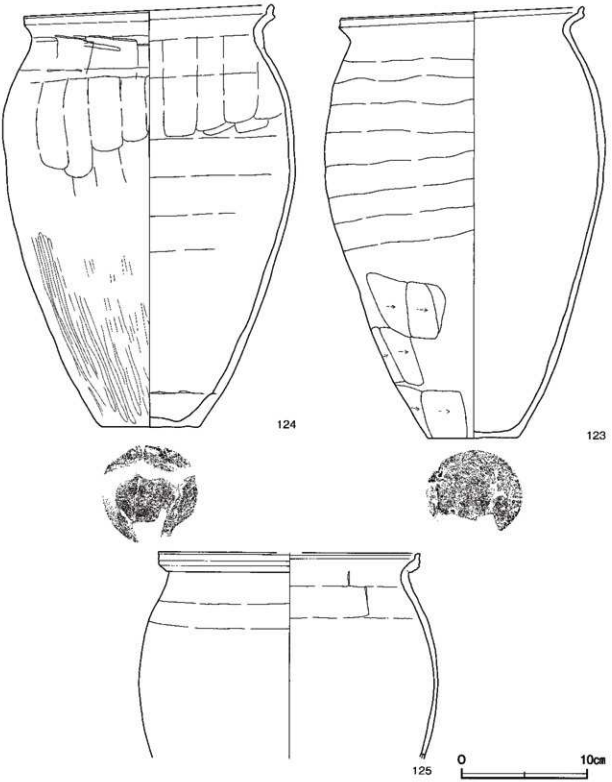
1 黒 褐 色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量
4 黒 褐 色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
5 黒 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
6 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
7 黒 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
8 暗 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子少量
9 黒 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片305点（坏21，甕類283，小形甕1），須恵器片33点（坏21，鉢1，甕類11），鉄滓が，主に北東部の覆土下層から上層にかけて出土している。123と124は，左右の袖部の構築土中に逆位で据えられていることから，補強材に転用されたものと考えられる。また，124は，北東部の覆土中層から出土した破片が接合することから，竈が壊されたことが推測できる。121・125・126は，火床面直上から出土し，被熱していることから，121と126は支脚に，125は竈の掛け口に転用され，竈の崩落時に破砕されたか，廃絶時に投棄されたことが想定できる。

所見 第16B号竪穴建物の南側を拡張したことが考えられるが，竈の作り替えの痕跡や床の硬化面，出入り口施設に伴うピットが確認できなかったことから，拡張後の使用状況に不明確な点がある。時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第48図 第16A号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 49 図　第 16 A 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 16 A 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 48・49 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
119	土師器	坏	12.0	3.2	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り、内面横位のヘラ磨き 底部回転ヘラ削り　黒色処理	覆土下層	70%　PL33
120	土師器	坏	[15.8]	5.1	[8.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り、内面横位のヘラ磨き 底部ヘラ削り　黒色処理	覆土中	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
121	須恵器	坏	[13.8]	4.1	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部ナデ	竈覆土下層	60% PL.34 新治廃
122	須恵器	盤	−	(1.9)	11.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後高台部貼付		覆土下層	20% 新治廃 窯転用
123	土師器	甕	19.2	34.4	7.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ，中位以下ヘラ削り，内面ナデ		竈左袖	80% PL.39
124	土師器	甕	19.8	33.6	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ，中位以下ヘラ磨き，内面縦位・横位のナデ 輪積み痕		竈右袖 覆土中層	70% PL.39 煤付着
125	土師器	甕	[20.6]	(16.5)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ，内面ヘラナデ		竈覆土下層	30%
126	土師器	小形甕	−	(5.7)	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積み痕		竈覆土下層	30%

第 16 B号竪穴建物跡（第 50 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＡ６i4 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

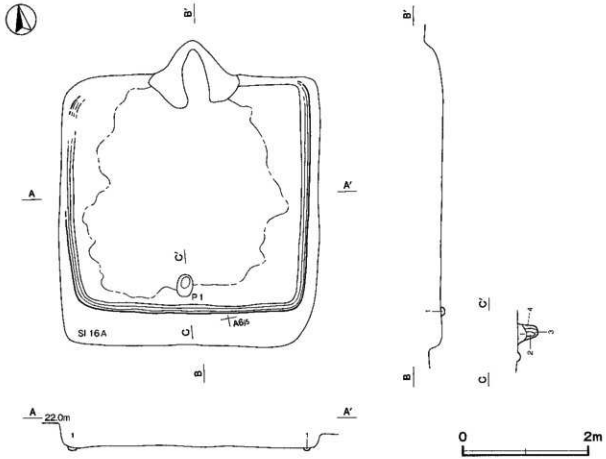
重複関係　上部に第 16 A号竪穴建物が構築されている。

確認状況　第 16 A号竪穴建物跡の床面から壁溝とピットが検出できた。

規模と形状　長軸 3.84 m，短軸 3.78 mの方形で，主軸方向はＮ－ 13°－Ｅである。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している

ピット　Ｐ１は深さ 32cmで，配置と硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１・２層は，柱材を抜き取った後の堆積層で，第３・４層は，埋土と考えられる。



第 50 図　第 16 B号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 黒 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
4 褐 色 ロームブロック多量

覆土 第16A号竪穴建物を構築する際に壁溝を埋め戻したと考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量

所見 時期を特定できる遺物は出土していないが，第16A号竪穴建物より古い9世紀中葉と考えられる。

第17号竪穴建物跡（第51・52図）

調査年度 平成25年度

位置 調査区中央部のA 5h7区，標高23mほどの台地上に位置している。

重複関係 第151号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.38m，短軸3.06mの長方形で，主軸方向はN－13°－Eである。壁は高さ28～36cmで，直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が壁下に巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで90cmで，燃焼部幅は38cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第12～16層を積み上げて構築されている。火床部は床面から23cm掘りくぼめ，第17～23層を埋土して構築されている。火床面は第17～19層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ，火床部から外傾している。第6層は煙道部痕跡への流入土と考えられる。

竈土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
2 暗 褐 色 粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3 暗 褐 色 粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
5 褐 色 焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
6 褐 色 焼土粒子微量
7 暗 褐 色 焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子微量
8 暗 褐 色 焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
9 暗 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
10 褐 色 粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
11 暗 褐 色 焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
12 暗 褐 色 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
13 暗 褐 色 粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
14 暗 褐 色 粘土粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
15 褐 色 焼土粒子・粘土粒子多量，炭化粒子少量
16 暗 褐 色 炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
17 暗 褐 色 焼土粒子・粘土粒子少量
18 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
19 暗 褐 色 焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量
20 黒 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
21 黒 褐 色 焼土粒子少量，粘土粒子微量
22 暗 褐 色 粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
23 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 3か所。P 1は深さ26cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2・P 3はいずれも深さ20cmで，補助柱穴と考えられる。第1層は柱抜き取り後の堆積層で，第2・3層は埋土と考えられる。P 3の底面から，柱のあたりを確認した。

ピット土層解説（P 1）

1 暗 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 褐 色 ローム粒子多量，炭化粒子微量

覆土 24層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

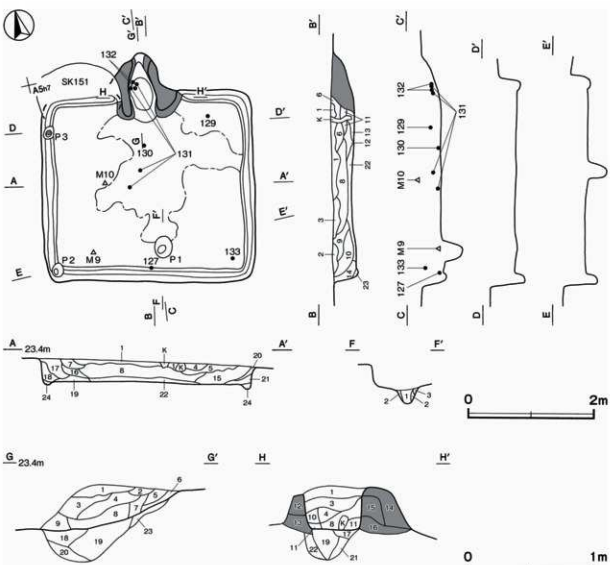
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
2 暗 褐 色 焼土ブロック少量
3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量
6 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土ブロック中量，炭化粒子少量
7 黒 褐 色 ロームブロック多量，炭化物・焼土粒子少量
8 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック少量
9 黒 色 ロームブロック・焼土ブロック少量
10 黒 色 ロームブロック微量
11 暗 褐 色 ロームブロック多量，炭化物中量，焼土粒子少量
12 黒 褐 色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量

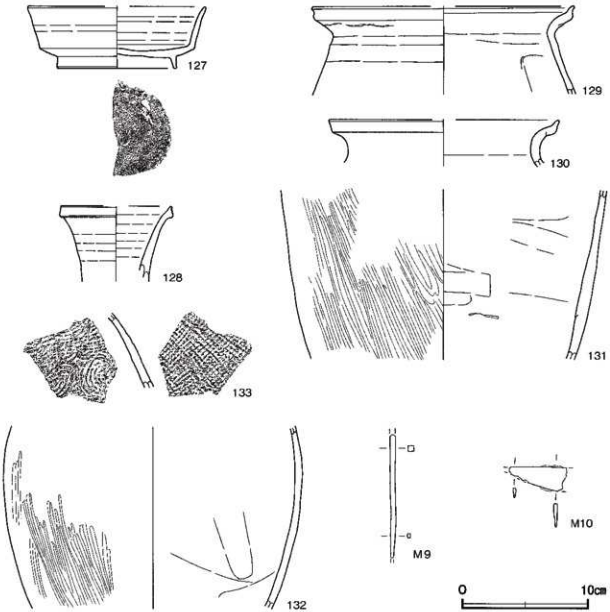
13　黒　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子中量
14　黒　褐　色　ロームブロック多量
15　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量
16　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量
17　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
18　暗　褐　色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
19　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
20　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量
21　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量
22　暗　褐　色　ロームブロック多量
23　暗　褐　色　ロームブロック中量
24　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片47点（坏1，甕類46），須恵器片9点（坏6，高台付坏1，長頸瓶1，甕類1），金属製品2点（鏃，鎌？）が，覆土中から出土している。127は，南壁際の覆土下層から破砕された状態で出土している。131は，覆土下層から中層にかけてと竈の覆土中層から出土した破片が接合している。出土した土器はいずれも小片である。これらのことから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第51図　第17号竪穴建物跡実測図



第 52 図　第 17 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 17 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 52 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
127	須恵器	高台付坏	[14.2]	4.9	[9.4]	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土下層	50%　PL36 堀ノ内窯。
128	須恵器	長頸瓶	[8.8]	(6.0)	－	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ　自然釉付着	覆土中	20%　PL36 産地不明
129	土師器	甕	[20.6]	(7.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ　輪積み痕	覆土中層	5%
130	土師器	甕	[18.4]	(3.7)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5%
131	土師器	甕	－	(13.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面横位のヘラナデ　輪積み痕	竈覆土中層 覆土下～中層	5%
132	土師器	甕	－	(14.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面中位以下ヘラ磨き，内面ナデ	竈覆土中層	10%
133	須恵器	甕	－	(5.9)	－	長石	褐灰	普通	体部外面格子目叩き，内面同心円状の当て具痕	覆土上層	5%　産地不明

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 9	鎌	(9.8)	0.4	0.4	(9.26)	鉄	頭部・先端部欠損　断面方形	覆土下層	PL44
M 10	鎌$_2$	(4.5)	(1.9)	(0.3)	(5.10)	鉄	刃部先端のみ遺存　刃部断面三角形	覆土上層	

第19号竪穴建物跡（第53～55図　PL 9・10）

調査年度　平成26年度

位置　調査区北部の－Y 7 g6区，標高22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第265号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.44 m，短軸4.08 mの隅丸方形で，主軸方向はN－11°－Eである。壁は高さ28～40cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，南東コーナー部付近及び北東コーナー部付近を，確認面から32～44cmの深さに土坑状に掘り込み，第11層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで96cmで，燃焼部幅は32cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第12～14層を積み上げて構築されている。火床部は床面から9cm楕円形状に掘りくぼめ，第15・16層を埋土して構築されている。火床面は第15層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。143が逆位で第15層に埋められており，支脚に転用されたものと考えられる。143の上部に重なった状態で出土している136は，高さ調整に用いられたと考えられる。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
4　暗 赤 褐 色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
6　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子中量
9　褐　　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
11　赤　褐　色　焼土ブロック多量
12　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　黄　褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック少量
14　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
16　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　6か所。P 1～P 4は深さ16～32cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1層は柱抜き取り後の堆積層で，第2～4層は埋土と考えられる。P 1～P 5の底面から，柱のあたりを確認した。P 6は長軸80cm，短軸60cm，深さ12cmで，性格は不明である。

ピット土層解説（P 1～P 5共通）

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量

ピット土層解説（P 6）

1　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

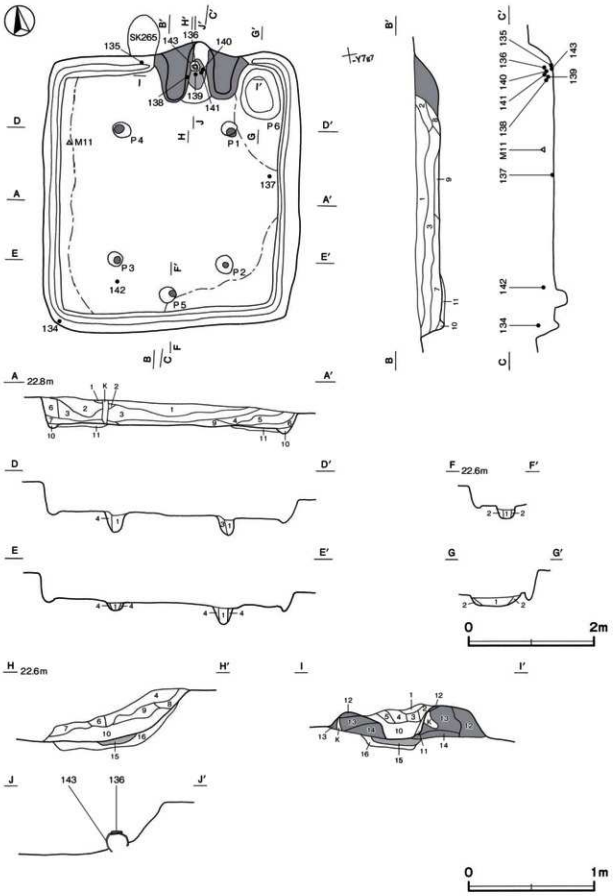
覆土　10層に分層できる。第1層は均質な堆積であることから自然堆積，第2～10層は多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

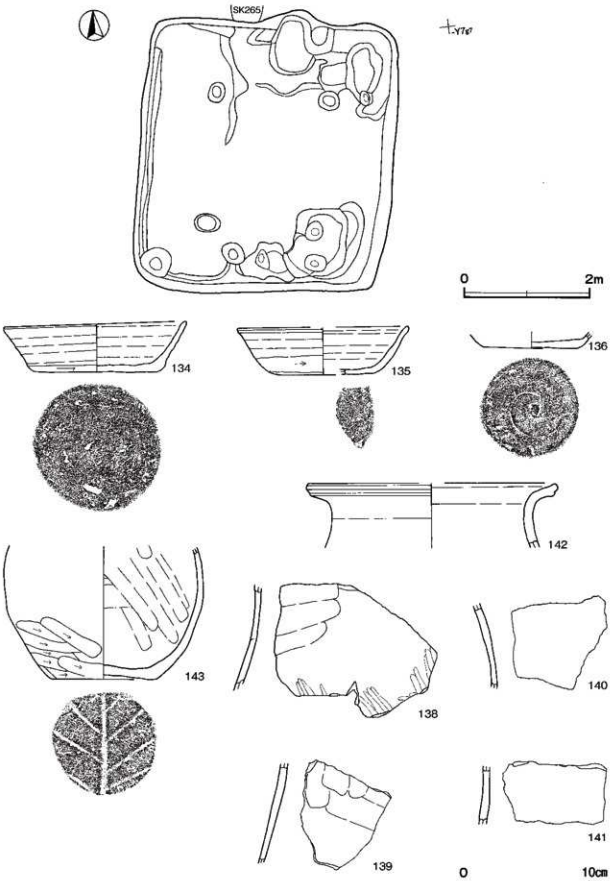
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量
10　暗　褐　色　ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片101点（坏15，甕類96），須恵器片21点（坏19，鉢1，甕類1），金属製品1点（刀子）が，主に覆土下層から中層で出土している。134は，南西コーナー付近の覆土中層と南東部の覆土中から出土した破片が接合している。また，竈の覆土中層から出土している138～141は，いずれも破片であることから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第 53 図　第 19 号竪穴建物跡実測図



第 54 図　第 19 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 55 図　第 19 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 19 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 54・55 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
134	須恵器	坏	14.4	4.1	9.7	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	覆土中層 覆土中	80%　PL34 新治窯
135	須恵器	坏	[13.6]	3.8	[8.4]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	覆土下層	20% 新治窯
136	須恵器	坏	－	(1.3)	7.6	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	底部回転ヘラ削り	支脚上	40% 新治窯 煤付着
137	須恵器	鉢	[31.8]	(16.0)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位の平行叩き，内面ナデ　輪積み痕	覆土下層	10% 新治窯
138	土師器	甕	－	(10.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ・ヘラ磨き，内面ヘラナデ　輪積み痕	竈覆土中層	5%　PL44
139	土師器	甕	－	(8.8)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面ナデ	竈覆土中層	5%　PL44
140	土師器	甕	－	(7.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ	竈覆土中層	5%　PL44
141	土師器	甕	－	(5.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ナデ	竈覆土中層	5%　PL44
142	土師器	甕	[20.0]	(5.1)	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外面沈線　口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5%　PL44
143	土師器	小形甕	－	(10.6)	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ　底部木葉痕	竈火床面一括方	50%　PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	刀子	(12.1)	(1.5)	(0.4)	(15.92)	鉄	刃部先端欠損　刃部断面三角形　刀身折損痕　口輪・木製柄一部遺存	覆土中層	PL44

第 20 号竪穴建物跡（第 56・57 図）

調査年度　平成 26 年度

位置　調査区北部の－ Y 7h6 区，標高 22 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 4.30 m，短軸 3.96 m の方形で，主軸方向は N － 97 ° － E である。壁は高さ 16 ～ 32cm で，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，主に中央部から竈にかけて踏み固められている。貼床は，確認面から 32 ～ 44cm の深さに掘り込み，第 6・7 層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで 112cm で，燃焼部幅は 60cm である。袖部は，粘土粒子やロームブロックを含んだ第 4・5 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 15cm 掘りくぼめ，第 6 ～ 9 層を埋土して構築されている。火床面は第 6 層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に 32cm 掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 赤 褐 色 焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量
4 明 黄 褐 色 粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 赤 褐 色 焼土粒子多量，炭化粒子微量
7 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9 明 褐 色 ロームブロック多量

ピット 5か所。P１～P４は深さ16～24cmで，配置から主柱穴と考えられる。P５は深さ18cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１～３層は柱抜き取り後の堆積層で，第４・５層は埋土と考えられる。P１～P４の底面から，柱のあたりを確認した。

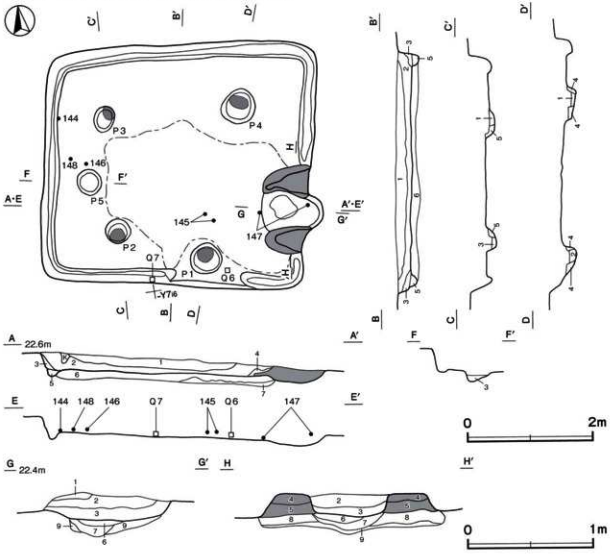
ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒 褐 色 ロームブロック多量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
3 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 明 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 明 褐 色 ロームブロック多量

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれることから，埋め戻されている。第６・７層は貼床の構築土である。

土層解説

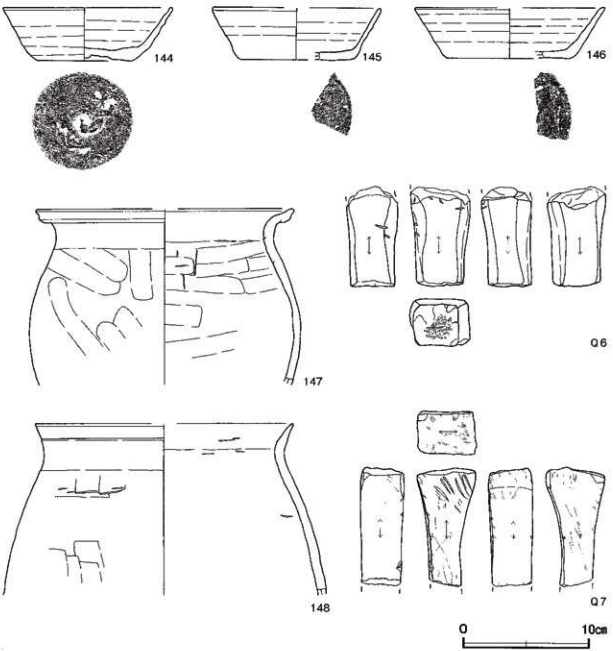
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
7 暗 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子微量



第56図 第20号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片147点（坏20，甕類127），須恵器片15点（坏10，甕類5），石器2点（砥石）が，覆土下層から中層にかけて散在した状態で出土している。144は，ほぼ完形で，西壁際の覆土下層から斜位で出土している。147は，竈の内外から出土した破片が接合している。これらのことから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第57図　第20号竪穴建物跡出土遺物実測図

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
144	須恵器	坏	13.3	4.2	7.9	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	覆土下層	90%　PL34 新治測
145	須恵器	坏	[13.4]	4.1	[9.0]	長石・石英	灰	普通	底部二方向のヘラ削り	覆土中層	30% 木葉下窯。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
146	須恵器	坏	[152]	4.0	[110.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部一方向のヘラ削り		覆土中層	25% 新沿産
147	土師器	甕	[20.1]	(14.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ ヘラ圧痕	体部外・内面ヘラナデ 輪積み痕	覆土下層 堀覆土上層	10%
148	土師器	甕	[20.6]	(13.7)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ ヘラ圧痕	体部外・内面ヘラナデ	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	砥石	(7.9)	4.2	4.0	(256.3)	砂岩	砥面４面　溝状の研磨痕　自然礫の下端部に敲打痕	覆土下層	PL42
Q 7	砥石	(9.5)	4.7	3.5	(194.9)	凝灰岩	砥面５面　溝状の研磨痕	覆土下層	PL42

第21号竪穴建物跡（第58・59図　PL10）

調査年度　平成26年度

位置　調査区北部の－Ｙ７h7区，標高22ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第４号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.12ｍ，短軸3.80ｍの方形で，主軸方向はＮ－103°－Ｅである。壁は高さ20～30cmで，外傾している。

床　平坦な貼床で，北壁際と南西コーナー部付近を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から20～32cmの深さに掘り込み，第８層を埋土して構築されている。東側は，一段低く帯状に掘り込まれている。南西コーナー部付近から西壁の中央部までを除いて，壁溝が壁下に巡っている。

竈　東壁のやや南寄りに付設されている。焚口から煙道部までの規模は116cmで，燃焼部幅は40cmである。袖部は，粘土粒子を含んだ第５・６層を積み上げて構築されている。火床部は床面から16cm掘りくぼめ，第７～９層を埋土して構築されている。火床面は第７層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　橙　　色　粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　明　黄　色　粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　明赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　Ｐ１は深さ12cmで，性格は不明である。

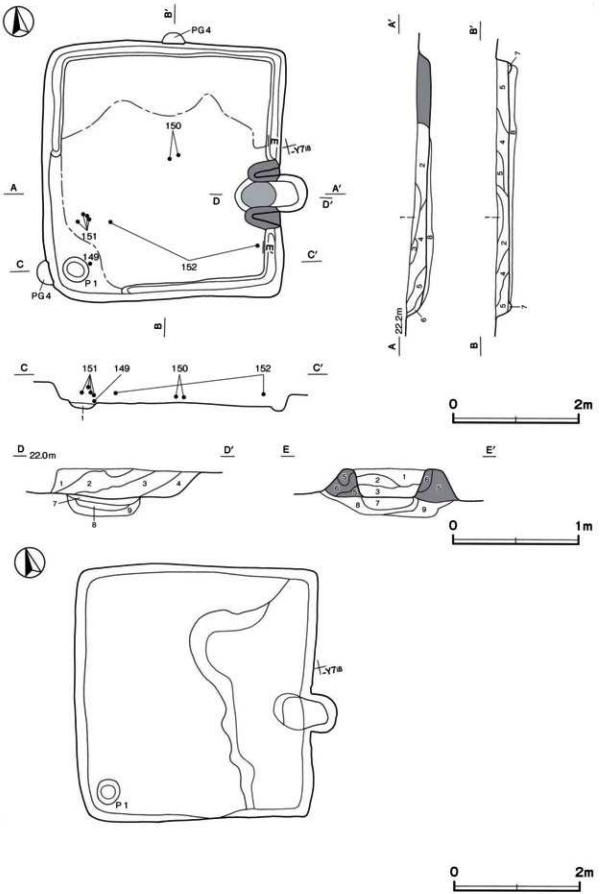
ピット土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　７層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロック，粘土ブロックが含まれ，不規則に堆積していることから埋め戻されている。第８層は，貼床の構築土である。

土層解説

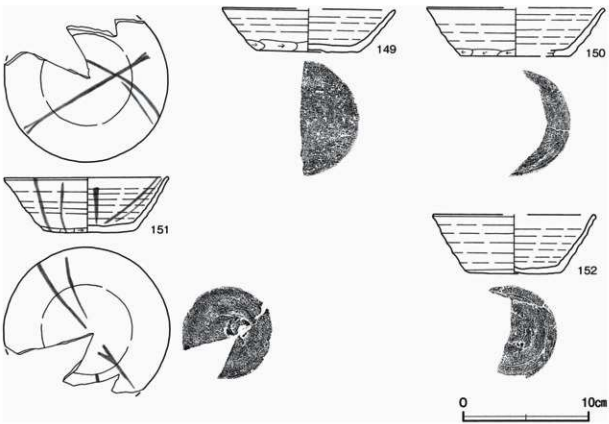
1　明黄褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黄　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量



第 58 図　第 21 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片55点（坏7，甕類48），須恵器片28点（坏26，甕類2）が，覆土中から出土している。149は南西コーナー部付近の覆土下層から出土している。150は，中央部の覆土下層から破砕された状態で出土している。これらは埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。また，151は，南西部の覆土中層から上層にかけて破砕された状態で出土している。152は，東壁際と南西部の覆土中層から出土した破片が接合している。これらは，149・150より新しい9世紀前葉のものと考えられることから，ある程度埋め戻された後投棄されたと推測できる。

所見　竪穴建物の廃絶は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第59図　第21号竪穴建物跡出土遺物実測図

第21号竪穴建物跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
149	須恵器	坏	[13.7]	3.4	[8.2]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ナデ	覆土下層	40% 新近窯
150	須恵器	坏	[14.0]	3.8	[8.8]	長石・石英・雲母	淺黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ナデ	覆土下層	30% 新近窯
151	須恵器	坏	12.8	4.5	7.1	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後ナデ　火襷	覆土中～上層	80%　PL34 二和窯。
152	須恵器	坏	[12.7]	4.2	[7.0]	長石・石英	灰	普通	体部下端ナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層 覆土中	40%　PL34 堀ノ内窯。

第22号竪穴建物跡（第60～62図　PL11）

調査年度　平成26年度

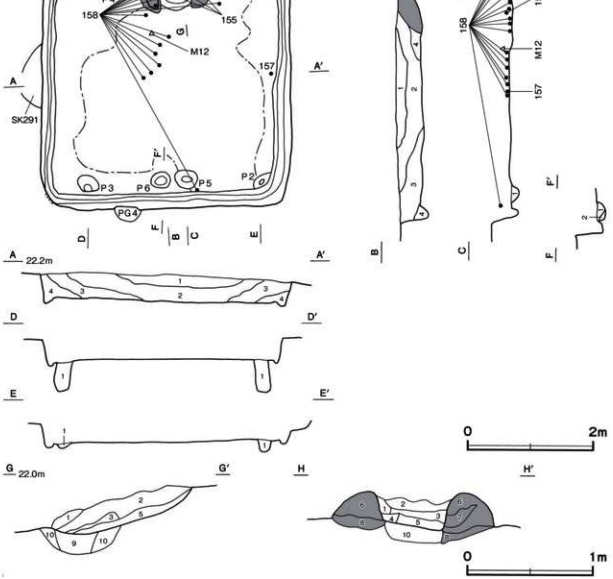
位置　調査区北部の－Y7j7区，標高22mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第291号土坑を掘り込み，第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.00 m，短軸 3.82 m の方形で，主軸方向はN－21°－Eである。壁は高さ 16 ～ 32cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められており，特に西側の硬化が顕著である。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。焚口から煙道部までの規模は 116cmで，燃焼部幅は 48cmである。袖部は，焼土ブロック，粘土粒子を含んだ第６～８層を積み上げて構築されている。焼土ブロックが含まれていることから，作り替えの可能性が考えられる。火床部は床面から 20cm掘りくぼめ，第９・10 層を埋土して構築されている。火床面は第９・10 層の上面で，火熱を受けて硬化している。煙道部は壁外に 40cm掘り込まれ，火床部から外傾している。



第 60 図　第 22 号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

1　明　黄　色　粘土粒子多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物・粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　黄　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
6　黄　褐　色　粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土粒子多量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　6か所。P1～P4は深さ12～52cmで，配置から主柱穴である。P5・P6は深さ12cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量

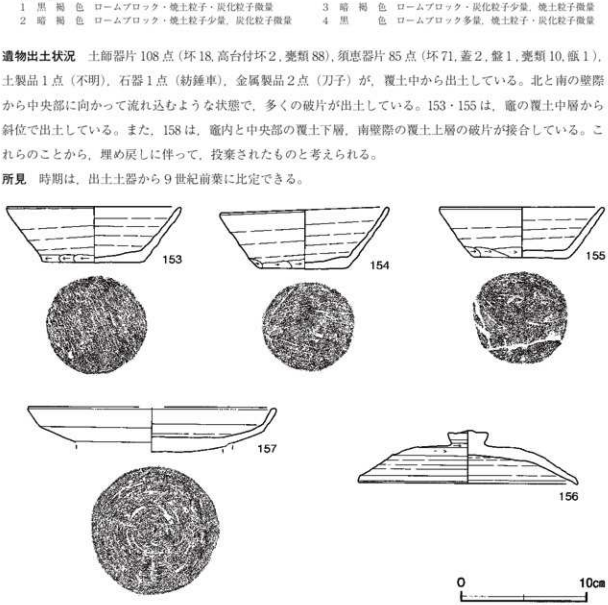
覆土　4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

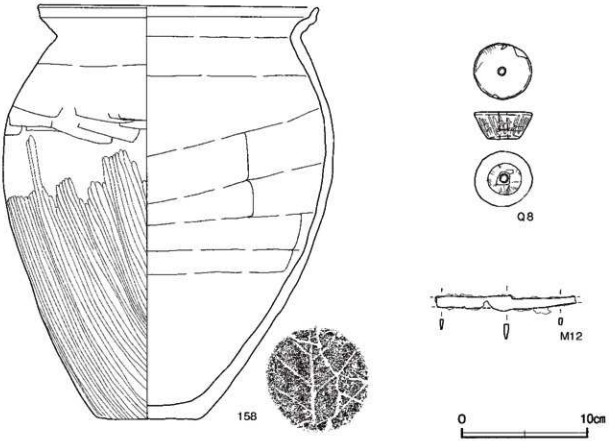
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片108点（坏18，高台付坏2，甕類88），須恵器片85点（坏71，蓋2，盤1，甕類10，甑1），土製品1点（不明），石器1点（紡錘車），金属製品2点（刀子）が，覆土中から出土している。北と南の壁際から中央部に向かって流れ込むような状態で，多くの破片が出土している。153・155は，竈の覆土中層から斜位で出土している。また，158は，竈内と中央部の覆土下層，南壁際の覆土上層の破片が接合している。これらのことから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第61図　第22号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 62 図　第 22 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 61・62 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
153	須恵器	坏	13.7	4.4	8.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	95%　PL34 新治窯
154	須恵器	坏	13.2	5.0	7.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	90%　PL35 新治窯
155	須恵器	坏	13.0	4.1	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	70%　PL35 新治窯
156	須恵器	蓋	[17.3]	4.2	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り後摘み部貼付	覆土上層	60%　PL36 新治窯
157	須恵器	盤	[19.8]	(3.6)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土下層	80%　PL36 新治窯
158	土師器	甕	22.0	33.2	8.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ヘラナデ　底部本葉痕を残すナデ	覆土下～上層 覆土下～上層	80%　PL39

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	紡錘車	4.6	2.2	0.7	56.87	蛇紋岩	上・下面研磨　側面削り後研磨　一方向からの穿孔	覆土下層	PL42

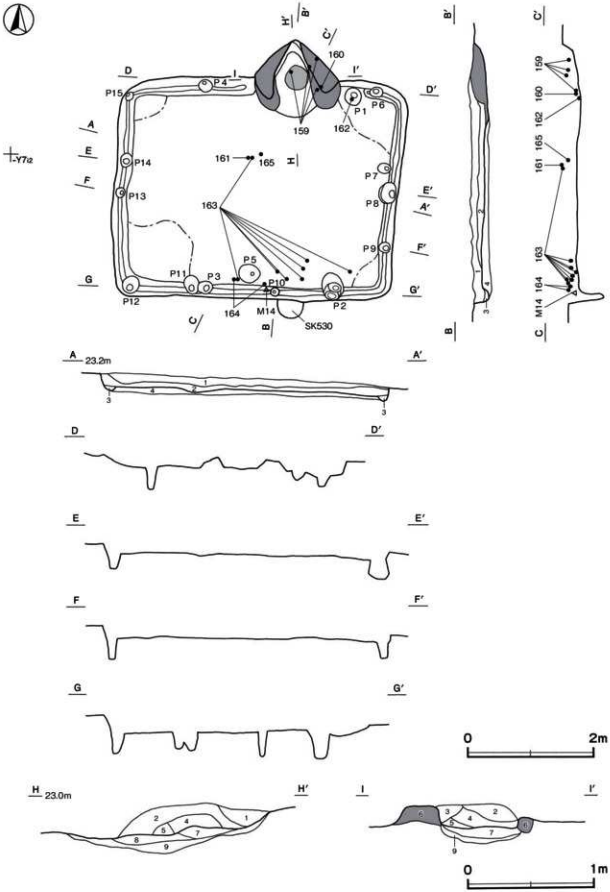
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	刀子	(11.3)	1.2	0.4	(12.76)	鉄	刃部先端・茎部欠損　刃部断面三角形	覆土中層	PL44

第 24 号竪穴建物跡（第 63 ～ 65 図　PL12）

調査年度　平成 26 年度

位置　調査区北部の－Y 7 i2 区，標高 23 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 530 号土坑を掘り込んでいる。



第 63 図　第 24 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　長軸4.54 m，短軸3.50 mの隅丸長方形で，主軸方向はN－1°－Eである。壁は高さ12～28cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，コーナー部付近を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から20～52cmの深さに掘り込み，第4層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。焚口から煙道部までの規模は124cmで，燃焼部幅は48cmである。袖部は，ロームブロックを含んだ第6層を積み上げて構築されている。火床部は床面から16cm掘りくぼめ，第7～9層を埋土して構築されている。火床面は第7層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1	暗	褐	色	粘土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量	6	灰	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	7	橙		色	焼土粒子多量
3	にぶい赤褐色			焼土ブロック中量	8	灰	褐	色	焼土粒子・粘土粒子微量
4	赤	褐	色	焼土ブロック多量，ローム粒子微量	9	にぶい褐色			ローム粒子中量，焼土粒子微量
5	褐		色	焼土粒子少量					

ピット　15か所。P1～P4は深さ16～40cmで，配置から主柱穴である。P5は深さ48cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P15は深さ16～36cmで，壁柱穴と考えられる。P11は，P3の補助柱穴か立て替えも想定できる。

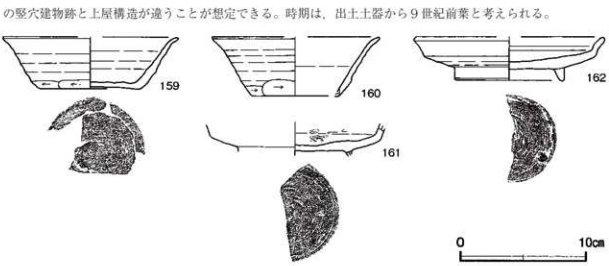
覆土　3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第4層は，貼床の構築土である。

土層解説

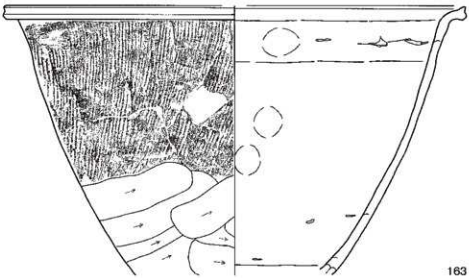
1	暗	褐	色	ロームブロック微量	3	暗	褐	色	ローム粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	4	黒		色	ローム粒子多量

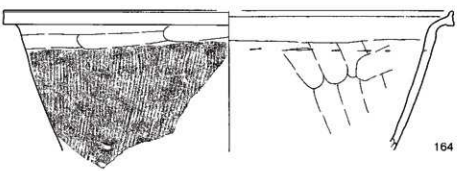
遺物出土状況　土師器片108点（坏15，高台付坏1，甕類92），須恵器片55点（坏21，高台付坏1，蓋1，盤2，甕類28，甑2），金属製品2点（刀子，小形鋤先？）が，覆土中から出土している。163は，南壁際に破片が集中しており，中央部から出土した破片と接合している。いずれも第1層に相当する層位から出土していることから，埋め戻しの過程で投棄されたものと考えられる。159は，竈の覆土下層から破砕された状態で出土していることから，廃絶に伴って投棄されたものと考えられる。

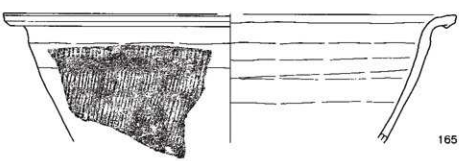
所見　今回の調査区では，壁下に複数のピットが存在する竪穴建物跡が確認できていない。このことから，他の竪穴建物跡と上屋構造が違うことが想定できる。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

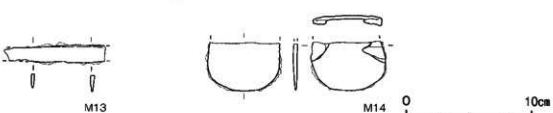


第64図　第24号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)









第 65 図　第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 64・65 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
159	須恵器	坏	[14.0]	4.1	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	竈覆土下層	40% 新治窯
160	須恵器	坏	[13.4]	4.7	[7.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	30% 新治窯
161	土師器	高台付坏	－	(2.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ削り後高台部貼付　黒色処理	覆土上層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
162	須恵器	盤	[14.8]	3.5	[8.5]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土下層	30% 新治窯
163	須恵器	甕	[36.6]	(21.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き，中位以下ヘラ削り，内面ナデ　胴横痕	覆土下～上層	10%　PL37 新治窯
164	須恵器	甕	[35.6]	(11.1)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ，輪積痕	覆土上層	10% 新治窯
165	須恵器	甕	[35.8]	(10.3)	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ	覆土中層	10% 新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	刀子	(8.1)	1.3	0.4	(13.84)	鉄	刃部先端・茎部欠損　刃部断面三角形	覆土中	PL44
M14	小形鏃先，	(3.0)	(6.0)	(0.8)	(26.10)	鉄	刃部摩耗　鋲部一部残存	覆土上層	PL44

第25号竪穴建物跡（第66・67図　PL12・13）

調査年度　平成26年度

位置　調査区北部の－Y7j3区，標高23mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第11号溝，第11号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.46m，短軸3.38mの方形で，主軸方向はN－11°－Eである。壁は高さ20～32cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，コーナー部付近を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から16～36cmの深さに掘り込み，第7層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。焚口から煙道部までの規模は112cmで，燃焼部幅は36cmである。袖部は，ローム粒子や粘土粒子を含んだ第6～11層を積み上げて構築されている。火床部は床面から18cm掘りくぼめ，第12～14層を埋土して構築されている。火床面は第12層の上面で，火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量
2　灰　褐　色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　粘土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　にぶい褐色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
9　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
10　褐　　色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
11　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
12　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量
13　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
14　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　P1は深さ40cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1層は，柱材を抜き取った後の堆積層で，第2・3層は，埋土と考えられる。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

覆土　6層に分層できる。不規則に堆積していることから埋め戻されている。第7層は，貼床の構築土である。

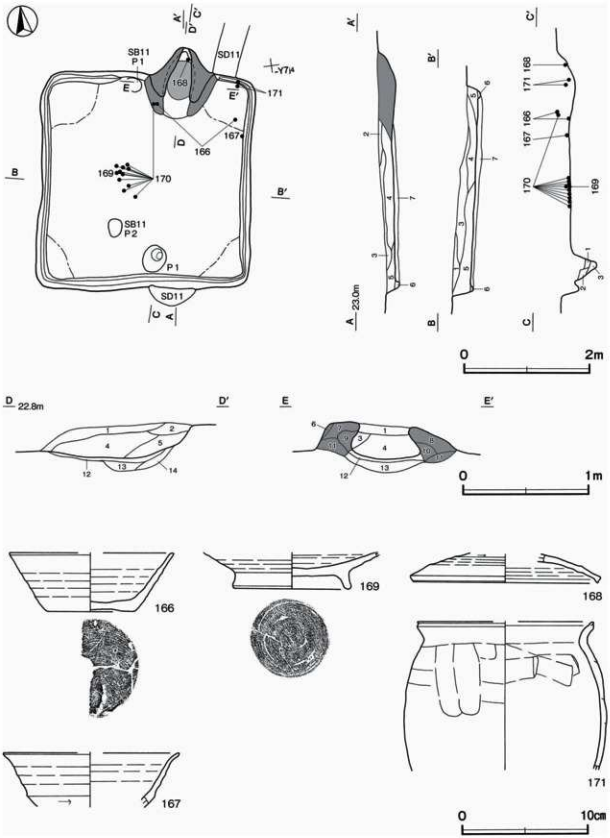
土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ローム粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック多量

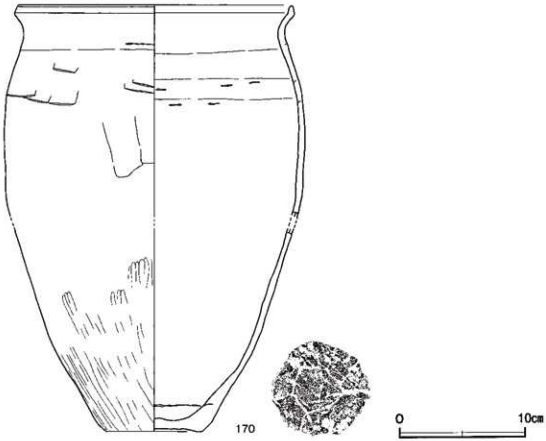
遺物出土状況　土師器片135点（坏9，甕類125，小形甕1），須恵器片36点（坏28，蓋1，鉢1，甕類6），金属製品2点（刀子）が，覆土中から出土している。166は，北東部の床面直上と北西部および北東部の覆土中，竈覆土中層から出土した破片が接合している。170は，大部分が中央部の床面直上から破砕された状態で出土しており，竈左袖付近の覆土中層から出土した破片と接合している。これらのことから，埋め戻しに伴って，

投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第 66 図　第 25 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 67 図　第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 66・67 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
166	須恵器	坏	[13.0]	4.7	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	体部ロクロナデ　底部回転ヘラ切り	覆土上層　覆土中層　覆土2層	40%　PL35　三和窯。
167	須恵器	坏	[13.9]	(4.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	5%　新治窯
168	須恵器	蓋	[14.7]	(2.3)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	撹覆土下層	20%　三和窯。
169	須恵器	甕	－	(2.9)	9.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台部貼付	床面直上　覆土中層	30%　新治窯
170	土師器	甕	21.8	(33.2)	7.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ナデ　輪積み痕	床面直上	60%
171	土師器	小形甕	[14.0]	(11.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	覆土下層	30%

第 28 号竪穴建物跡（第 68・69 図）

調査年度　平成 26 年度

位置　調査区北部の－Ｙ 7i4 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 4.22 m，短軸 4.12 mの方形で，主軸方向はＮ－ 29°－Ｅである。壁は高さ２～ 20cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，東壁際と各コーナー付近を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から 12 ～ 32cmの深さに掘り込み，第４・５層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 100cmで，燃焼部幅は 40cmである。袖部は，第８～ 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から８cm掘りくぼめ，第 11 層を埋土して構築されている。

火床面は，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　にぶい褐色　焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
4　にぶい褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量
7　褐　灰　色　ローム粒子・粘土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子少量
10　灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
11　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　5か所。P１～P４は深さ16～24cmで，配置から主柱穴と考えられる。P５は深さ18cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１～５層は柱抜き取り後の堆積層で，第６・７層は埋土と考えられる。P１～P４の底面から，柱のあたりを確認した。P３の底面には，柱のあたりが２か所あることから，部分的な建て替えや補助柱穴の可能性が考えられる。

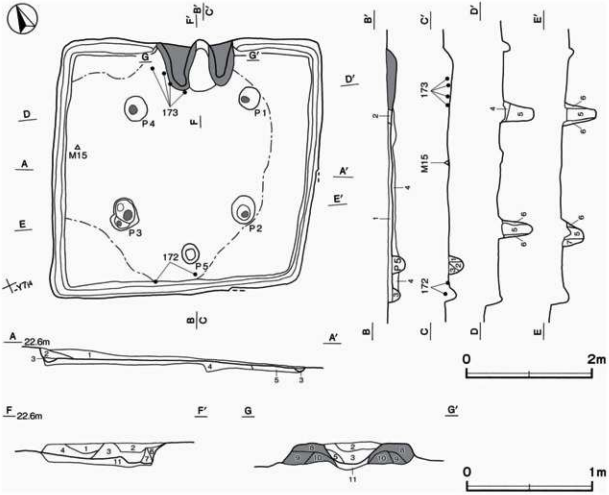
ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量
7　褐　　色　ロームブロック少量

覆土　３層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第４・５層は貼床の構築土である。

土層解説

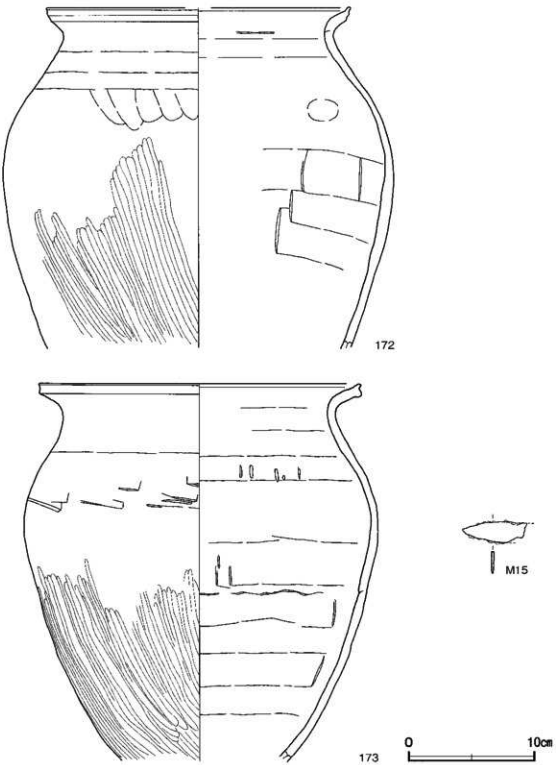
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量



第68図　第28号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片70点（坏4，甕類66），須恵器片3点（坏，蓋，甕類），金属製品1点（刀子）が，覆土中から出土している。172は，南壁際から破砕された状態で，173は，竈の西側からつぶれた状態で出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第69図　第28号竪穴建物跡出土遺物実測図

第28号竪穴建物跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
172	土師器	甕	[24.0]	[27.2]	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ヘラナデ　指頭痕　輪積み痕	覆土下層	30%
173	土師器	甕	25.4	(30.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ヘラナデ　輪積み痕	覆土下層	60%　PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	刀子	(5.1)	(1.7)	(0.15)	(4.84)	鉄	刃部先端のみ残存　刃部断面三角形	覆土上層	PL44

第32号竪穴建物跡（第70・71図）

調査年度　平成27年度

位置　調査区北部の－Z 7 a6区，標高22 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸4.10 m，短軸4.00 mの方形で，主軸方向はN－18°－Eである。壁は高さ16～32cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，中央部から竈にかけて踏み固められている。貼床は，確認面から36～40cmの深さに掘り込み，第9層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで108cmで，燃焼部幅は36cmである。袖部は，第6～9層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cm掘りくぼめ，第10層を埋土して構築されている。火床面は，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
6　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
7　暗　褐　色　焼土ブロック中量
8　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
9　暗　褐　色　粘土粒子少量，炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

ピット　4か所。P 1～P 4は深さ24～44cmで，配置から主柱穴と考えられる。第1層は柱抜き取り後の堆積層で，第2・3層は埋土と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

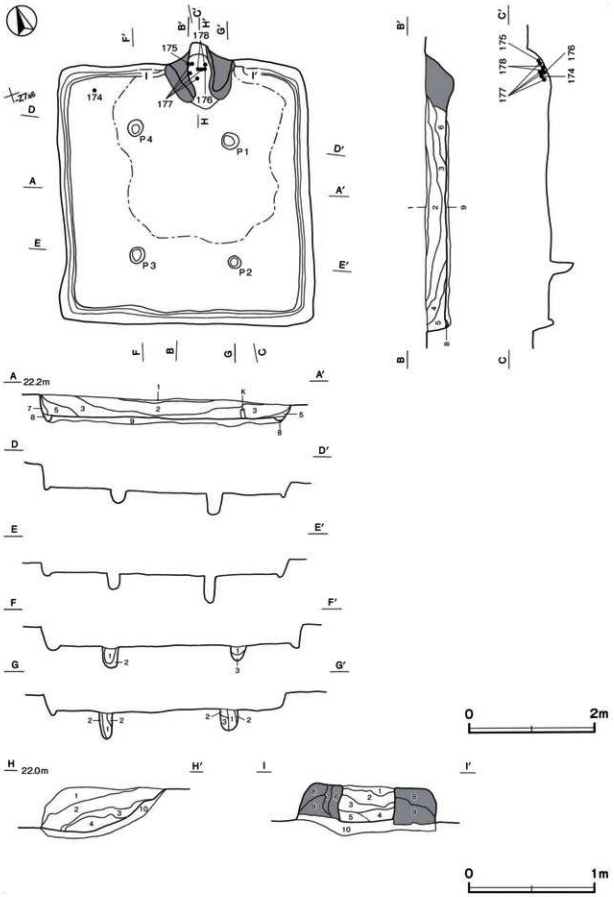
覆土　8層に分層できる。第1～3層はローム粒子を含む均質な堆積であることから自然堆積，第4～7層は多くの層にロームブロックや炭化物が含まれていることから，埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

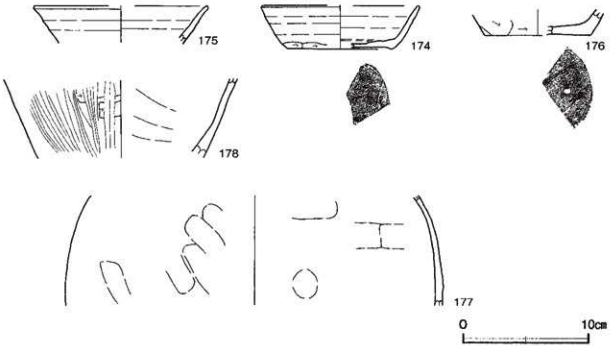
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　焼土粒子微量
6　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　褐　　色　ローム粒子中量
9　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片57点（坏1，甕類56），須恵器片5点（坏3，甕類2）が，覆土中から出土している。174は，北西コーナー付近の覆土中層と北東部の覆土中から出土した破片が接合している。また，土器片のうち約半数が竈覆土中から出土している。これらは，廃絶に伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第70図　第32号竪穴建物跡実測図



第 71 図　第 32 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 71 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
174	須恵器	坏	[12.4]	3.4	[8.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ削り	覆土中層 覆土中	20% 新治窯
175	須恵器	坏	[13.8]	(3.0)	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ	竈覆土中層	10% 新治窯
176	土師器	甕	－	(2.1)	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り，内面ナデ　底部ナデ	竈覆土中層	10%
177	土師器	甕	－	(9.8)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面ナデ　指頭痕	竈覆土中層	10%
178	土師器	甕	－	(6.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ	竈覆土中層	5％

第 33 号竪穴建物跡（第 72 ～ 74 図　PL13）

調査年度　平成 27 年度

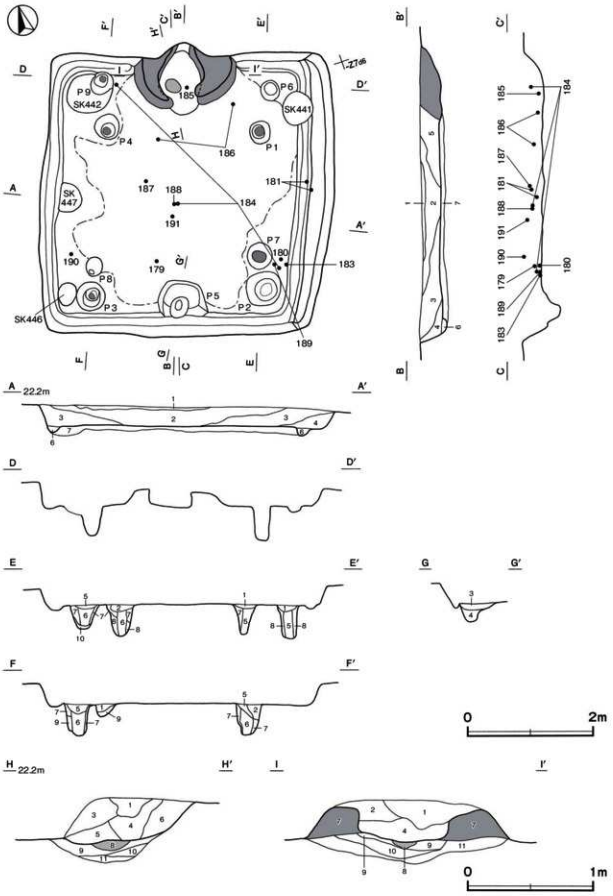
位置　調査区北部の－Ｚ７d5 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 441・442・446・447 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.66 m，短軸 4.44 m の方形で，主軸方向はＮ－ 20°－ Ｅである。壁は高さ 26 ～ 36cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，壁際と竈周辺を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から 40 ～ 48cmの深さに掘り込み，第７層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 116cmで，燃焼部幅は 64cmである。袖部は，粘土ブロックを含む第７層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 20cm掘りくぼめ，第８～ 11 層を埋土して構築されている。火床面は第８層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm掘り込まれ，火床部から外傾している。



第 72 図　第 33 号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

1 黒 褐 色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗 褐 色 粘土粒子中量，焼土粒子少量
3 暗 褐 色 焼土ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子微量
4 暗 褐 色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量
5 灰 褐 色 粘土粒子少量，焼土ブロック微量
6 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量
7 灰 褐 色 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
8 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量
9 暗 褐 色 焼土ブロック微量
10 暗 褐 色 ロームブロック中量
11 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

ピット 9か所。P 1～P 4は深さ40～50cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 9は深さ20～52cmで，補助柱穴の可能性が考えられる。第1～6層は柱抜き取り後の堆積層で，第7～10層は埋土と考えられる。P 1・P 3・P 4・P 7・P 9の底面から，柱のあたりを確認した。

ピット土層解説（P 1～P 8共通）

1 暗 褐 色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量
5 暗 褐 色 ローム粒子微量
6 暗 褐 色 ロームブロック微量
7 黄 褐 色 ローム粒子少量
8 にぶい黄褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
9 暗 褐 色 ローム粒子微量
10 褐 色 ロームブロック中量

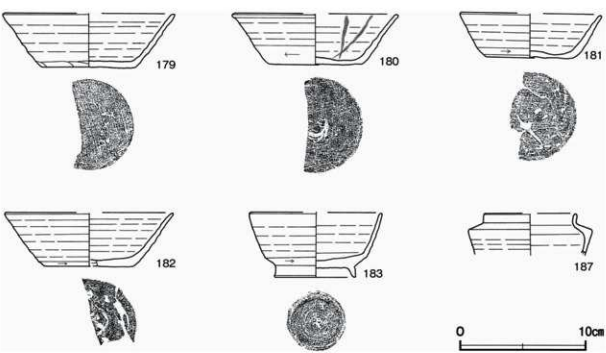
覆土 6層に分層できる。第1層は均質な堆積であることから自然堆積，第2～6層は多くの層にロームブロックや焼土粒子，炭化粒子が含まれていることから，埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

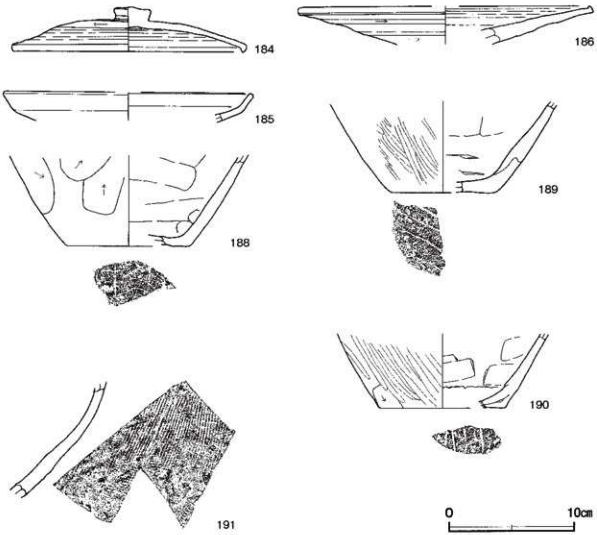
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
5 灰 黄 褐 色 焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子微量
6 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
7 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片238点（坏4，高台付坏1，甕類233），須恵器片90点（坏63，高台付坏1，蓋4，盤1，高盤1，壺1，短頸壺1，甕類17，甑1）が，散在する状態で覆土中から出土している。184は中央部，北西コーナー部付近，南東コーナー部付近から出土した破片が接合している。186は，竈東西の袖付近から出土した破片が接合している。これらのことから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第73図 第33号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第74図　第33号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第33号竪穴建物跡出土遺物観察表（第73・74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
179	須恵器	坏	[13.8]	4.3	[7.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部二方向のヘラ削り	覆土中層	40% 新治窯
180	須恵器	坏	[12.8]	4.1	[7.5]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り痕を残す二方向のヘラ削り　火襷	覆土下層 覆土中	40%　PL35 新治窯
181	須恵器	坏	[11.2]	3.5	[7.0]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ圧痕を残す多方向のヘラ削り	覆土中～上層	50% 新治窯
182	須恵器	坏	[13.4]	4.3	[7.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	覆土中	30% 新治窯
183	須恵器	高台付坏	[10.4]	5.2	6.3	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土下層	60%　PL36 新治窯
184	須恵器	蓋	18.2	3.5	–	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り後摘み部貼付　重ね焼き痕	覆土下～上層	70%　PL36 新治窯
185	須恵器	盤	[20.0]	(2.3)	–	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ	底覆土中層	5% 新治窯
186	須恵器	高盤	[23.6]	(3.8)	–	長石・石英	灰褐	普通	風部回転ヘラ削り	覆土下～中層	40% 脚ノ内窯
187	須恵器	短頸壺	[7.2]	(3.5)	–	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ	覆土上層	20% 新治窯
188	土師器	甕	–	(7.3)	[10.0]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ　底部木葉痕	覆土中層	10%
189	土師器	甕	–	(7.4)	[8.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ　底部木葉痕　輪積み痕	覆土下層	10%
190	土師器	甕	–	(6.0)	[10.0]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面下端ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ　底部木葉痕　輪積み痕	覆土上層	5%
191	須恵器	甕	–	(9.3)	–	長石・石英	黒褐	普通	体部外面縦位の平行叩き　自然釉付着	覆土上層	5% 新治窯

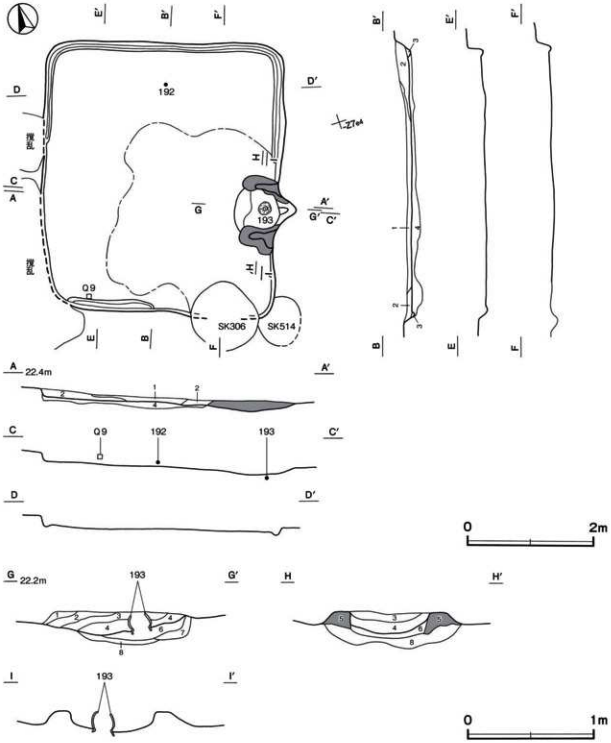
第 34 号竪穴建物跡（第 75・76 図　PL13・14）

調査年度　平成 27 年度

位置　調査区北部の－Z 7 d3 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 514 号土坑を掘り込み，第 306 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.30 m，短軸 3.84 mの長方形で，主軸方向はN－114°－Eである。壁は高さ 13 ～ 20cmで，ほぼ直立している。



第 75 図　第 34 号竪穴建物跡実測図

床　平坦な貼床で，東に向かってやや傾斜している。南東コーナー部付近から中央部付近が踏み固められている。貼床は，確認面から12～20cmの深さに掘り込み，第4層を埋土して構築されている。壁溝は，西側が攪乱を受けており，全体を確認できないが，北東コーナー部から北西コーナー部にかけてと，南壁の一部の壁下に巡っている。

竈　東壁のやや南寄りに付設されている。焚口から煙道部までの規模は96cmで，燃焼部幅は60cmである。袖部は，粘土ブロックを含んだ第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面から20cm掘りくぼめ，第6～8層を埋土して構築されている。火床面は第6層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。中央部に193が逆位で据えられていることから，支脚に転用されたものと考えられる。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ，火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　灰 黄 褐 色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子少量，粘土粒子微量
5　暗　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
7　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　炭化粒子少量，粘土粒子微量

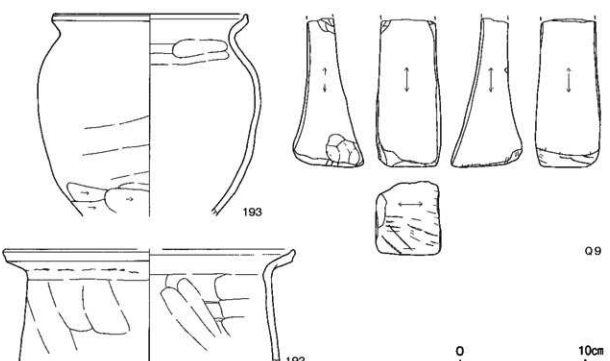
覆土　3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第4層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片30点（坏1，甕類27，小形甕2），須恵器片1点（坏），石器1点（砥石）が，覆土中から出土している。192は，北部の覆土下層から斜位で出土していることから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第76図　第34号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 34 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 76 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
192	土師器	甕	[23.2]	(9.2)	－	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面ナデ	覆土下層	5％
193	土師器	小形甕	15.2	(16.2)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面ヘラ削り後ナデ 二次火熱痕	竈脇方	80％ PL37 支脚転用

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	砥石	(11.9)	5.2	5.7	(377.6)	凝灰岩	砥面５面 溝状の研磨痕	覆土中層	PL42

第 35 号竪穴建物跡（第 77・78 図）

調査年度　平成 27 年度

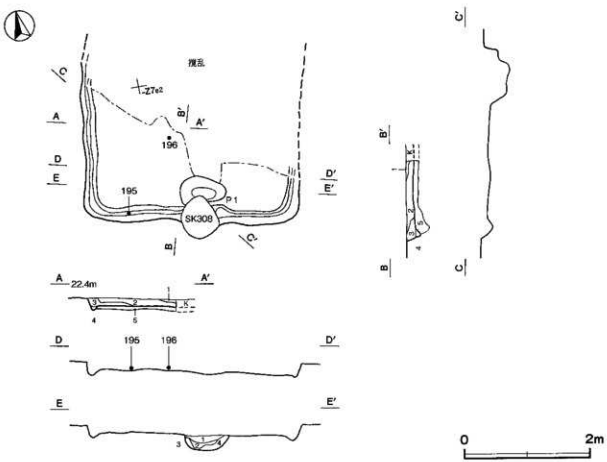
位置　調査区北部の－Ｚ７e2 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 308 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北側が撹乱を受けており，東西軸は 3.38 mで，南北方向の規模は 2.12 mしか確認できなかった。方形もしくは長方形で，主軸方向はＮ－ 14°－Ｅと推定できる。壁は高さ 10 ～ 19㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，確認できた部分は，ほぼ全面踏み固められている。貼床は，確認面から 16 ～ 20㎝の深さに掘り込み，第５層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

ピット　Ｐ１は深さ 24㎝で，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１～４層は柱抜き取り後の堆積層と考えられる。



第 77 図　第 35 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

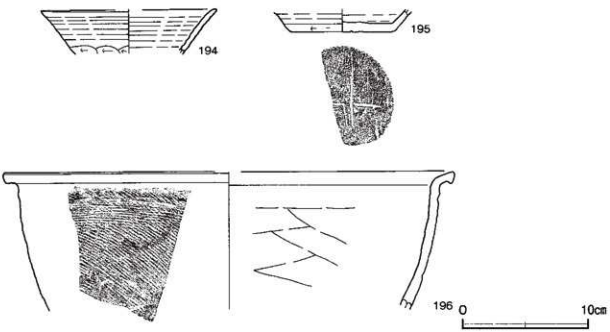
覆土　4層に分層できる。均質な堆積であることから自然堆積と考えられる。第5層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片42点（坏3，甕類39），須恵器片17点（坏6，鉢1，甕類10）が，覆土中から出土している。いずれも小片で，壁際や覆土下層から出土している土器片が多いことから，埋没の早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第78図　第35号竪穴建物跡出土遺物実測図

第35号竪穴建物跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
194	須恵器	坏	[13.8]	(3.6)	－	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
195	須恵器	坏	－	(1.8)	[8.2]	長石・石英・黒色	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削りヘラ記号	覆土下層	30% 新治窯 ヘラ記号「十」
196	須恵器	鉢	[35.8]	(11.1)	－	長石・石英・針状物質	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位・横位の平行叩き，内面斜位・横位のナデ	覆土下層	10% 木葉下窯

第38号竪穴建物跡（第79図）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のA 6c9区，標高21 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第500号土坑，第23・25号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.20 m，短軸3.64 mの長方形で，主軸方向はN－13°－Eである。壁は高さ6～12cmで，

ほぼ直立している。

床　平坦で，遺存部分での明確な硬化面は確認できなかった。

竈　北壁のやや東寄りに付設されているが，第23号溝によって削平されている。遺存している規模は，燃焼部幅が40cmである。袖部は，粘土ブロックを含む層を積み上げて構築されている。火床面は，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は第23号溝に掘り込まれているため，形状や規模は不明である。

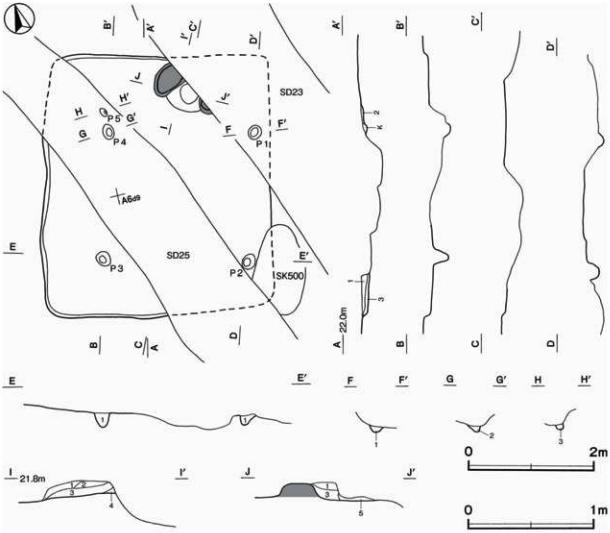
竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量
5　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量

ピット　5か所。P２・P３を除いて，第23・25号溝に掘り込まれている。P１～P４は深さ12～44cmで，配置から主柱穴と考えられる。P５は深さ12cmで，補助柱穴の可能性が考えられる。第１～３層は，いずれも柱抜き取り後の堆積層と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第79図　第38号竪穴建物跡実測図

覆土　3層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子，炭化粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　灰 黄 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片9点（甕類），須恵器片2点（甕類）が，覆土中，竈やピットの覆土中から出土している。出土土器は細片のため図示できなかったが，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器や周辺の遺構との関係から8世紀代と考えられる。

第39号竪穴建物跡（第80・81図）

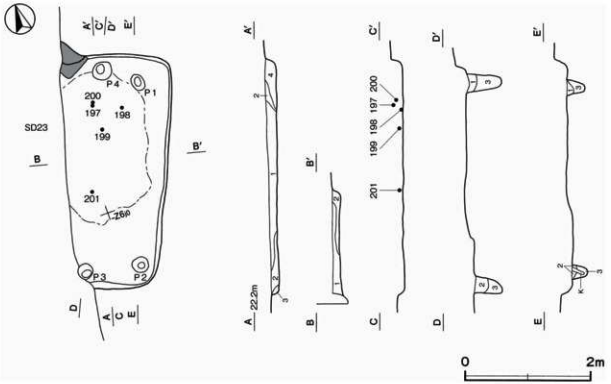
調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部の－Z 6i0区，標高22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南北軸は3.76 mで，東西軸は，西部が調査区域外に延び，第23号溝に掘り込まれているため，1.72 mしか確認できなかった。形状は，方形または長方形と推定できる。主軸方向はN－23°－Eである。壁は高さ12～20cmで，直立している。

床　平坦で，確認できた範囲は，壁際を除いて踏み固められている。



第80図　第39号竪穴建物跡実測図

竈　北壁に付設されている。調査区域外に延び，第23号溝に掘り込まれているため，右袖の一部しか確認できなかった。

ピット　4か所。P1・P2は深さ28cmで，配置から主柱穴と考えられる。P3・P4は深さ48cm・60cmで，補助柱穴と考えられる。第1～3層は，柱材を抜き取った後の堆積層と考えられる。

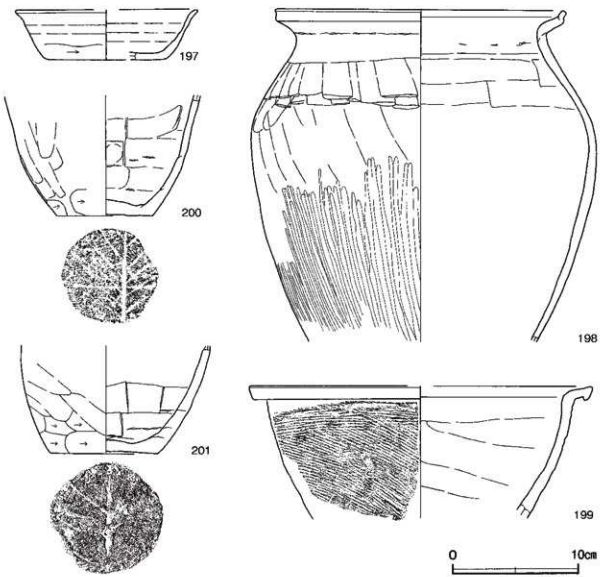
ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土粒子微量

覆土　4層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片32点（坏2，甕類28，小形甕2），須恵器片4点（坏2，鉢1，甕類1），金属製品1点（鏃）が，覆土中から出土している。197～201は，覆土下層から中層にかけて斜位で出土していることから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第81図　第39号竪穴建物跡出土遺物実測図

第39号竪穴建物跡出土遺物観察表（第81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
197	須恵器	坏	[14.6]	4.0	[9.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ削り	覆土中層	20% 新治窯
198	土師器	甕	22.8	(26.5)	－	長石・石英，雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ナデ　輪積み痕	覆土下層	70%　PL40
199	須恵器	甕	[27.4]	(10.4)	－	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面斜位・横位の平行叩き，内面ナデ	覆土下層	10% 新治窯
200	土師器	小形甕	－	(9.6)	7.7	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ　底部木葉痕　輪積み痕	覆土中層	10%
201	土師器	小形甕	－	(8.6)	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ　底部木葉痕を残すヘラ削り　輪積み痕	覆土下層 覆土中	30%

第40号竪穴建物跡（第82・83図）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のＡ７f9区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸2.80ｍ，短軸2.78ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁は高さ28～32cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から36～52cmの深さに掘り込み，第４層を埋土して構築されている。南部は２か所土坑状に掘り込まれている。壁溝が壁下にほぼ全周している。

竈　北壁の中央部に付設されている。焚口から煙道部までの規模は96cmで，燃焼部幅は32cmである。袖部は，粘土ブロックを含んだ第６・７層を積み上げて構築されている。火床部は床面から16cm掘りくぼめ，第８・９層を埋土して構築されている。火床面は第９層の上面で，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ，火床部から外傾している。第３～５層は天井部材や内壁の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
4　灰黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量
5　暗　褐　色　焼土ブロック多量，粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
8　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１は深さ40cm で，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２・Ｐ３は深さ48cm・16cmで，補助柱穴と考えられる。第１層は，柱材を抜き取った後の堆積層で，第２層は，埋土と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

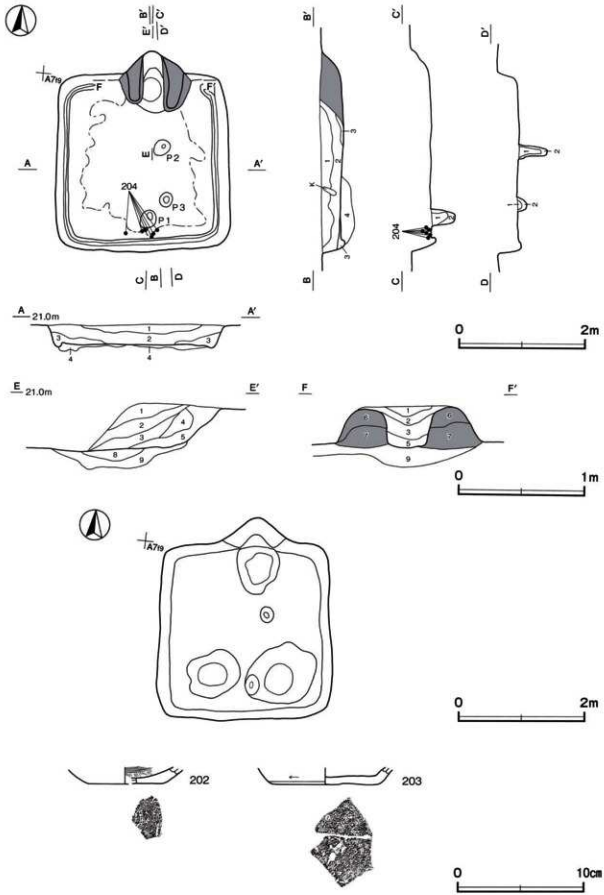
覆土　３層に分層できる。第１・２層は均質な堆積であることから自然堆積，第３層はロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第４層は，貼床の構築土である。

土層解説

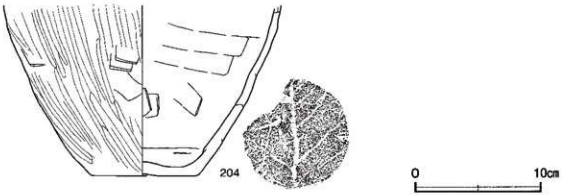
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片152点（坏９，甕類142，小形甕１），須恵器片11点（坏５，甕類６），鉄滓１点が，覆土中から出土している。204は，第３層の上面に当たる層位から破砕された状態で出土していることから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第 82 図　第 40 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第83図　第40号竪穴建物跡出土遺物実測図

第40号竪穴建物跡出土遺物観察表（第82・83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
202	土師器	坏	－	(1.3)	[6.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面横位のヘラ磨き　底部回転ヘラ削り　黒色処理	覆土中	10%
203	須恵器	坏	－	(1.4)	[8.4]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ切り痕を残すナデ	覆土中	10% 新治窯
204	土師器	甕	－	(13.6)	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ後中位以下ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部木葉痕	覆土下～中層	30%

第41号竪穴建物跡（第84・85図　PL14）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のＡ７g9区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸4.32ｍ，短軸3.69ｍの長方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁は高さ44～52cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，南及び東西の壁際を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から52～60cmの深さに掘り込み，第11・12層を埋土して構築されている。壁溝が東及び北東の壁際を除いて壁下に巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで112cmで，燃焼部幅は44cmである。袖部は，第５～７層を積み上げて構築されている。火床部は床面から18cm掘りくぼめ，第８～10層を埋土して構築されている。火床面は，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

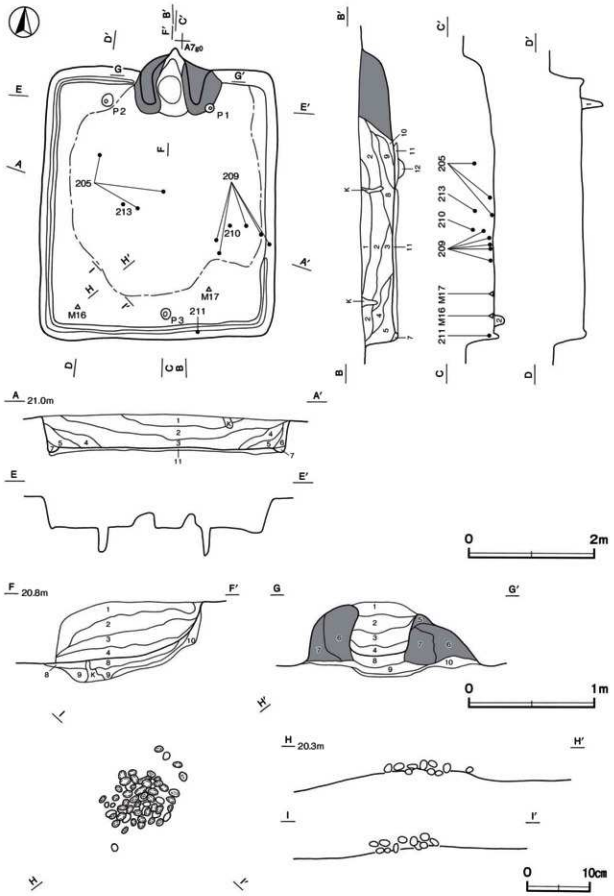
竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ44cm・36cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ３は深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。第１・２層の堆積状況から，柱抜き取り後に埋め戻されたと考えられる。

ピット土層解説（Ｐ２・Ｐ３共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量



第 84 図　第 41 号竪穴建物跡実測図

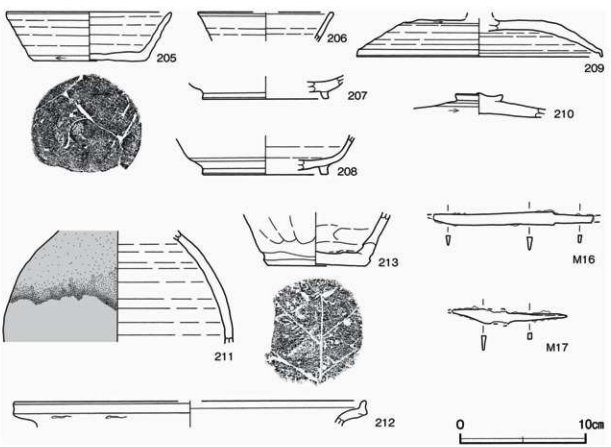
覆土　10層に分層できる。第1層は均質な堆積であることから自然堆積，第2～7層は多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第8～10層は焼土ブロックや粘土粒子が含まれていることから，竈の天井や袖部材の崩落土と推測できる。第11・12層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
8　灰 黄 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　灰 黄 褐 色　粘土粒子多量，炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
10　暗　　褐　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
11　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片112点（坏14，高台付坏1，甕類97），須恵器片14点（坏9，高台付坏1，蓋3，甕類1），灰釉陶器片1点（長頸瓶），金属製品2点（刀子），礫67点（石英）が，覆土中から出土している。207は，北東部と北西部の覆土中から出土した破片が接合し，209は東壁付近の覆土下層と中層から斜位で出土した破片が接合している。211は，南壁際の覆土中層から斜位で出土している。これらのことから，いずれも埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。また，南西部の床面直上から，重さ1.53～5.62g，径1.14～1.62cmの中礫が67点まとまった状態で出土している。いずれも石英の円礫で，出土状況から遺棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉に比定できる。出土した円礫は，大きさや色調，形状がほぼ同等であることから，何らかの意図があったことがうかがえるが，性格は不明である。



第85図　第41号竪穴建物跡出土遺物実測図

第41号竪穴建物跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
205	須恵器	坏	13.0	3.9	8.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土下～上層	60%　PL35 新出廃
206	須恵器	坏	[10.8]	(2.3)	－	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	撹覆土中	5%　堀ノ内窯。
207	土師器	高台付坏	－	(1.8)	[10.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部高台部貼付後ナデ	覆土中	10%
208	須恵器	高台付坏	－	(3.2)	[9.8]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部高台部貼付後ナデ	覆土中	10%　新出廃
209	須恵器	蓋	[19.4]	(3.0)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層　覆土中層	20%　新出廃
210	須恵器	蓋	－	(1.9)	－	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	10%　新出廃
211	灰釉陶器	長頸瓶	－	(8.9)	－	緻密・長石・石英	灰褐	良好	ロクロナデ	覆土中層	10%　猿投産
212	土師器	甕	[28.0]	(2.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　輪積み痕	覆土中	5%
213	土師器	甕	－	(4.3)	7.8	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外・内面ヘラナデ　輪積み痕　底部木葉痕	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	刀子	(12.7)	(1.2)	(0.4)	(17.35)	鉄	刃部先端・茎部欠損　刃部断面三角形	覆土下層	PL44
M17	刀子	(9.3)	(1.2)	(0.2)	(6.65)	鉄	刃部先端欠損　刃部断面三角形	覆土下層	PL44

第42号竪穴建物跡（第86・87図）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のＡ８h3区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸2.88ｍ，短軸2.72ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁は高さ28～48cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から36～52cmの深さに掘り込み，第８層を埋土して構築されている。

竈　北壁の東寄りに付設されている。焚口から煙道部までの規模は80cmで，燃焼部幅は60cmである。袖部は，粘土ブロックを含んだ第５層を積み上げて構築されている。火床部は床面から12cm掘りくぼめ，第６～８層を埋土して構築されている。火床面は第６層の上面で，火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床部から外傾している。第３・４層は天井部材や内壁の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　灰褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子中量
5　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，ローム粒子微量
6　にぶい黄褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
8　褐　色　ロームブロック中量

ピット　６か所。Ｐ１は深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２～Ｐ６は深さ16～36cmで，性格不明であるが，Ｐ２～Ｐ４は，配置と深さから壁柱穴の可能性が考えられる。第１・２層は，ロームブロックが含まれていることから，柱材を抜き取った後，埋め戻されたと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒褐色　ロームブロック中量
2　暗褐色　ロームブロック多量

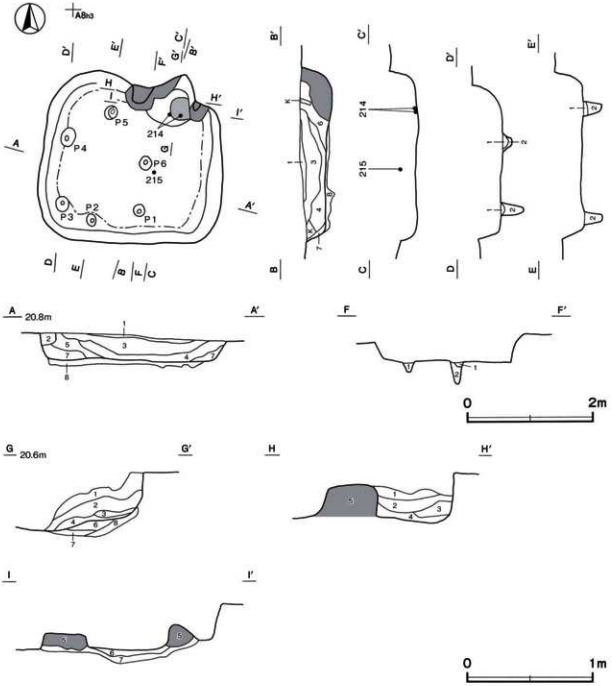
覆土　７層に分層できる。第１・２層は均質な堆積であることから自然堆積，第３～７層はロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第８層は，貼床の構築土である。

土層解説

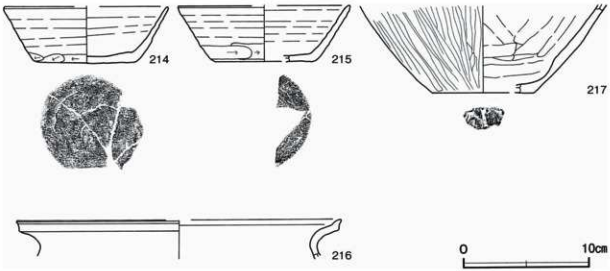
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 58 点（坏 5，甕類 53），須恵器片 14 点（坏 13，甕類 1）が，覆土中から出土している。214 は竈覆土下層と北東部・北西部及び南西部の覆土中から出土している破片が接合していることから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 86 図　第 42 号竪穴建物跡実測図



第 87 図　第 42 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 42 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 87 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
214	須恵器	坏	[13.0]	4.5	7.6	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	竈覆土下層覆土中	70% 新治窯
215	須恵器	坏	[13.8]	4.4	[8.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ削り	覆土中層覆土中	30% 新治窯
216	土師器	甕	[26.0]	(3.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	竈覆土中	5%
217	土師器	甕	－	(7.0)	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ　底部木葉痕	覆土中	10%

第 43 号竪穴建物跡（第 88・89 図　PL15）

調査年度　平成 27 年度

位置　調査区中央部のＡ８㌃区，標高 21 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 3.18 m，短軸 3.00 mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁は高さ６～26cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から 12 ～ 40cmの深さに掘り込み，第５層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで 96cmで，燃焼部幅は 36cmである。袖部は，第７・８層を積み上げて構築されている。火床部は床面から６cm掘りくぼめ，第９層を埋土して構築されている。火床面は，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は壁外に 52cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量
7　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
8　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

ピット　Ｐ１は深さ 28cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。堆積状況から，柱抜き取り後に埋め戻されたと考えられる。

ピット土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

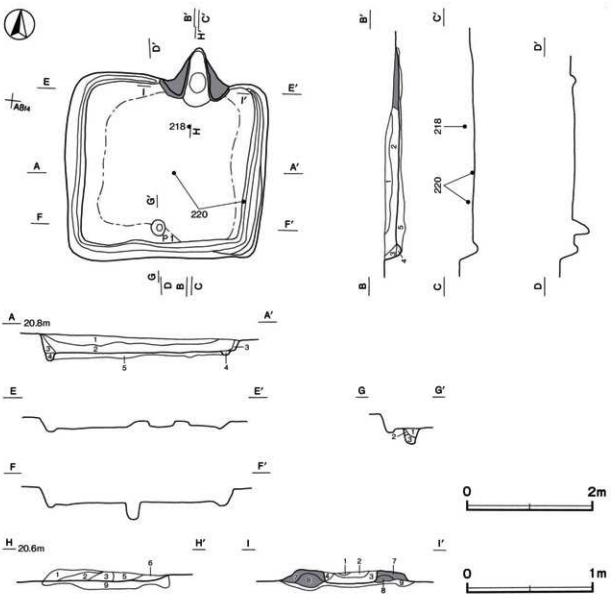
覆土　4層に分層できる。第1層は均質な堆積であることから自然堆積，第2～4層は各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第5層は貼床の構築土である。

土層解説

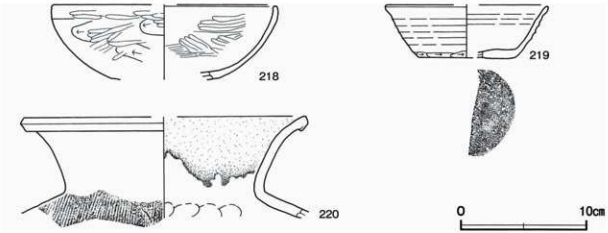
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片18点（坏4，甕類14），須恵器片10点（坏2，甕類8），金属製品1点（鏃）が，覆土中から出土している。220は，中央部の覆土下層と東壁際の覆土中層から斜位で出土している破片が接合している。竈の覆土中から出土した土器はいずれも小片で図示できないが，これらは埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第88図　第43号竪穴建物跡実測図



第 89 図　第 43 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 89 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
218	土師器	坏	[17.6]	(6.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	覆土上層 覆土中	30%
219	須恵器	坏	[12.8]	4.2	[7.6]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ削り	覆土中	30% 新治窯
220	須恵器	甕	[22.3]	(8.1)	－	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位の平行叩き　指頭痕　自然釉付着	覆土下層	20%　PL41 新治窯

第 44 号竪穴建物跡（第 90 図）

調査年度　平成 27 年度

位置　調査区北部の－Z 7d7 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 15 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.56 m，短軸 3.46 mの方形で，主軸方向はN－0°である。壁は高さ 20 ～ 26cmで，外傾している。

床　平坦な貼床で，硬化面は確認できなかった。貼床は，南西を除くコーナー部を確認面から 24 ～ 40cmの深さに土坑状に掘り込み，第 4・5 層を埋土して構築されている。

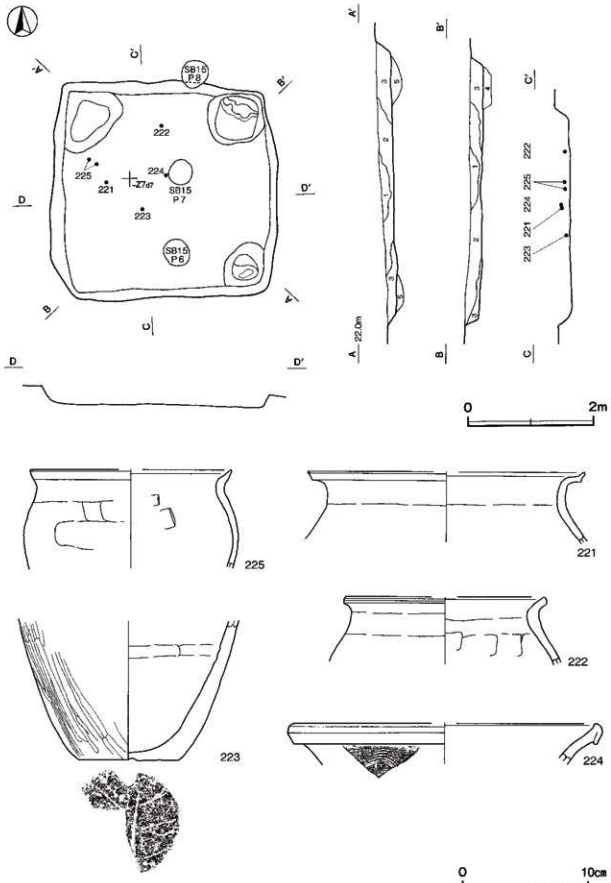
覆土　3 層に分層できる。第 1 層は均質な堆積であることから自然堆積，第 2・3 層はロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第 4・5 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 100 点（坏 7，甕類 92，小形甕 1），須恵器片 4 点（坏 2，甕類 2）が，覆土中から出土している。小片が散在する状態で覆土下層から中層にかけて出土していることから，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　竈や床の硬化面が検出されていないことから，住居以外の機能が推測できるが，性格は不明である。時期は，出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第 90 図　第 44 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第44号竪穴建物跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
221	土師器	甕	[21.8]	(5.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5％
222	土師器	甕	[15.7]	(5.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部内面ヘラナデ	覆土下層	5％
223	土師器	甕	－	(11.2)	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ　底部木葉痕	覆土下層	30％
224	須恵器	甕	[24.0]	(3.2)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　6条一単位の波状文	覆土中層	5％ 鉄出窯
225	土師器	小形甕	[15.9]	(7.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	覆土下層	20％

第45号竪穴建物跡（第91・92図　PL15・16）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のＡ８f2区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第505・506号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.16ｍ，短軸2.91ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁は高さ50～56cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，西壁際と北東コーナー部付近を除いて踏み固められている。壁溝が東壁と南壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで112cmで，燃焼部幅は36cmである。袖部は，粘土ブロックを含む第８～10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cm掘りくぼめ，第11・12層を埋土して構築されている。火床面は，明確な赤変硬化が確認できなかった。煙道部は，壁外に40cm掘り込まれ，火床部からほぼ外傾している。第３～５層は天井部材や内壁の崩落土，第６層は煙道部痕跡への流入土と考えられる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
3　にぶい橙色　焼土ブロック多量，粘土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量
5　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　褐　　色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１は配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２～Ｐ５は深さ12～32cmで，性格は不明である。堆積状況から，埋め戻されたと考えられる。

ピット土層解説（Ｐ１・Ｐ３～Ｐ５共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

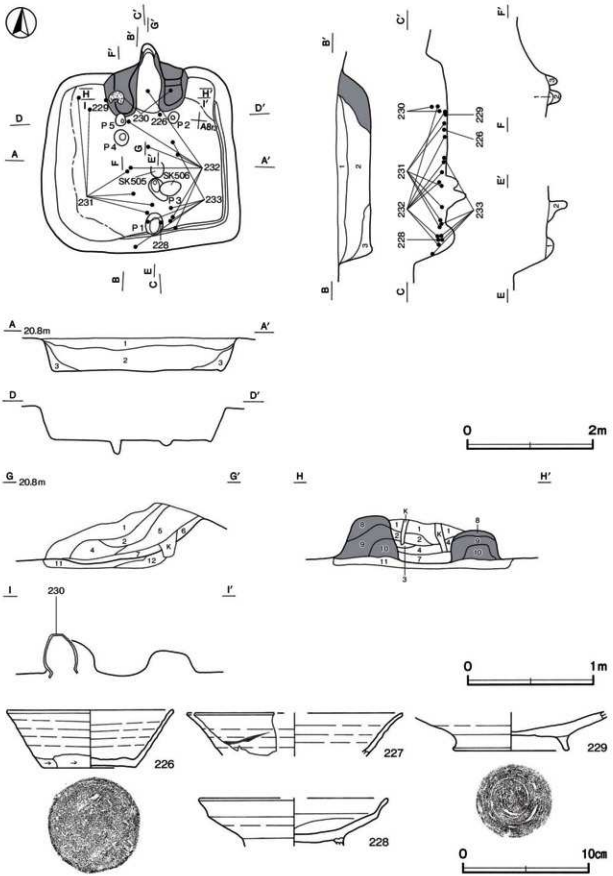
覆土　３層に分層できる。第１層は均質な堆積であることから自然堆積，第２・３層はロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

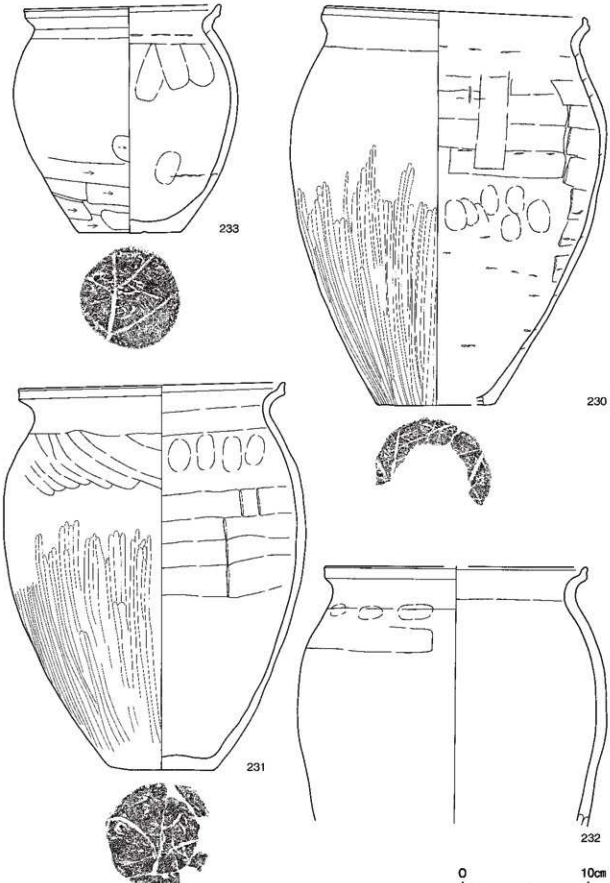
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片99点（坏９，甕類89，小形甕１），須恵器片28点（坏16，盤２，甕類10）が，覆土中から出土している。230は，竈左袖部の構築土中から逆位で据えられた状態で出土していることから，竈の補強材として転用されたものと考えられる。226は，竈前の覆土下層から逆位で出土している。231～233は，第２層に相当する層位から破片が散在した状態で，出土している。また，230と接合する破片をはじめ，図示できない小片が，竈の覆土内から斜位で出土している。これらは，埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第 91 図　第 45 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 92 図　第 45 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第45号竪穴建物跡出土遺物観察表（第91・92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
226	須恵器	坏	13.0	4.6	7.3	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土下層	100%　PL35　新治窯
227	須恵器	坏	[17.0]	(3.4)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ	竈覆土中	10%　新治窯　二上塚窯
228	須恵器	盤	[14.2]	(3.8)	－	長石・石英・雲母・砂礫	灰	普通	底部ヘラ削り後高台部貼付　重ね焼き痕	覆土下層	40%　新治窯
229	須恵器	甕	－	(3.1)	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土下層	30%　新治窯
230	土師器	甕	21.0	31.5	[9.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ヘラナデ　指頭痕　底部木葉痕	竈袖部　竈覆土中	70%　PL40　煤付着
231	土師器	甕	21.0	30.9	8.3	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，中位以下ヘラ磨き，内面ヘラナデ　ヘラ圧痕	覆土下～上層	80%　PL40
232	土師器	甕	[21.0]	(20.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ　指頭痕	覆土下～中層	30%
233	土師器	小形甕	15.5	18.2	8.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ　指頭痕　輪積み痕　底部木葉痕	覆土下～中層	70%　PL38

第49号竪穴建物跡（第93～95図　PL16）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のＡ8i区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第526号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.54ｍ，短軸5.24ｍの方形で，主軸方向はＮ－7°－Ｗである。壁は高さ8～22cmで，直立している。

床　平坦な貼床で，東西の壁際を除いて踏み固められている。貼床は，確認面から12～44cmの深さに，各コーナー部と竈前を掘りくぼめ，第9層を埋土して構築されている。壁溝が壁下に巡っている。

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで132cmで，燃焼部幅は72cmである。袖部は，粘土ブロックを含む第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は床面から20cm掘りくぼめ，第10層を埋土して構築されている。火床面は，明確な赤変硬化が確認できなかった。240が，逆位で据えられた状態で出土していることから，支脚に転用されたものと考えられる。また，左側に寄っていることから，横並び二個掛けの竈であったことが推測できる。煙道部は，壁外に32cm掘り込まれ，火床部から外傾している。第4層は天井部材や内壁の崩落土と考えられる。

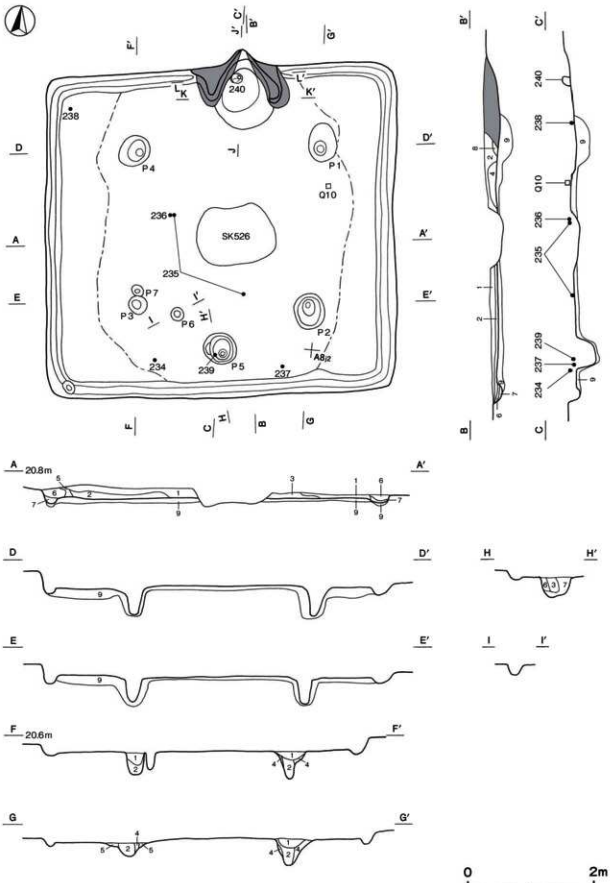
竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　明 赤 褐 色　焼土ブロック少量
4　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量
5　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
7　灰　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘土ブロック微量
8　黒　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
9　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子微量
10　褐　　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

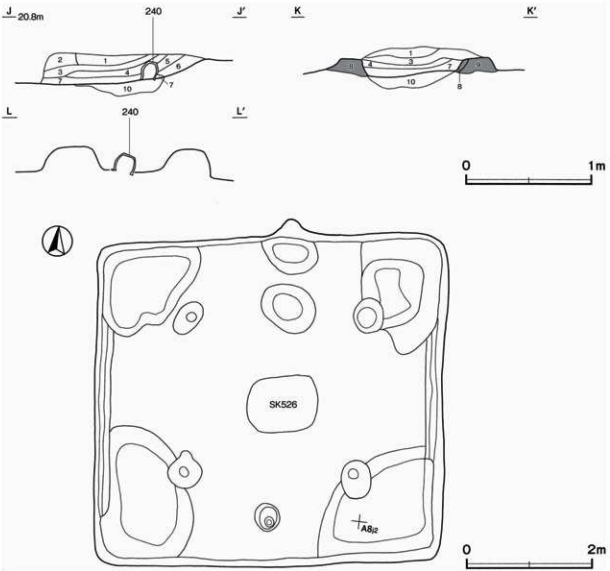
ピット　7か所。Ｐ1～Ｐ4は深さ48～52cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5は深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ6・Ｐ7は深さ16cm・32cmで，補助柱穴の可能性が考えられる。第1～3層は柱抜き取り後の埋積層で，第4～7層は埋土と考えられる。

ピット土層解説（Ｐ1～Ｐ5共通）

1　黒　　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック多量



第 93 図　第 49 号竪穴建物跡実測図(1)



第 94 図　第 49 号竪穴建物跡実測図(2)

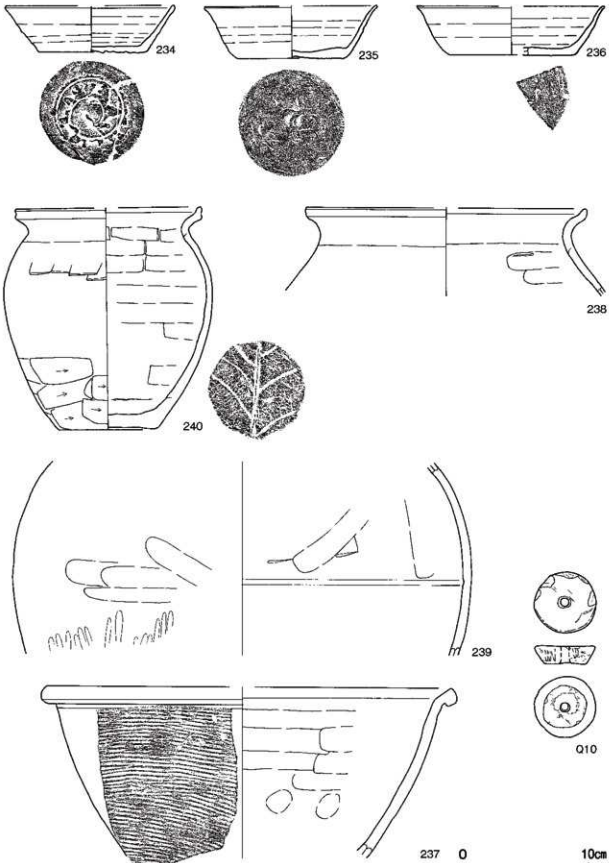
覆土　8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第 9 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 135 点（坏 13，甕類 121，小形甕 1），須恵器片 35 点（坏 32，鉢 1，甕類 2），石器 1 点（紡錘車），礫 6 点（石英）が，覆土中から出土している。235 は，中央部の覆土下層から出土した破片が接合している。239 は，南壁際の中央部の覆土下層から，大型の破片がつぶれた状態で出土している。Q 10 や多くの土器片が斜位で出土していることから埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。また，南西部の壁溝内と覆土中から，重さ 1.08 ～ 2.16g，径 1.34 ～ 1.48cm の中礫が 6 点出土している。いずれも石英で，南西に近接する第 41 号竪穴建物跡から出土したものと大きさや色調，形状が類似している。関連性が推測できるが，性格は不明である。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 95 図　第 49 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 49 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 95 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
234	須恵器	坏	[13.3]	3.7	8.5	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端ナデ　底部回転ヘラ切り	覆土下層	70%　PL35 新出土品
235	須恵器	坏	[13.6]	4.2	8.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端ナデ　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土下層	70% 新出土品
236	須恵器	坏	[15.0]	3.8	[10.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	20% 新出土品
237	須恵器	鉢	[34.0]	(13.5)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位の平行叩き，内面ヘラナデ　指頭痕	覆土下層	10% 新出土品
238	土師器	甕	[22.0]	(7.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ　輪積み痕	覆土下層	5 %
239	土師器	甕	－	(15.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ナデ，ヘラ磨き，内面ナデ，ヘラ圧痕	覆土下層	20%
240	土師器	小形甕	[14.1]	17.6	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ，下端ヘラ削り　体部内面ヘラナデ　底部本葉痕	覆土下層，職種方一職種土中層	70%　PL37 煤付着

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 10	紡錘車	4.9	1.4	0.9	47.03	粘板岩	上面・下面研磨　削り痕　側面削り後研磨　一方向からの穿孔	覆土下層	PL42

表3　奈良・平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規 模 長軸×短軸 (m)	壁 高 (cm)	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
1	B 5 j6	N－27°－E	方 形	4.63 × 4.53	25 ～ 38	平坦	全周	4	2	－	北壁	－	自然入為	土師器	8 世紀代	SK13 → 本跡 → SK11
2	B 5 i2	N－7°－E	隅丸方形	3.64 × 3.48	43 ～ 52	平坦	全周	－	1	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，金属製品	9 世紀中葉	本跡 → SD 2
3	C 5 a9	N－19°－E	長方形	3.50 × 2.89	19 ～ 20	平坦	一部	－	1	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器	9 世紀中葉	SK43 → 本跡
4	B 5 j2	N－11°－E	隅丸方形	3.83 × 3.75	24 ～ 31	平坦	全周	－	1	1	北壁	－	人為	土師器，須恵器，灰釉陶器，金属製品	8 世紀後葉	本跡 → SK119
5	B 5 j5	N－40°－E	隅丸長方形	3.60 × 2.84	14 ～ 24	平坦	ほぼ全周	－	－	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，石器，金属製品	9 世紀後葉	
6	A 6 e7	N－3°－E	方 形	3.90 × 3.73	3 ～ 6	平坦	(全周)	－	－	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，土製品，石器，金属製品	9 世紀後葉	
9	A 6 f4	不　明	方形・長方形	(3.33 × (2.44)	14 ～ 24	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	土師器，灰釉陶器	8 世紀後葉～9 世紀初頭	本跡 → SD 3・4・22
11	A 6 f1	N－2°－E	方 形	3.76 × 3.64	8 ～ 24	平坦	ほぼ全周	－	1	－	竈北壁中央	－	人為	土師器，須恵器，石器	9 世紀後葉	本跡 → SD 3
12	A 6 g2	N－19°－E	方 形	4.89 × 4.82	20 ～ 25	平坦	全周	4	1	1	北壁	－	人為	土師器，須恵器	8 世紀後葉	
13	A 6 i2	N－21°－E	長方形	4.56 × 3.93	8 ～ 18	平坦	全周	4	1	2	北壁	－	人為	土師器，須恵器，金属製品	8 世紀代	本跡 → SB 7
14	B 5 f0	N－14°－E	隅丸方形	2.80 × 2.55	16 ～ 28	平坦	ほぼ全周	－	1	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，石器	9 世紀後葉	本跡 → SK130
15	A 6 j9	N－7°－E	方 形	3.43 × 3.29	8 ～ 12	平坦	(全周)	－	1	1	北壁	－	自然	土師器，須恵器	9 世紀中葉～後葉	本跡 → SF 4
16 A	A 6 i4	N－13°－E	隅丸方形	4.35 × 4.12	20 ～ 34	平坦	－	－	－	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，鉄滓	9 世紀後葉	SI16B → 本跡
16 B	A 6 i4	N－13°－E	方 形	3.84 × 3.78	－	平坦	ほぼ全周	－	1	－	－	－	人為	－	9 世紀中葉	本跡 → SI16A
17	A 5 h7	N－13°－E	長方形	3.38 × 3.06	28 ～ 36	平坦	全周	－	1	2	北壁	－	人為	土師器，須恵器，金属製品	8 世紀後葉	本跡 → SK151
19	-Y 7 g9	N－11°－E	隅丸方形	4.44 × 4.08	28 ～ 40	平坦	全周	4	1	1	北壁	－	自然入為	土師器，須恵器，金属製品	8 世紀後葉	SK265 → 本跡
20	-Y 7 h6	N－97°－E	方 形	4.30 × 3.96	16 ～ 32	平坦	全周	4	1	－	東壁	－	人為	土師器，須恵器，石器	8 世紀後葉	
21	-Y 7 h7	N－103°－E	方 形	4.12 × 3.80	20 ～ 30	平坦	ほぼ全周	－	－	1	東壁	－	人為	土師器，須恵器	8 世紀後葉	本跡 → PG 4
22	-Y 7 f2	N－21°－E	方 形	4.00 × 3.82	16 ～ 32	平坦	全周	4	2	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，石器，金属製品	9 世紀後葉	SK291 → 本跡 → PG 4
24	-Y 7 i2	N－1°－E	隅丸長方形	4.54 × 3.50	12 ～ 28	平坦	全周	4	1	10	北壁	－	人為	土師器，須恵器，金属製品	9 世紀後葉	SK530 → 本跡
25	-Y 7 j3	N－11°－E	方 形	3.46 × 3.38	20 ～ 32	平坦	全周	－	1	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，金属製品	9 世紀後葉	本跡 → SD 11，SB11
28	-Y 7 i4	N－29°－E	方 形	4.22 × 4.12	2 ～ 20	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，金属製品	8 世紀中葉	
32	-Z 7 a6	N－18°－E	方 形	4.10 × 4.00	16 ～ 32	平坦	全周	4	－	－	北壁	－	自然入為	土師器，須恵器	8 世紀中葉～後葉	
33	-Z 7 d5	N－20°－E	方 形	4.66 × 4.44	26 ～ 36	平坦	全周	4	1	4	北壁	－	自然入為	土師器，須恵器	8 世紀後葉	本跡 → SK441・442・446・447
34	-Z 7 d3	N－114°－E	長方形	4.30 × 3.84	13 ～ 20	平坦	一部	－	－	－	東壁	－	人為	土師器，須恵器，石器	9 世紀後葉	SK314 → 本跡 → SK306
35	-Z 7 e2	N－14°－E	方形・長方形	3.38 × (2.12)	10 ～ 19	平坦	(全周)	－	1	－	－	－	自然	土師器，須恵器	8 世紀後葉	本跡 → SK308
38	A 6 e9	N－13°－E	長方形	4.20 × 3.64	6 ～ 12	平坦	－	4	－	1	北壁	－	人為	土師器，須恵器	8 世紀代	本跡 → SD23・25，SK500
39	-Z 6 i0	N－23°－E	方形・長方形	3.76 × (1.72)	12 ～ 20	平坦	－	－	2	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，鉄滓	8 世紀後葉	本跡 → SD23
40	A 7 f9	N－4°－W	隅丸方形	2.80 × 2.78	28 ～ 32	平坦	ほぼ全周	－	1	2	北壁	－	自然入為	土師器，須恵器，鉄滓	8 世紀後葉	
41	A 7 g9	N－2°－W	長方形	4.32 × 3.69	44 ～ 52	平坦	ほぼ全周	2	1	－	北壁	－	自然入為	土師器，須恵器，灰釉陶器，金属製品，鞴	8 世紀中葉	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
42	A8h3	N－5°－E	隅丸方形	2.88×2.72	28～48	平坦	－	－	1	5	北壁	－	自然人為	土師器，須恵器	8世紀後葉	
43	A8f4	N－3°－W	隅丸方形	3.18×3.00	6～26	平坦	全周	－	1	－	北壁	－	自然人為	土師器，須恵器，金属製品	8世紀後葉	
44	Z7d7	N－0°	方形	3.56×3.46	20～26	平坦	－	－	－	－	－	－	自然人為	土師器，須恵器	8世紀中葉	本跡→SB15
45	A8f2	N－9°－W	隅丸方形	3.16×2.91	50～56	平坦	一部	－	1	4	北壁	－	自然人為	土師器，須恵器	8世紀後葉	本跡→SK505・506
49	A8i1	N－7°－W	方形	5.54×5.24	8～22	平坦	全周	4	1	2	北壁	－	人為	土師器，須恵器，石器，鞴	8世紀中葉	本跡→SK536

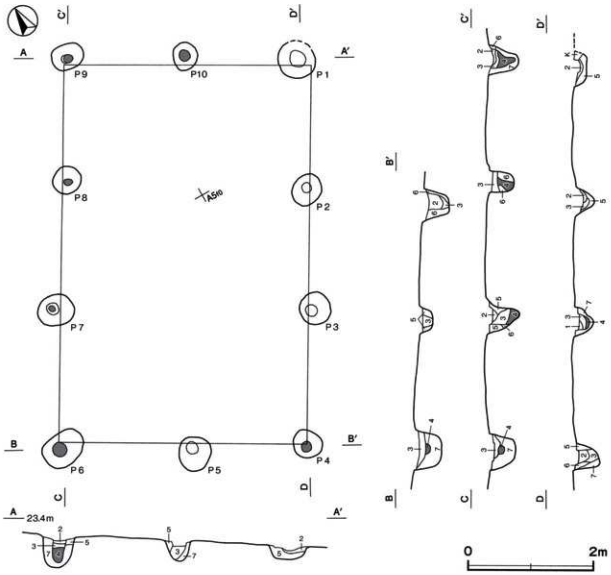
(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第96図）

調査年度　平成25年度

位置　調査区中央部のA5f9区，標高23mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN－29°－Eの南北棟である。規模は，桁行6.0m，



第96図　第1号掘立柱建物跡実測図

梁行3.9 mで，面積は23.4㎡である。柱間寸法は，桁行の両妻側が2.1 m（7尺），中央間が1.8 m（6尺），北梁行が東平から2.1 m（7尺），1.8 m（6尺），南梁行が1.8 m（6尺），2.1 m（7尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径44～112cm，短径40～52cmである。深さは22～52cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第1～3層は柱材抜き取り後の覆土，第4層は柱痕跡，第5～7層は埋土と考えられる。P4・P6～P10の底面から，柱のあたりを確認した。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

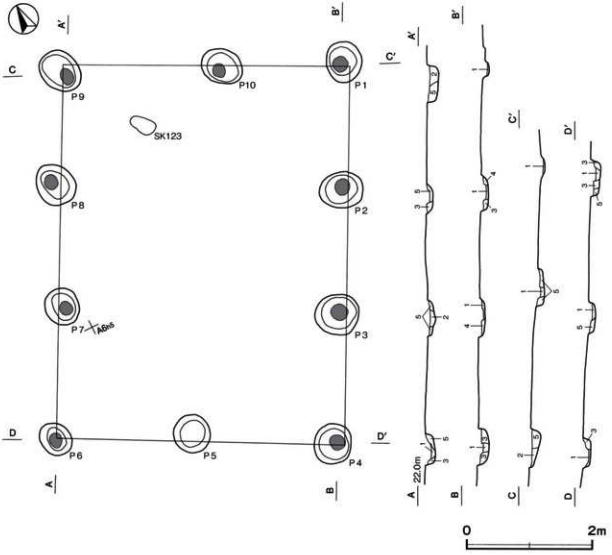
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子多量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

所見　時期は，第1・12・13号竪穴建物跡の主軸方向と近似することや，第2・6号掘立柱建物跡の桁行方向，規模・構造が類似することから8世紀代の可能性がある。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。

第2号掘立柱建物跡（第97図）

調査年度　平成25年度

位置　調査区中央部のA6g5区，標高22 mほどの台地斜面部に位置している。



第97図　第2号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第123号土坑との重複が認められるが，柱穴との重複がないため，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がN－25°－Eの南北棟である。規模は，桁行6.0ｍ，梁行4.5ｍで，面積は27.0㎡である。柱間寸法は，桁行の北妻側が1.8ｍ（６尺），中央間と南妻側が2.1ｍ（７尺），北梁行が東平から2.1ｍ（７尺），2.4ｍ（８尺），南梁行が2.4ｍ（８尺），2.1ｍ（７尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径56～72㎝，短径44～60㎝である。深さは８～22㎝で，掘方の壁はほぼ直立している。第１・２層は柱材抜き取り後の覆土で，第３～５層は埋土と考えられる。Ｐ５を除いて，底面から柱のあたりを確認した。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

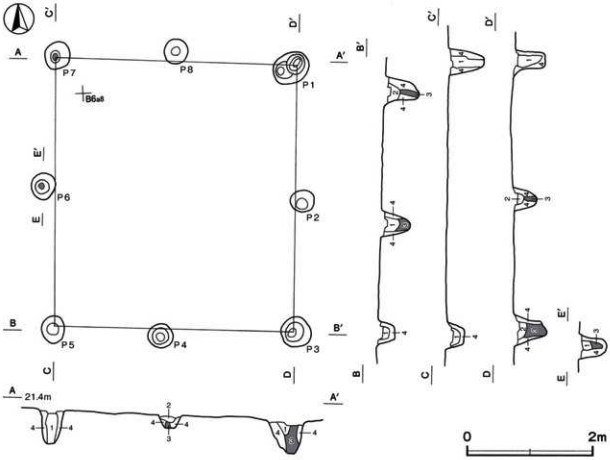
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

所見　時期は，第１・12・13号竪穴建物跡の主軸方向と近似することや，第１・６号掘立柱建物跡の桁行方向，規模・構造が類似することから８世紀代の可能性がある。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。

第３号掘立柱建物跡（第98図　PL17）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のＢ６a8区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。



第98図　第３号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がN－５°－Ｅの南北棟である。規模は，桁行4.2 m，梁行3.9 mで，面積は16.38㎡である。柱間寸法は，桁行が2.1 m（７尺），梁行が東平から2.1 m（７尺），1.8 m（６尺）で，柱筋はほぼ揃っているが，中央柱穴が全て外側に出ている。

柱穴　８か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径36～60cm，短径32～48cmである。深さは20～24cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第１・２層は柱材抜き取り後の覆土，第３層は柱痕跡，第４層は埋土と考えられる。Ｐ６・Ｐ７の底面から，柱のあたりを確認した。また，Ｐ１は，底面の形状から，部分的な立て替えの可能性が考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

１	黒	褐	色	ローム中粒	３	黒	色	ローム粒子微量
２	黒		色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	４	黒	褐	色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片９点（甕類）が，Ｐ３・Ｐ５から出土している。いずれも細片のため図示できない。

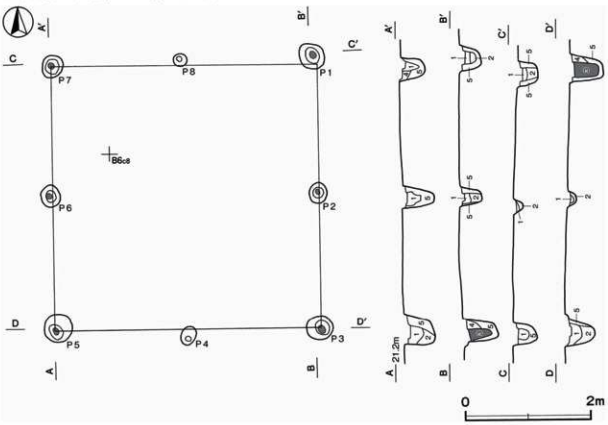
所見　時期は，第11号竪穴建物の主軸方向と桁行方向が近似することや，平安時代の遺構が確認できた範囲に位置することから９世紀代の可能性がある。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。

第４号掘立柱建物跡（第99図　PL17）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のＢ６c8区，標高21 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　北・南柱穴列２間，東・西柱穴列２間の側柱建物跡で，南北方向がN－０°である。南北棟，東西棟かは不明である。規模は，南北方向，東西方向ともに4.2 mで，面積は17.64㎡である。柱間寸法は，2.1 m（７尺）で，柱筋はほぼ揃っている。



第99図　第４号掘立柱建物跡実測図

柱穴　8か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径20～48cm，短径16～44cmである。深さは14～54cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は柱材抜き取り後の覆土で，第2層はロームブロックを含むことから，埋め戻されている。第3層は柱痕跡，第4・5層は埋土と考えられる。P4・P8を除いて，底面から柱のあたりを確認した。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　　色　ローム粒子微量
4　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片7点（坏1，甕類6）が，P1から出土している。いずれも細片のため図示できない。

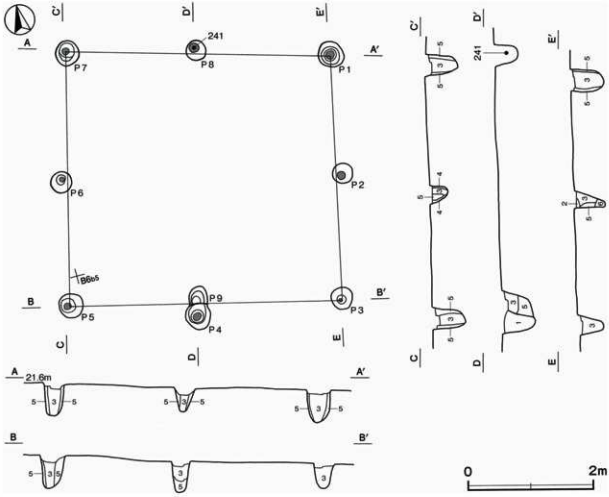
所見　出土土器は細片で図示できないが，時期は，9世紀代と推定できる。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。

第5号掘立柱建物跡（第100・101図　PL17・18）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のB6a5区，標高22mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN－76°－Wの東西棟である。規模は，桁行



第100図　第5号掘立柱建物跡実測図

4.5 m，梁行 4.2 mで，面積は 18.90㎡である。柱間寸法は，桁行が東妻から 2.4 m（8尺），2.1 m（7尺），梁行が 2.1 m（7尺）で，柱筋はほぼ揃っているが，中央柱穴が全て外側に出ている。

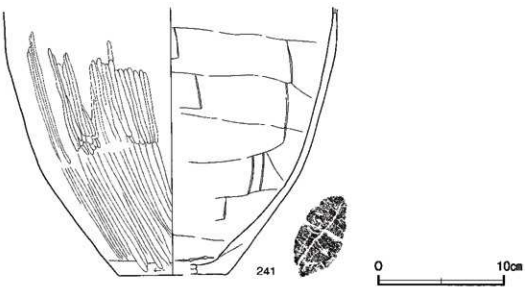
柱穴　9か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径 28 ～ 32cm，短径 40 ～ 44cmである。深さは 30 ～ 52cmで，掘方の壁は直立している。第1～3層は柱材抜き取り後の覆土，第4～6層は埋土と考えられる。P 9を除いて，底面から，柱のあたりを確認した。また，P 9はP 4に掘り込まれていることから，部分的な立て替えの可能性が考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片5点（甕類），須恵器片1点（坏）が，P 1・P 2・P 8から出土している。241は，P 8の柱材抜き取り後の覆土中層から出土していることから，解体後に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，第11号竪穴建物跡の主軸方向と梁行方向が近似することや，出土土器から9世紀代と推定できる。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。



第101図　第5号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
241	土師器	甕	－	(21.4)	[8.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面中位以下ヘラ磨き，内面ヘラナデ	P 8覆土中層	30%

第6号掘立柱建物跡（第102図　PL18）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のB 6g1区，標高22 mほどの台地斜面部に位置している。

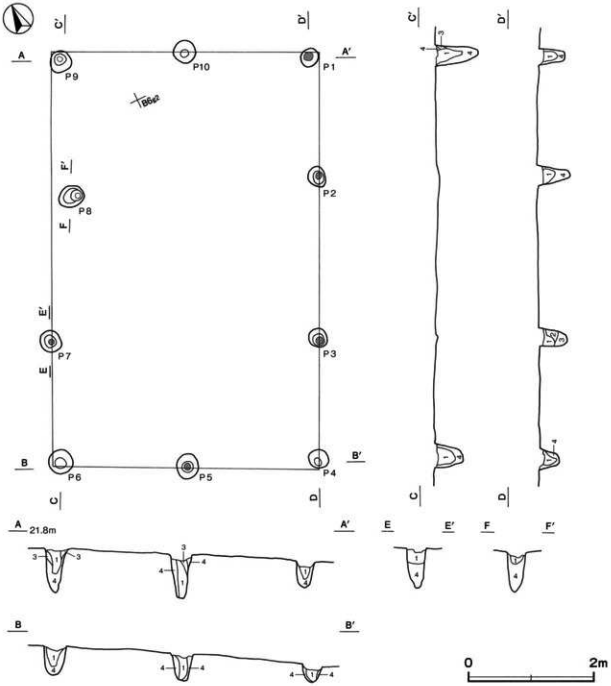
規模と構造　桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN－26°－Eの南北棟である。規模は，桁行6.6 m，梁行4.2 mで，面積は27.72㎡である。柱間寸法は，桁行の両妻側が2.1 m（7尺），中央間が2.4 m（8尺），梁行が2.1 m（7尺）で，P 8を除いて柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径32～40cm，短径18～32cmである。深さは24～74cmで，掘方の壁は直立している。第１・２層は柱材抜き取り後の覆土で，第３・４層は埋土と考えられる。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７の底面から柱のあたりを確認した。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

１	黒	色	ローム粒子微量	３	黒褐色	ロームブロック中量
２	黒	色	ローム粒子中量	４	黒	色	ロームブロック微量

所見　時期は，第1・12・13号竪穴建物跡の主軸方向と近似することや，第１・２号掘立柱建物跡の桁行方向，規模・構造が類似していることから，８世紀代の可能性がある。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。



第102図　第６号掘立柱建物跡実測図

第７号掘立柱建物跡（第 103 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＢ６a3 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 13 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－７°－Ｅの南北棟である。規模は，桁行 4.5 m，梁行 3.6 mで，面積は 16.20㎡である。柱間寸法は，桁行が北妻から 2.4 m（８尺），2.1 m（７尺），梁行が 1.8 m（６尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

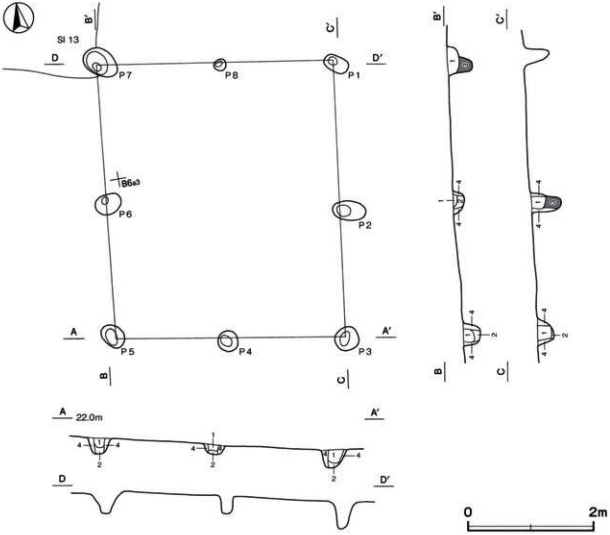
柱穴　８か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径 20 ～ 60㎝，短径 16 ～ 40㎝である。深さは 18 ～ 48㎝で，掘方の壁はほぼ直立している。第１・２層は柱材抜き取り後の覆土，第３層は柱痕跡，第４層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（Ｐ２～Ｐ７共通）

１　黒　　色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量	３　黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量
２　黒　褐　色	ロームブロック多量	４　暗　褐　色	ロームブロック多量

遺物出土状況　須恵器片１点（甕類）が，Ｐ１から出土している。細片のため図示できない。

所見　時期は，第５号掘立柱建物の梁行方向と本跡の桁行方向が近似することや，出土土器から９世紀代と推定できる。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。



第 103 図　第７号掘立柱建物跡実測図

第９号掘立柱建物跡（第 104 図　PL18）

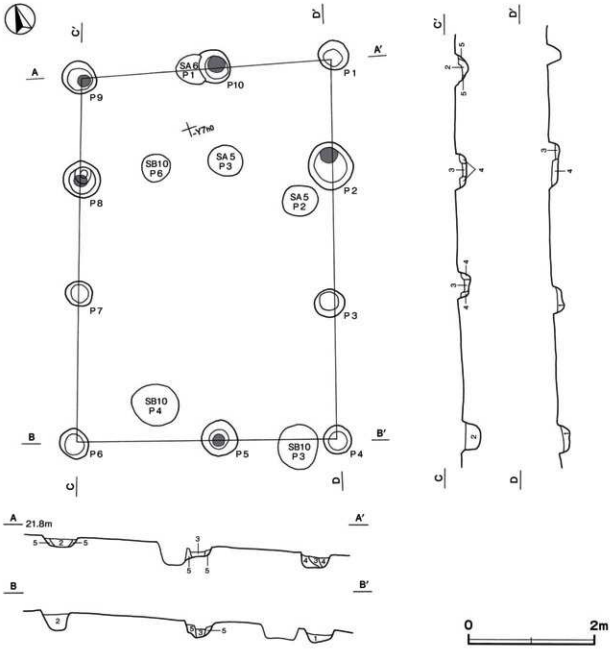
調査年度　平成 26 年度

位置　調査区北部の－Ｙ７h9 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第６号柱穴列に掘り込まれている。第 10 号掘立柱建物・第５号柱穴列と重複しているが，柱穴同士は重複していない。第 10 号掘立柱建物が平安時代以降と考えられることから，本跡が古いとみられる。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－ 20°－Ｅの南北棟である。規模は，桁行 6.0 m，梁行 3.9 mで，面積は 23.40㎡である。柱間寸法は，桁行は，東平側が北妻から 1.5 m（５尺），2.4 m（８尺），2.1 m（７尺），西平側が北妻から 1.5 m（５尺），1.8 m（６尺），2.4 m（８尺），梁行は東平から 1.8 m（６尺），2.1 m（７尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。円形もしくは楕円形で，長径 48 ～ 80cm，短径 44 ～ 64cmである。深さは 10 ～ 24cmで，掘方



第 104 図　第９号掘立柱建物跡実測図

の壁はほぼ直立している。第１～３層は柱材抜き取り後の覆土，第４・５層は埋土と考えられる。Ｐ２・Ｐ５・Ｐ８～Ｐ10の底面から柱のあたりを確認した。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
１　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
２　暗　褐　色　ロームブロック多量
３　黒　褐　色　ロームブロック多量
４　明　褐　色　ロームブロック多量
５　暗　褐　色　ロームブロック中量

所見　時期は，第21・32号竪穴建物跡の主軸方向と桁行方向が近似することから８世紀代の可能性がある。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。

第12号掘立柱建物跡（第105・106図　PL19）

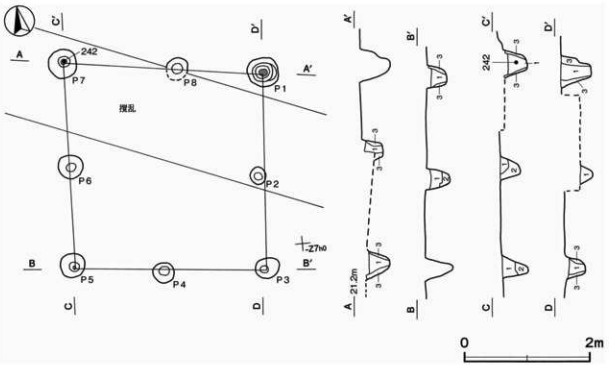
調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部の－Ｚ７g9区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　北・南柱穴列２間，東・西柱穴列２間の側柱建物跡で，南北方向がＮ－３°－Ｅである。桁行方向や南北棟，東西棟かは不明である。規模は，南北方向，東西方向ともに3.3ｍで，面積は10.89㎡である。柱間寸法は，北柱穴列が，東から1.5ｍ（５尺），1.8ｍ（６尺），南柱穴列が，東から1.8ｍ（６尺），1.5ｍ（５尺），東・西柱穴列が北から1.8ｍ（６尺），1.5ｍ（５尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　８か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径28～52㎝，短径24～44㎝である。深さは30～50㎝で，掘方の壁はほぼ直立している。第１・２層は柱材抜き取り後の覆土，第３層は埋土と考えられる。Ｐ１・Ｐ５・Ｐ７の底面から，柱のあたりを確認した。

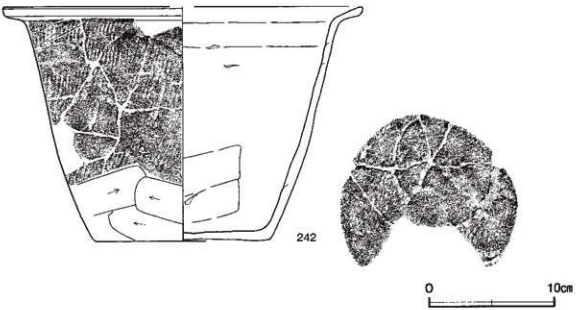
柱穴土層解説（各柱穴共通）
１　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
２　暗　褐　色　ローム粒子少量
３　暗　褐　色　ロームブロック少量



第105図　第12号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片18点（甕類），須恵器片6点（坏3，甕類2，鉢1）が，P3・P5～P7から出土している。242は，P7の柱材抜き取り後の覆土中層から出土していることから，解体後に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と推定できる。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。



第106図　第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
242	須恵器	鉢	[28.4]	18.7	13.9	長石・石英・芯母	灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ　底部ナデ　輪積み痕	P7覆土中層	20% 新治窯

第13号掘立柱建物跡（第107図　PL19）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部のA7c1区，標高22mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第14号掘立柱建物跡と重複しているが，柱穴同士は重複していない。第14号掘立柱建物跡が奈良時代と考えられることから，本跡が新しいとみられる。第398号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN－71°－Wの東西棟である。規模は，桁行4.2m，梁行3.9mで，面積は16.38㎡である。柱間寸法は，桁行が2.1m（7尺），梁行は東妻側が北平から2.1m（7尺），1.8m（6尺），西妻側が北平から1.8m（6尺），2.1m（7尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

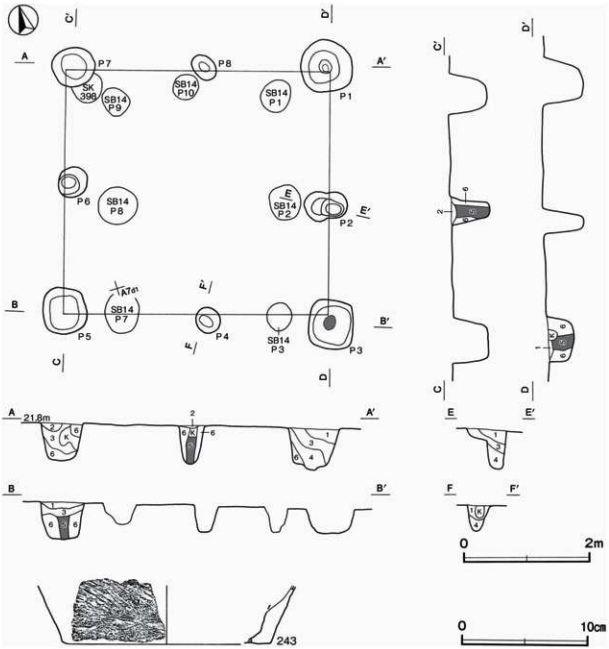
柱穴　8か所。平面形は円形または隅丸方形で，長径・長軸40～84cm，短径・短軸36～80cmである。深さは36～60cmで，掘方の壁は直立している。第1～4層は柱材抜き取り後の覆土，第5層は柱痕跡，第6層は埋土と考えられる。P3の底面から，柱のあたりを確認した。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　灰黄褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片18点（甕類），須恵器片6点（坏3，甕類3）が，P1・P2・P5・P6・P8から出土している。243は，P6の柱材抜き取り後の覆土中から出土していることから，解体後に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から9世紀代と推定できる。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。



第107図　第13号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第13号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
243	須恵器	甕	－	(4.7)	[16.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面斜位の平行叩き，内面ナデ　底部ヘラ削り	P6覆土中	5％新治窯

第 14 号掘立柱建物跡（第 108 図　PL20）

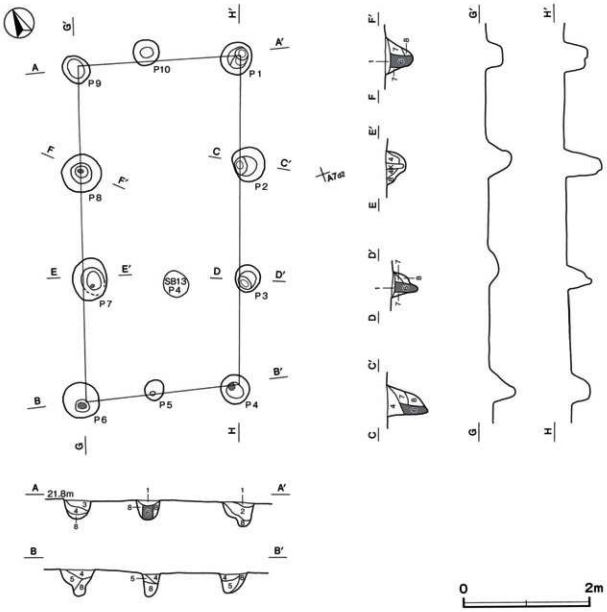
調査年度　平成 27 年度

位置　調査区中央部のＡ７c1 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 13 号掘立柱建物と重複しているが，柱穴同士は重複していない。第 13 号掘立柱建物が平安時代と考えられることから，本跡が古いとみられる。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－ 19°－Ｅの南北棟である。規模は，桁行 5.4 m，梁行 2.7 mで，面積は 14.58㎡である。柱間寸法は，桁行が 1.8 m（６尺），梁行の東平側が 1.5 m（５尺），西平側が 1.2 m（４尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径 36 ～ 68cm，短径 32 ～ 36cmである。深さは 28 ～ 60cmで，掘方の壁は直立している。第１～５層は柱材抜き取り後の覆土，第６層は柱痕跡，第７・８層は埋土と考えられる。Ｐ４・Ｐ６～Ｐ８の底面から柱のあたりを確認した。



第 108 図　第 14 号掘立柱建物跡実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　灰黄褐色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　灰黄褐色　ロームブロック少量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

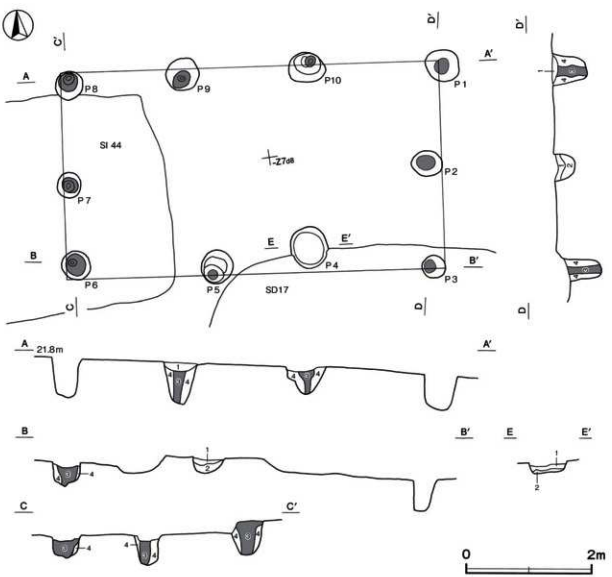
遺物出土状況　土師器片11点（甕類），須恵器片1点（甕類）が，Ｐ２・Ｐ３・Ｐ７～Ｐ10から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，第１・２・６号掘立柱建物跡の桁行方向や構造が類似することや，平安時代の土器片を含まないことから８世紀代の可能性がある。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。

第15号掘立柱建物跡（第109図　PL20）

調査年度　平成27年度

位置　調査区北部の－Ｚ７c7区，標高22ｍほどの台地斜面部に位置している。



第109図　第15号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第44号竪穴建物跡を掘り込み，第17号溝に掘り込まれている。

規模と構造　桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN－83°－Wの東西棟である。規模は，桁行6.0 m，梁行3.3 mで，面積は19.80㎡である。柱間寸法は，桁行は北平側が東妻から2.1 m（7尺），2.1 m（7尺），1.8 m（6尺），南平側が東妻から2.1 m（7尺），1.8 m（6尺），2.1 m（7尺），梁行は東妻側が北平から1.5 m（5尺），1.8 m（6尺），西妻側が北平から1.8 m（6尺），1.5 m（5尺）で，P 4を除いて，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10か所。平面形は円形または楕円形で，長径40～68cm，短径36～60cmである。深さは24～68cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は柱材抜き取り後の覆土，第3層は柱痕跡，第4層は埋土と考えられる。P 4を除いて，底面から柱のあたりを確認した。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　須恵器片1点（甕類）が，P 1から出土している。細片のため図示できない。

所見　時期は，第16号掘立柱建物跡の桁行方向が近似していることや，規模・構造が類似していることから9世紀代の可能性がある。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。

第16号掘立柱建物跡（第110図　PL20）

調査年度　平成27年度

位置　調査区北部の－Z 7d0区，標高21 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第17号溝に掘り込まれている。第17号掘立柱建物跡，第363・366・371号土坑と重複しているが，柱穴同士は重複していない。第17号掘立柱建物跡が奈良時代と考えられることから，本跡が新しいとみられる。第363・366・371号土坑との重複関係は不明である。

規模と構造　桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN－79°－Wの東西棟である。規模は，桁行6.3 m，梁行4.2 mで，面積は26.46㎡である。柱間寸法は，桁行は北平側が東妻から1.8 m（6尺），2.1 m（7尺），2.4 m（8尺），南平側が東妻から2.4 m（8尺），2.1 m（7尺），1.8 m（6尺），梁行は東妻側が北平から2.4 m（8尺），1.8 m（6尺），西妻側が北平から1.8 m（6尺），2.4 m（8尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

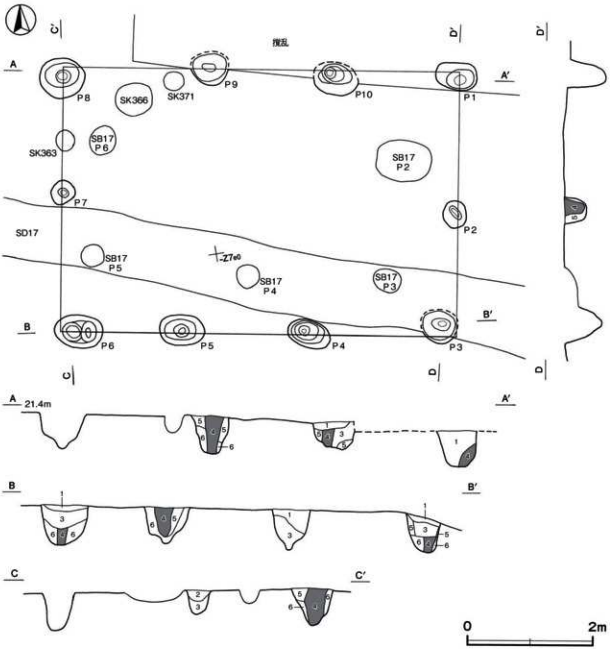
柱穴　10か所。平面形は円形または楕円形で，長径40～72cm，短径36～64cmである。深さは30～65cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第1～3層は柱材抜き取り後の覆土，第4層は柱痕跡，第5・6層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片11点（坏3，甕類8），須恵器片3点（甕類），金属製品1点（刀子）が，P 1・P 4・P 6・P 7・P 9から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　出土土器は細片で図示できないが，時期は，9世紀代と推定できる。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。



第 110 図　第 16 号掘立柱建物跡実測図

第 17 号掘立柱建物跡（第 111 図　PL20）

調査年度　平成 27 年度

位置　調査区北部の－Z 7 d0 区，標高 21 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 17 号溝に掘り込まれている。第 16 号掘立柱建物，第 366・371 号土坑と重複しているが，柱穴との重複はしていない。第 16 号掘立柱建物が平安時代と考えられることから，本跡が古いとみられる。第 366・371 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行 2 間，梁行 2 間の側柱建物跡で，桁行方向がN－77°－Wの東西棟である。規模は，桁行 4.8 m，梁行 4.2 mで，面積は 20.16㎡である。柱間寸法は，桁行は，北平の西妻側が 2.1 m（7 尺）であるのを除いて，

2.4 m（8尺），梁行が2.1 m（7尺）で，柱筋はほぼ揃っているが台形で，中央柱穴が全て外側に出ている。P 2・P 6は，棟持柱的である。

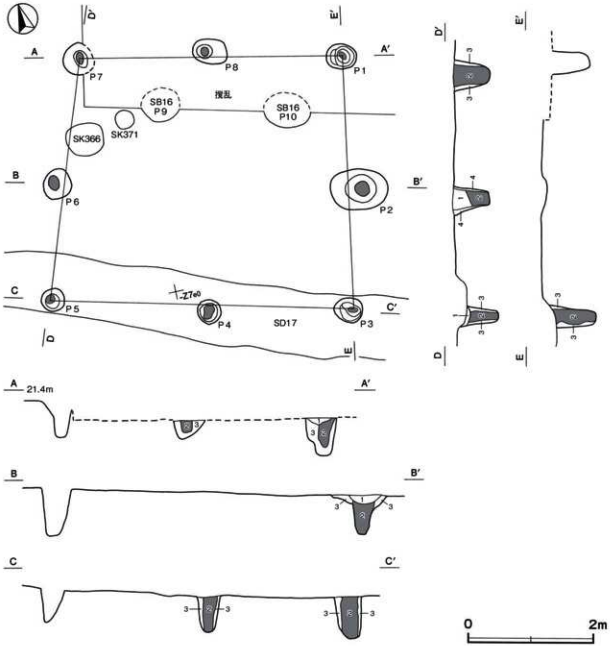
柱穴　8か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径36～92cm，短径36～64cmである。深さは62～76cmで，掘方の壁は直立している。第1層は柱材抜き取り後の覆土，第2層は柱痕跡，第3・4層は埋土と考えられる。P 1～P 8の底面から柱のあたりを確認した。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片4点（甕類）が，P 1・P 6から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，第32・33号竪穴建物跡の主軸方向と桁行方向が近似することや，平安時代の土器片を含まないことから8世紀代の可能性がある。性格は，構造から「屋」としての機能が想定できる。



第111図　第17号掘立柱建物跡実測図

第 18 号掘立柱建物跡（第 112 図）

調査年度　平成 27 年度

位置　調査区中央部のＡ７c8 区，標高 21 ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 490 号土坑との重複が認められるが，柱穴との重複がないため，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行１間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－ 15°－Ｅの南北棟である。規模は，桁行 3.3 ｍ，梁行 3.0 ｍで，面積は 9.9㎡である。

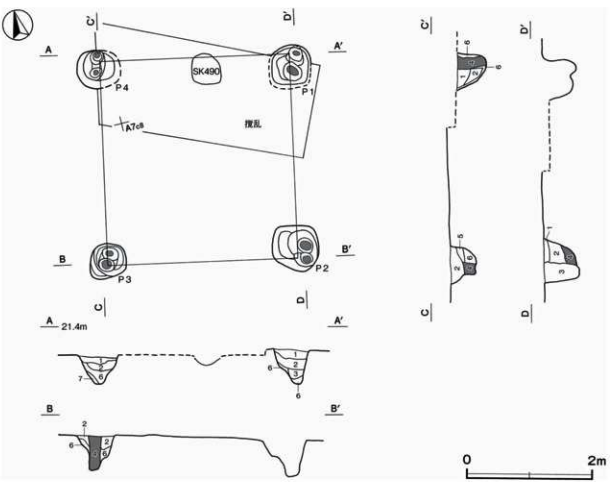
柱穴　４か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径 64 ～ 80cm，短径 56 ～ 72cmである。深さは 42 ～ 56cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第１～３層は柱材抜き取り後の覆土，第４層は柱痕跡，第５～７層は埋土と考えられる。底面から２か所ずつ柱のあたりを確認した。柱の立て替えか，柱筋にのることから，束柱の可能性がある。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	黒	褐	色	ローム粒子微量	5	暗 褐 色	ロームブロック少量
2	黒	褐	色	ロームブロック微量	6	暗 褐 色	ロームブロック中量
3	暗	褐	色	ロームブロック微量	7	褐 色	ロームブロック中量
4	黒		色	ローム粒子微量			

遺物出土状況　土師器片 23 点（甕類）が，Ｐ１～Ｐ３から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，奈良時代の遺構が確認できた範囲に位置することや，平安時代の土器片を含まないことから８世紀代と推定できる。性格は，構造から「小屋」などの簡易的な建物が想定できる。



第 112 図　第 18 号掘立柱建物跡実測図

表4　奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
1	A 5 f9	N－29°－E	3×2	6.0×3.9	23.40	1.8～2.1	1.8～2.1	側柱	10	円形・楕円形	22～52	－	8世紀代	
2	A 6 g5	N－25°－E	3×2	6.0×4.5	27.00	1.8～2.1	2.1～2.4	側柱	10	円形・楕円形	8～22	－	8世紀代	SK123と重複
3	B 6 a8	N－5°－E	2×2	4.2×3.9	16.38	2.1	1.8～2.1	側柱	8	円形・楕円形	20～24	土師器	9世紀代	
4	B 6 c8	南北方向 N－0°	2×2	4.2×4.2	17.64	2.1	2.1	側柱	8	円形・楕円形	14～54	土師器	9世紀代	
5	B 6 a5	N－76°－W	3×2	4.5×4.2	18.90	2.1～2.4	2.1	側柱	9	円形・楕円形	30～52	土師器，須恵器	9世紀代	
6	B 6 g1	N－26°－E	3×2	6.6×4.2	27.72	2.1～2.4	2.1	側柱	10	円形・楕円形	24～74	－	8世紀代	
7	B 6 a3	N－7°－E	2×2	4.5×3.6	16.20	2.1～2.4	1.8	側柱	8	円形・楕円形	18～48	須恵器	9世紀代	SI13→本跡
9	Y 7 h9	N－20°－E	3×2	6.0×3.9	23.40	1.5～2.4	1.8～2.1	側柱	10	円形・楕円形	10～24	－	8世紀代	本跡→SB10，SA 5・6
12	Z 7 g9	南北方向 N－3°－E	2×2	3.3×3.3	10.89	1.5～1.8	1.5～1.8	側柱	8	円形・楕円形	30～50	土師器，須恵器	9世紀前葉	
13	A 7 c1	N－71°－W	2×2	4.2×3.9	16.38	2.1	1.8～2.1	側柱	8	円形・隅丸方形	36～60	土師器，須恵器	9世紀代	SB14，SK398→本跡
14	A 7 c1	N－19°－E	3×2	5.4×2.7	14.58	1.8	1.2～1.5	側柱	10	円形・楕円形	28～60	土師器，須恵器	8世紀代	本跡→SB13
15	Z 7 c7	N－83°－W	3×2	6.0×3.3	19.80	1.8～2.1	1.5～1.8	側柱	10	円形・楕円形	24～68	須恵器	9世紀代	SI44→本跡→SD17
16	Z 7 d0	N－79°－W	3×2	6.3×4.2	26.46	1.8～2.4	1.8～2.4	側柱	10	円形・楕円形	30～65	土師器，須恵器，金属製品	9世紀代	SB17→本跡→SD17，SK363・366・371と重複
17	Z 7 d0	N－77°－W	2×2	4.8×4.2	20.16	2.1～2.4	2.1	側柱	8	円形・楕円形	62～76	土師器	8世紀代	本跡→SB18，SD17 SK36・321と重複
18	A 7 c8	N－15°－E	1×1	3.3×3.0	9.90	3.3	3.0	側柱	4	円形・楕円形	42～56	土師器	8世紀代	SK490と重複

(3)　井戸跡

第1号井戸跡（第113・114図　PL21）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のB 6 b5区，標高21 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　確認面は，長軸1.38 m，短軸1.32 mの隅丸方形である。確認面から深さ28cmまでは，漏斗状に掘り込まれている。それより下部は，長径1.04 m，短径1.00 mの円筒状に深さ120cmまで掘り込まれ，さらに下部は，長径0.64 m，短径0.60 mの円筒状に深さ156cmまで掘り込まれ，12～16cmの平場を有している。底部は，長径0.36 m，短径0.32 mの鍋底状に掘り込まれており，確認面からの深さは172cmである。確認面から130cmほど掘り下げた段階で，崩落が想定されたため，以下の土層の記録を断念した。

ピット　7か所。P 1～P 7は深さ9～12cmで，形状から柱穴の可能性がある。配置から上屋の可能性が考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

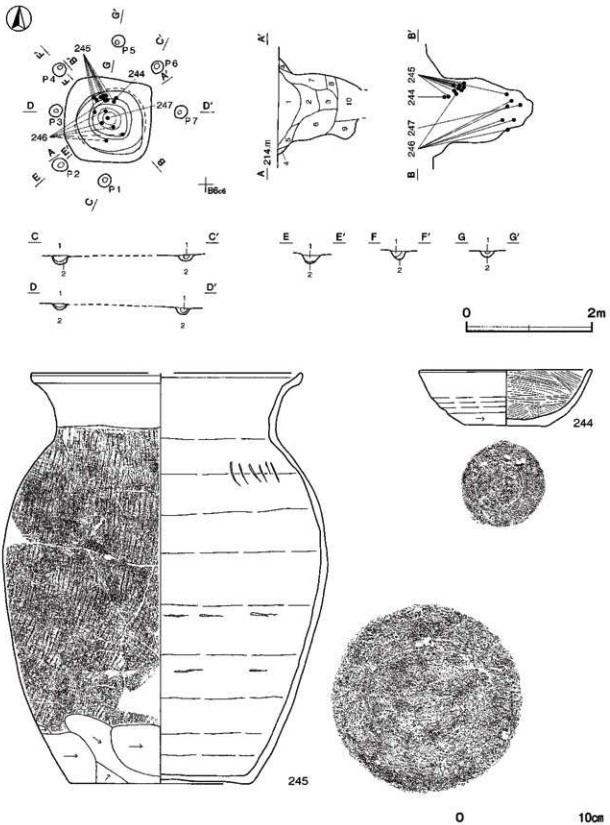
覆土　観察できた部分は，10層に分層できる。第1層は均質な堆積状況から自然堆積，第2～10層は多くの層にロームブロック，焼土粒子，炭化粒子が含まれ，不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，粘土粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　　色　粘土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
8　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子・酸化鉄粒子微量
9　黒　　色　粘土ブロック多量，炭化粒子少量
10　黒　　色　粘土粒子少量，炭化粒子微量

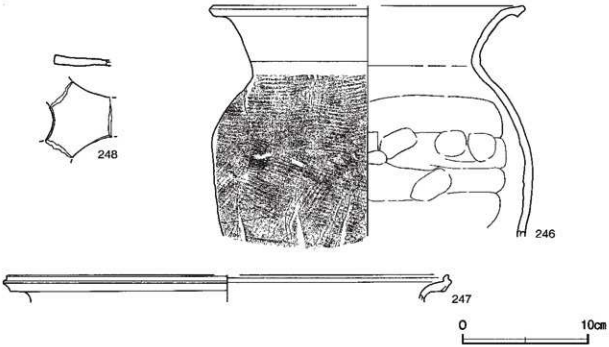
遺物出土状況　土師器片16点（坏1，甕類15），須恵器片43点（坏4，蓋1，甕類36，瓶2）が，第2層に相当する層位から底部にかけて出土している。245･246は，覆土下層と上層から出土した破片が接合している。

これらのことから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第113図　第１号井戸跡・出土遺物実測図



第 114 図　第１号井戸跡出土遺物実測図

第１号井戸跡出土遺物観察表（第 113・114 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
244	土師器	坏	13.6	4.6	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後ナデ　内面黒色処理	覆土上層	90%　PL.35
245	須恵器	甕	[21.4]	32.7	14.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き，下位不定方向のヘラ削り　内面ナデ　底部ナデ　当て具痕　輪積み痕	覆土下～上層	70%　PL.41　新治窯
246	須恵器	甕	[35.2]	(18.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位・横位の平行叩き，内面ナデ　無文の当て具痕　指頭痕	覆土下～上層　覆土中	40%　PL.41　新治窯
247	須恵器	甕	[34.9]	(2.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ	覆土下層　覆土中	5%　新治窯
248	須恵器	甑	－	(0.9)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部ヘラ切りによる穿孔	覆土中	5%　新治窯

第２号井戸跡（第 115 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区南部のＣ５d0 区，標高 21 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，東西径は 3.18 m，南北径は 1.34 m しか確認できなかった。円形もしくは楕円形と推定できる。確認面から深さ 32cmまでは，漏斗状に掘り込まれている。それより下部は東西径 1.04 m，南北径 0.64 m しか確認できなかったが，円形もしくは楕円形の筒状に掘り込まれている。確認面から 90cmほど掘り下げた段階で，崩落が想定されたため，以下の調査を断念した。

覆土　観察できた部分は，４層に分層できる。ロームブロック，粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

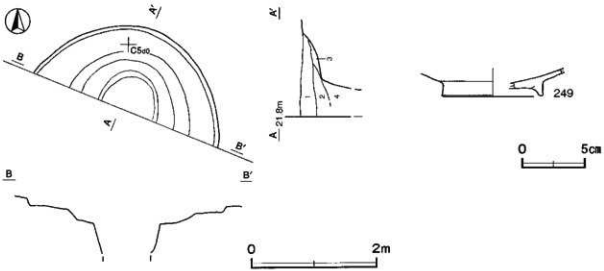
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　黒　褐　色　粘土粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片５点（坏１，甕類４），須恵器片８点（坏１，盤１，甕類６）が，第２層に相当する層位から底部にかけて出土している。249 や図示できない細片が覆土中から出土していることから，埋め戻し

に伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第 115 図　第２号井戸跡・出土遺物実測図

第２号井戸跡出土遺物観察表（第 115 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
249	須恵器	蓋	－	(2.2)	[8.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土中	5%前出蓋

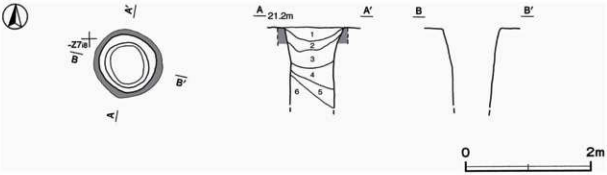
第３号井戸跡（第 116 図　PL21）

調査年度　平成 27 年度

位置　調査区中央部の－Ｚ７i9 区，標高 21 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　確認面は径 0.90 mほどの円形で，円筒状に掘り込まれている。確認面から 130cmほど掘り下げた段階で，崩落が想定されたため，以下の調査を断念した。

覆土　観察できた部分は，６層に分層できる。ロームブロック，粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。



第 116 図　第３号井戸跡実測図

土層解説

1 黒　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック微量
2 黒　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
3 にぶい褐色　粘土ブロック多量，ロームブロック微量
4 灰黄褐色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
5 灰黄褐色　ロームブロック少量
6 暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片８点（甕類）が，覆土中から出土している。いずれも細片で図示できないが，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀代と考えられる。

第４号井戸跡（第117図　PL22）

調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部の－Ｚ７h0区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　確認面は径1.00ｍほどの円形で，円筒状に掘り込まれている。確認面から170cmほど掘り下げた段階で，崩落が想定されたため，以下の調査を断念した。

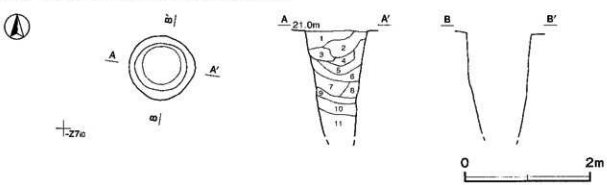
覆土　観察できた部分は，11層に分層できる。ロームブロック，粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1 暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
2 黒　　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
3 黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
4 暗　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
5 暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック多量
6 暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
7 暗　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
8 黒　褐　色　ロームブロック微量
9 黒　褐　色　ロームブロック中量
10 暗　褐　色　ローム粒子少量
11 黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片４点（甕類），須恵器片３点（坏２，甕類１）が，覆土中から出土している。いずれも細片で図示できないが，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀代と考えられる。



第117図　第４号井戸跡実測図

表５　奈良・平安時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	B6b5	－	隅丸方形	1.38 × 1.32	172	鍋底状	漏斗状	人為	土師器，須恵器	
2	C5d0	－	円形・楕円形	3.18 × (1.34)	(84)	不明	漏斗状	人為	土師器，須恵器	
3	-Z7i9	－	円形	0.94 × 0.90	(124)	不明	円筒状	人為	土師器	
4	-Z7h0	－	円形	1.04 × 0.98	(164)	不明	円筒状	人為	土師器，須恵器	

(4) 土坑

第12号土坑（第118・119図　PL22）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のB5i8区，標高22 mほどの台地斜面部に位置している。

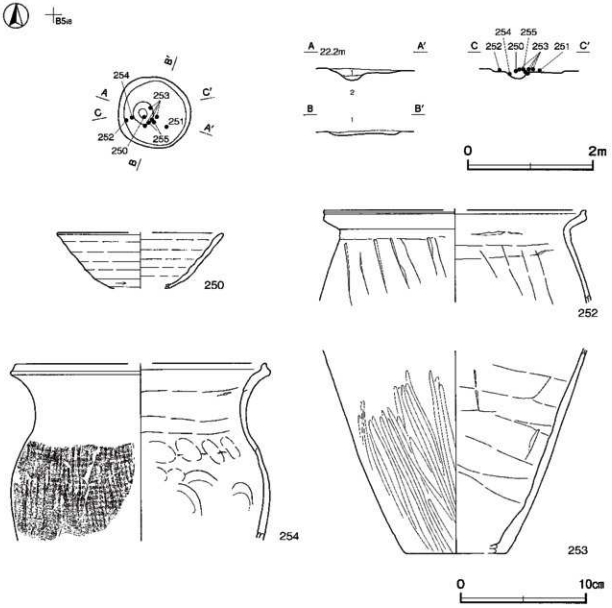
規模と形状　長径1.14 m，短径1.12 mの円形である。深さは12cmで，壁は外傾している。底面は西側がピット状に掘り込まれている。

覆土　2層に分層できる。ロームブロック，焼土ブロック，炭化物が含まれていることから，埋め戻されている。

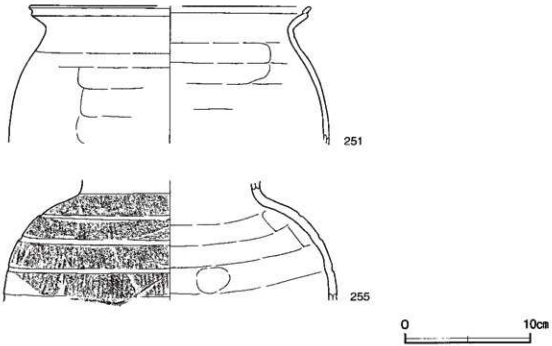
土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片41点（坏1，甕類40），須恵器片6点（坏3，甕類3）が，出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。性格は不明である。



第118図　第12号土坑・出土遺物実測図



第 119 図　第 12 号土坑出土遺物実測図

第 12 号土坑出土遺物観察表（第 118・119 図）

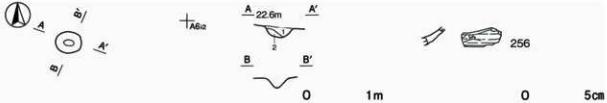
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
250	須恵器	坏	[13.0]	(4.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部ロクロナデ，下端回転ヘラ削り	覆土上層	10% 新治窯
251	土師器	甕	[22.0]	(11.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土上層 覆土中	5％
252	土師器	甕	[21.0]	(7.5)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面縦位のヘラナデ	覆土下層	10%
253	土師器	甕	－	(16.4)	[8.0]	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面中位以下ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中～上層	30%
254	須恵器	甕	[19.8]	(14.1)	－	長石	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面格子目叩き，内面ナデ　当て具痕，指頭痕，輪積み痕	覆土下層 覆土中	10% 三和窯。
255	須恵器	甕	－	(9.7)	－	長石・石英 雲母	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き　沈線，内面ナデ　指頭痕	覆土上層	20% 新治窯

第 92 号土坑（第 120 図）

調査年度　平成 25 年度

位置　調査区中央部のＡ 6i1 区，標高 23 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長径 0.42 m，短径 0.35 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 78°－Ｗである。深さは 16cmで，壁は外傾している。底面は皿状である。



第 120 図　第 92 号土坑・出土遺物実測図

覆土　2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1点（坏）が，出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第92号土坑出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
256	土師器	坏	－	(1.5)	－	長石・石英	橙	普通	体部ロクロナデ　体部内面ヘラ磨き　黒色処理	覆土中	5% □ 墨書

第116号土坑（第121図　PL23）

調査年度　平成25年度

位置　調査区南部のB5j5区，標高23mほどの台地斜面部に位置している。

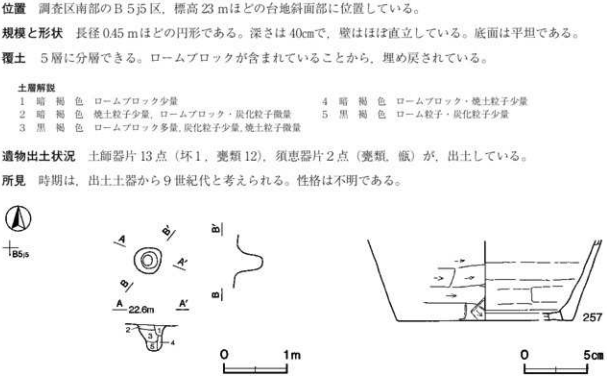
規模と形状　長径0.45mほどの円形である。深さは40cmで，壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土　5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片13点（坏1，甕類12），須恵器片2点（甕類，瓶）が，出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第121図　第116号土坑・出土遺物実測図

第116号土坑出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
257	須恵器	瓶	－	(6.4)	[14.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ　底部ヘラ切りによる穿孔	覆土中層	5% 前出潰

第356号土坑（第122図）

調査年度　平成27年度

位置　調査区北部の－Z 7 c7 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長径 1.08 m，短径 1.04 m の円形である。深さは 26cm で，壁は外傾している。底面は，皿状である。

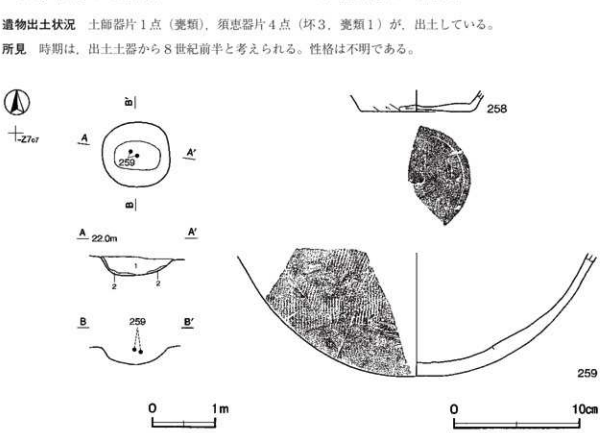
覆土　2 層に分層できる。均質な堆積であることから自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量　　2　にぶい黄褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片 1 点（甕類），須恵器片 4 点（坏 3，甕類 1）が，出土している。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀前半と考えられる。性格は不明である。



第 122 図　第 356 号土坑・出土遺物実測図

第 356 号土坑出土遺物観察表（第 122 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
258	須恵器	坏	－	(1.7)	[9.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
259	須恵器	甕	－	(9.8)	－	長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	覆土上層	20% 新治窯

表 6　奈良・平安時代土坑一覧表

番号	位　置	長径方向	平面形	規　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
12	B 5 j8	－	円形	1.14 × 1.12	12	有段	外傾	人為	土師器，須恵器	
92	A 6 i1	N－78°－W	楕円形	0.42 × 0.35	16	皿状	外傾	人為	土師器	
116	B 5 j5	－	円形	0.46 × 0.44	40	平坦	ほぼ直立	人為	土師器，須恵器	
356	-Z 7 c7	－	円形	1.08 × 1.04	26	皿状	外傾	自然	土師器，須恵器	

4　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，溝跡４条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

溝跡

第１号溝跡（第 123・124 図　PL24）

調査年度　平成 26 年度

位置　調査区南部のＢ４c9 ～Ｂ４h7 区，標高 23 mほどの台地平坦面に位置している。

第 123 図　第１・２・23・25 号溝跡実測図

重複関係　第２号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南端が調査区域外に延びているため，確認できた長さは23.6ｍである。Ｂ４e9区から南方向（Ｎ－151°－Ｗ）へ直線状に延び，Ｂ４f8区で第２号溝跡を掘り込み，Ｂ４h7区へ至り，調査区域外へ延びている。上幅1.28～2.52ｍ，下幅0.10～0.36ｍ，深さ100～116cmで，断面はＵ字状である。北端部から南端の調査区域外に向かって緩やかに下っている。

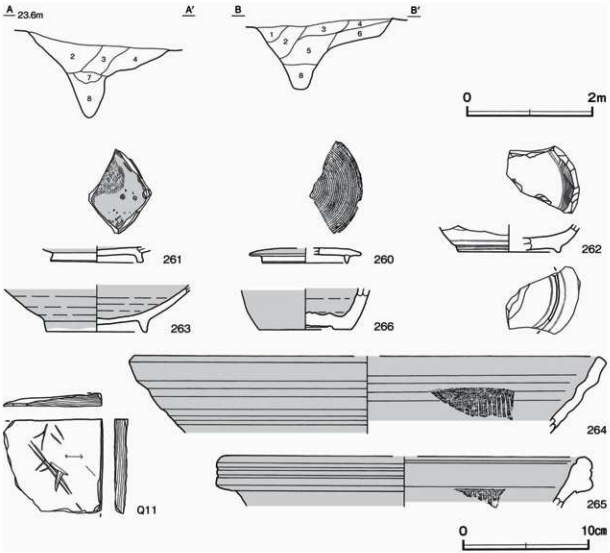
覆土　８層に分層できる。ロームブロック，粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック多量，炭化物少量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量
5　黒 褐 色　ロームブロック中量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　黒 褐 色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物微量
7　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量
8　暗 褐 色　ロームブロック中量，粘土粒子少量

遺物出土状況　土師質土器片１点（火鉢），陶器片20点（碗６，皿１，鉢１，擂鉢３，中瓶１，土瓶蓋₃１，不明７），磁器片12点（碗11，皿１）のほか，土師器片８点（坩１，甕類７），須恵器片３点（甕類），石器１点（砥石）が，覆土中から出土している。いずれも埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から18世紀後葉から19世紀前葉に廃絶したとみられる。性格は区画と考えられる。



第124図　第１号溝跡・出土遺物実測図

第１号溝跡出土遺物観察表（第124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
260	陶器	土瓶蓋	[7.0]	(1.2)	－	緻密・にぶい黄橙	外面施釉　内面無釉	鉄釉	瀬戸・美濃系	覆土中	40%
261	陶器	皿	－	(1.3)	[7.4]	緻密・にぶい黄橙	灰釉つけ掛け	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土中	5％
262	磁器	皿	－	(2.2)	[8.0]	緻密・明オリーブ灰	染付　呉須	透明釉	肥前	覆土中	10%
263	陶器	鉢	－	(3.8)	[8.0]	緻密・浅黄	灰釉つけ掛け	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土中	10%
264	陶器	鉢	[38.0]	(6.2)	－	緻密・浅黄橙	ロクロナデ　６条一単位の櫛目	鉄釉	瀬戸・美濃系	覆土中	10%
265	陶器	鉢	[28.5]	(4.0)	－	緻密・灰	口縁帯３段　内面櫛目	鉄釉	瀬・明石系	覆土中	5％
266	陶器	中瓶	－	(3.3)	[7.4]	緻密・浅黄	灰釉つけ掛け	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土中	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 11	砥石	(7.6)	(7.9)	1.0	(76.22)	凝灰質泥岩	砥面３面　溝状の研磨痕　裏面剥離	覆土中	

第２号溝跡（第123・125図）

調査年度　平成26年度

位置　調査区南部のＢ４f8～Ｂ５j4区，標高23ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第２号竪穴建物跡を掘り込み，第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長さ29.5ｍで，Ｂ５j4区から西方向（Ｎ－124°－Ｅ）へ直線状に延び，Ｂ４f8区で第１号溝に接続している。上幅0.28～0.80ｍ，下幅0.10～0.36ｍ，深さ16～24cmで，断面形は浅いＵ字状である。第１号溝との接続部から東端部に向かって緩やかに下っている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
１　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量　　２　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片６点（甕類），磁器片３点（碗類）のほか，土師器片42点（坏類４，甕類38），須恵器片14点（坏類４，甕類10），石器１点（鏃）が，覆土中から出土している。いずれも埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，第１号溝跡と同時期の18世紀後葉から19世紀前葉に廃絶したとみられる。性格は区画と考えられる。

第125図　第２号溝跡実測図

第23号溝跡（第123・126図）

調査年度　平成25・27年度

位置　調査区中央部のＡ７j2～－Ｚ６i0区，標高21～22ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第20・21号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西端が調査区域外に延びているため，確認できた長さは51.95 mである。A 7j2区から北西方向（N－18°－W）へ直線状に延び，A 6 b9区で北方向（N－9°－W）にやや屈曲し，調査区域外へ延びている。上幅0.90～1.94 m，下幅0.17～0.87 m，深さ8～44cmで，断面形は浅いU字状である。斜面にほぼ直交しており，北側の斜面高所から南側の低所に向かって掘り込みが浅くなりながら下っている。

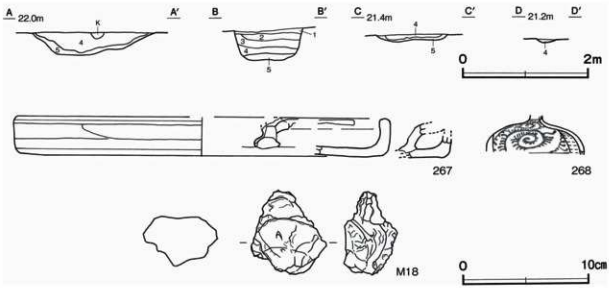
覆土　5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片1点（焙烙），陶器片1点（不明），磁器片2点（碗，髪油壺。），椀状滓のほか，土師器片48点（坏類3，甕類45），須恵器片10点（坏類1，蓋1，甕類8）が，覆土中から出土している。いずれも埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から18世紀後葉から19世紀前葉に廃絶したとみられる。性格は，排水と考えられる。また，現在の道路と軌道が重なり，覆土が固く締まっていることや西側に第25号溝跡が平行して延びていることから，廃絶後は，長期間にわたって道路として機能していたことも想定できる。



第126図　第23号溝跡・出土遺物実測図

第23号溝跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
267	土師質土器	焙烙	[29.4]	3.1	[29.0]	長石・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ，内面横位のナデ	体部外面斜位・横位のナデ，底部ナデ	覆土中	5% 煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
268	磁器	髪油壺。	－	(3.0)	－	緻密・灰白	染付　呉須　外面植唐草文	透明釉	肥前	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	椀状滓	6.6	5.9	4.1	177.32	鉄	全面錆化　一部発泡　着磁性なし	覆土中	PL44

第 25 号溝跡（第 123・127 図）

調査年度　平成 25・27 年度

位置　調査区中央部の B 7b2 ～ A 6c8 区，標高 21 ～ 22 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 38 号竪穴建物跡，第 128・500 号土坑を掘り込み，第 21 号溝，第 129 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西端が調査区域外に延びているため，確認できた長さは 41.11 m である。B 7b2 区から北方向（N － 20° － W）へ直線状に延び，A 6c8 区で西方向（N － 38° － W）にやや屈曲し，調査区域外へ延びている。上幅 0.83 ～ 1.48 m，下幅 0.18 ～ 0.35 m，深さ 14 ～ 56cm で，断面形は U 字状である。斜面にほぼ直交しており，北側の斜面高所から南側の低所に向かって掘り込みが浅くなりながら下っている。

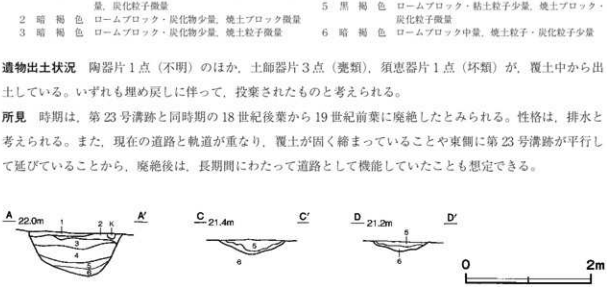
覆土　6 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　陶器片 1 点（不明）のほか，土師器片 3 点（甕類），須恵器片 1 点（坏類）が，覆土中から出土している。いずれも埋め戻しに伴って，投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，第 23 号溝跡と同時期の 18 世紀後葉から 19 世紀前葉に廃絶したとみられる。性格は，排水と考えられる。また，現在の道路と軌道が重なり，覆土が固く締まっていることや東側に第 23 号溝跡が平行して延びていることから，廃絶後は，長期間にわたって道路として機能していたことも想定できる。



第 127 図　第 25 号溝跡実測図

表7　江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ（m）	上幅（m）	下幅（m）	深さ（cm）					
1	B 4e9 ～ B 4h7	N － 15° － W	直線状	（23.6）	1.28 ～ 2.52	0.10 ～ 0.36	100 ～ 116	U 字状	外傾 緩斜	人為	土師質土器，陶器，磁器	SD 2 → 本跡
2	B 4d8 ～ B 5j4	N － 12° － E	直線状	29.5	0.28 ～ 0.80	0.10 ～ 0.36	16 ～ 24	浅い， U 字状	緩斜	人為	陶器，磁器	SI 2 → 本跡 → SD 1
23	A 7g2 ～ Z 6i0	N － 18° － W N － 9° － W	直線状	（51.95）	0.90 ～ 1.94	0.17 ～ 0.87	8 ～ 44	浅い， U 字状	外傾 緩斜	人為	土師質土器，陶器，磁器，瓦片状滓	本跡 → SD20・21
25	B 7b2 ～ A 6c8	N － 20° － W N － 38° － W	直線状	（41.11）	0.83 ～ 1.48	0.18 ～ 0.35	14 ～ 56	U 字状	外傾	人為	陶器	SI38・SK128・500 → 本跡 → SD21，SK129

5　その他の遺構と遺物

今回の調査では，時期が明確にできなかった掘立柱建物跡 4 棟，柱穴列 8 条，土坑 471 基，溝跡 20 条，道路跡 1 条，ピット群 8 か所を確認している。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第８号掘立柱建物跡（第 128 図）

調査年度　平成 26 年度

位置　調査区北部の－Ｙ７d9 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第７号溝跡，第 226 号土坑を掘り込んでいる。第８号溝とも重複しているが，柱穴との重複はみられない。しかし，第８号溝は，第７号溝に掘り込まれていることから，本跡が新しいとみられる。

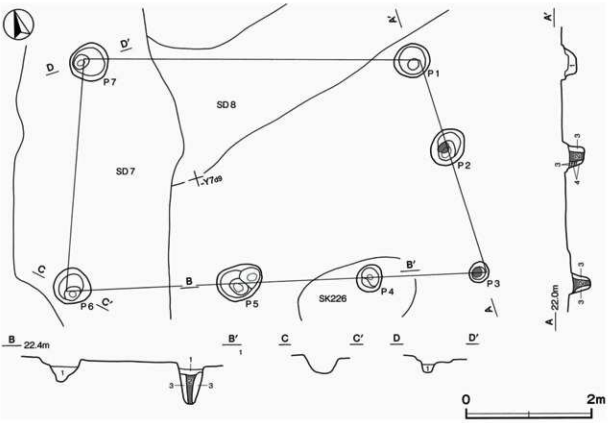
規模と構造　北桁行１間，南桁行３間，東梁行２間，西梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－77°－Ｗの東西棟である。規模は，北側桁行 5.4 m，南側桁行 6.6 m，東側梁行 3.6 m，西側桁行 3.9 mで，面積は 23.76 ㎡である。柱間寸法は，桁行は北平側が 5.4 m（18 尺），南平側が東妻から 1.8 m（６尺），2.1 m（７尺），2.7 m（９尺），梁行は東妻側が北平から 1.5 m（５尺），2.1 m（７尺），西妻側が 3.9 m（13 尺）で，柱筋はほぼ揃っているが，南平側が広がっている。

柱穴　７か所。平面形は円形または楕円形で，長径 36 ～ 76cm，短径 28 ～ 56cmである。深さは 12 ～ 54cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第１層は柱材抜き取り後の覆土，第２層は柱痕跡，第３・４層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	暗　褐　色	ローム粒子少量	3	暗　褐　色	ローム粒子中量
2	暗　褐　色	ローム粒子微量	4	褐　　色	ローム粒子多量

所見　時期は，柱間寸法に規則性が認められないことから，平安時代以降の建物跡と考えられる。性格は，「小屋」などの簡易的な建物が想定できる。



第 128 図　第８号掘立柱建物跡実測図

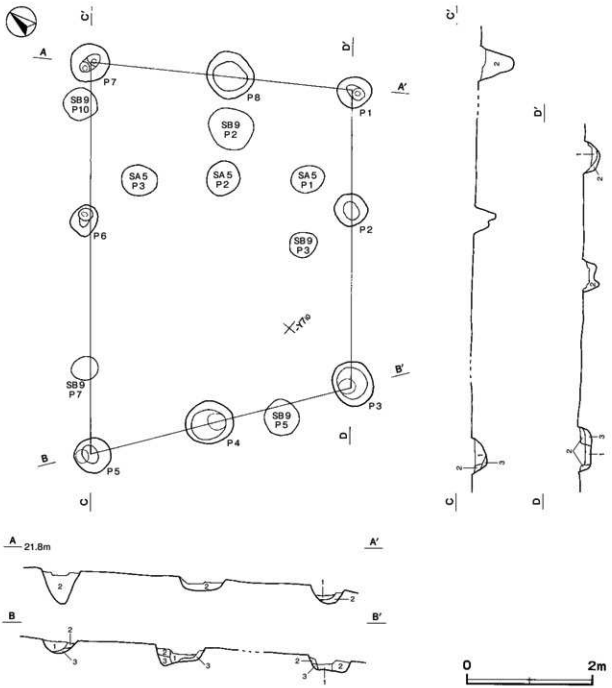
第10号掘立柱建物跡（第129図　PL24）

調査年度　平成26年度

位置　調査区北部の－Y7h9区，標高22mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第9号掘立柱建物跡，第5号柱穴列と重複しているが，柱穴同士は重複していない。第9号掘立柱建物跡が奈良時代と考えられることから，本跡が新しいとみられる。第5号柱穴列との新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN－51°－Eの南北棟である。規模は，東側桁行4.5m，西側桁行6.3m，梁行4.2mで，面積は26.46㎡である。柱間寸法は，桁行は東平側が北妻から1.8m（6尺），2.7m（9尺），西平側が北妻から2.4m（8尺），3.9m（13尺），梁行が2.1m（7尺）で，柱筋はほぼ揃っているが，西平側が広がっている。



第129図　第10号掘立柱建物跡実測図

柱穴　8か所。平面形は円形または楕円形で，長径52～80cm，短径40～68cmである。深さは19～56cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は柱材抜き取り後の覆土，第3層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（P1～P5・P7・P8共通）
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黄　褐　色　ロームブロック多量
3　明　褐　色　ロームブロック多量

所見　時期は，柱間寸法に規則性が認められないことから，平安時代以降の建物跡と考えられる。性格は，「小屋」などの簡易的な建物が想定できる。

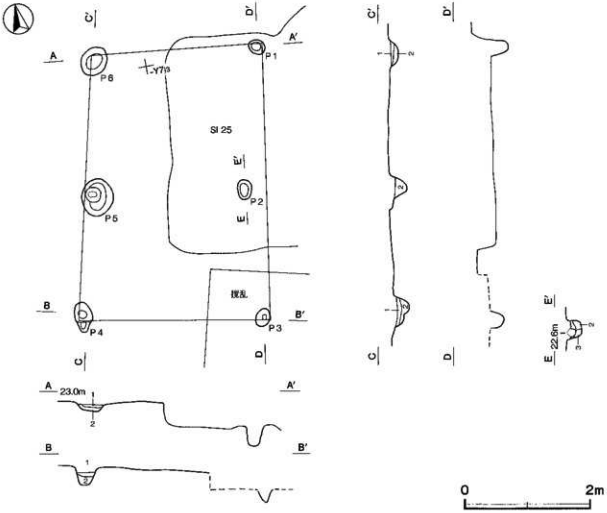
第11号掘立柱建物跡（第130図）

調査年度　平成27年度

位置　調査区北部の－Y7j2区，標高23mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第25号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行2間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向が東側桁行でN－9°－E，西側桁行でN－17°－Eの南北棟である。規模は，東側桁行4.5m，西側桁行4.2m，北側梁行2.7m，南側梁行3.0mで，面積は13.50㎡である。柱間寸法は，桁行は東平側が北妻から2.4m（8尺），2.1m（7尺），西平側が2.1m（7尺）で，P2を除いて柱筋はほぼ揃っているが，南妻側がやや広がっている。



第130図　第11号掘立柱建物跡実測図

柱穴　6か所。平面形は円形または楕円形で，長径28～64cm，短径20～52cmである。深さは14～30cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は柱材抜き取り後の覆土，第3層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（P2・P4～P6共通）
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量

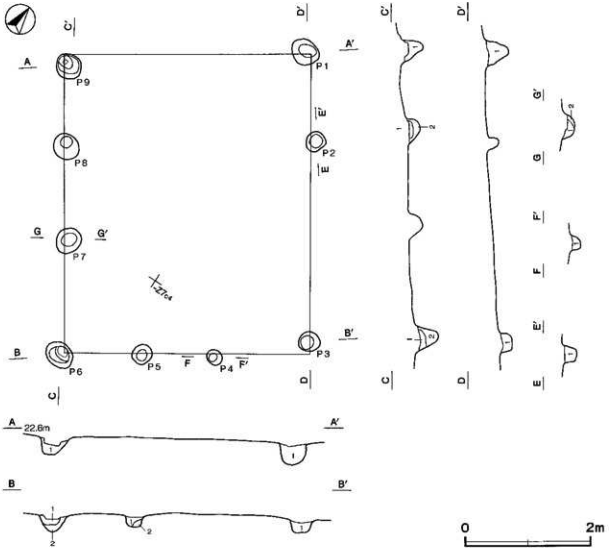
所見　時期は，柱間寸法に規則性が認められないことと，重複している第25号竪穴建物跡の時期が平安時代に比定できることから，平安時代以降の建物跡と考えられる。性格は，「小屋」などの簡易的な建物が想定できる。

第19号掘立柱建物跡（第131図　PL25）

調査年度　平成27年度

位置　調査区北部の－Z7b3区，標高23mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　東桁行2間，西桁行3間，北梁行1間，南梁行3間の側柱建物跡で，桁行方向がN－33°－Wの南北棟である。規模は，桁行4.8m，梁行3.9mで，面積は18.72㎡である。柱間寸法は，桁行は東平側が北妻



第131図　第19号掘立柱建物跡実測図

から1.5 m（5尺），3.3 m（11尺），西平側が北妻から1.5 m（5尺），1.5 m（5尺），1.8 m（6尺），梁行は南妻側が東平から1.5 m（5尺），1.2 m（4尺），1.2 m（4尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　9か所。平面形は円形または楕円形で，長径28～52cm，短径24～36cmである。深さは18～42cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は柱材抜き取り後の覆土と考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　暗　褐　色　ローム粒子微量　　2　暗　褐　色　ロームブロック微量

所見　時期は，柱間寸法に規則性が認められないことと第10号掘立柱建物跡の梁行方向が本跡の桁行方向と近似していることから，平安時代以降の建物跡と考えられる。性格は，「小屋」などの簡易的な建物が想定できる。

表8　その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴					主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)				
8	-Y7d9	N－77°－W	3×2	南6.6×西3.9 北5.4×東3.6	23.76	1.8～5.4	1.5～3.9	側柱	7	円形・楕円形	12～54		－	15～16世紀	SD 8→SD 7，SK236→本跡
10	-Y7h9	N－51°－E	2×2	東4.5 西6.3×4.2	26.46	1.8～3.9	2.1	側柱	8	円形・楕円形	19～56		－	15～16世紀	SB 9→本跡，SA 5と重複
11	-Y7j2	東N－9°－E 西N－21°－E	2×1	東4.5×北2.27 西4.2×南3.0	13.50	2.1～2.4	2.7～3.0	側柱	6	円形・楕円形	14～30		－	15～16世紀	SI25→本跡
19	-Z7b3	N－33°－W	4×3	4.8×3.9	18.72	1.5～3.3	1.2～3.9	側柱	9	円形・楕円形	18～42		－	15～16世紀	

(2)　柱穴列

第2号柱穴列（第132図）

調査年度　平成26年度

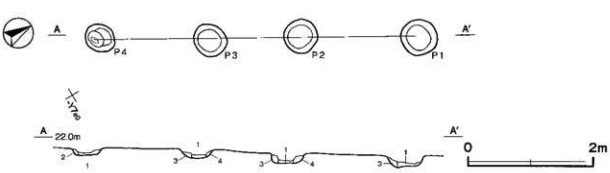
位置　調査区北部の－Y7d0区，標高22 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　南北方向5.10 mの間に配列された柱穴4か所を確認した。配列方向はN－31°－Eである。柱間寸法は1.50～1.80 m（5～6尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　4か所。平面形は円形または楕円形で，長径48～58cm，短径46～54cmである。深さは12～18cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱材抜き取り後の覆土，第2～4層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　褐　色　ロームブロック微量　　3　褐　色　ローム粒子多量
2　褐　色　ローム粒子中量　　4　暗　褐　色　ローム粒子少量

所見　時期や性格は，不明である。



第132図　第2号柱穴列実測図

第３号柱穴列（第 133 図）

調査年度　平成 26 年度

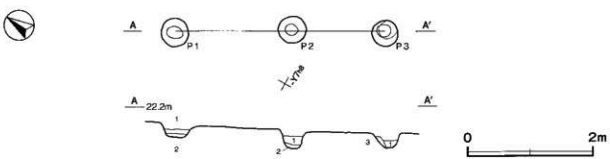
位置　調査区北部の－Ｙ７g8 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　南北方向 3.30 mの間に配列された柱穴３か所を確認した。配列方向はＮ－ 30°－Ｗである。柱間寸法は 1.50 ～ 1.80 m（５～６尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　３か所。平面形は円形で，長径 42 ～ 48cm，短径 40 ～ 44cmである。深さは 20 ～ 28cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第１・２層は柱材抜き取り後の覆土，第３層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
１　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
２　明　褐　色　ロームブロック多量
３　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

所見　時期や性格は，不明である。



第 133 図　第３号柱穴列実測図

第４号柱穴列（第 134 図）

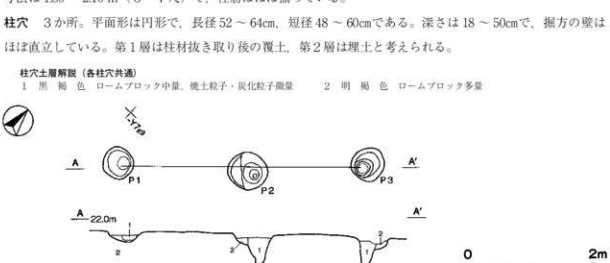
調査年度　平成 26 年度

位置　調査区北部の－Ｙ７f9 区，標高 22 mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　南北方向 3.90 mの間に配列された柱穴３か所を確認した。配列方向はＮ－ 48°－Ｅである。柱間寸法は 1.80 ～ 2.10 m（６～７尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　３か所。平面形は円形で，長径 52 ～ 64cm，短径 48 ～ 60cmである。深さは 18 ～ 50cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第１層は柱材抜き取り後の覆土，第２層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
１　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
２　明　褐　色　ロームブロック多量



第 134 図　第４号柱穴列実測図

所見　時期や性格は，不明である。

第５号柱穴列（第135図）

調査年度　平成26年度

位置　調査区北部の－Ｙ７h0区，標高21ｍほどの台地斜面部に位置している。

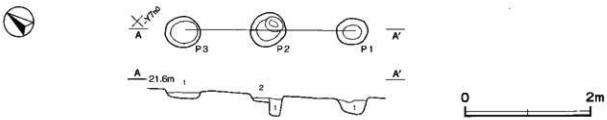
重複関係　第９・10号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　南北方向2.70ｍの間に配列された柱穴３か所を確認した。配列方向はＮ－42°－Ｗである。柱間寸法は1.20～1.50ｍ（４～５尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　３か所。平面形は円形または楕円形で，長径50～58cm，短径42～54cmである。深さは12～32cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第１層は柱材抜き取り後の覆土，第２層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　暗　褐　色　ロームブロック多量　　2　明　褐　色　ロームブロック多量

所見　時期や性格は，不明である。



第135図　第５号柱穴列実測図

第６号柱穴列（第136図）

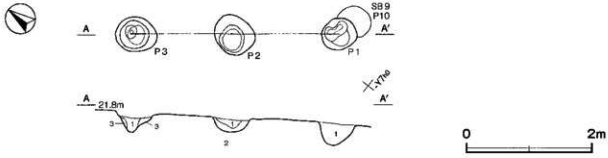
調査年度　平成26年度

位置　調査区北部の－Ｙ７g9区，標高22ｍほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第９号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　南北方向3.30ｍの間に配列された柱穴３か所を確認した。配列方向はＮ－38°－Ｗである。柱間寸法は1.50～1.80ｍ（５～６尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　３か所。平面形は円形または楕円形で，長径56～68cm，短径48～60cmである。深さは24～36cmで，掘方の壁は外傾している。第１・２層は柱材抜き取り後の覆土，第３層は埋土と考えられる。



第136図　第６号柱穴列実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　3　黄　褐　色　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

所見　時期は，8世紀と考えられる第9号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，8世紀以降と推定できる。

第7号柱穴列（第137図）

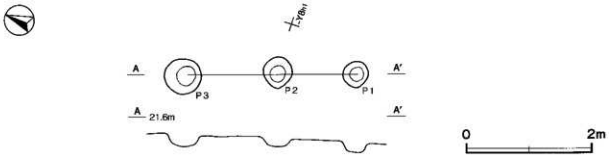
調査年度　平成26年度

位置　調査区北部の－Y7g0区，標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　南北方向2.70mの間に配列された柱穴3か所を確認した。配列方向はN－20°－Wである。柱間寸法は1.20～1.50m（4～5尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　3か所。平面形は円形で，長径50～60cm，短径46～58cmである。深さは14～18cmで，掘方の壁はほぼ直立している。

所見　時期や性格は不明である。



第137図　第7号柱穴列実測図

第8号柱穴列（第138図）

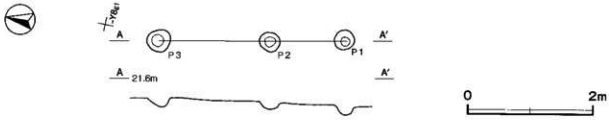
調査年度　平成26年度

位置　調査区北部の－Y8g1区，標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　南北方向3.00mの間に配列された柱穴3か所を確認した。配列方向はN－11°－Wである。柱間寸法は1.20～1.80m（4～6尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　3か所。平面形は円形で，長径34～48cm，短径32～46cmである。深さは12～16cmで，掘方の壁は外傾している。

所見　時期や性格は不明である。



第138図　第8号柱穴列実測図

第９号柱穴列（第139図　PL25）

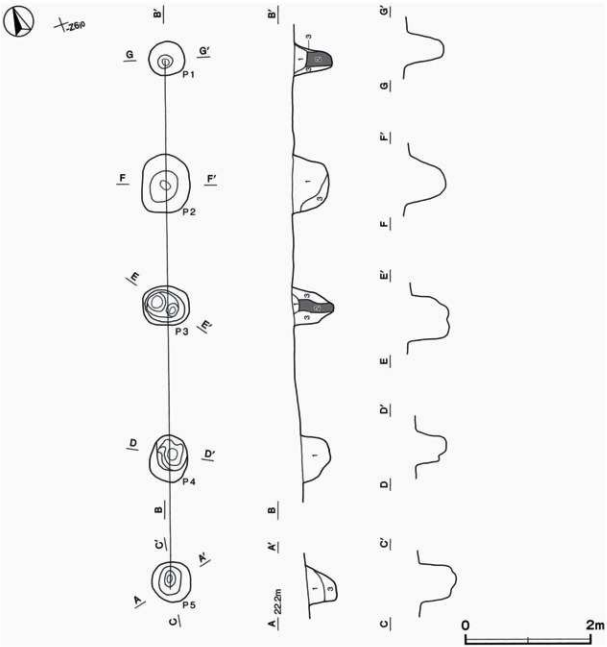
調査年度　平成27年度

位置　調査区中央部の－Ｚ６j0区，標高22ｍほどの台地斜面部に位置している。

規模と構造　南北方向8.40ｍの間に配列された柱穴５か所を確認した。配列方向はＮ－20°－Ｅである。柱間寸法は1.80～2.40ｍ（６～８尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　５か所。平面形は円形または楕円形で，長径58～94cm，短径52～78cmである。深さは46～62cmで，掘方の壁はほぼ直立している。第１層は柱材抜き取り後の覆土，第２層は柱痕跡，第３層は埋土と考えられる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量



第139図　第９号柱穴列実測図

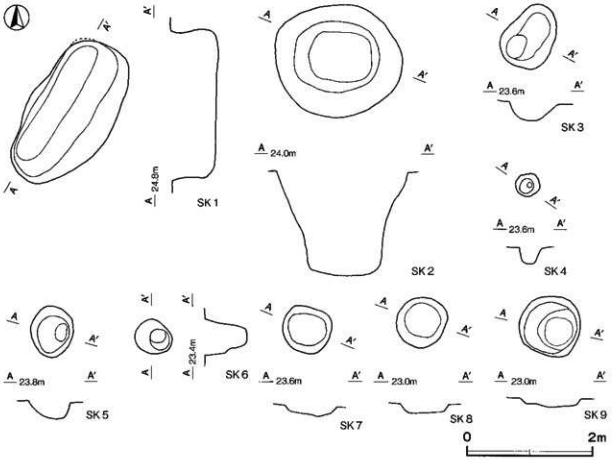
所見　調査区域の西端に位置しているため，西側が調査区域外に延びることを想定した場合，配列方向が奈良時代の第２・14 号掘立柱建物跡の桁行方向と近似しているが，決定的な根拠がないので，時期や性格は不明とする。

表９　その他の柱穴列一覧表

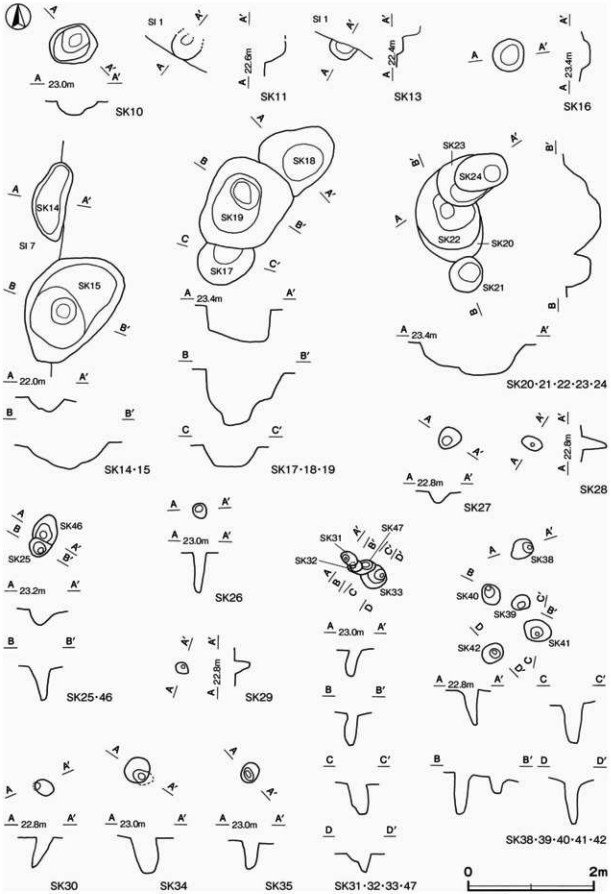
番号	位置	主軸方向	長さ（m）	柱間（m）	柱穴					主な出土遺物	備考
					柱穴数	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）		
2	-Y7d0	N－31°－E	5.10	1.50～1.80	4	円形・楕円形	48～58	46～54	12～18	－	
3	-Y7g8	N－30°－W	3.30	1.50～1.80	3	円形	42～48	40～44	20～28	－	
4	-Y7f9	N－48°－E	3.90	1.80～2.10	3	円形	52～64	48～60	18～50	－	
5	-Y7h0	N－42°－W	2.70	1.20～1.50	3	円形・楕円形	50～58	42～54	12～32	－	SB９・10と重複
6	-Y7g9	N－38°－W	3.30	1.50～1.80	3	円形・楕円形	56～68	48～60	24～36	－	SB９→本跡
7	-Y7g0	N－20°－W	2.70	1.20～1.50	3	円形	50～60	46～58	14～18	－	
8	-Y8g1	N－11°－W	3.00	1.20～1.80	3	円形	34～48	32～46	12～16	－	
9	-Z6j0	N－20°－E	8.40	1.80～2.40	5	円形・楕円形	58～94	52～78	46～62	－	

(3)　土坑

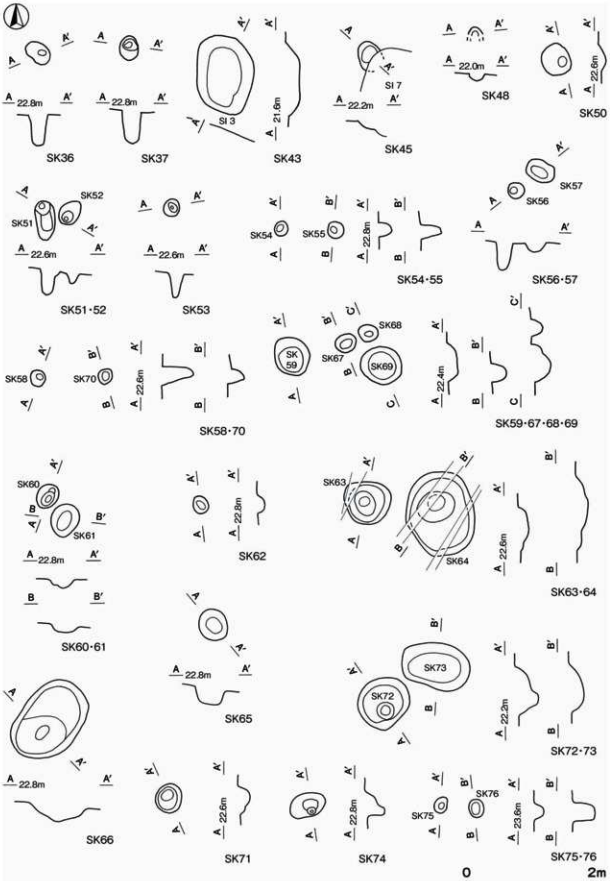
今回の調査で，時期や性格が不明な土坑 471 基を確認した。以下，実測図（第 140 ～ 158 図）及び一覧表を記載する。



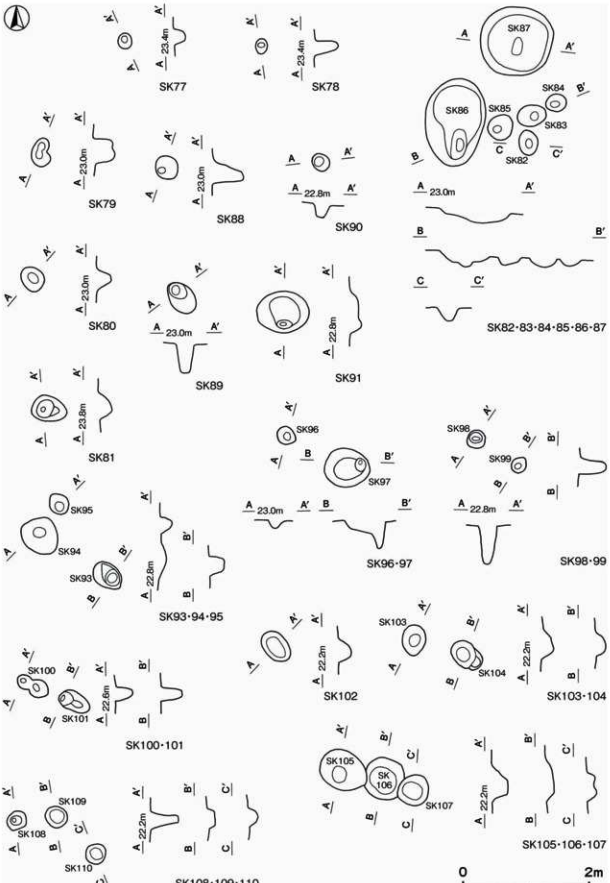
第 140 図　その他の土坑実測図(1)



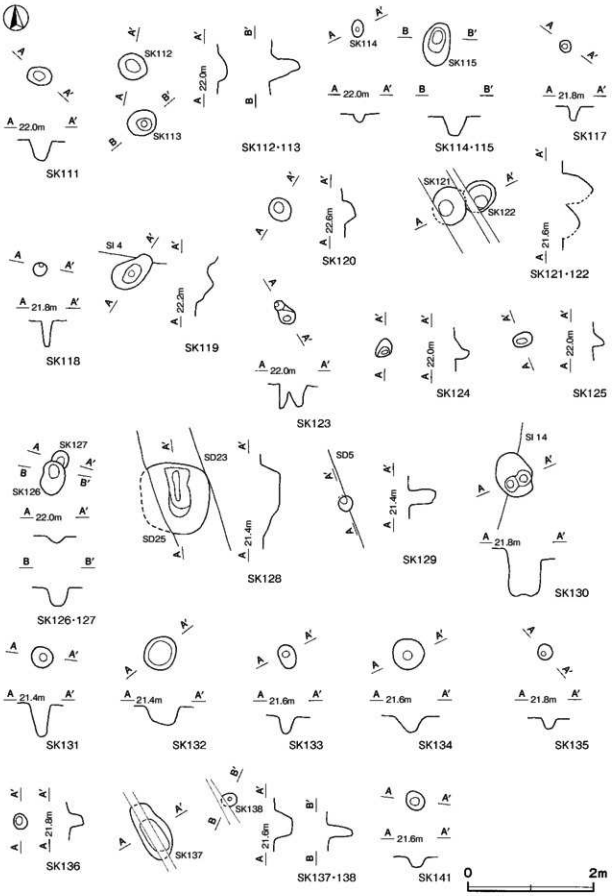
第 141 図　その他の土坑実測図(2)



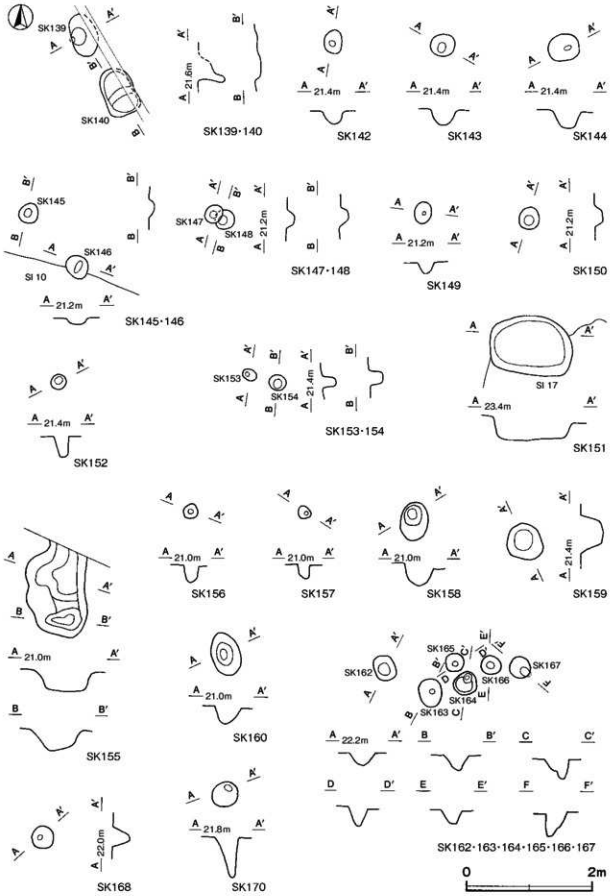
第142図　その他の土坑実測図3)



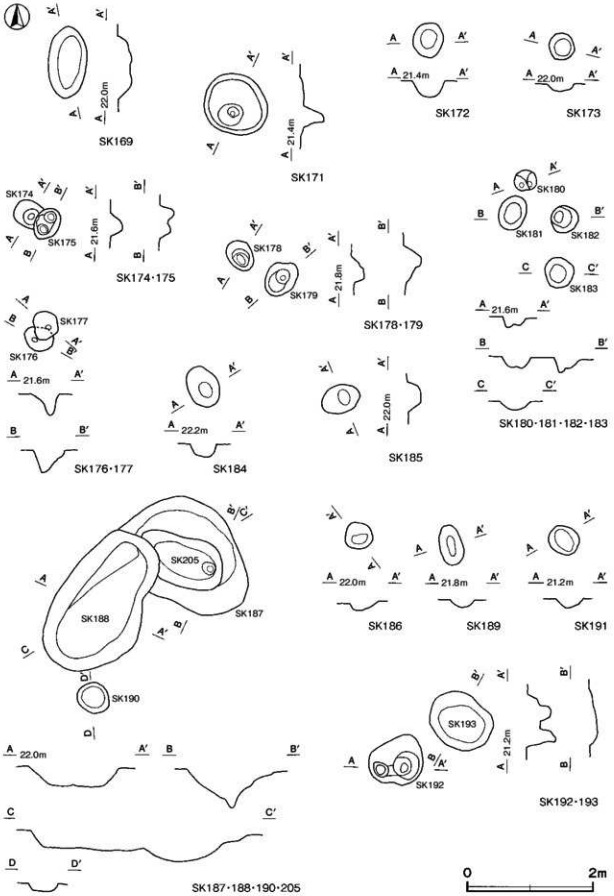
第 143 図　その他の土坑実測図(4)



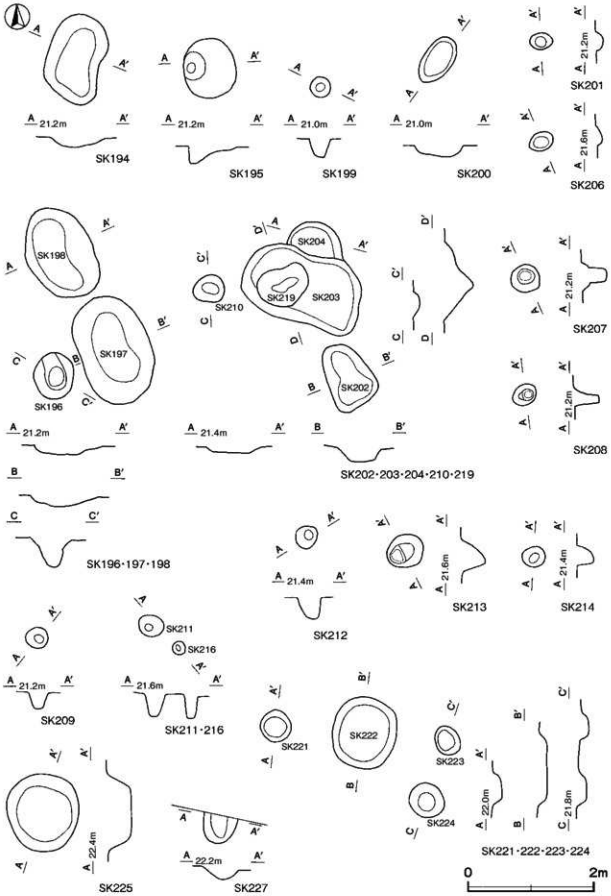
第144図　その他の土坑実測図5)



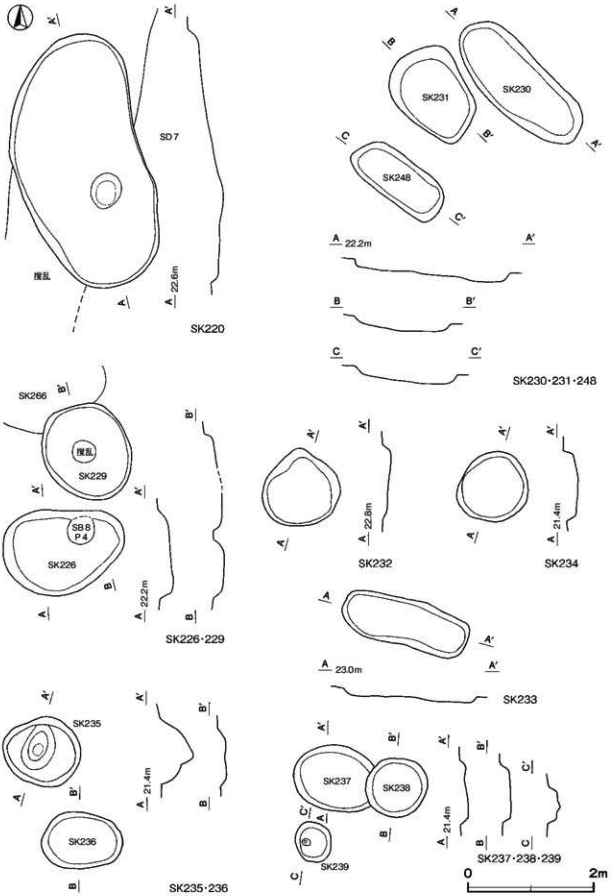
第 145 図　その他の土坑実測図(6)



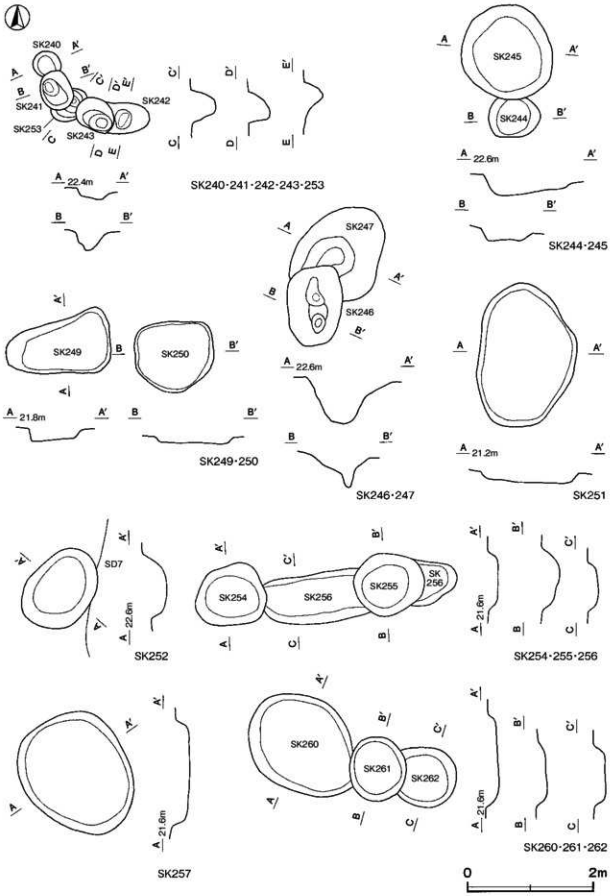
第146図　その他の土坑実測図7)



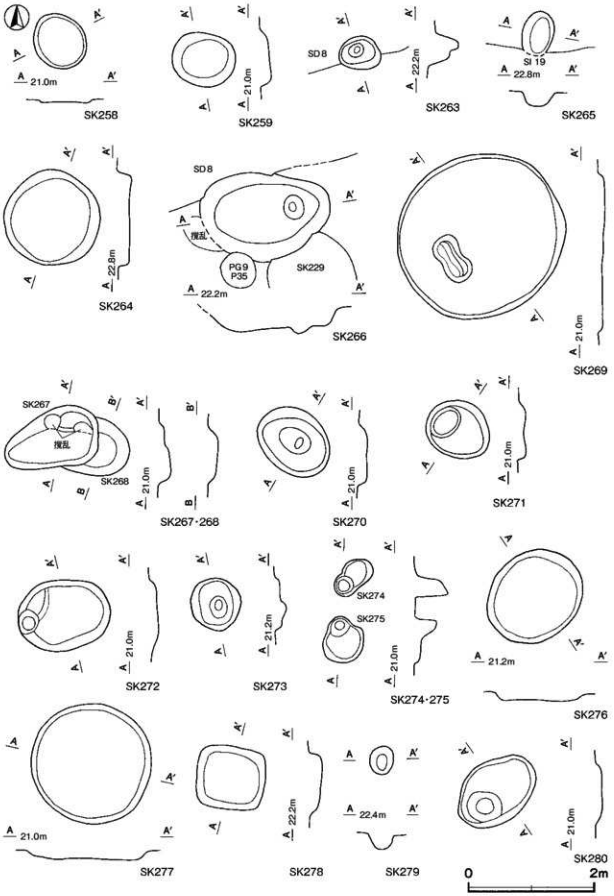
第 147 図　その他の土坑実測図(8)



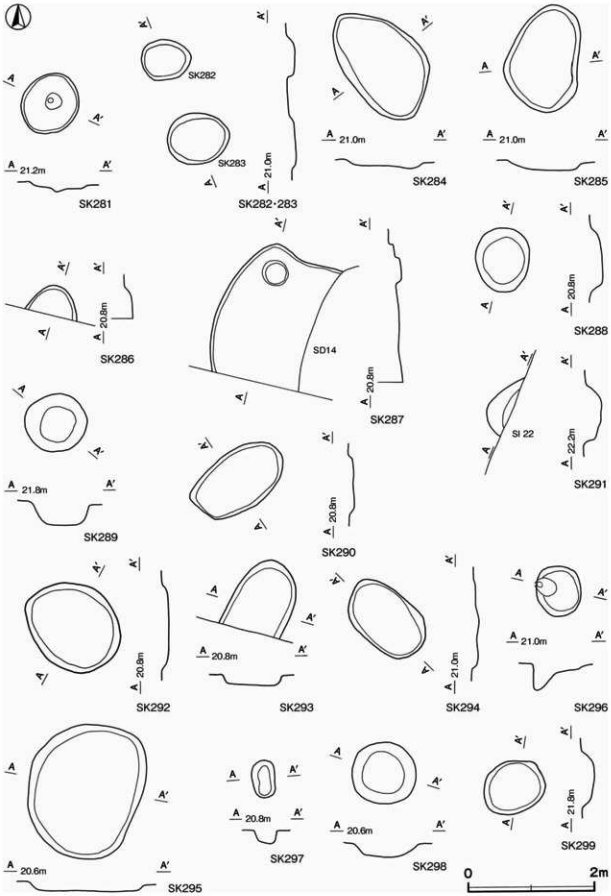
第148図　その他の土坑実測図9)



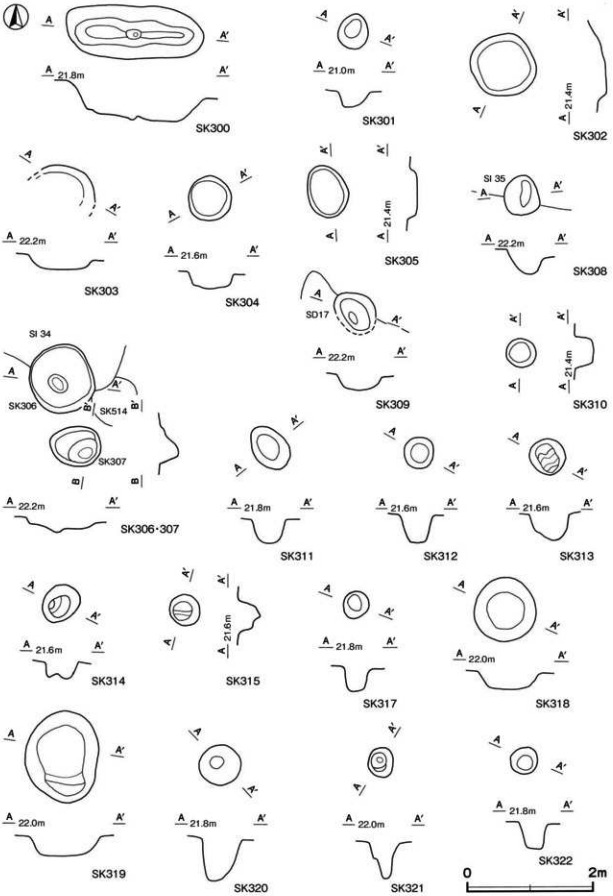
第 149 図　その他の土坑実測図(10)



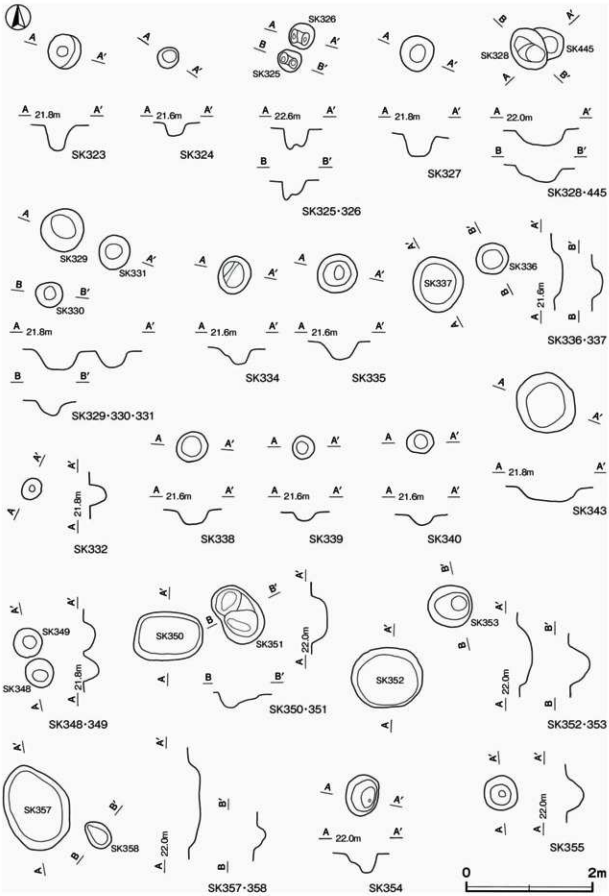
第150図　その他の土坑実測図(1)



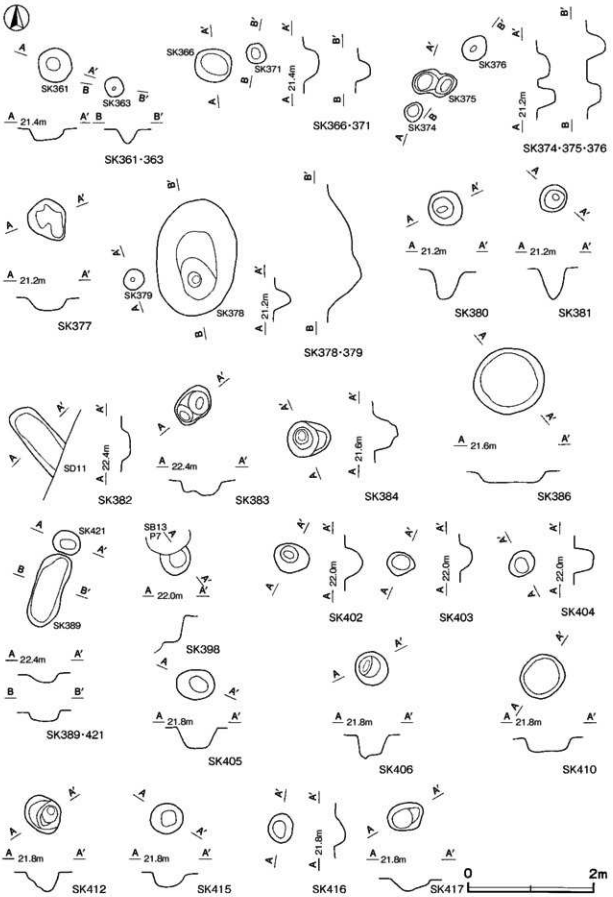
第 151 図　その他の土坑実測図(12)



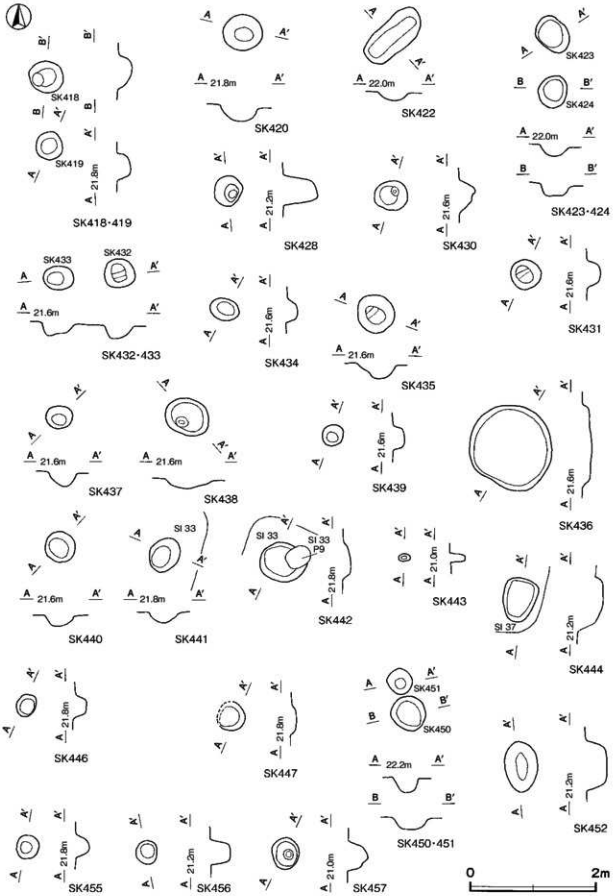
第152図　その他の土坑実測図(3)



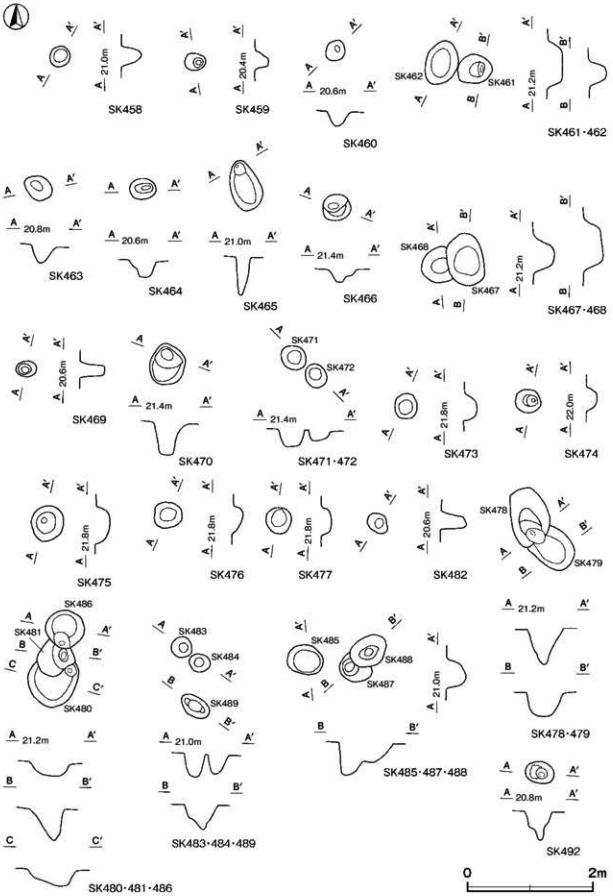
第 153 図　その他の土坑実測図(14)



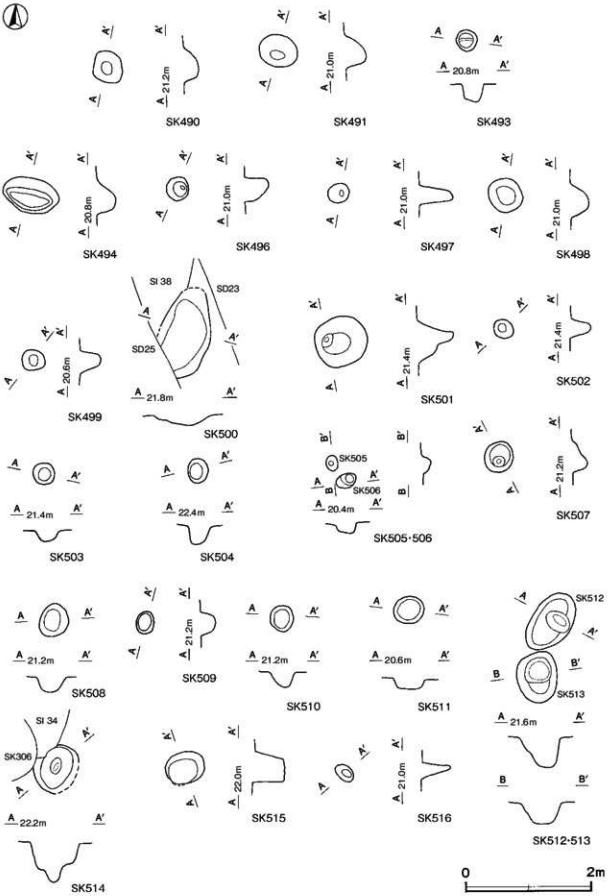
第154図　その他の土坑実測図(5)



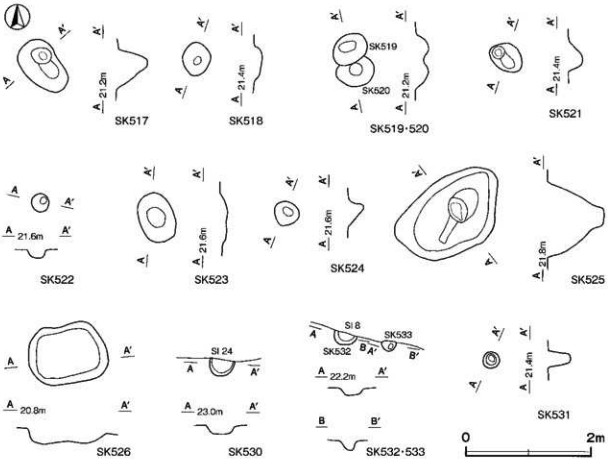
第 155 図　その他の土坑実測図(16)



第156図　その他の土坑実測図(7)



第 157 図　その他の土坑実測図(18)



第 158 図　その他の土坑実測図(9)

表 10　その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	B 4a7	N－30°－E	楕円形	2.50 × 1.36	72	平坦	ほぼ直立 緩斜	自然	土師器	
2	B 4a6	N－70°－W	楕円形	2.06 × 1.82	168	平坦	外傾	人為	－	
3	B 4g6	N－35°－E	楕円形	1.06 × 0.80	30	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	
4	B 4f9	－	円形	0.40 × 0.37	26	浅い U字状	外傾	自然	－	柱痕跡・埋土
5	B 5j4	N－13°－E	楕円形	0.80 × 0.68	26	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	
6	B 4g0	N－52°－W	楕円形	0.60 × 0.52	66	U字状	ほぼ直立	人為	－	
7	B 5b8	－	円形	0.78 × 0.72	14	浅い U字状	緩斜	人為	縄器	
8	B 5a8	N－46°－E	楕円形	0.84 × 0.76	14	平坦	緩斜	人為	土師器	
9	A 5j8	－	円形	0.94 × 0.92	12	平坦	緩斜	人為	土師器	
10	A 5j8	N－32°－E	楕円形	0.74 × 0.64	22	浅い U字状	外傾	自然	－	
11	B 5i6	－	［円形］	0.46 × （0.28）	36	浅い U字状	外傾	人為	－	SI 1→本跡
13	B 5i6	－	［円形］	0.40 × （0.26）	9	平坦	外傾	自然	－	本跡→SI 1
14	B 6b7	N－14°－E	楕円形	1.23 × 0.53	20	浅い U字状	外傾	－	－	SI 7→本跡
15	B 6b7	N－39°－E	楕円形	1.94 × 1.30	38	浅い U字状	外傾	人為	－	SI 7→本跡
16	B 4i0	－	円形	0.52 × 0.48	10	浅い U字状	緩斜	人為	－	
17	B 5e1	N－39°－E	［楕円形］	［0.96］ × 0.78	32	浅い U字状	外傾	人為	－	本跡→SK19
18	B 5e1	N－54°－E	［楕円形］	［1.35］ × 1.00	53	平坦	直立	人為	－	本跡→SK19

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
19	B 5e1	N－25°－E	隅丸長方形	1.50 × 1.26	46～84	有段	直立 外傾	人為	－	SK17・18→本跡
20	B 5e1	－	－	1.00 × （0.17）	60	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK21・22
21	B 5e1	－	円形	0.54 × 0.52	42	浅い U字状	ほぼ直立	人為	－	SK20→本跡
22	B 5e1	N－9°－W	楕円形	1.30 × 1.00	56	浅い U字状	外傾	自然	－	SK20→本跡 →SK23
23	B 5e1	N－69°－E	［楕円形］	0.75 × （0.32）	50	平坦	外傾	人為	－	SK22→本跡 →SK24
24	B 5e1	N－69°－E	楕円形	0.85 × 0.55	46	浅い U字状	直立 外傾	人為	－	SK23→本跡
25	B 5g4	N－24°－E	楕円形	0.36 × 0.28	52	U字状	ほぼ直立	人為	－	SK46→本跡
26	B 5g4	－	円形	0.24 × 0.22	62	U字状	直立	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
27	B 5g5	－	円形	0.34 × 0.34	18	浅い U字状	緩斜	人為	－	
28	B 5g5	N－67°－W	楕円形	0.34 × 0.20	38	U字状	ほぼ直立	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
29	B 5h6	－	円形	0.20 × 0.18	22	U字状	直立 外傾	自然	－	
30	B 5h5	N－24°－E	楕円形	0.32 × 0.24	48	U字状	内傾 外傾	人為	－	
31	B 5h4	N－46°－W	楕円形	0.30 × 0.18	38	U字状	直立 外傾	人為	－	SK32→本跡
32	B 5h4	－	［円形］	0.18 × （0.18）	48	U字状	直立	人為	－	SK47→本跡 →SK31
33	B 5h5	－	円形	0.38 × 0.38	28	浅い U字状	外傾	人為	－	本跡→SK47
34	B 5i5	－	円形	0.4 × 0.4	54	U字状	ほぼ直立	人為	－	
35	B 5i4	N－30°－E	楕円形	0.32 × 0.26	42	U字状	直立	人為	－	
36	B 5i4	N－47°－W	楕円形	0.42 × 0.28	48	U字状	外傾	人為	－	
37	B 5i4	N－0°	楕円形	0.38 × 0.28	52	U字状	直立	人為	－	
38	B 5i4	N－23°－E	楕円形	0.32 × 0.28	54	U字状	外傾	人為	－	
39	B 5i4	N－60°－E	楕円形	0.28 × 0.24	22	浅い U字状	外傾	人為	－	
40	B 5i4	N－18°－W	楕円形	0.32 × 0.28	64	U字状	直立	自然	－	
41	B 5i4	N－66°－W	楕円形	0.40 × 0.32	62	U字状	直立	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
42	B 5i4	N－50°－E	楕円形	0.36 × 0.28	52	U字状	直立	人為	－	
43	C 5a9	N－23°－W	楕円形	1.34 × 0.94	22	平坦	外傾	人為	－	SI 3→本跡
45	C 5a7	N－47°－W	［楕円形］	［0.50］ × 0.38	（12）	浅い U字状	外傾	人為	－	SI 7と重複
46	B 5g4	N－24°－E	［楕円形］	（0.40） × 0.38	22	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	－	本跡→SK25
47	B 5h4	N－83°－E	楕円形	0.34 × 0.22	46	U字状	直立	自然	－	SK33→本跡 →SK32
48	A 6e7	－	［楕円形］	0.24 × （0.14）	12	浅い U字状	緩斜	人為	土師器	
50	B 5c7	－	円形	0.49 × 0.46	8	浅い U字状	緩斜	人為	縄文土器	
51	B 5c8	N－3°－W	楕円形	0.62 × 0.30	40	U字状	ほぼ直立 緩斜	人為	－	
52	B 5c8	N－32°－E	楕円形	0.42 × 0.29	16	浅い U字状	外傾	人為	－	
53	B 5c8	－	円形	0.26 × 0.26	40	U字状	直立	人為	－	
54	B 5b7	－	円形	0.20 × 0.20	20	U字状	ほぼ直立	自然	須恵器	
55	B 5b7	－	円形	0.26 × 0.26	32	U字状	ほぼ直立	自然	－	柱痕跡・埋土
56	B 5b8	－	円形	0.26 × 0.26	44	U字状	直立	人為	－	
57	B 5b8	N－65°－W	楕円形	0.46 × 0.34	14	浅い U字状	外傾	人為	土師器	
58	B 5b8	－	円形	0.28 × 0.26	50	U字状	直立 ほぼ直立	人為	－	
59	B 5b8	N－18°－W	楕円形	0.66 × 0.56	15	平坦	外傾	自然	－	
60	B 5b8	N－26°－E	楕円形	0.40 × 0.32	10～14	有段	緩斜	人為	須恵器	
61	B 5b8	N－30°－E	楕円形	0.53 × 0.44	14	浅い U字状	緩斜	人為	－	
62	B 5a8	N－41°－W	楕円形	0.28 × 0.25	12	浅い U字状	外傾	人為	土師器	
63	B 5a9	－	円形	0.70 × 0.68	16	浅い U字状	緩斜	人為	－	
64	B 5a9	N－13°－W	楕円形	1.34 × 1.10	18	浅い U字状	緩斜	人為	土師器	
65	B 5a8	－	円形	0.48 × 0.44	28	平坦	ほぼ直立	人為	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
66	B 5a9	N－43°－E	楕円形	1.39 × 0.94	28	浅い，U字状	外傾 緩斜	自然	土師器	
67	B 5b9	N－64°－E	楕円形	0.36 × 0.30	22	浅い，U字状	外傾	自然	－	
68	B 5b9	N－64°－E	楕円形	0.32 × 0.28	18	浅い，U字状	外傾	人為	－	
69	B 5b9	－	円形	0.65 × 0.61	28	浅い，U字状	外傾	人為	－	
70	B 5b9	－	円形	0.24 × 0.24	24	浅い，U字状	外傾	人為	－	
71	B 5b9	－	円形	0.44 × 0.42	16	浅い，U字状	外傾 緩斜	人為	－	
72	B 5b0	－	円形	0.82 × 0.82	22～34	有段	外傾 緩斜	人為	－	
73	B 5b0	N－76°－W	楕円形	1.08 × 0.74	20	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
74	B 5c7	N－70°－E	楕円形	0.56 × 0.40	27	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
75	A 5j4	N－38°－E	楕円形	0.27 × 0.22	16	浅い，U字状	外傾	人為	－	
76	A 5j4	N－7°－W	楕円形	0.26 × 0.23	35	U字状	直立	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
77	A 5j5	－	円形	0.22 × 0.22	16	浅い，U字状	外傾	自然	－	
78	A 5j5	－	円形	0.22 × 0.21	36	U字状	直立	人為	－	
79	B 5a7	N－18°－E	楕円形	0.46 × 0.30	32	浅い，U字状	直立	人為	－	
80	B 5a7	N－34°－W	楕円形	0.41 × 0.35	24	浅い，U字状	外傾	人為	－	
81	A 5j9	N－73°－W	楕円形	0.54 × 0.42	20	浅い，U字状	外傾	人為	－	
82	A 5j9	N－1°－E	楕円形	0.40 × 0.30	20	浅い，U字状	外傾	自然	－	
83	A 5j9	N－77°－E	楕円形	0.46 × 0.36	13	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
84	A 5i9	－	円形	0.32 × 0.30	12	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
85	A 5j9	－	円形	0.42 × 0.40	12	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
86	A 5j9	N－7°－E	楕円形	1.40 × 0.96	26	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
87	A 5i9	－	円形	1.14 × 1.10	18	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
88	A 5i9	－	円形	0.36 × 0.36	50	U字状	ほぼ直立	人為	－	
89	A 5h9	N－35°－W	楕円形	0.54 × 0.38	46	U字状	ほぼ直立	人為	須恵器	
90	A 5i9	－	円形	0.28 × 0.28	20	浅い，U字状	外傾	人為	－	
91	A 5i0	N－81°－E	楕円形	0.82 × 0.68	13	平坦	外傾	人為	土師器	
93	A 6h1	N－57°－W	楕円形	0.52 × 0.38	24	浅い，U字状	ほぼ直立	人為	－	
94	A 6h1	－	円形	0.56 × 0.56	10	浅い，U字状	緩斜	人為	土師器	
95	A 6h1	N－32°－W	楕円形	0.36 × 0.30	18	浅い，U字状	外傾	人為	土師器	
96	B 5j2	－	円形	0.28 × 0.28	12	浅い，U字状	緩斜	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
97	B 5j2	N－78°－E	楕円形	0.70 × 0.62	14～42	有段	ほぼ直立 緩斜	人為	－	
98	B 5j4	－	円形	0.28 × 0.28	58	U字状	直立	自然	－	柱痕跡・埋土
99	B 5j4	－	円形	0.24 × 0.22	44	U字状	直立	自然	－	柱痕跡・埋土
100	C 5a4	N－66°－W	不定形	0.54 × 0.38	28	U字状	直立	自然	－	
101	C 5a4	N－66°－W	楕円形	0.52 × 0.31	32	U字状	直立	人為	－	
102	C 5b6	N－41°－W	楕円形	0.56 × 0.37	20	浅い，U字状	外傾 緩斜	自然	－	
103	C 5b6	N－0°	楕円形	0.47 × 0.38	20	浅い，U字状	外傾	自然	－	
104	C 5b6	N－54°－W	楕円形	0.54 × 0.38	12～20	有段	外傾	人為	－	
105	C 5a6	N－54°－W	楕円形	0.78 × 0.60	24	浅い，U字状	ほぼ直立 外傾	人為	－	SK106→本跡
106	C 5a6	－	円形	0.68 × 0.66	12	平坦	外傾	人為	－	本跡→SK105・107
107	C 5a6	－	円形	0.50 × 0.47	14	浅い，U字状	外傾 緩斜	人為	－	SK106→本跡
108	B 5i7	N－22°－E	楕円形	0.32 × 0.28	42	U字状	ほぼ直立	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
109	B 5i7	－	円形	0.36 × 0.34	10	平坦	外傾	人為	－	
110	B 5i7	－	円形	0.32 × 0.30	16	浅い，U字状	外傾	人為	－	
111	B 5j8	N－65°－W	楕円形	0.38 × 0.28	32	浅い，U字状	ほぼ直立	人為	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
112	C 5a8	N－58°－W	楕円形	0.50 × 0.40	14	浅い U字状	緩斜	人為	－	
113	C 5a8	－	円形	0.46 × 0.44	50	U字状	外傾	人為	－	
114	C 5b8	N－0°	楕円形	0.27 × 0.20	12	浅い U字状	外傾	人為	－	
115	C 5b8	N－9°－E	楕円形	0.68 × 0.43	32	U字状	外傾 緩斜	人為	－	
117	C 5b7	－	円形	0.20 × 0.19	21	U字状	外傾	人為	－	SI 7と重複
118	C 5b7	－	円形	0.21 × 0.20	40	U字状	直立	人為	－	SI 7と重複
119	C 5a7	N－46°－E	楕円形	0.71 × 0.45	26	浅い U字状	緩斜	人為	－	SI 4→本跡
120	B 5i5	N－32°－W	楕円形	0.38 × 0.34	14	浅い U字状	緩斜	人為	－	
121	A 6g9	－	［円形］	0.58 × ［0.54］	32	浅い U字状	緩斜	人為	－	SK122→本跡
122	A 6g9	－	［円形］	0.50 × ［0.48］	48	U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK121
123	A 6g5	N－33°－W	楕円形	0.40 × 0.26	38	凹凸	直立 ほぼ直立	人為	－	
124	A 6g6	N－0°	楕円形	0.28 × 0.24	22	浅い U字状	ほぼ直立 緩斜	人為	－	
125	A 6g6	N－81°－E	楕円形	0.32 × 0.22	18	浅い U字状	ほぼ直立 外傾	人為	－	
126	A 6i6	N－10°－E	楕円形	0.52 × 0.36	30	浅い U字状	ほぼ直立 外傾	自然	－	SK127→本跡
127	A 6e6	N－28°－E	［円形，楕円形］	0.26 × （0.20）	10	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK126
128	A 6g0	N－0°	［円形，楕円形］	1.10 × （0.94）	28	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SD25
129	A 6h0	－	円形	0.24 × 0.24	44	U字状	直立	自然	土師器	SD25→本跡 柱痕跡・埋土
130	B 5f0	N－32°－W	楕円形	0.73 × 0.60	76	凹凸	ほぼ直立	自然	－	SI14→本跡 柱痕跡・埋土
131	A 6g9	－	円形	0.32 × 0.32	50	U字状	ほぼ直立	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
132	A 6g8	－	円形	0.50 × 0.50	28	浅い U字状	外傾	人為	－	
133	A 6i7	N－40°－W	楕円形	0.38 × 0.26	30	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	
134	A 6h7	－	円形	0.48 × 0.48	24	浅い U字状	外傾	人為	－	
135	A 6g7	－	円形	0.26 × 0.24	16	浅い U字状	外傾	人為	－	
136	A 6f8	－	円形	0.22 × 0.20	18	浅い U字状	ほぼ直立	人為	－	
137	A 6f8	N－32°－W	［楕円形］	（0.94） × 0.44	26	浅い U字状	ほぼ直立	人為	－	
138	A 6f8	－	［円形］	（0.24） × 0.22	38	U字状	直立	人為	－	
139	A 6g8	N－17°－W	［楕円形］	0.66 × ［0.40］	22～42	有段	直立 外傾	人為	－	
140	A 6g8	N－23°－W	楕円形	0.78 × 0.50	8	凹凸	緩斜	人為	－	
141	A 6h8	－	円形	0.30 × 0.28	16	浅い U字状	外傾	人為	－	
142	B 6h5	N－5°－W	楕円形	0.35 × 0.28	20	浅い U字状	外傾	自然	－	柱痕跡・埋土
143	B 6g4	－	円形	0.38 × 0.37	28	浅い U字状	外傾	人為	－	
144	B 6g5	N－64°－E	楕円形	0.50 × 0.42	28	浅い U字状	外傾	人為	－	
145	B 6g6	－	円形	0.31 × 0.30	10	浅い U字状	緩斜	人為	－	
146	B 6g6	－	円形	0.37 × 0.34	12	浅い U字状	緩斜	人為	－	SI10→本跡
147	B 6g7	－	円形	0.29 × 0.29	12	浅い U字状	緩斜	人為	－	SK148→本跡
148	B 6g7	－	円形	0.32 × 0.32	12	浅い U字状	緩斜	自然	－	本跡→SK147
149	B 6g7	N－6°－E	楕円形	0.32 × 0.28	18	浅い U字状	外傾	人為	－	
150	B 6h7	－	円形	0.34 × 0.34	12	浅い U字状	緩斜	人為	－	
151	A 5h7	N－87°－W	隅丸長方形	1.32 × 0.96	32	平坦	直立	人為	－	SI17→本跡
152	A 6h9	－	円形	0.26 × 0.26	34	U字状	ほぼ直立	人為	土師器	柱抜き取り後の覆土・埋土
153	A 6g9	N－69°－W	楕円形	0.24 × 0.16	22	U字状	ほぼ直立	人為	－	
154	A 6g9	N－66°－W	楕円形	0.28 × 0.24	20	U字状	ほぼ直立	人為	須恵器	柱抜き取り後の覆土・埋土
155	A 7h3	N－14°－E	不定形	（1.34） × 1.00	32	凹凸	外傾	人為	－	
156	A 7i2	－	円形	0.23 × 0.23	26	U字状	ほぼ直立 外傾	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
157	A 7i2	N－56°－W	楕円形	0.21 × 0.18	22	U字状	ほぼ直立	自然	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
158	B 6a0	N－5°－E	楕円形	0.63 × 0.44	32	浅い，U字状	外傾	自然	－	
159	A 6g0	－	円形	0.60 × 0.56	36	浅い，U字状	外傾	人為	－	
160	B 6b0	N－18°－W	楕円形	0.78 × 0.45	28	浅い，U字状	外傾	自然	－	
162	B 5b8	N－20°－W	楕円形	0.40 × 0.36	20	浅い，U字状	外傾	人為	－	
163	B 5b8	N－7°－W	楕円形	0.46 × 0.36	24	浅い，U字状	外傾	自然	－	
164	B 5b8	－	円形	0.38 × 0.38	18～32	有段	外傾	人為	－	
165	B 5b8	－	円形	0.30 × 0.30	30	U字状	外傾	人為	－	
166	B 5b8	－	円形	0.30 × 0.30	20	浅い，U字状	外傾	自然	－	
167	B 5b8	－	円形	0.34 × 0.34	37	U字状	直立外傾	自然	－	
168	B 5g9	－	円形	0.36 × 0.34	28	U字状	外傾	自然	－	
169	B 5b9	N－4°－E	楕円形	1.13 × 0.60	20	凹凸	緩斜	人為	－	
170	B 5b0	－	円形	0.39 × 0.39	61	U字状	ほぼ直立外傾	自然	－	
171	B 6c4	N－64°－W	楕円形	1.05 × 0.94	6～36	有段	外傾緩斜	人為	－	
172	A 6f9	N－11°－E	楕円形	0.54 × 0.48	26	浅い，U字状	外傾	人為	－	柱痕跡・埋土
173	A 6i4	－	円形	0.42 × 0.42	12	浅い，U字状	緩斜	自然	－	
174	A 6j7	N－64°－W	［楕円形］	0.40 ×（0.37）	20	浅い，U字状	外傾	人為	－	本跡→SK175
175	A 6j7	N－23°－E	楕円形	0.52 × 0.40	24	凹凸	外傾	自然	－	SK174→本跡
176	B 6a6	N－60°－W	［楕円形］	0.48 ×（0.40）	34	U字状	外傾	人為	－	本跡→SK177
177	B 6a6	N－20°－E	楕円形	0.48 × 0.40	33	U字状	外傾	人為	－	SK176→本跡
178	B 6a4	N－50°－W	楕円形	0.50 × 0.40	16	浅い，U字状	外傾緩斜	人為	－	
179	B 6a4	N－47°－E	楕円形	0.62 × 0.49	28	有段	外傾緩斜	人為	－	
180	B 6a4	N－71°－E	楕円形	0.36 × 0.32	16	凹凸	外傾	自然	－	
181	B 6b4	N－23°－E	楕円形	0.54 × 0.42	16	浅い，U字状	外傾	人為	－	
182	B 6b4	－	円形	0.45 × 0.43	24	浅い，U字状	外傾緩斜	人為	－	
183	B 6b4	－	円形	0.48 × 0.48	16	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
184	B 6a1	N－23°－W	楕円形	0.68 × 0.48	20	浅い，U字状	外傾	人為	－	
185	B 6b1	N－72°－E	楕円形	0.64 × 0.48	22	浅い，U字状	外傾	人為	－	
186	B 6c1	－	円形	0.44 × 0.42	12	浅い，U字状	外傾緩斜	自然	－	
187	B 5c0	N－50°－W	楕円形	2.20 × 1.66	32	浅い，U字状	緩斜	人為	－	SK205→本跡→SK188
188	B 5c0	N－38°－E	楕円形	2.40 × 1.46	30	有段	外傾緩斜	人為	－	SK205→SK187→本跡
189	B 6d1	N－19°－W	楕円形	0.62 × 0.38	13	浅い，U字状	外傾	人為	－	
190	B 5c0	－	円形	0.50 × 0.48	12	平坦	外傾	自然	－	
191	B 6a9	N－36°－W	楕円形	0.51 × 0.46	16	浅い，U字状	緩斜	自然	－	
192	B 6e7	－	不定形	0.82 × 0.80	46	凹凸	外傾	人為	－	
193	B 6e7	N－61°－W	楕円形	1.04 × 0.84	10	平坦	緩斜	人為	－	
194	B 6e6	N－19°－E	不定形	1.36 × 0.90	14	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
195	B 6e8	N－4°－W	楕円形	0.94 × 0.82	12～28	浅い，U字状	ほぼ直立緩斜	人為	－	
196	B 6d7	N－10°－W	楕円形	0.72 × 0.63	42	U字状	外傾	人為	－	
197	B 6d7	N－18°－W	楕円形	1.80 × 1.14	17	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
198	B 6d7	N－30°－W	楕円形	1.54 × 1.04	12	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
199	B 6e8	－	円形	0.33 × 0.31	29	U字状	外傾	人為	－	
200	B 6f0	N－36°－E	楕円形	0.82 × 0.43	17	平坦	外傾緩斜	人為	－	
201	B 6e9	N－69°－E	楕円形	0.34 × 0.26	11	浅い，U字状	外傾	人為	－	
202	B 6g4	N－38°－W	不定形	1.06 × 0.76	20	平坦	外傾	人為	－	
203	B 6f4	N－72°－W	不定形	1.92 × 1.16	28	浅い，U字状	緩斜	人為	－	SK204・219→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
204	B 6f4	－	[円形・楕円形]	0.90 × （0.52）	8	平坦	緩斜	人為	－	本跡→SK203
205	B 5e0	N－66°－W	楕円形	1.42 × 0.80	40 ～ 56	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	本跡→SK187 →SK188
206	B 6b4	N－60°－E	楕円形	0.42 × 0.30	9	浅い U字状	緩斜	人為	－	
207	B 6d6	－	円形	0.46 × 0.44	40	有段	外傾 直立	人為	－	
208	B 6b6	N－45°－E	楕円形	0.40 × 0.30	40	U字状	ほぼ直立 外傾	人為	－	
209	B 6d5	－	円形	0.34 × 0.34	28	U字状	ほぼ直立 外傾	自然	－	柱痕跡・埋土
210	B 6f3	N－49°－E	楕円形	0.50 × 0.44	10	浅い U字状	緩斜	自然	－	
211	C 5a0	N－70°－W	楕円形	0.40 × 0.34	34	U字状	ほぼ直立 外傾	人為	－	
212	C 6b1	－	円形	0.38 × 0.36	34	U字状	外傾	自然	－	柱痕跡・埋土
213	C 5b0	N－65°－E	楕円形	0.60 × 0.54	38	U字状	外傾	自然	－	柱痕跡・埋土
214	C 6d1	N－63°－E	楕円形	0.37 × 0.34	27	浅い U字状	ほぼ直立 外傾	人為	－	
216	C 5a0	－	円形	0.20 × 0.20	36	U字状	ほぼ直立	人為	－	
219	B 6f4	N－59°－E	楕円形	0.82 × 0.66	23	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK203
220	-Y 7a8	N－14°－W	楕円形	4.02 × 2.00	30	平坦	外傾	人為	－	SD 7→本跡
221	-Y 7b0	－	円形	0.52 × 0.52	16	平坦	緩斜	人為	－	
222	-Y 7b0	N－7°－E	楕円形	1.12 × 1.00	16	平坦	緩斜	人為	－	
223	-Y 7b0	N－29°－W	楕円形	0.50 × 0.40	12	平坦	緩斜	人為	－	
224	-Y 7b0	－	円形	0.56 × 0.54	16	平坦	緩斜	人為	－	
225	-Y 7e8	－	円形	1.24 × 1.16	36	平坦	緩斜	自然	土師器	
226	-Y 7d9	N－78°－E	楕円形	1.96 × 1.42	20	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器	SB 8と重複
227	-X 7j0	N－0°	[円形・楕円形]	0.52 × （0.44）	40	浅い U字状	緩斜	人為	－	
229	-Y 7d9	N－32°－W	楕円形	1.58 × 1.38	18	平坦	外傾	人為	縄文土器	SK266→本跡
230	-Y 7e9	N－47°－W	楕円形	2.46 × 0.98	18	凹凸	外傾	人為	－	
231	-Y 7e9	N－46°－W	楕円形	1.54 × 1.18	18	平坦	緩斜	自然	－	
232	-Y 7e6	－	不整円形	1.24 × 1.24	12	平坦	緩斜	人為	須恵器	
233	-Y 7e6	N－74°－W	隅丸長方形	2.04 × 0.76	12	やや凹凸	緩斜	人為	－	
234	-Y 8a3	－	円形	1.12 × 1.10	20	平坦	外傾	人為	－	
235	-Y 8a3	N－72°－W	楕円形	1.24 × 1.08	50	有段	外傾	人為	－	
236	-Y 8b3	N－87°－W	楕円形	1.28 × 0.92	10	平坦	外傾	人為	－	
237	-Y 8b2	N－75°－W	楕円形	1.16 × 1.03	14	平坦	外傾	人為	－	本跡→SK238
238	-Y 8b2	－	円形	0.96 × 0.94	12	平坦	外傾	人為	－	SK237→本跡
239	-Y 8b2	N－5°－W	楕円形	0.62 × 0.56	12 ～ 18	平坦	外傾	人為	－	
240	-Y 7e7	N－67°－E	[円形・楕円形]	0.44 × （0.36）	14	平坦	外傾	人為	－	本跡→SK241
241	-Y 7e7	N－22°－W	楕円形	0.64 × 0.50	28	有段	緩斜	人為	－	SK240・253→本跡
242	-Y 7e8	N－90°	楕円形	（0.56） × 0.48	36	U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK243
243	-Y 7e8	N－63°－W	楕円形	0.64 × 0.52	32	U字状	外傾 緩斜	人為	土師器	SK242・253→本跡
244	-Y 7f7	N－90°	楕円形	0.80 × （0.58）	18	平坦	緩斜	人為	－	本跡→SK245
245	-Y 7f7	－	円形	1.50 × 1.42	28	平坦	緩斜	自然	－	SK244→本跡
246	-Y 7f6	N－0°	楕円形	1.24 × 0.88	46	U字状	緩斜	人為	－	SK247→本跡
247	-Y 7f6	N－30°－E	楕円形	[1.68] × 1.34	50	U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK246
248	-Y 7e9	N－54°－W	隅丸長方形	1.62 × 0.70	20	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器	
249	-Y 7f0	N－80°－E	不定形	1.70 × 1.00	20	平坦	外傾	人為	土師器	
250	-Y 7f0	N－82°－E	不定形	1.24 × 1.12	10	平坦	外傾	人為	－	
251	-Y 8d3	N－3°－E	楕円形	2.26 × 1.56	20	平坦	緩斜	人為	剥片	
252	-Y 7e8	N－36°－E	楕円形	1.40 × 1.02	28	浅い U字状	緩斜	人為	－	SD 7→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
253	-Y 7e8	N－39°－E	［楕円形］	0.60 × （0.24）	28	浅い，U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK241，243
254	-Y 7f0	N－0°	楕円形	1.12 × 0.94	14	平坦	緩斜	人為	－	SK256→本跡
255	-Y 8f1	－	円形	1.12 × 1.12	28	浅い，U字状	緩斜	人為	－	SK256→本跡
256	-Y 7f0	N－80°－E	楕円形	［3.02］ × 0.80	16	平坦	緩斜	人為	－	本跡→SK254，255
257	-Y 7i8	N－32°－W	楕円形	2.02 × 1.68	24	平坦	外傾	人為	－	
258	-Y 8f4	N－35°－W	楕円形	0.94 × 0.80	5	平坦	外傾	人為	－	
259	-Y 8g3	N－75°－W	楕円形	1.00 × 0.84	16	平坦	緩斜	人為	－	
260	-Y 7g0	N－42°－W	楕円形	1.92 × 1.52	18	平坦	緩斜	人為	－	本跡→SK261
261	-Y 7g0	N－0°	楕円形	1.12 × 0.90	16	平坦	緩斜	人為	－	SK260，262→本跡
262	-Y 7g0	N－0°	楕円形	0.94 × 0.80	18	平坦	緩斜	人為	－	本跡→SK261
263	-Y 7e9	N－87°－W	楕円形	0.66 × 0.54	50	有段	外傾	自然	－	SD 8→本跡
264	-Y 7f5	－	円形	1.52 × 1.52	20	平坦	外傾	人為	土師器	
265	-Y 7f6	N－10°－E	楕円形	［0.68］ × 0.50	20	浅い，U字状	緩斜	人為	－	本跡→SI19
266	-Y 7d9	N－83°－E	楕円形	2.06 × （1.40）	30～40	平坦	外傾，緩斜	人為	縄文土器	本跡→SD 8，SK229，PG 4
267	-Y 8c6	N－64°－E	楕円形	1.56 × 0.94	20	有段	緩斜	人為	－	SK268→本跡
268	-Y 8c6	N－24°－E	［円形，楕円形］	0.90 × （0.50）	16	平坦	緩斜	人為	－	本跡→SK267
269	-Y 8c7	－	円形	2.68 × 2.60	10	平坦	緩斜	人為	－	
270	-Y 8i1	N－57°－W	楕円形	1.24 × 0.98	14	平坦	外傾，緩斜	人為	－	
271	-Y 8i1	N－57°－W	楕円形	1.04 × 0.92	12	平坦	外傾，緩斜	人為	－	
272	-Y 8i2	N－78°－E	楕円形	1.48 × 1.16	13	平坦	外傾，緩斜	人為	－	
273	-Y 8d4	－	円形	0.84 × 0.80	12～20	有段	緩斜	人為	－	
274	-Y 8f5	N－43°－E	楕円形	0.72 × 0.39	8～54	有段	緩斜	人為	－	
275	-Y 8f5	N－12°－W	楕円形	0.75 × 0.67	12～35	有段	外傾	人為	－	
276	-Y 8e6	N－48°－E	楕円形	1.64 × 1.36	12	平坦	緩斜	人為	土師器，須恵器	
277	-Y 8e5	－	円形	1.92 × 1.90	12	平坦	緩斜	人為	－	
278	-Y 7g7	N－78°－W	隅丸長方形	1.10 × 1.00	18	平坦	外傾	人為	－	
279	-Z 7a5	N－0°	楕円形	0.44 × 0.38	26	浅い，U字状	外傾	自然	－	
280	-Y 8g5	N－54°－E	楕円形	1.40 × 0.96	10	平坦	緩斜	人為	－	
281	-Y 7i0	N－29°－E	楕円形	1.02 × 0.84	16	平坦	14.12直立	人為	－	
282	-Y 8h3	N－79°－E	楕円形	0.80 × 0.64	12	平坦	緩斜	人為	－	
283	-Y 8h4	N－74°－E	楕円形	1.02 × 0.84	8	平坦	緩斜	人為	－	
284	-Y 8h4	N－35°－W	楕円形	2.00 × 1.20	10	平坦	緩斜	人為	－	
285	-Y 8f5	N－23°－E	楕円形	1.65 × 1.14	14	浅い，U字状	緩斜	人為	－	
286	-Y 8i4	N－15°－E	［円形，楕円形］	0.56 × （0.50）	16	平坦	外傾	人為	－	
287	-Y 8i5	N－20°－E	［方形，長方形］	（2.04） × （1.50）	10～20	平坦	緩斜	人為	－	本跡→SD14
288	-Y 8i5	N－9°－W	楕円形	1.04 × 0.86	17	平坦	外傾	人為	－	
289	-Y 7i8	－	円形	1.00 × 0.94	36	平坦	外傾	人為	土師器	
290	-Y 8g6	N－35°－E	楕円形	1.50 × 0.93	8	平坦	外傾	人為	－	
291	-Y 7j6	－	［円形，楕円形］	1.00 × （0.38）	28	浅い，U字状	外傾	自然	－	本跡→SI22
292	-Y 8h7	N－55°－W	楕円形	1.62 × 1.33	11	平坦	緩斜	人為	土師器	
293	-Y 8i5	N－24°－E	楕円形	（1.20） × 0.96	18	平坦	外傾	人為	－	
294	-Y 8d7	N－45°－W	楕円形	1.42 × 0.88	8	平坦	緩斜	人為	－	
295	-Y 8h8	N－19°－E	楕円形	2.16 × 1.80	14	平坦	緩斜	人為	－	
296	-Y 8c7	N－22°－W	楕円形	0.82 × 0.72	12～40	平坦	内傾，緩斜	自然	－	
297	-Y 8e6	N－5°－W	楕円形	0.62 × 0.38	20	浅い，U字状	外傾	人為	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
298	-Y 8g8	－	円形	1.00 × 0.98	20	平坦	緩斜	人為	須恵器	
299	-Y 7j7	N－65°－E	楕円形	1.00 × 0.84	20	平坦	緩斜	自然	－	
300	-Z 7a7	N－84°－W	楕円形	2.15 × 0.84	44	凹凸	外傾	人為	－	
301	-Y 8d7	N－12°－E	楕円形	0.56 × 0.48	24	浅い U字状	ほぼ直立 緩斜	－	－	
302	-Y 8a4	－	円形	1.02 × 1.00	13	浅い U字状	緩斜	人為	－	
303	-Y 7g8	－	[円形・楕円形]	0.98 × (0.42)	22	平坦	緩斜	人為	－	
304	-Y 7i9	－	円形	0.72 × 0.69	20	平坦	外傾	人為	－	
305	-Z 7a0	N－15°－W	楕円形	0.82 × 0.66	10	平坦	外傾	人為	－	
306	-Z 7e3	－	円形	1.11 × 1.08	8～18	有段	外傾 緩斜	人為	－	SI34，SK514→本跡
307	-Z 7e3	N－80°－W	楕円形	0.82 × 0.64	12～28	有段	ほぼ直立 外傾	人為	－	
308	-Z 7e2	N－45°－E	楕円形	0.64 × 0.53	40	U字状	外傾	自然	－	SI35→本跡
309	-Z 7e4	N－42°－W	楕円形	0.78 × 0.60	24	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	－	SD17→本跡
310	-Z 7g7	－	円形	0.48 × 0.48	28	平坦	ほぼ直立	人為	－	
311	-Z 7j3	N－39°－W	楕円形	0.78 × 0.56	38	浅い U字状	外傾	自然	縄文土器	
312	-Z 7f5	－	円形	0.50 × 0.46	44	浅い U字状	外傾	人為	－	
313	-Z 7j5	－	円形	0.58 × 0.56	38	凹凸	外傾	人為	－	
314	-Z 7j5	N－24°－E	楕円形	0.64 × 0.52	22	凹凸	緩斜	自然	土師器	
315	-Z 7f5	－	円形	0.50 × 0.48	32	有段	外傾	人為	－	
317	-Z 7f6	－	円形	0.44 × 0.42	38	平坦	ほぼ直立	人為	－	
318	-Z 7j2	－	円形	1.00 × 1.00	28	平坦	緩斜	自然	－	
319	-Z 7j1	N－0°	楕円形	1.46 × 1.14	32	平坦	緩斜	自然	－	
320	A 7a3	－	円形	0.66 × 0.66	66	U字状	ほぼ直立	自然	土師器，須恵器	柱痕跡・埋土
321	A 7a2	－	円形	0.46 × 0.44	56	有段	ほぼ直立	人為	土師器，須恵器	
322	-Z 7i4	－	円形	0.44 × 0.44	40	平坦	外傾	自然	－	
323	A 7a2	－	円形	0.54 × 0.52	40	U字状	外傾	自然	－	柱痕跡・埋土
324	A 7a4	－	円形	0.32 × 0.32	20	浅い U字状	外傾	自然	土師器，須恵器	
325	-Z 7d2	N－69°－W	楕円形	0.46 × 0.36	28	凹凸	ほぼ直立	自然	土師器	
326	-Z 7d2	－	円形	0.40 × 0.40	32	凹凸	ほぼ直立	自然	－	
327	-Z 7i4	－	円形	0.56 × 0.52	30	浅い U字状	外傾	自然	－	
328	-Z 7e5	N－38°－W	楕円形	0.72 × 0.56	24	浅い U字状	緩斜	自然	－	SK445→本跡
329	A 7c3	－	円形	0.68 × 0.66	28	平坦	緩斜	自然	－	
330	A 7c3	－	円形	0.42 × 0.40	20	浅い U字状	緩斜	自然	－	
331	A 7c3	N－16°－E	楕円形	0.56 × 0.50	28	浅い U字状	緩斜	人為	土師器	
332	A 7h3	N－32°－E	楕円形	0.36 × 0.32	24	浅い U字状	外傾	人為	土師器	
334	A 7b5	N－24°－E	楕円形	0.60 × 0.52	24	有段	外傾	自然	－	
335	A 7b4	－	円形	0.62 × 0.60	28	浅い U字状	緩斜	人為	土師器	
336	A 7a4	－	円形	0.50 × 0.50	16	浅い U字状	緩斜	人為	－	
337	A 7b4	N－25°－W	楕円形	0.88 × 0.80	14	平坦	緩斜	人為	須恵器	
338	A 7b5	－	円形	0.50 × 0.48	22	浅い U字状	外傾	人為	土師器	
339	A 7b5	－	円形	0.38 × 0.36	14	浅い U字状	緩斜	人為	－	
340	A 7b5	N－90°	楕円形	0.44 × 0.38	18	浅い U字状	緩斜	人為	土師器	
343	A 7c3	－	円形	0.96 × 0.92	20	平坦	緩斜	自然	－	
348	A 7c1	－	円形	0.50 × 0.46	26	浅い U字状	緩斜	自然	－	
349	A 7c1	－	円形	0.48 × 0.46	22	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	－	
350	-Z 7b6	N－90°	隅丸長方形	1.08 × 0.76	26	浅い U字状	外傾	人為	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
351	-Z 7 b6	N－24°－W	楕円形	0.96 × 0.66	22	凹凸	外傾 緩斜	自然	－	
352	-Z 7 b6	N－90°	楕円形	1.14 × 0.94	20	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	
353	-Z 7 b7	－	円形	0.70 × 0.64	32	浅い U字状	緩斜	自然	－	
354	-Z 7 a7	N－8°－E	楕円形	0.68 × 0.52	32	有段	外傾	自然	－	
355	-Z 7 a7	－	円形	0.54 × 0.52	26	浅い U字状	緩斜	自然	－	
357	-Z 7 b8	N－19°－W	楕円形	1.38 × 1.04	18	平坦	緩斜	自然	－	
358	-Z 7 c8	N－44°－W	楕円形	0.50 × 0.38	16	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	－	
361	-Z 7 d9	－	円形	0.54 × 0.54	20	平坦	外傾	自然	－	
363	-Z 7 d9	－	円形	0.30 × 0.30	25	浅い U字状	外傾	人為	－	
366	-Z 7 d9	－	円形	0.58 × 0.54	25	浅い U字状	外傾	自然	土師器	
371	-Z 7 d9	－	円形	0.31 × 0.31	24	浅い U字状	ほぼ直立	自然	－	
374	-Z 8 c1	N－22°－E	楕円形	0.34 × 0.28	28	浅い U字状	外傾	自然	－	
375	-Z 8 c1	N－65°－W	楕円形	0.64 × 0.36	20	浅い U字状	緩斜	自然	土師器	
376	-Z 7 c1	N－34°－E	楕円形	0.44 × 0.34	30	浅い U字状	緩斜	人為	－	
377	-Z 7 b1	N－43°－W	楕円形	0.68 × 0.58	20	浅い U字状	緩斜	人為	－	
378	-Z 7 c1	N－4°－E	楕円形	1.88 × 1.26	42	浅い U字状	緩斜	人為	－	
379	-Z 7 c0	－	円形	0.34 × 0.32	24	U字状	外傾	人為	－	
380	-Z 8 c2	－	円形	0.54 × 0.54	46	U字状	外傾 緩斜	人為	－	
381	-Z 8 d1	N－32°－E	楕円形	0.48 × 0.42	48	U字状	外傾	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
382	-Z 7 d1	N－44°－W	［長方形］	(1.04) × 0.50	12	平坦	外傾	自然	－	本跡→SD11
383	-Z 7 e1	N－32°－E	楕円形	0.68 × 0.52	24	有段	外傾 緩斜	人為	－	
384	-Z 7 d8	N－9°－W	楕円形	0.68 × 0.56	38	有段	外傾	人為	土師器，須恵器	
386	-Z 7 e9	－	円形	1.14 × 1.12	18	平坦	外傾 緩斜	人為	－	
389	-Z 7 d1	N－22°－E	楕円形	1.20 × 0.54	16	平坦	外傾	人為	－	
398	A 7 c1	－	［円形・ 楕円形］	0.49 × (0.43)	40	平坦	ほぼ直立	人為	－	本跡→SB13
402	A 6 c0	N－67°－W	楕円形	0.57 × 0.50	28	浅い U字状	緩斜	人為	－	
403	A 6 c0	N－70°－W	楕円形	0.45 × 0.40	18	浅い U字状	外傾	人為	－	
404	A 6 c0	N－28°－E	楕円形	0.45 × 0.38	28	U字状	ほぼ直立	人為	－	
405	A 6 c0	N－90°	楕円形	0.60 × 0.47	32	平坦	外傾	人為	－	
406	A 6 d0	－	円形	0.53 × 0.52	36	有段	外傾	人為	－	
410	A 7 d2	N－30°－E	楕円形	0.71 × 0.64	20	平坦	ほぼ直立	自然	－	
412	A 7 c2	－	円形	0.82 × 0.82	30	有段	ほぼ直立	人為	土師器	
415	A 7 c2	－	円形	0.51 × 0.50	22	浅い U字状	緩斜	人為	－	
416	A 7 c3	N－0°	楕円形	0.46 × 0.40	16	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	－	
417	A 7 c3	N－65°－E	楕円形	0.59 × 0.48	20	有段	緩斜	人為	土師器	
418	A 7 c3	－	円形	0.54 × 0.50	24	浅い U字状	緩斜	自然	土師器	
419	A 7 d3	－	円形	0.44 × 0.43	24	浅い U字状	外傾	自然	土師器	
420	A 7 d3	N－90°	楕円形	0.64 × 0.56	26	浅い U字状	緩斜	人為	－	
421	-Z 7 d1	N－68°－W	楕円形	0.44 × 0.38	12	浅い U字状	緩斜	人為	－	
422	-Z 7 c5	N－47°－E	楕円形	1.06 × 0.48	14	平坦	緩斜	人為	－	
423	-Z 7 c6	N－40°－W	楕円形	0.60 × 0.46	18	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器	
424	-Z 7 d6	－	円形	0.50 × 0.46	20	平坦	外傾	人為	－	
428	-Z 8 e1	－	円形	0.50 × 0.46	56	平坦	ほぼ直立	人為	－	
430	A 7 d4	N－74°－W	楕円形	0.54 × 0.48	26	有段	外傾 緩斜	自然	－	
431	A 7 d4	－	円形	0.48 × 0.48	22	浅い U字状	緩斜	自然	－	

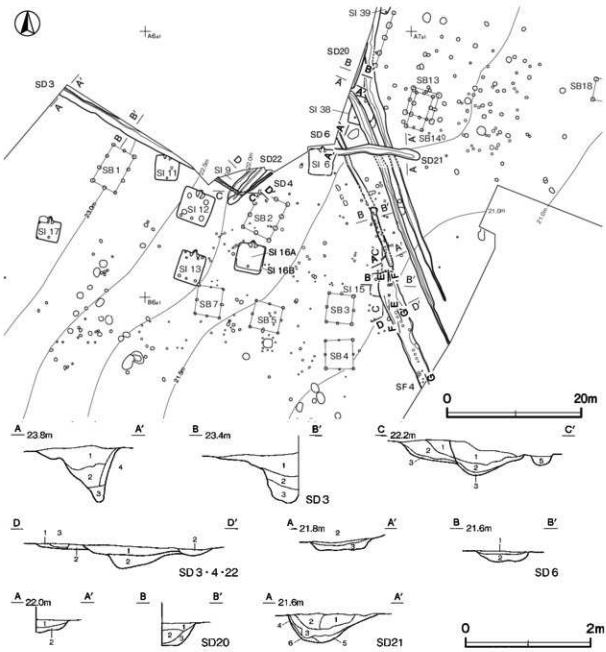
番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
432	A 7 e4	－	円形	0.46 × 0.46	22	浅い U字状	緩斜	自然	－	
433	A 7 e4	N－90°	楕円形	0.48 × 0.40	23	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	土師器	
434	A 7 e5	N－70°－W	楕円形	0.48 × 0.36	16	浅い U字状	外傾	人為	土師器	
435	A 7 d3	－	円形	0.60 × 0.60	24	有段	緩斜	自然	－	
436	A 7 d3	－	円形	1.32 × 1.32	16	平坦	外傾	自然	須恵器	
437	A 7 b4	N－90°	楕円形	0.44 × 0.36	24	浅い U字状	緩斜	自然	土師器	
438	A 7 d4	N－48°－W	楕円形	0.74 × 0.62	16	浅い U字状	緩斜	自然	土師器	
439	A 7 b4	－	円形	0.34 × 0.34	18	浅い U字状	緩斜	人為	－	
440	A 7 d4	N－47°－W	楕円形	0.52 × 0.46	18	浅い U字状	緩斜	人為	－	
441	-Z 7 d5	N－24°－E	楕円形	0.58 × 0.50	18	浅い U字状	外傾	人為	－	SI33→本跡
442	-Z 7 e4	N－67°－W	楕円形	0.72 × 0.63	13	浅い U字状	緩斜	人為	－	SI33→本跡
443	-Z 7 b8	N－90°－W	楕円形	0.19 × 0.13	24	U字状	直立	人為	－	SI37と重複
444	-Z 7 i8	N－8°－E	楕円形	0.71 × 0.52	11	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	SI37→本跡
445	-Z 7 e5	－	[円形・楕円形]	0.58 × （0.36）	26	浅い U字状	外傾	自然	－	本跡→SK328
446	-Z 7 d4	N－25°－E	楕円形	0.38 × 0.30	20	平坦	ほぼ直立	人為	－	SI33→本跡
447	-Z 7 d4	－	[円形]	0.48 × [0.46]	10	平坦	緩斜	人為	－	SI33→本跡
450	-Z 7 e4	－	円形	0.56 × 0.56	18	浅い U字状	外傾	自然	－	
451	-Z 7 e4	－	円形	0.40 × 0.40	24	浅い U字状	外傾	自然	－	
452	-Z 8 h2	N－4°－W	楕円形	0.82 × 0.52	36	平坦	外傾	人為	－	
455	-Z 8 g4	－	円形	0.38 × 0.35	24	浅い U字状	外傾	人為	－	
456	-Z 8 h1	N－0°	楕円形	0.38 × 0.34	32	平坦	外傾	人為	－	
457	-Z 8 j2	－	円形	0.50 × 0.46	34	浅い U字状	外傾	自然	－	
458	-Z 8 j3	－	円形	0.33 × 0.32	32	U字状	外傾	自然	－	柱痕跡・埋土
459	-Z 8 j4	N－84°－W	楕円形	0.34 × 0.28	22	U字状	外傾	人為	－	
460	A 8 a3	－	円形	0.35 × 0.32	24	U字状	外傾	人為	－	
461	A 7 a1	－	円形	0.52 × 0.48	28	浅い U字状	緩斜	人為	－	
462	A 7 a1	N－12°－E	楕円形	0.70 × 0.50	22	平坦	外傾	人為	－	
463	A 8 h3	N－60°－W	楕円形	0.50 × 0.38	30	U字状	外傾	人為	－	
464	A 8 b6	N－11°－W	楕円形	0.42 × 0.32	26	平坦	外傾	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
465	A 7 d0	N－10°－W	楕円形	0.80 × 0.48	58	U字状	外傾	人為	－	
466	A 6 b0	－	円形	0.44 × 0.42	20	浅い U字状	外傾	自然	土師器	
467	A 7 b1	N－5°－W	楕円形	0.82 × 0.58	30	平坦	外傾	自然	－	SK468→本跡
468	A 7 b1	N－7°－E	[楕円形]	0.58 × （0.44）	34	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK467
469	A 8 a3	N－84°－W	楕円形	0.34 × 0.27	38	U字状	直立	人為	－	
470	A 7 d6	N－15°－E	楕円形	0.68 × 0.54	38	U字状	直立	人為	須恵器	
471	A 7 d5	－	円形	0.40 × 0.38	30	U字状	外傾	人為	－	
472	A 7 d5	－	円形	0.36 × 0.36	18	浅い U字状	外傾	人為	－	
473	A 7 b3	N－25°－E	楕円形	0.42 × 0.36	20	浅い U字状	外傾	自然	－	
474	A 7 a1	－	円形	0.38 × 0.38	18	浅い U字状	外傾	人為	－	柱痕跡・埋土
475	A 7 a2	N－13°－E	楕円形	0.58 × 0.50	23	浅い U字状	外傾	自然	－	
476	A 7 b3	－	円形	0.44 × 0.42	17	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	土師器	
477	A 7 b2	－	円形	0.42 × 0.40	16	平坦	外傾	人為	－	
478	A 7 d8	N－20°－W	楕円形	0.88 × 0.62	54	U字状	緩斜	人為	土師器	SK479→本跡
479	A 7 d8	N－51°－W	[楕円形]	（0.64） × 0.58	36	平坦	外傾	人為	－	本跡→SK478
480	A 7 d9	N－75°－W	[楕円形]	0.74 × （0.48）	26	浅い U字状	外傾	人為	土師器	本跡→SK481

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
481	A 7 d9	N－70°－W	［楕円形］	0.58 ×（0.44）	48	U字状	緩斜	人為	－	SK480→本跡→SK486
482	A 8 d2	－	円形	0.38 × 0.36	42	U字状	ほぼ直立	人為	－	
483	A 7 f8	－	円形	0.30 × 0.28	36	U字状	ほぼ直立	人為	－	
484	A 7 f9	－	円形	0.32 × 0.30	30	U字状	ほぼ直立	人為	－	
485	A 7 e0	N－67°－W	楕円形	0.56 × 0.48	32	浅い U字状	ほぼ直立	人為	－	
486	A 7 d9	－	円形	0.60 × 0.60	20	浅い U字状	緩斜	人為	－	SK481→本跡
487	A 7 f0	N－51°－W	［円形・楕円形］	0.52 ×（0.32）	52	U字状	ほぼ直立 緩斜	人為	－	本跡→SK488
488	A 7 e0	N－48°－E	楕円形	0.60 × 0.50	30	浅い U字状	緩斜	人為	－	SK487→本跡
489	A 7 g9	N－55°－W	楕円形	0.56 × 0.30	40	有段	外傾	自然	－	
490	A 7 b8	－	円形	0.50 × 0.48	20	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	－	
491	A 7 f0	N－70°－W	楕円形	0.64 × 0.52	34	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	
492	A 8 g1	N－73°－W	楕円形	0.48 × 0.36	26～46	有段	ほぼ直立	人為	－	柱痕跡・埋土
493	A 8 g1	－	円形	0.36 × 0.34	28	平坦	ほぼ直立	人為	－	
494	A 7 g0	N－76°－W	楕円形	0.88 × 0.56	30	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器	
496	A 8 f1	N－0°	楕円形	0.38 × 0.34	36	U字状	ほぼ直立	人為	－	柱痕跡・埋土
497	A 7 f0	N－90°	楕円形	0.34 × 0.30	52	U字状	ほぼ直立	人為	須恵器	
498	A 7 f0	N－46°－W	楕円形	0.58 × 0.52	28	浅い U字状	外傾	人為	須恵器，石器	
499	A 8 e3	－	円形	0.36 × 0.34	32	U字状	ほぼ直立	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
500	A 6 d9	N－29°－E	［楕円形］	（1.25）× 0.83	16	浅い U字状	緩斜	人為	－	SI38→本跡→SD25
501	A 7 c6	N－65°－E	楕円形	0.84 × 0.76	58	浅い U字状	緩斜	人為	土師器	
502	A 6 a9	－	円形	0.32 × 0.32	32	U字状	外傾	人為	－	柱抜き取り後の覆土・埋土
503	Z 7 e7	－	円形	0.36 × 0.36	16	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	本跡→SD17
504	Z 7 b4	N－11°－W	楕円形	0.40 × 0.33	26	U字状	外傾	人為	土師器	
505	A 8 f2	N－0°	楕円形	0.25 × 0.20	12	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SI45
506	A 8 f2	N－65°－E	楕円形	0.34 × 0.26	16	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SI45
507	Z 7 b9	－	円形	0.48 × 0.46	24	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	
508	Z 7 f9	N－10°－E	楕円形	0.54 × 0.46	24	浅い U字状	外傾	人為	－	
509	Z 7 f9	N－10°－E	楕円形	0.36 × 0.28	25	浅い U字状	外傾	自然	－	
510	Z 7 b9	－	円形	0.42 × 0.38	23	浅い U字状	外傾	自然	－	
511	A 8 b6	－	円形	0.48 × 0.44	16	平坦	外傾	自然	－	
512	A 8 b5	N－34°－E	楕円形	1.04 × 0.64	48	浅い U字状	外傾	自然	－	
513	A 8 b5	N－6°－W	楕円形	0.80 × 0.64	34	浅い U字状	外傾	人為	－	
514	Z 7 e3	N－10°－E	［楕円形］	0.78 ×（0.68）	34～60	有段	ほぼ直立	人為	－	本跡→SI34，SK306
515	Z 7 e3	N－64°－E	楕円形	0.64 × 0.50	48	平坦	ほぼ直立	人為	－	SI34と重複
516	A 7 g8	N－52°－W	楕円形	0.33 × 0.27	48	U字状	ほぼ直立	人為	－	
517	A 7 f6	N－35°－W	楕円形	0.94 × 0.60	48	浅い U字状	外傾	人為	土師器	
518	A 7 e4	N－1°－W	楕円形	0.53 × 0.44	14	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	－	
519	A 7 f6	N－64°－E	楕円形	0.60 × 0.48	21	浅い U字状	緩斜	人為	－	SK520→本跡
520	A 7 f6	N－63°－E	楕円形	0.60 ×［0.48］	21	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SK519
521	A 7 f4	N－54°－W	楕円形	0.56 × 0.42	24	浅い U字状	外傾	人為	土師器	
522	A 7 e2	－	円形	0.30 × 0.30	15	浅い U字状	外傾	人為	－	
523	A 7 f2	N－28°－W	楕円形	0.80 × 0.56	12	浅い U字状	緩斜	人為	須恵器	
524	A 7 f1	－	円形	0.39 × 0.39	24	浅い U字状	外傾	人為	－	
525	A 6 d8	N－47°－E	不整楕円形	1.82 × 1.22	90	浅い U字状	外傾	人為	－	
526	A 8 i1	N－78°－E	隅丸長方形	1.26 × 0.96	26	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SI49

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
530	Y 7 i3	N－83°－W	円形・楕円形	0.40 ×（0.28）	14	平坦	外傾	－	－	SI24→本跡
531	A 6 b0	－	円形	0.26 × 0.24	36	U字状	ほぼ直立	人為	－	
532	B 5 d8	N－73°－W	円形・楕円形	0.38 ×（0.16）	10	平坦	緩斜	－	－	本跡→SI 8
533	B 5 d8	N－84°－W	円形・楕円形	0.22 ×（0.18）	18	浅い U字状	ほぼ直立	－	－	SI 8→本跡

(4) 溝跡（PL25 ～ 28）

今回の調査で，時期や性格が不明な溝跡 20 条を確認した。以下，実測図（第 159 ～ 161 図）及び一覧表を記載する。



第 159 図　その他の溝跡・道路跡実測図

第3号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黄　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物少量

第4号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第6号溝跡土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

第20号溝跡土層解説

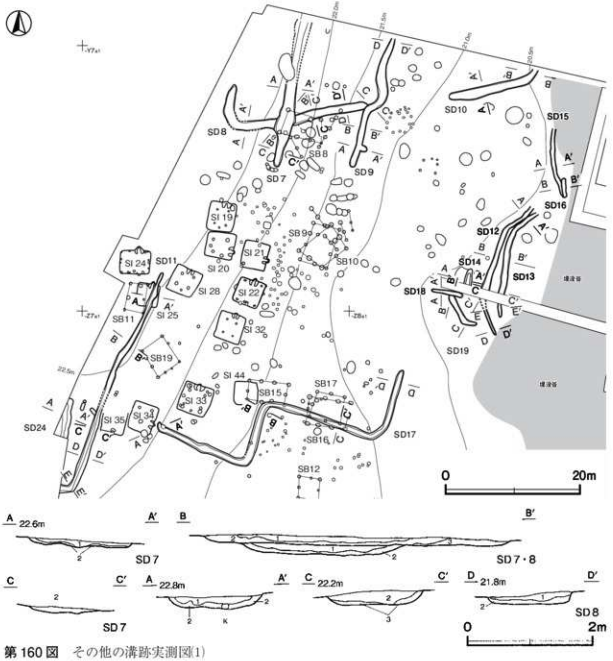
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第21号溝跡土層解説

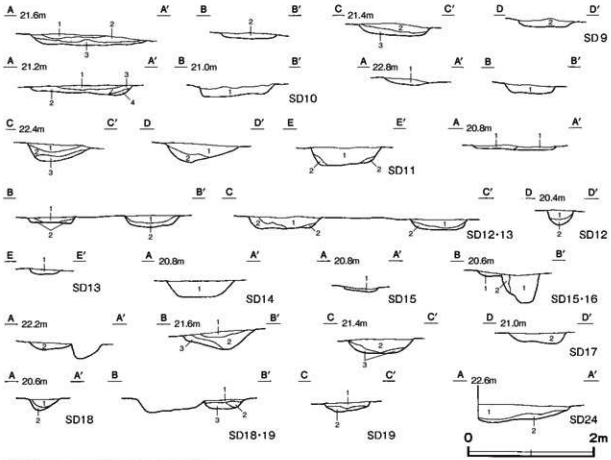
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量

第22号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量



第160図　その他の溝跡実測図(1)



第 161 図　その他の溝跡実測図(2)

第 7 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 8 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第 9 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 10 号溝跡土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量
3　黒　　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 11 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量

第 12 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 13 号溝跡土層解説
1　黒　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量

第 14 号溝跡土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 15 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 16 号溝跡土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 17 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子微量

第 18 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 19 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 24 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

表11　その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
3	A 5c7～A 6g5	N－13°－E N－52°－E	L字状	(22.20)	0.28～1.22	0.16～0.22	14～22	U字状	緩斜 (段状)	人為	土師器，須恵器，陶器，鉄器	SD 4・22→本跡
4	A 6f5～A 6g4	N－43°－E	直線	(7.24)	0.92～1.32	0.14～0.24	40	浅い U字状	緩斜	人為	土師器，須恵器，陶器，鉄器	SD22→本跡→SD 3
6	A 6d8～A 6i0	N－130°－E	直線	(18.15)	0.68～0.84	0.62～0.68	12～28	浅い U字状	緩斜 外傾	人為	土師器，須恵器，鉄滓	SF 4，SD23・25→本跡→SI21
7	X 7f9～Y 7e8	N－120°－W	直線	(21.65)	1.11～2.66	0.80～2.50	6～16	浅い U字状	緩斜	人為	土師器，須恵器	SD 8→本跡→SI 8，SK220
8	Y 7b7～Y 8a1	N－120°－W N－80°－E	L字状	(26.80)	1.20～1.50	0.98～1.32	8～20	浅い U字状	緩斜	人為	土師器，須恵器	本跡→SD 7・9→SI 9，SK263
9	Z 8g2～Y 8e2	N－17°－E	直線	(20.40)	0.88～1.64	0.76～1.36	8～24	浅い U字状	外傾 緩斜	人為	土師器，須恵器	SD 8→本跡
10	Y 8b8～Y 8b4	N－77°－E	直線	(12.98)	1.08～1.79	0.86～1.52	8～14	浅い U字状	緩斜	人為	土師器，須恵器	
11	Y 7f3～Z 6g0	N－104°－W N－90°－W	L字状	(35.52)	0.40～1.28	0.24～0.84	8～74	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	土師器，須恵器，陶器	SI25→本跡→SK382
12	Y 8g7～Z 8a6	N－70°－E N－16°－E N－22°－W	直線	(20.14)	0.38～1.18	0.22～1.00	6～24	浅い U字状	緩斜	人為	－	
13	Y 8g8～Z 8a6	N－59°－E N－11°－E	直線	(15.76)	0.54～1.06	0.26～0.88	6～18	浅い U字状	緩斜	人為	－	
14	Y 8i5	N－167°－W	直線	(2.18)	0.78～0.88	0.42～0.52	24	浅い U字状	緩斜	人為	－	SK287→本跡
15	Y 8d8～Y 8f9	N－3°－W	直線	(10.00)	0.45～0.68	0.36～0.58	6	浅い U字状	緩斜	人為	－	本跡→SD16
16	Y 8f9	N－3°－W	直線	2.88	0.50～0.64	0.40～0.56	42	U字状	外傾	人為	－	SD15→本跡
17	Z 7e3～Z 8c3	N－113°－E N－16°－E N－106°－E	L字状	51.44	0.85～1.32	0.28～0.90	10～30	浅い U字状	緩斜	自然	土師器，須恵器，砥石，金属製品	SB15・16・17，SK303→本跡→SK309
18	Y 8j4～Y 8i5	N－78°－W	直線	4.82	0.66～0.72	0.30～0.54	10～20	浅い U字状	緩斜	自然	－	SD19→本跡
19	Y 8j4～Y 8k5	N－27°－W N－77°－W	L字状	5.72	0.11～1.00	0.38～0.90	8～14	浅い U字状	緩斜	自然	－	本跡→SD18
20	A 6e9～A 6c8	N－22°－E	直線	(6.53)	(0.22～0.37)	(0.12～0.30)	(19～37)	浅い U字状 U字状	緩斜	自然	土師器，須恵器，瓦質土器	SD 6・23→本跡
21	A 6e8～A 7e1	N－94°－E	直線	(13.0)	0.93～1.25	0.40～0.67	46	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	－	SD23・25→本跡
22	A 6f4～A 6g4	N－41°－E	直線	(5.72)	(0.60～0.96)	(0.28～0.76)	(8～32)	浅い U字状	緩斜 外傾	人為	－	SI 9→本跡→SD 3・4
24	Z 6d0～Z 6e0	N－7°－E	直線	(5.84)	(0.92～2.14)	(0.40～0.68)	(14～56)	U字状	外傾	自然	－	

(5)　道路跡

第4号道路跡（第159・162図　PL29）

調査年度　平成25年度

位置　調査区北部のA 6i9～B 7d1区，標高21 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係　第15号竪穴建物跡を掘り込み，第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは19.80 mで，上幅1.88～3.08 m，下幅1.10～2.06 mである。A 6i9区から南東（N－157°－E）へ直線状に延び，B 7d1区で調査区域外へ延びている。ほぼ平坦で，南東に向かって傾斜している。

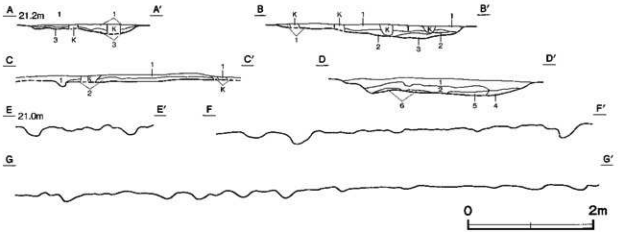
覆土　ローム粒子や粘土粒子が含まれている黒褐色土が主体で，硬化している。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片33点（坏4，甕類29），須恵器片25点（坏7，蓋1，甕類17），陶器片2点（不明）が覆土中から出土している。いずれも細片で，構築時に混入したものと考えられる。

所見　時期は，現在の道路と軌道が重なることから，近世以降と考えられる。



第 162 図　第４号道路跡実測図

(6)　ピット群（付図　PL29）

今回の調査で，時期や性格が明確でないピット群８か所を確認した。全体の配置図は付図に掲載し，規模を計測表にて掲載する。

表 12　第１号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm) 長径	短径	深さ
1	A 6 f9	円形	27	36	10
2	A 6 f9	円形	36	36	80
3	A 6 g9	楕円形	26	20	24
4	A 6 g9	円形	16	16	5
5	A 6 g9	円形	20	20	35
6	A 6 g0	楕円形	34	30	26
7	A 6 g0	楕円形	16	13	25
8	A 6 g9	楕円形	36	32	28
9	A 6 g9	円形	26	25	52
10	A 6 g8	円形	22	22	37
11	A 6 g8	円形	21	20	23
12	A 6 h9	円形	15	15	26
13	A 6 h0	円形	18	18	22
14	A 6 h9	円形	29	28	60
15	A 6 i0	楕円形	30	22	71
16	A 6 i0	円形	24	24	59
17	A 6 i0	円形	36	33	60
18	A 6 i0	楕円形	42	36	21
19	A 6 i9	円形	17	17	22
20	A 6 i9	円形	16	16	21
21	A 6 i8	円形	20	19	26
22	A 6 i8	円形	29	27	42
23	A 6 i8	円形	16	16	32
24	A 6 i8	円形	32	30	39
25	A 6 j9	円形	17	17	21
26	A 6 j9	円形	22	21	47
27	A 6 j9	円形	17	17	57
28	A 6 j0	円形	23	23	65
29	B 6 a9	円形	22	22	33
30	B 6 a9	円形	22	22	15
31	B 6 a9	円形	21	21	19
32	B 6 a9	円形	21	21	29
33	B 6 a9	円形	22	22	25
34	B 6 b0	円形	24	24	29
35	B 6 b9	円形	21	21	16

表 13　第２号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm) 長径	短径	深さ
1	A 6 h4	円形	23	23	21
2	A 6 h5	円形	16	16	31
3	A 6 h5	円形	20	20	39
4	A 6 h5	円形	18	18	43
5	A 6 h5	円形	18	18	34
6	A 6 h6	円形	44	44	34
7	A 6 h4	円形	17	16	26
8	A 6 h3	円形	32	31	9
9	A 6 h3	円形	26	25	22
10	A 6 h3	円形	26	26	11
11	A 6 h3	円形	30	28	61
12	A 6 i3	円形	25	25	20
13	A 6 i3	円形	26	25	70
14	A 6 i3	円形	29	28	12
15	A 6 i3	円形	30	29	58

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
16	A 6i4	円形	24	24	9
17	A 6i4	楕円形	28	23	23
18	A 6i4	楕円形	42	34	23
19	A 6i4	楕円形	36	28	32
20	A 6i4	円形	26	25	32
21	A 6i5	円形	20	19	21
22	A 6i5	円形	20	20	41
23	A 6i5	円形	29	28	22
24	A 6i6	円形	26	26	11
25	A 6i6	円形	40	40	26
26	A 6i7	円形	32	31	25

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
27	A 6i7	円形	26	26	42
28	A 6i6	円形	32	32	21
29	A 6i6	円形	29	29	43
30	A 6i6	円形	25	25	16
31	A 6i6	円形	14	14	14
32	A 6i6	円形	20	20	16
33	A 6j6	円形	21	20	18
34	A 6j6	円形	16	15	32
35	A 6j6	円形	24	22	20
36	A 6j7	円形	20	20	44
37	A 6j6	円形	22	21	36

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
38	A 6j7	円形	18	17	22
39	A 6j7	円形	20	20	24
40	A 6j8	円形	18	17	24
41	A 6j7	円形	17	16	6
42	A 6j8	円形	20	19	16
43	A 6j8	円形	21	21	22
44	A 6a7	円形	20	20	33
45	A 6j3	円形	14	14	20
46	A 6j3	円形	16	16	16
47	A 6j3	楕円形	16	14	22
48	A 6j4	楕円形	20	18	21

表14　第3号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 6b6	円形	27	27	12
2	B 6b6	円形	20	19	21
3	B 6c6	円形	20	20	37
4	B 6c7	楕円形	30	20	18
5	B 6c7	円形	22	11	12
6	B 6c6	円形	30	30	16
7	B 6c7	円形	38	26	26
8	B 6c6	円形	24	22	59
9	B 6c6	円形	20	20	35
10	B 6d8	円形	16	16	24
11	B 6d8	円形	20	20	21
12	B 6e6	円形	22	21	28
13	B 6e6	円形	22	22	29

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
14	B 6e6	円形	22	22	43
15	B 6a5	円形	28	28	27
16	B 6a5	円形	28	26	12
17	B 6a5	円形	24	24	21
18	B 6b5	円形	22	22	21
19	B 6c5	円形	20	20	17
20	B 6c5	円形	22	21	18
21	B 6a4	円形	23	23	20
22	B 6a4	円形	20	20	10
23	B 6b4	円形	20	20	20
24	B 6b4	円形	20	20	8
25	B 6b3	円形	22	21	21
26	B 6b4	円形	26	24	27

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
27	B 6b3	円形	26	26	11
28	B 6a3	円形	28	28	21
29	B 6b2	円形	23	23	23
30	B 6b2	円形	22	22	24
31	B 6b2	円形	18	18	26
32	B 6b1	円形	30	30	20
33	B 6a1	円形	22	22	30
34	B 6a1	円形	23	22	15
35	B 5b0	円形	24	24	25
36	B 5b0	円形	27	26	23
37	B 5b9	円形	30	30	46
38	B 6b1	円形	30	30	38

表15　第4号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	-Y 7e6	円形	40	38	17
2	-Y 7f6	円形	43	41	14
3	-Y 7g6	楕円形	64	52	15
4	-Y 7g6	楕円形	38	34	22
5	-Y 7g7	楕円形	44	40	21
6	-Y 7g7	円形	42	40	26
7	-Y 7g7	円形	48	48	32
8	-Y 7f7	楕円形	48	44	16
9	-Y 7g7	円形	44	44	11
10	-Y 7g7	楕円形	48	44	19

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	-Y 7g7	楕円形	28	24	13
12	-Y 7h7	円形	36	34	12
13	-Y 7h7	円形	50	46	18
14	-Y 7h6	楕円形	44	36	15
15	-Y 7h7	楕円形	40	36	12
16	-Y 7h7	楕円形	44	40	18
17	-Y 7h8	円形	32	32	32
18	-Y 7h8	円形	38	36	22
19	-Y 7h8	円形	32	32	23
20	-Y 7h8	楕円形	46	40	12

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
21	-Y 7h8	楕円形	52	40	14
22	-Y 7h8	楕円形	24	20	14
23	-Y 7h8	円形	40	40	27
24	-Y 7i6	円形	54	50	10
25	-Y 7i6	楕円形	40	32	22
26	-Y 7i8	楕円形	40	36	12
27	-Y 7i8	円形	36	34	29
28	-Y 7i8	円形	40	38	24
29	-Y 7i8	楕円形	50	40	30
30	-Y 7i8	楕円形	62	54	24

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
31	-Y 7β9	楕円形	32	28	21
32	-Y 7β9	円形	48	46	22
33	-Y 7α8	円形	54	50	33
34	-Y 7α8	円形	40	40	18
35	-Y 7β8	円形	58	56	23
36	-Y 7γ7	楕円形	36	32	12
37	-Y 7α8	楕円形	72	66	23
38	-Y 7β8	円形	64	62	26
39	-Y 7γ7	[円形]	36	[36]	10
40	-Y 7γ7	[楕円形]	40	(28)	12
41	-Y 7β6	楕円形	40	36	31
42	-Y 7β6	楕円形	36	32	16
43	-Y 7β8	楕円形	40	34	8

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
44	-Y 7β8	円形	32	32	21
45	-Y 7β8	楕円形	60	52	21
46	-Y 7β8	円形	29	28	26
47	-Y 7β9	円形	36	34	21
48	-Y 7β9	楕円形	70	62	13
49	-Y 7β9	円形	64	60	10
50	-Y 7β6	楕円形	52	44	26
51	-Y 7γ7	円形	40	38	15
52	-Y 7β8	楕円形	44	36	21
53	-Y 7β8	楕円形	36	32	74
54	-Y 7β8	円形	38	36	25
55	-Y 7β8	円形	62	62	12
56	-Z 7α8	円形	80	80	11

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
57	-Y 7β9	楕円形	40	36	18
58	-Y 7α9	楕円形	48	42	18
59	-Y 7α9	円形	52	48	19
60	-Y 7α9	円形	42	40	11
61	-Z 7α9	円形	56	54	18
62	-Z 7α0	楕円形	60	46	14
63	-Z 7β0	楕円形	60	44	19
64	-Y 7γ7	楕円形	36	32	16
65	-Y 7γ7	円形	36	36	16
66	-Y 7γ6	円形	32	32	25
67	-Y 7γ7	円形	58	58	30
68	-Y 7γ7	楕円形	54	40	28
69	-Y 7γ7	円形	44	42	32

表16　第5号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	-Z 7e8	楕円形	42	38	26
2	-Z 7d8	楕円形	40	36	23
3	-Z 7e8	楕円形	34	28	19
4	-Z 7e8	円形	28	27	15
5	-Z 7e7	円形	36	36	22
6	-Z 7e7	楕円形	24	20	36
7	-Z 7e7	円形	26	26	35
8	-Z 7e8	円形	26	25	40
9	-Z 7f7	楕円形	32	27	18
10	-Z 7f7	楕円形	22	19	17
11	-Z 7f6	円形	25	24	19

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
12	-Z 7e8	楕円形	34	29	22
13	-Z 7e8	円形	32	30	16
14	-Z 7e8	円形	26	26	46
15	-Z 7e8	楕円形	44	40	22
16	-Z 7f8	楕円形	47	39	42
17	-Z 7f9	円形	32	32	20
18	-Z 7f9	円形	42	39	22
19	-Z 7e9	円形	29	29	14
20	-Z 7e9	楕円形	40	20	19
21	-Z 7g0	円形	47	46	19
22	-Z 7f0	楕円形	38	33	19

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
23	-Z 7f0	楕円形	48	42	28
24	-Z 7f0	楕円形	37	34	15
25	-Z 7e0	円形	26	26	15
26	-Z 8f1	楕円形	48	36	11
27	-Z 8f1	円形	38	36	15
28	-Z 8f1	[楕円形]	39	(32)	13
29	-Z 8f1	円形	45	42	16
30	-Z 8f1	円形	38	38	10
31	-Z 8f1	楕円形	36	28	14
32	-Z 8f1	円形	48	46	15

表17　第6号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	A 7d1	楕円形	32	26	20
2	A 7d2	楕円形	36	30	23
3	A 7d2	楕円形	76	46	24
4	A 7d2	楕円形	38	33	17
5	A 7d3	円形	38	37	16
6	A 7d2	円形	39	38	13
7	A 7e3	楕円形	34	30	31
8	A 7e3	円形	40	38	28
9	A 7e3	円形	32	31	28
10	A 7e3	円形	38	38	16

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
11	A 7e4	楕円形	68	60	25
12	A 7e4	円形	34	34	14
13	A 7e4	楕円形	39	34	25
14	A 7e4	楕円形	50	42	21
15	A 7d3	楕円形	34	28	18
16	A 7d3	楕円形	40	34	23
17	A 7d4	円形	48	45	24
18	A 7d4	楕円形	40	34	26
19	A 7d4	楕円形	30	26	13
20	A 7a2	円形	30	30	16

ピット番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
21	A 7a3	円形	37	35	20
22	A 7a3	円形	38	38	20
23	A 7e4	楕円形	40	35	30
24	A 7a3	円形	32	30	33
25	A 7a4	楕円形	40	32	16
26	A 7a4	円形	36	34	18
27	A 7a4	円形	36	33	25
28	A 7a4	円形	32	32	16

表18　第7号ピット群ピット計測表

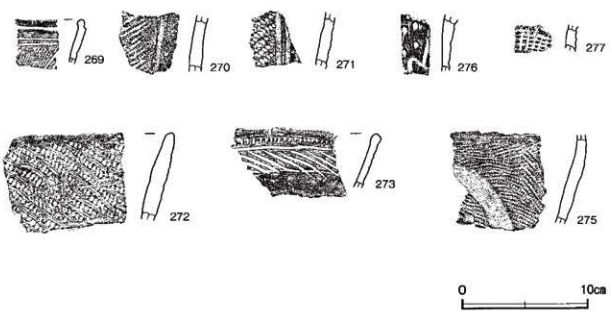
ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	短径	深さ
1	-Y 7d9	楕円形	64	54	23
2	-Y 7e9	円形	52	50	35
3	-Y 7e9	円形	42	40	39
4	-Y 8c3	楕円形	32	24	10
5	-Y 8c3	円形	24	24	4
6	-Y 8c3	楕円形	40	32	10
7	-Y 8d3	円形	36	34	36
8	-Y 8d3	円形	36	36	16
9	-Y 8d2	円形	36	36	8
10	-Y 8d2	円形	32	32	20
11	-Y 8c2	円形	40	38	12
12	-Y 8c2	楕円形	34	30	12
13	-Y 8e2	円形	32	32	14
14	-Y 8e2	円形	28	26	18
15	-Y 8e2	円形	30	28	12
16	-Y 8e3	楕円形	36	32	6
17	-Y 8e3	楕円形	32	28	8
18	-Y 8e3	円形	36	34	8
19	-Y 8e3	楕円形	40	32	12
20	-Y 8d2	楕円形	36	32	12
21	-Y 8e2	楕円形	44	36	28
22	-Y 8e3	楕円形	40	30	8
23	-Y 8e2	楕円形	32	28	7
24	-Y 8e3	楕円形	28	22	8
25	-Y 8e3	楕円形	28	24	8
26	-Y 8e3	円形	28	28	8
27	-Y 8e3	円形	30	28	8
28	-Y 8e2	円形	34	34	7
29	-Y 8i6	円形	58	54	17
30	-Y 8h5	楕円形	42	36	33
31	-Y 8i5	円形	44	42	26

表19　第8号ピット群ピット計測表

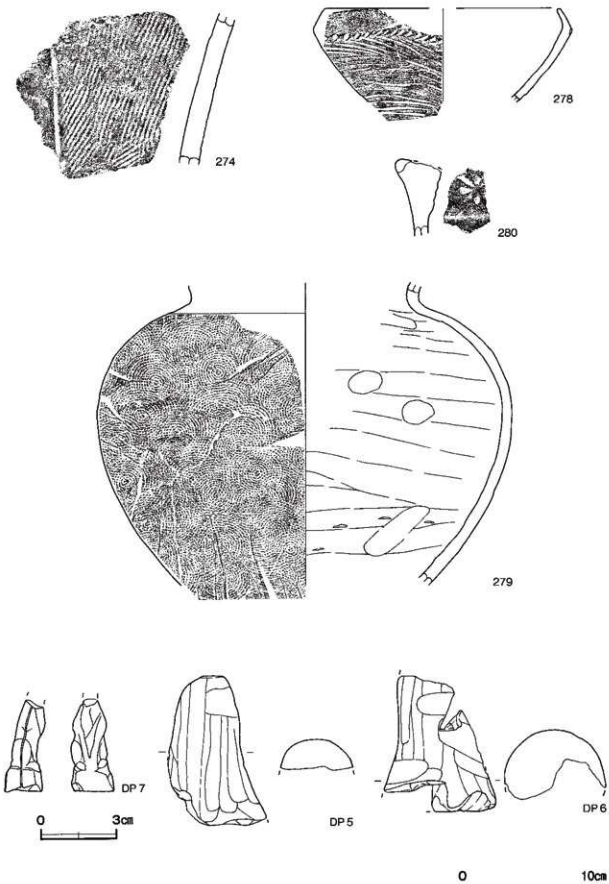
ピット番号	位置	形状	規模(cm) 長径	短径	深さ
1	-Y 8i8	円形	36	36	8
2	-Y 8i8	円形	30	28	7
3	-Y 8j8	円形	28	26	7
4	-Y 8j8	楕円形	36	22	13
5	-Y 8j7	円形	46	42	6
6	-Y 8j7	円形	36	36	12
7	-Y 8i7	楕円形	40	32	16
8	-Y 8i7	楕円形	32	24	6
9	-Y 8i7	楕円形	34	28	8
10	-Y 8i7	楕円形	34	26	6
11	-Y 8i7	円形	26	26	12
12	-Y 8j8	円形	18	18	18

(7)　遺構外出土遺物（第163～165図）

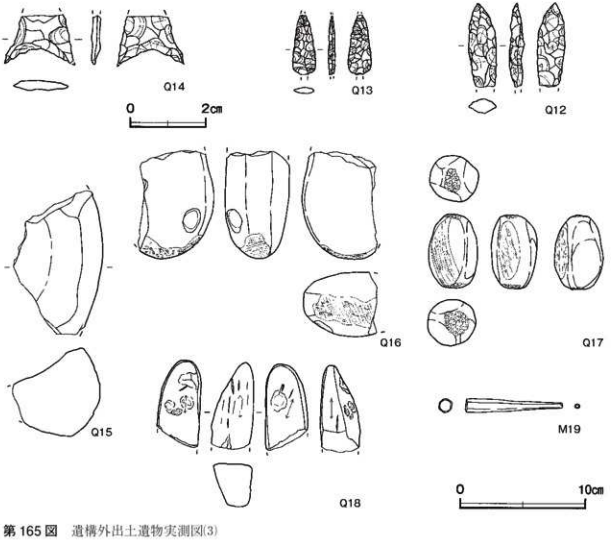
今回の調査で，遺構に伴わない遺物については，実測図及び観察表を掲載する。



第163図　遺構外出土遺物実測図(1)



第 164 図　遺構外出土遺物実測図(2)



第165図　遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表（第163～165図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
269	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英	灰褐	普通	口唇部横ナデ　沈線　外面単節縄文RL（縦）施文後横位の沈線	SI１覆土中	5％　PL43
270	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	単節縄文RL（縦）沈線区画の磨消壁垂文	SI７覆土中	5％
271	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英	明褐	普通	単節縄文RL（縦）沈線区画の磨消壁垂文	SI７覆土中	5％
272	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	長石・石英	橙	普通	異条斜縄文LR（横）附加条１種２条	表土	5％　PL43
273	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英	褐灰	普通	口唇部刻み目　外面横位の沈線による区画後斜位の沈線文　内面ヘラ磨き	表土	5％　PL43
274	縄文土器	深鉢	－	(12.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	単節縄文RL（縦）沈線区画の磨消壁垂文	表土	10％　PL43
275	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL（斜）磨消による曲線文	表土	5％　PL43
276	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線内の刺突列点文	表土	5％　PL43
277	縄文土器	深鉢	－	(2.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	半截竹管による沈線文	表土	5％　PL43
278	縄文土器	浅鉢	[18.8]	(7.5)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外面刻み目，斜位・横位の沈線文	表土	10％　PL43

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
279	須恵器	甕	－	(23.9)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面同心円の叩き，内面ナデ	SI47覆土中	30％　PL43　新治窯
280	土師質土器	火鉢	－	(6.1)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	型押文（八ツ例葉）　内面ナデ	表土	5％

番号	器　種	長さ	最大径	最小径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP 5	支脚	(11.9)	(7.8)	(3.1)	(204.98)	長石・雲母・白色粒子	橙	縦位のナデ後横位のナデ	SI47 覆土中	
DP 6	支脚	(10.8)	(8.9)	(4.5)	(312.46)	長石・雲母・白色粒子・黒色粒子	橙	縦位のナデ後横位のナデ　底部ナデ	SI48 覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP 7	土人形	(3.8)	(1.7)	(1.7)	(5.67)	雲母・赤色粒子	橙	表・裏面型押し貼付　頭部・背部欠損　鉄釉狐	表土	PL43

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 12	矢頭器	(6.7)	2.2	1.1	(17.45)	安山岩	基部欠損　両面調整　周辺から連続調整	表土	PL43
Q 13	有茎矢頭器	(4.8)	1.9	0.5	(5.35)	安山岩	先端部・茎部欠損　両面調整　周辺から連続調整	SI27 覆土中	PL43
Q 14	鏃	(1.3)	(1.8)	(0.2)	(0.55)	チャート	凹基　先端部欠損	SD 2 覆土中	PL43
Q 15	石斧	(11.5)	(7.0)	7.2	(425.50)	安山岩	表面磨り面	SI44 覆土中	
Q 16	磨石	(8.6)	(5.9)	(5.2)	(394.21)	砂岩	表裏研磨面・凹痕　側面密な敲打痕を含む磨り面　下端部敲打痕	SI45 覆土中	
Q 17	磨石	5.9	3.9	3.7	117.25	凝灰岩	上下端部に敲打痕　3 側面稜部に磨り痕	SI48 覆土中	
Q 18	砥石	(6.9)	3.2	3.4	(89.82)	砂岩	砥面 4 面　溝状の研磨痕　敲打痕	SD17 覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M19	煙管	(7.8)	1.1	1.1	(7.72)	銅	吸口六角形　口元円形	表土	PL44

第4節 ま　と　め

1　はじめに

島名中代遺跡は，つくば市の南西部に位置し，谷田川と西谷田川によって開析された，狭長な台地上に立地している。台地は東側の浅い亜支谷に向かって傾斜し，島名熊の山遺跡に隣接している。

今回の調査では，竪穴建物跡42棟，掘立柱建物跡19棟，井戸跡4基，柱穴列8条，陥し穴1基，土坑475基，溝跡24条，道路跡1条，ピット群8か所を確認した。ここではそれぞれの時代の遺構と遺物について概観する。竪穴建物跡の規模は，『第291集』を参考に，一辺の長さが4m未満を小型建物，4m以上6m未満を中型建物，6m以上8m未満を大型建物，8m以上を超大型建物[1]とする。また，隣接する島名熊の山遺跡との関連を想定することから，「島名熊の山遺跡集落研究のための前提作業」および『第291集』における「A～F群」の空間区分と「谷A～J」の呼称[2]に触れ，若干の考察を加えてまとめとしたい。なお，時期区分については，本遺跡の第Ⅰ期が，島名熊の山遺跡の第1期，第Ⅱ期が第2期，第Ⅲ期が第6期，第Ⅳ期が第8期，第Ⅴ期が第9期，第Ⅵ期が第10期，第Ⅶ期が第11期，第Ⅷ期が第12期，第Ⅸ期が第13期，第Ⅹ期が第14期に該当する[3]。

2　調査区の概要（第166図）

平成25年度の調査区の南東部では，島名熊の山遺跡の谷Fから派生する可能性がある埋没谷を確認した。また，平成26･27年度の調査区は，島名熊の山遺跡の谷Aを挟んで，14区の西部に隣接している。谷Aは，『第432集』で島名熊の山遺跡14区の西部を北に向かって入り込んでいることが確認されており，当遺跡調査区北東部の埋没谷は，この谷の西岸と考えられる。

当遺跡では，これらの谷に向かう緩やかな斜面部に各時代の痕跡が確認された。なお，島名熊の山遺跡における建物群の空間区分では，A・F群の西部に谷を挟んで隣接または近接している。以下において，集落の様相を各時代ごとに概観する。

(1)　縄文時代

当該期の遺構は，陥し穴1基を確認した。陥し穴からは，前期（興津Ⅱ期）の特徴を備えた土器片が出土している。また，尖頭器や石鏃を表土等から採取していることから，当遺跡周辺は，縄文時代前期に狩猟場として利用されていたことが推測できる。

(2)　古墳時代（第167図）

当該期の遺構は，竪穴建物跡7棟を確認した。その内，時期が明らかな竪穴建物跡6棟について，各期ごとの変遷を記述する。なお，時期が明確にできなかった第7号竪穴建物跡は6世紀代と考えられる。

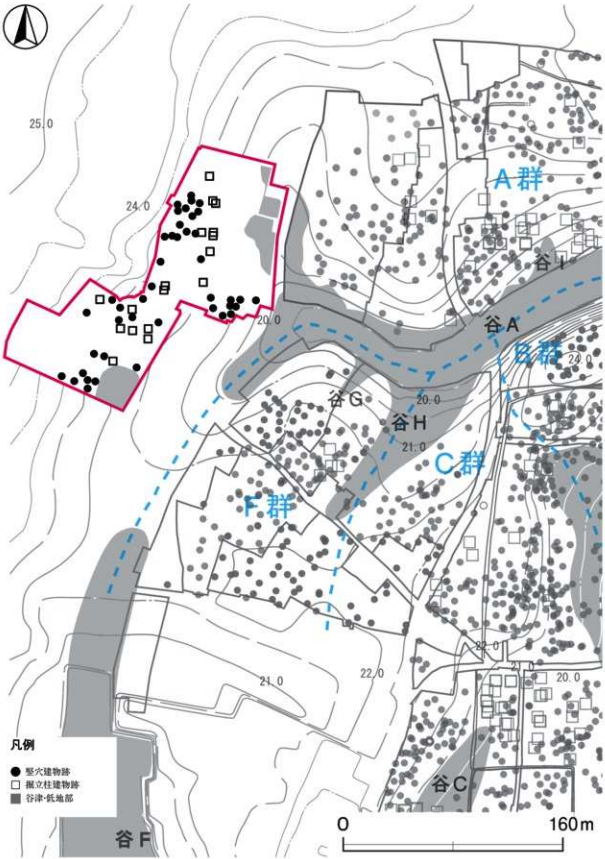
第Ⅰ・Ⅱ期（4・5世紀）

第Ⅰ期（4世紀）は竪穴建物跡1棟（第47号竪穴建物跡），第Ⅱ期（5世紀）は竪穴建物跡1棟（第48号竪穴建物跡）が該当する。当期が集落の出現期で，小規模な集落が営まれていたことが想定できる。

第Ⅲ期（7世紀前葉）

竪穴建物跡1棟（第46号竪穴建物跡）が該当する。

第46号竪穴建物跡は，長軸8.31m，短軸5.00mの長方形で，東西に長い超大型建物である。この竪穴建物跡の性格を明確に述べることはできないが，規模や主柱穴の並びから想定できる特殊な上屋構造



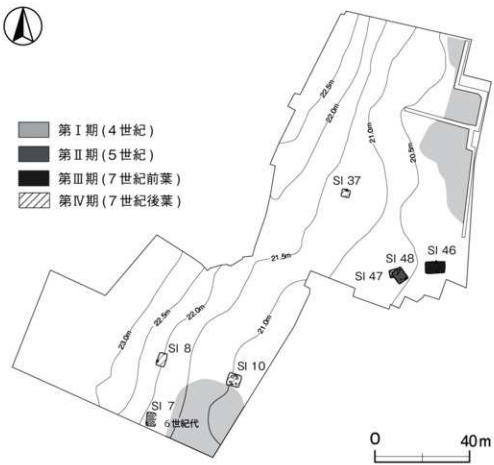
第 166 図　島名中代遺跡・島名熊の山遺跡位置図（第 291 集　島名熊の山遺跡遺構全体図に加筆）

から，特異な竪穴建物であったことがうかがえる。

第Ⅳ期（7世紀後葉）

竪穴建物跡3棟（第8・10・37号竪穴建物跡）が該当する。

当期の竪穴建物跡は，調査区域の中央部に1棟，南部に2棟が確認されているだけである。これらは，前期よりも西側に存在していることから，集落が台地上に向かって移行していったことが想定できる。



第167図　古墳時代竪穴建物変遷図

⑶　奈良・平安時代（第168・169図）

当該期は，当調査区域の中心的な時期であり，竪穴建物跡35棟，掘立柱建物跡15棟，井戸跡4基，土坑4基を確認した。その内，時期が明らかな竪穴建物跡29棟を中心にして，各期ごと（第Ⅴ～Ⅸ期）の変遷を記述する。

なお，第12号掘立柱建物跡は，9世紀前葉に比定できる。時期が明確にできなかった第1・13・38号竪穴建物跡は8世紀代，第32号竪穴建物跡は8世紀中葉～後葉，第9号竪穴建物跡は8世紀後葉～9世紀初頭，第15号竪穴建物跡は9世紀中葉～後葉と考えられる。第1・2・6・9・14・17・18号掘立柱建物跡は8世紀代，第3～5・7・13・15・16号掘立柱建物跡は9世紀代と考えられる。

第Ⅴ期（8世紀前葉）

竪穴建物跡1棟（第12号竪穴建物跡）が該当する。

中央部の緩やかな斜面部に位置しており，中型建物である。主軸方向はやや東に向いており，第Ⅳ期までと比較して，やや小型化している。

竪穴建物跡は，1棟確認されただけである。なお，8世紀代とした第1・2号掘立柱建物跡の桁行方向は，第12号竪穴建物跡の主軸方向と近似している。

第Ⅵ期（8世紀中葉）

竪穴建物跡6棟（第19・28・39・41・44・49号竪穴建物跡）が該当し，前期からの推移をみると当期に竪穴建物跡が増加する。

その内，第19・28・39・44号竪穴建物跡の4棟は，調査区の北部に位置しており，標高22.0mの等高線に沿うように立地している。第19・28号竪穴建物跡は，中型建物で，第39・44号竪穴建物跡は，小型建物である。第44号竪穴建物跡を除いて，主軸方向がやや東に向いている。また，刀子や鏃が第44・49号竪穴建物跡を除いた4棟の竪穴建物跡で出土しており，前期までと比較して，金属製品の保有率が高くなる。

第41・49号竪穴建物跡は，調査区中央部の低地部に位置しており，いずれも主軸方向がやや西に向いている。小型建物で，この2棟の竪穴建物跡からは，大きさや色調，形状がほぼ同等の石英の円礫が出土している。特に，第41号竪穴建物跡では，南西部の床面直上から67点まとまった状態で出土しており，出土状況から遺棄されたものと考えられる。第49号竪穴建物跡では，6点が壁溝及び覆土中から出土している。性格を明確に述べることはできないが，第41・49号竪穴建物跡は，隣接していることから，関連性が推測できる。

第Ⅶ期（8世紀後葉）

竪穴建物跡10棟（第4・17・20・21・33・35・40・42・43・45号竪穴建物跡）が該当し，竪穴建物数は10棟と当期が最も多く，最盛期を迎えたといえる。

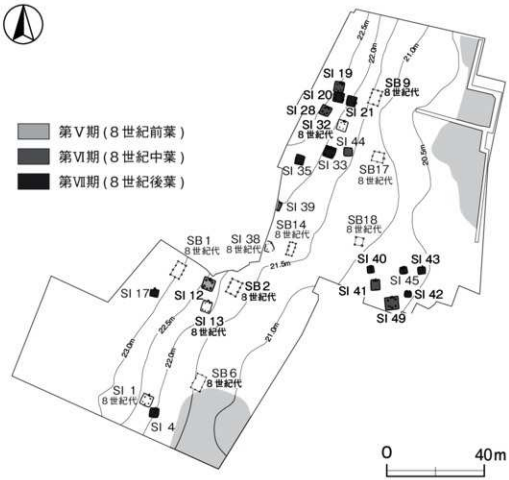
第20・21・33・35号竪穴建物跡の4棟は，調査区北部の台地斜面部に位置しており，中型建物である。第20・21号竪穴建物跡は，東壁に竈が付設されている。主軸方向は，やや南向きで，近似している。規模や形状が類似することから，関連性が想定できるが，建物間が3mほどと狭く，同時に機能していたことは考えにくい。また，第33号竪穴建物跡は中型建物，第35号竪穴建物跡は小型建物に分類されるが，主軸方向はどちらもやや東向きで，近似している。なお，8世紀代とした第9号掘立柱建物跡の桁行方向は，第19・28号竪穴建物跡の主軸方向と平行である。

第40・42・43・45号竪穴建物跡の4棟は，調査区中央部の低地斜面部に位置しており，いずれも小型建物である。第42号竪穴建物跡を除いて，他の3棟の主軸方向はやや西向きである。東西に並んでいることから規格性がみられる。この4棟が立地するのは，東西に延びる島名熊の山遺跡の谷Aが屈曲し，南北に軸を変える付近で，谷を挟んで東にF群が展開している。

第4・17号竪穴建物跡は，調査区南部に位置し，第17号竪穴建物跡は台地上，第4号竪穴建物跡は斜面部に立地している。どちらも小型建物で，主軸方向はやや東に向いており，ほぼ同軸である。

第Ⅷ期（9世紀前葉）

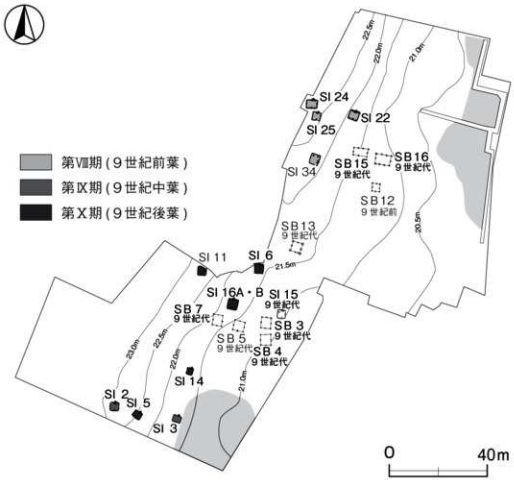
竪穴建物跡4棟（第22・24・25・34号竪穴建物跡），掘立柱建物跡1棟（第12号掘立柱建物跡）が該当する。



第168図　奈良時代竪穴建物・掘立柱建物変遷図

いずれも調査区北部の台地斜面部に位置している。竪穴建物跡は，第25号竪穴建物跡が小型建物であることを除いて，中型建物である。第34号竪穴建物跡は，東壁に竈が付設されている。主軸方向は，第34号竪穴建物跡を除き，やや東に向いている。同時に機能していたことは考えにくい。また，第24号竪穴建物跡は中型建物，第22号竪穴建物は小型建物で，主軸方向はどちらもやや東向きである。北部の台地斜面部に位置する掘立柱建物跡は，3棟確認されたが，明確に当期に比定できるのは，第12号掘立柱建物跡だけである。

竪穴建物跡4棟中3棟から刀子などの金属製品が出土しており，第Ⅶ期と比較すると，金属製品の高い保有率を示している。特に，第24号竪穴建物跡からは，小形の鋤先とみられる金属製品が出土している。刃部が摩耗していることから，使用されていたことが想定できるが，具体的な使われ方などは不明である。また，当遺跡における当期の4棟は，第Ⅶ期の第20・21・33・35号竪穴建物跡とほぼ同じ範囲に立地しており，第20・21号竪穴建物跡と当期の第34号竪穴建物跡の竈が東壁に付設されていることや規模，主軸方向に前期と当期の共通点がみられる。このことから，継続的に集落が営まれていったことがうかがえる。



第 169 図　平安時代竪穴建物・掘立柱建物変遷図

第Ⅸ期（9世紀中葉）

竪穴建物跡3棟（第2・3・16B 号竪穴建物跡）が該当する。

いずれも調査区南部の台地斜面部に位置している。いずれも小型建物で，主軸方向は，やや東に向いている点で共通している。平面形は，第2号竪穴建物跡が隅丸方形，第3号竪穴建物跡が長方形，第16B 号竪穴建物跡が方形で，規格性がみられない。また，立地もまばらである。

第2・3号竪穴建物跡の出土遺物は坏類や甕類などの日用雑器であるが，第2号竪穴建物跡からは，硯に転用したと考えられる盤が出土しており，識字者の存在がうかがえる。

第Ⅷ期の竪穴建物跡3棟，掘立柱建物跡1棟からの推移をみれば，大幅な増減はみられないことから，集落が継続して営まれていたことがうかがえる。また，当期の竪穴建物跡が立地する範囲が，前期よりも南部であることから，集落の範囲がやや移動したか拡大したことが推測できる。

第Ⅹ期（9世紀後葉）

竪穴建物跡5棟（第5・6・11・14・16A 号竪穴建物跡）が該当する。

いずれも調査区中央部から南部にかけての台地斜面部に位置している。第16A 号竪穴建物跡が中型

建物であるのを除いて，他は小型建物である。主軸方向は，第５号竪穴建物跡がＮ－40°－Ｅであるのを除いて，他はやや東に向いている点で共通する。第５・６号竪穴建物跡からは，坏類，甕類のほか砥石や紡錘車の石器，刀子，火箸とみられる金属製品が出土している。また，第５号竪穴建物跡では，土師器坏１点，須恵器坏４点が，東コーナー部付近の壁際から重なった状態で出土している。この内，須恵器坏の１点には，外面と内面に「万呂₀入」の墨書がみられる。性格を明確に述べることはできないが，出土状況から，人為的に重ねられ，遺棄されたことが推測できる。第16A号竪穴建物跡では，竈の両袖にほぼ完形の土師器甕を補強材として使用しており，竈を長期間使用する工夫がなされている。

(4) 江戸時代

当該期の遺構は，溝跡４条（第１・２・23・25号溝跡）がこれに該当する。４条とも出土遺物から，18世紀後葉から19世紀前葉に埋没したものと考えられる。第１・２号溝跡は，後世の地籍図の筆とほぼ一致することから，区画溝と考えられる。また，第23・25号溝跡は，北側の斜面高所から南側の低所に延びていることから，排水溝と考えられる。また，この２条の溝跡は平行して延びており，覆土が固く締まっていることと，現況の道路の軌道とほぼ重なることから，埋没後は，長期にわたって道路として機能していたことが想定できる。

３　鳥名熊の山遺跡との消長関係

当遺跡は，鳥名熊の山遺跡と隣接しており，相互の関連が想定できる。以下において，鳥名熊の山遺跡との同異について古墳時代から平安時代の各期ごとに概観する。

(1) 古墳時代（第166・167図）

第Ⅰ・Ⅱ期（４・５世紀）

当遺跡における集落の出現期である第Ⅰ・Ⅱ期と同時期の鳥名熊の山遺跡では，集落形成は断続的で，遺構密度も低いが，４・５世紀の竪穴建物跡の分布が確認されている。当遺跡に隣接するＡ群では，当期の竪穴建物跡が23棟確認されている。鳥名熊の山遺跡においてもこの時期が集落の出現期ととらえられており[4]，当遺跡と合致するが，当遺跡では在地豪族の存在を示すような遺構や遺物は確認されていない。

第Ⅲ期（７世紀前葉）

当期に存在した鳥名熊の山遺跡の竪穴建物跡の立地する範囲からみてみると，当遺跡では１棟のみが離れた場所に立地していることから，関連しているとは考えにくい。また，当遺跡に隣接する鳥名熊の山遺跡のＡ群では，竪穴建物跡が16棟確認されており，竪穴建物跡は６世紀中葉に増加し，６世紀後葉から７世紀前葉にかけて，引き続き集落域が拡大するという傾向が指摘されている。確認できた竪穴建物跡は１棟にとどまることから，当期においては当遺跡の様相と谷Ａと谷Ｆを隔てた東側の鳥名熊の山遺跡の様相は対照的である。

第Ⅳ期（７世紀後葉）

当遺跡では，小規模に集落が営まれている。範囲は，前期よりも西側の台地上に向かって移行していったことが想定できる。鳥名熊の山遺跡のＡ群およびＦ群では，この時期の竪穴建物の分布はまばらである[5]。

(2) 奈良・平安時代（第166・168・169図）

第Ⅴ期（8世紀前葉）

島名熊の山遺跡では，7世紀中葉から後葉にかけて減少傾向にあった竪穴建物跡が増加傾向をみせることが指摘されているが[6]，当遺跡においては，1棟確認されただけである。

第Ⅵ期（8世紀中葉）

当遺跡では，当期に竪穴建物跡が増加する。今回確認した調査区域東端の埋没谷を挟んで，東に展開している島名熊の山遺跡A群においては，前期から引き続いて増加傾向をみせている。当期においては，集落の規模が大きくなるという点で共通する。

第Ⅶ期（8世紀後葉）

当期は，当遺跡における最盛期である。島名熊の山遺跡では，主軸方向がわずかに西に振れる小型建物が主体で，金属製品の保有率が高いことが報告されおり[7]，当遺跡の傾向と規模の点で合致する。当遺跡では，主軸方向はやや東に向くものが主体であることや金属製品が10棟中3棟で確認されただけであるという点では異なる。

第Ⅷ期（9世紀前葉）

当遺跡では，竪穴建物跡4棟中3棟から刀子などの金属製品が出土しており，前期までと比較すると，金属製品の高い保有率を示している。島名熊の山遺跡のA群では，集落としての繁栄期をむかえており[8]，両遺跡とも継続的に集落が営まれていったことがうかがえる。

第Ⅸ期（9世紀中葉）

当期は，硯に転用したと考えられる盤が出土しており，識字者の存在がうかがえる。また，前期からの竪穴建物跡と掘立柱建物跡の棟数の推移をみると，大幅な増減はみられないことから，集落が継続して営まれていたことがうかがえる。さらに，範囲が前期よりも南部であることから，集落域の移動あるいは拡大したことがうかがえる。当期の島名熊の山遺跡でも，安定的に集落が営まれている。

第Ⅹ期（9世紀後葉）

島名熊の山遺跡では，7世紀後葉から当期まで各期とも竪穴建物の数の大幅な増減はみられず，集落としての最盛期が継続しているといえる[9]。当遺跡においては，前期と当期の竪穴建物跡が立地する範囲がほぼ重なることから，継続的に集落が営まれていたことが想定できる。しかし，10世紀前葉以降竪穴建物跡が減少しながらも継続して集落が営まれる島名熊の山遺跡とは異なり，当遺跡では当期以降の竪穴建物跡は確認されていない。

4 おわりに

当遺跡においては，縄文時代に生活の痕跡がみられ，古墳時代に入ると一時空白の期間はあるものの，小規模な集落が営まれるようになる。律令期になると，竪穴建物の棟数が急増する。第Ⅴ期は1棟のみであるが，第Ⅵ期は6棟，第Ⅶ期は10棟に増加する。今回の調査では明確な時期は不明であるが，8世紀代に比定できる掘立柱建物跡が7棟確認できており，当遺跡の最盛期を迎え，人口が増えていったことがうかがえる。第Ⅷ期になると，竪穴建物跡の件数は4棟，第Ⅸ期が3棟，第Ⅹ期が5棟である。掘立柱建物跡は，第Ⅷ期が1棟，9世紀代と考えられるものが7棟で，比較的安定して集落が営まれていたことがうかがえる。しかし，第Ⅹ期以降の竪穴建物跡，掘立柱建物跡は確認されていないことから，律令期における当遺跡の集落としての終焉は，9世紀後葉とみられる。

集落が第Ⅵ・Ⅶ期で盛行する背景には，律令体制の進展に伴う再開発・再構成がかかわるものと考えられる。また，集落が第Ⅹ期をもって終焉する背景には，律令体制の行き詰まりがかかわっており，10 世紀を待たずに集落としての機能を終えたものと考えられる。律令期におけるこのような集落の消長は，時期によって若干の相違はあるものの，大きくとらえると鳥名熊の山遺跡と共にする様相がみられ，「拠点的長期継続型集落」として位置づけられる[10] 鳥名熊の山遺跡と呼応しながら集落が営まれてきたことがうかがえる。このことから，当遺跡は鳥名熊の山遺跡と深くかかわる周辺遺跡のひとつとして特徴づけることができる。しかし，当遺跡と鳥名熊の山遺跡が大きく異なるのは，鳥名熊の山遺跡が古墳時代から長期にわたって集落としての機能を維持した点である。

鳥名熊の山遺跡は，律令体制の国郡里（郷）制という地方の行政制度が確立するなか，古墳時代からの伝統的な在地豪族が集落を維持できた稀有な存在であると指摘されている[11]。その一方で，当遺跡が集落として充実した機能をもっていた時期は，８世紀中葉から９世紀後葉とみられる。このことは，大宝律令後の養老律令の成立による中央の律令体制の進展とその後の停滞の時期と重なる。前述のように当遺跡は，鳥名熊の山遺跡の周辺遺跡のひとつと考えられるが，このことは律令期に限定される。したがって，当遺跡の集落経営は，律令体制の中に組み込まれた地方行政の一端であったことが推測できる。

註

1）薬子博史・坂本勝彦・田中万里子・櫻井二郎『鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI』茨城県教育財団文化財調査報告第 390 集　2014 年３月

2）a　清水哲「鳥名熊の山遺跡の集落研究のための前提作業」『年報 26　平成 18 年度」財団法人茨城県教育財団　2007年３月

　b　齋藤真弥・酒井雄一・渡邊浩美・松本直入・齋藤貴史・清水哲『鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XV』茨城県教育財団文化財調査報告第 291 集　2008 年３月

3）稲田義弘『熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告第 190 集　2002 年３月

4）註２に同じ

5）小林和彦・近江屋成陽『鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XX』茨城県教育財団文化財調査報告第 389 集　2014 年３月

6）大武宜隆『鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXIV』茨城県教育財団文化財調査報告第 432 集　2018 年３月

7）註２に同じ

8）註６に同じ

9）a　註２に同じ

　b　註６に同じ

10）a　稲田義弘「鳥名熊の山遺跡の様相について」『古代地方官衙周辺における集落の様相』　茨城県考古学協会　2005 年２月

　b　佐々木義則「河内郡の集落様相」『古代地方官衙周辺における集落の様相』　茨城県考古学協会　2005 年２月

11）註 10 a に同じ

写　真　図　版

平成25年度調査区全景

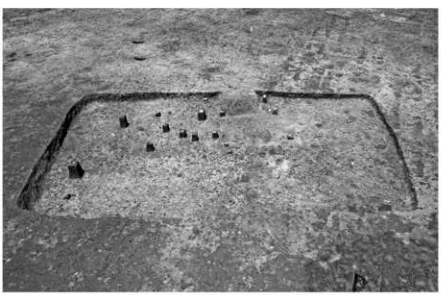
平成26・27年度調査区遠景（北から）

第１号陥し穴

第８号竪穴建物跡
遺物出土状況①

第８号竪穴建物跡
遺物出土状況②

第８号竪穴建物跡



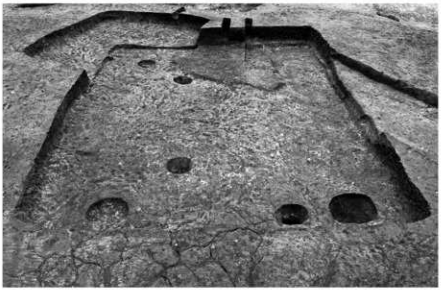
第46号竪穴建物跡
遺物出土状況①

第46号竪穴建物跡
遺物出土状況②

第46号竪穴建物跡

第48号竪穴建物跡
遺物出土状況①

第48号竪穴建物跡
遺物出土状況②



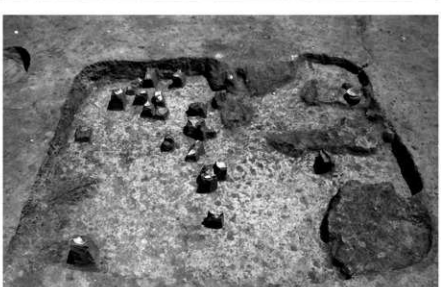
第48号竪穴建物跡

第３号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第３号竪穴建物跡

第４号竪穴建物跡
遺物出土状況

第４号竪穴建物跡



第５号竪穴建物跡
遺物出土状況①

第５号竪穴建物跡
遺物出土状況②

第５号竪穴建物跡

第11号竪穴建物跡

第14号竪穴建物跡
遺 物 出 土 状 況

第14号竪穴建物跡

第16A号竪穴建物跡
遺 物 出 土 状 況

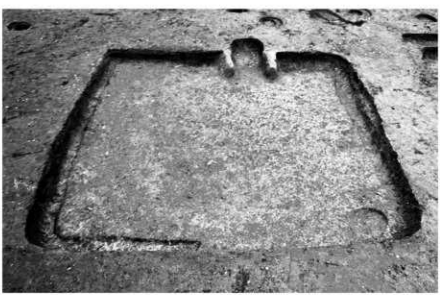
第16A号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第16A号竪穴建物跡

第19号竪穴建物跡
遺物出土状況

第19号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第19号竪穴建物跡



第21号竪穴建物跡

第22号竪穴建物跡
遺物出土状況

第22号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

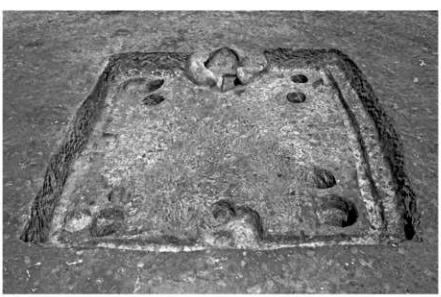
第22号竪穴建物跡

第24号竪穴建物跡
遺物出土状況

第24号竪穴建物跡

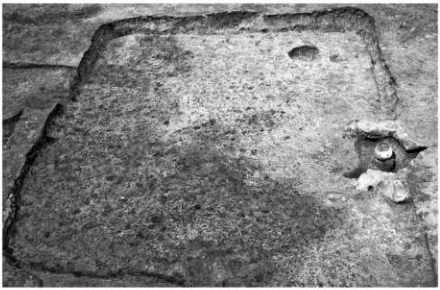
第25号竪穴建物跡
遺物出土状況

第25号竪穴建物跡

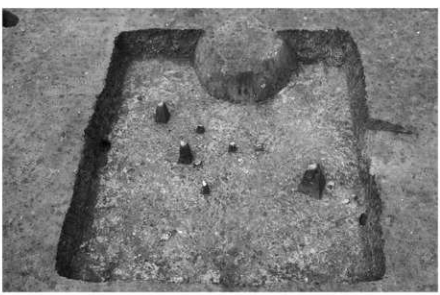


第33号竪穴建物跡

第34号竪穴建物跡
竈遺物出土状況



第34号竪穴建物跡



第41号竪穴建物跡
遺物出土状況

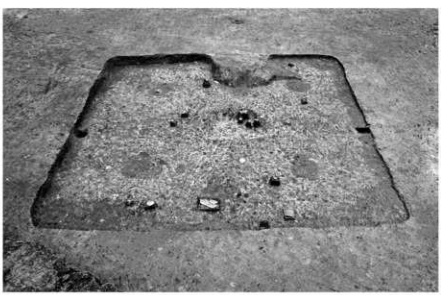
第41号竪穴建物跡

第43号竪穴建物跡

第45号竪穴建物跡
遺物出土状況①

第45号竪穴建物跡
遺物出土状況②

第45号竪穴建物跡



第49号竪穴建物跡
遺物出土状況

第49号竪穴建物跡

第3号掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡

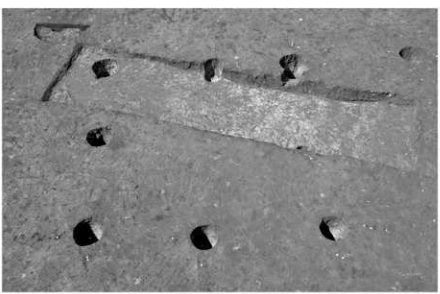
第5号掘立柱建物跡
遺物出土状況

第5号掘立柱建物跡

第6号掘立柱建物跡

第9号掘立柱建物跡

第12号掘立柱建物跡
遺 物 出 土 状 況



第12号掘立柱建物跡

第13号掘立柱建物跡

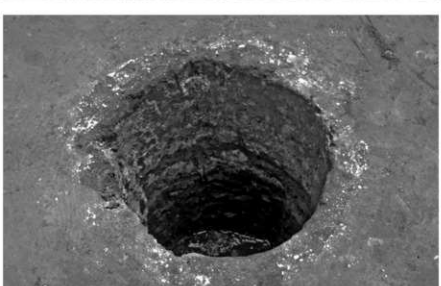
第14号掘立柱建物跡

第15号掘立柱建物跡

第 16・17 号
掘立柱建物跡

第１号井戸跡
遺物出土状況

第１号井戸跡

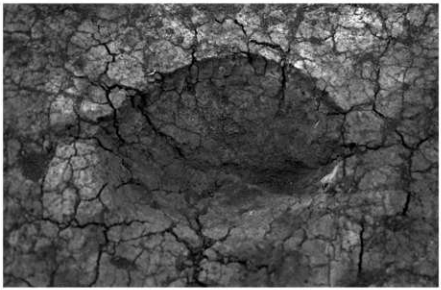


第３号井戸跡

第 4 号 井 戸 跡

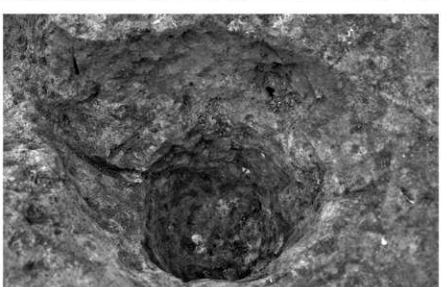
第 12 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 12 号 土 坑



第 92 号　土　坑

第 116 号　土　坑
遺物出土状況

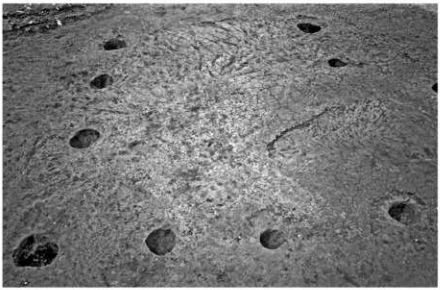


第 116 号　土　坑

第 356 号 土 坑

第 1 号 溝 跡

第10号掘立柱建物跡

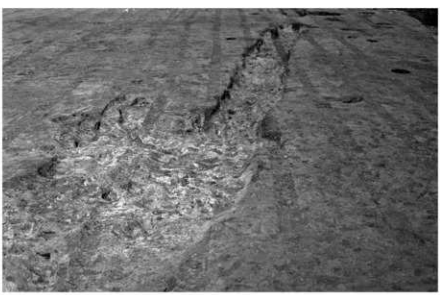


第19号掘立柱建物跡

第 9 号 柱 穴 列

第 3 号 溝 跡

第３・４・22号溝跡

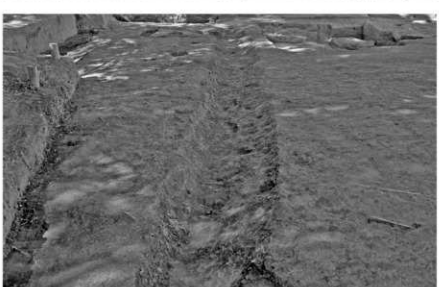


第 6 号 溝 跡

第 8 号 溝 跡

第 9 号 溝 跡

第 10 号 溝 跡

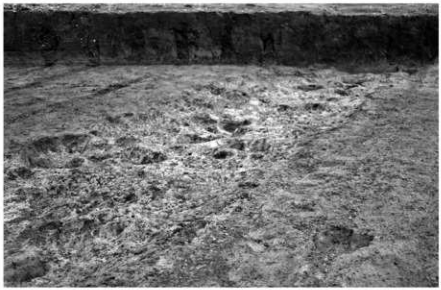


第 11 号 溝 跡

第12・13号 溝 跡

第15・16号 溝 跡

第18・19号 溝 跡



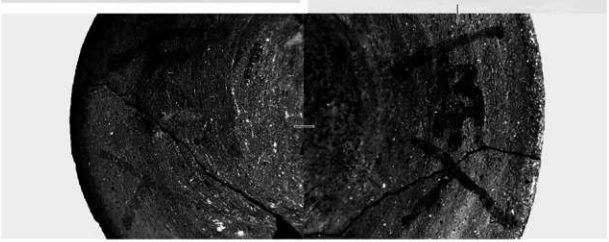
第４号道路跡

第１号ピット群

第６号ピット群

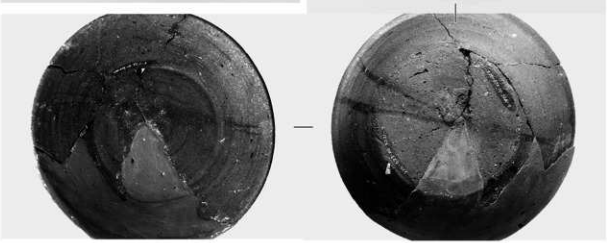
第８・10・46・47・48号竪穴建物跡出土土器

第８・37・48号竪穴建物跡出土土器

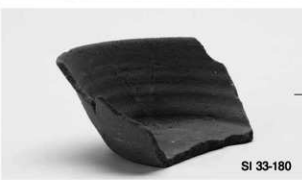


第３・５号竪穴建物跡出土土器

第５・６・11・12・14・16A号竪穴建物跡出土土器



第16A・19・20・21・22号竪穴建物跡出土土器



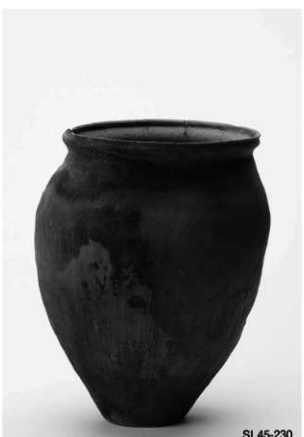
第２・22・25・33・41・45・49号竪穴建物跡，第１号井戸跡出土土器

第２・４・11・12・17・22・33号竪穴建物跡出土土器

第4・5・14・24・34・49号竪穴建物跡出土土器

第4・5・11・45号竪穴建物跡出土土器

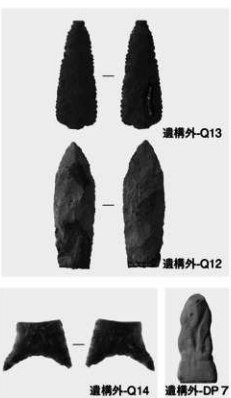
第11・16A・22号竪穴建物跡出土土器



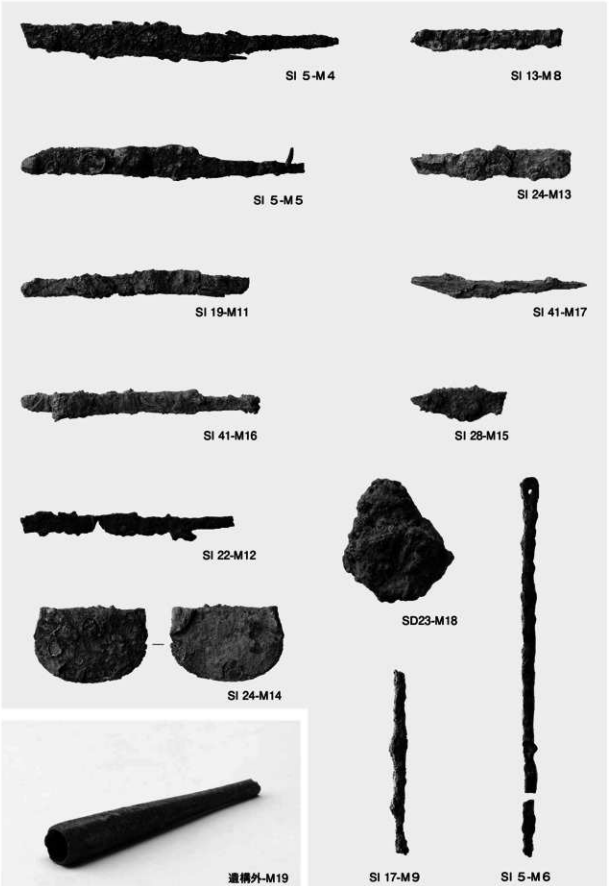
第28・39・45号竪穴建物跡出土土器

第３・43号竪穴建物跡，第１号井戸跡出土土器

第5・6・8・11・20・22・34・49号竪穴建物跡出土遺物



第１号陥し穴，遺構外出土遺物



第5・13・17・19・22・24・28・41号竪穴建物跡，第23号溝跡，遺構外出土遺物

抄　　録

ふりがな	しまななかだいいせき
書　　名	鳥名中代遺跡
副　書　名	鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXⅦ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第 438 集
著　者　名	塙厚宜
編 集 機 関	公益財団法人茨城県教育財団
所　在　地	〒 310 － 0911　茨城県水戸市見和 1 丁目 356 番地の 2　　ＴＥＬ 029 － 225 － 6587
発　行　日	2019（平成 31）年 3 月 18 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
鳥名中代遺跡（しまななかだいいせき）	茨城県（いばらきけん）つくば市（つくばし） 鳥名字中台（とりなあざなかだい）1,201 番地ほか	08220 － 623	36 度 03 分 38 秒	140 度 03 分 42 秒	21 ～ 24 m	20130401 ～ 20131031 20150101 ～ 20150331 20150401 ～ 20150731	7,124 ㎡ 2,483 ㎡ 6,127 ㎡	鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鳥名中代遺跡	その他	縄文	陥し穴　1 基	縄文土器（深鉢）	
	集落跡	古墳	竪穴建物跡　7 棟	土師器（坏・椀・坩・小形丸底坩・器台・高坏・甕・小形甕），須恵器（蓋・高坏・広口壺・甕），土製品（支脚），石器（砥石），金属製品（刀子・鎌）	
		奈良・平安	竪穴建物跡　35 棟 掘立柱建物跡　15 棟 井戸跡　4 基 土坑　4 基	土師器（坏・高台付坏・甕・小形甕），須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・高盤・短頸壺・鉢・長頸瓶・甕・甑），灰釉陶器（短頸壺・長頸瓶），土製品（支脚），石器（砥石・紡錘車），金属製品（刀子・小形鋤先$_{?}$・火箸$_{?}$），鉄滓	
		江戸	溝跡　4 条	土師質土器（焙烙），陶器（皿・鉢・擂鉢・中瓶・土瓶蓋$_{?}$），磁器（皿・髪油壺$_{?}$），石器（砥石），椀状滓	
	その他	時期不明	掘立柱建物跡　4 棟 柱穴列　8 条 土坑　471 基 溝跡　20 条 道路跡　1 条 ピット群　8 か所	縄文土器（深鉢・浅鉢），土師器（坏・甕），須恵器（坏・蓋・甕），土師質土器（火鉢），土製品（支脚・土人形），石器（尖頭器・有舌尖頭器・鏃・石皿・磨石・砥石），金属製品（煙管）	

要　　約	長期間にわたる人々の生活の痕跡を確認した。特に，奈良・平安時代には，律令体制の中で，盛行・衰退の過程を辿る。隣接する県内最大級の鳥名熊の山遺跡と消長を共にすることが明らかになり，本遺跡は，鳥名熊の山遺跡と関連する周辺遺跡のひとつと考えられる。

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CS6
	図版作成	Adobe Illustrator CS6
	写真調整	Adobe Photoshop CS6
	Scanning	６×７film　EPSON GT-X980
		図面類　RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType　リュウミンPro・L	
写　　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第438集

島　名　中　代　遺　跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

平成31（2019）年　３月15日　印刷
平成31（2019）年　３月18日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　有限会社川田プリント
〒310－0041　水戸市上水戸４丁目６－53
TEL　029－253－5551